令和4(2022)年度
長崎国際大学
教員個人による諸活動について
自己点検・評価報告書

いつも、人から。そして、心から。
長崎国際大学
Nagasaki International University

自己点検・評価委員会

	教育職員	氏名	頁
	人間社会学部国際観光学科		
1	学部長・教授	池永　正人	1
2	学科長・教授	井上　英也	5
3	教授	落合　知子	9
4	教授	滝　知則	13
5	教授	田中　誠	18
6	教授	中山　忠彦	23
7	教授	嶋内　麻佐子	27
8	准教授	大井田　かおり	32
9	准教授	落合　和昭	36
10	准教授	乙須　翼	41
11	准教授	尾場　均	45
12	准教授	佐野　香織	50
13	准教授	城前　奈美	55
14	准教授	城本　高輝	59
15	准教授	新藤　照夫	63
16	准教授	竹田　文雄	67
17	准教授	Thom W Rawson	71
18	准教授	森尾　真之	75
19	准教授	山内　美穂	79
20	講師	浦郷　淳	83
21	講師	江島　弘晃	89
22	講師	川上　知子	93
23	講師	川上　直彦	97
24	講師	大渡　ドーガン	102
25	講師	神野　周太郎	107
26	講師	陳　慶光	111
27	講師	中島　金太郎	116
28	講師	東出　朋	121
29	講師	ブレンダン　ヴァン	124
30	講師	末永　貴久	128
31	助教	相羽　枝莉子	132
32	助教	幸山　智子	136
	人間社会学部社会福祉学科		
1	副学長・教授	木村　勝彦	139
2	学科長・教授	脇野　幸太郎	144
3	教授	大町　いづみ	148
4	教授	齊藤　晋治	152
5	教授	坂本　雅俊	156
6	教授	中村　龍文	159

	教育職員	氏名	頁
7	教授	柳　智盛	162
8	准教授	梅野　潤子	167
9	准教授	大畠　啓	171
10	准教授	野田　健	175
11	准教授	韓　榮芝	179
12	講師	浦　秀美	183
13	講師	久田　貴幸	188
14	講師	裵　孝承	192
15	講師	丸山　貴志	195
16	助教	中村　尚生	199
17	助教	向　晃佑	204
18	助手	金子　麻美	207
	健康管理学部健康栄養学科		
1	学部長・教授	野村　秀一	210
2	学科長・教授	熊井　まどか	214
3	教授	岡本　美紀	218
4	教授	古賀　貴子	222
5	教授	廣田　昌彦	227
6	教授	水江　文香	230
7	准教授	林　俊介	234
8	准教授	松尾　嘉代子	240
9	准教授	山口　留美	244
10	講師	小田　和人	248
11	講師	川内　美樹	253
12	講師	川野　香織	257
13	講師	髙江洲　有沙	261
14	講師	藤井　俊輔	265
15	講師	宮原　恵子	270
16	講師	吉村　亮二	274
17	助教	射場　仁美	278
18	助教	菊地　優子	281
19	助教	吉永　奈津希	284
20	助手	井上　朋奈	287
21	助手	嘉数　圭祐	290
22	助手	谷脇　海里	293
23	助手	古田　美咲	296
24	助手	山下　千尋	299
	薬学部薬学科		
1	学長・教授	安東　由喜雄	302
2	学部長・教授	藤田　英明	307

	教育職員	氏名	頁
3	学科長・教授	椛島　力	311
4	教授	市川　和洋	315
5	教授	大磯　茂	319
6	教授	大庭　義史	323
7	教授	小川　由起子	327
8	図書館長・教授	岸原　健二	332
9	教授	隈　博幸	337
10	教授	黒川　健児	341
11	教授	小林　秀光	345
12	教授	佐々木　茂貴	349
13	教授	佐藤　博	354
14	教授	高井　伸彦	360
15	教授	長岡　寛明	364
16	教授	西奥　剛	368
17	教授	早川　正信	372
18	教授	深澤　昌史	375
19	教授	室　高広	379
20	教授	山口　拓	383
21	教授	山口　泰史	388
22	教授	淀　光昭	393
23	准教授	宇都　拓洋	397
24	准教授	太田　一寿	402
25	准教授	神谷　誠太郎	405
26	准教授	神田　紘介	408
27	准教授	田中　宏光	412
28	准教授	藤井　佑樹	416
29	准教授	藤木　司	420
30	准教授	山田　耕平	424
31	講師	石原　知明	428
32	講師	榎本　彩乃	432
33	講師	太田　智絵	436
34	講師	川嵜　達也	441
35	講師	相田　美和	445
36	講師	髙崎　伸也	448
37	講師	出口　雄也	452
38	講師	縄田　陽子	456
39	講師	藤本　京子	460
40	講師	吉田　達貞	464
41	助教	大神　正次	468
42	助教	大久保　伸哉	471

	教育職員	氏名	頁
43	助教	倉岡　卓也	476
44	助教	中島　健輔	479
45	助教	中村　沙織	483
46	助教	波多江　日成子	487
47	助教	福森　良	491
48	助教	松下　博昭	495
49	助手	上田　亮太	498

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 池永　正人

１．教育理念

地域における事象が、当該地域の自然環境や社会環境を反映していることから、地理学を専門とする筆者の学部および大学院の授業では、自身の調査研究や見聞・体験をもとにした内容の解説に努めている。この実証的な授業を教育理念としている。

講義型の授業は、授業内容の理解度を高める有効な手段として、自身が現地調査で撮影した写真・動画を投影して解説する。また、演習型の授業では、フィールドワークを実施して地域調査の手法、レポート作成やプレゼンテーションの技法を教授することにより観察力・考察力を身に付けさせる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	6	⑥
卒業研究	15/15(後期)	4	－	⑥
観光政策論	15/15(後期)	2	130	②
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	7	⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	7	⑥
観光地理学	15/15(前期)	2	150	②
地理歴史科教育法	15/15(前期)	2	5	④⑦
地理学	15/15(前期)	2	103	②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光地理特講	15/15(前期)	2	2
観光自然資源特講	15/15(後期)	2	6
事例研究（観光地理）	15/15(後期)	2	1
特別研究	60/60(通年)	8	1
特別研究	60/60(通年)	8	－
地域マネジメント研究方法	15/15(後期)	2	3
観光資源特別演習	30/30(前期)	2	1
特別研究指導Ⅰ	30/30(通年)	4	－
特別研究指導Ⅲ	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【学部授業】

講義科目の授業アンケート評価は、地理学（前期・履修者132名）4.4、観光地理学（前期200名）4.5、観光政策論（後期149名）4.4であった。履修者150名を超える観光地理学は昨年度同様に全15回Zoomによるオンライン授業、地理学と観光政策論は対面授業であった。いずれの授業評価も高かった。

昨年度の授業で不十分であった内容については、教材研究に多くの時間を費やしてパワーポイントの説明文・地図・グラフ・写真などの表現の改善に努めた。しかし、授業中に作業をさせる能動的授業の導入が出来ていないことは反省しなければならない。

成績評価については、昨年度同様に授業中に実施した小テストの成績と、毎回宿題として与えた確認問題の解答得点を全体の6割の評価とした。また、最終回の総合テストは4割の評価を行い、専門知識を確実に習得させるように努めた。評価は良好であった。

専門演習Ⅲ（7名）および卒業研究（7名）については、各自の研究テーマにそった個別指導を行い、来年度秋季卒業予定の1名を除き、春季卒業生6名の卒業論文を完成させることができた。

教職課程の地理歴史科教育法（前期4名）の授業に関しては、高等学校の地理・歴史教育の内容と歴史的変遷、新課程の「地理

総合」、「歴史総合」の科目内容について教授するとともに、学習指導案の作成と模擬授業の個別指導による教育実習の準備を行うことができた。

【大学院授業】

講義科目は、観光学専攻修士課程の観光地理特講（前期2名）、観光自然資源特講（後期6名）、事例研究（観光地理）（後期1名）、地域マネジメント博士後期課程の観光資源特別演習（前期1名）、地域マネジメント研究方法（後期3名）は、毎回予習・復習の課題を与えて専門用語の説明記述レポートを提出させた。また、各自の修士論文および博士論文に資することを念頭にして、統計数値の表・グラフ表現の技法を指導した。

研究指導については、修業年限内（修士課程2年、博士後期課程3年）の学位論文提出を前提とした指導学生2名の修士論文および博士論文（地域マネジメント専攻）の作成は、盆休みと正月休み以外は毎週定期的に指導を行った。その結果、同2名は学位論文の審査に合格して修了した。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

コロナ禍において今年度もスイスアルプスの現地調査が不可能であった。そこで、今年度はこれまで現地で収集した原書や聞き取り・観察調査結果の分析を行い、全国規模の学会誌に論文を投稿して掲載された。また、九州・近畿・中部・北海道などの国立公園の観光資源調査を実施して、その成果は学部・大学院の授業の教材として活用した。

学会活動においては、日本温泉地域学会の事務局・副会長として、総会・研究発表大会・学会誌編集発行など学会運営の円滑な業務遂行に取り組んだ。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

スイスアルプスにおける休暇旅行の進展と最古の温泉療養ホテル／2022年9月／温泉地域研究 第39号／13頁～20頁／単著／研究ノート

西九州新幹線開業記念催事「秋田竿燈まつりin 武雄」／2023年3月／温泉地域研究 第40号／40頁～41頁／単著／温泉地情報

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
人間社会学部教授会	議長	学部運営全般
人間社会学研究科教授会	議長	研究科運営全般

地域マネジメント専攻会議	議長	専攻運営全般
国際交流委員会（国際交流センター）	委員長（センター長）	国際交流協定校の拡大業務、留学生の学修・生活支援
全学共通教育委員会	委員	教育課程の編成
教員資格審査委員会	委員	新任教員および昇任教員の資格審査
防火・防災委員会	委員	学内の防火・防災組織の編成、ＦＤの実施
危機管理委員会	委員	学内の危機管理体制の編成
人事委員会	委員	教員採用、新任教員および昇任教員の資格審査
利益相反マネジメント委員会	委員	研究内容の利益相反に関する審査
輸出管理委員会	委員	教員の海外渡航による技術・資料の流出防止
グローバル推進協議会	委員	国際交流の推進業務
全学教育会議	委員	教育方針・教育課程の業務
人間社会学研究科学務委員会	委員	研究科教授会の審議・報告事項の調整
運営会議	委員	大学の運営に関する議決

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎国際大学国際観光学会	会長・評議委員	学会運営全般

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

高等学校の生徒に対する講義（オンライン）

東京都立竹早高等学校　普通科2年生232名　2022年10月31日（土）

テーマ：「長崎県の観光事情」　場所：同校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州風景街道推進会議	委員	2022年度	国土交通省九州地方整備局
ながさきサンセットロード推進協議会	委員	2022年度	長崎県道路維持課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

ながさきサンセットロードの清掃活動／2022年11月26日（土）／日本風景街道ながさきサンセットロード主催／場所 長崎国際大学前の国道・県道／国際交流・留学生支援センターの職員・学生とともに参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
長崎発グローカル人材育成プログラム	由布院観光の学外講座	2022年11月19日（土）	国際交流・留学生支援センター

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

人間社会学部長および大学院人間社会学研究科長の役職は6年目となり、学部・大学院の運営に多くの時間を費やした。3年目のコロナ禍ではあったが、国際観光学科の観光研修やスポーツ実習、海外留学は感染対策を講じながら一部催行できた。社会福祉学科においては、福祉施設の実習先確保に難航したが何とか工夫して実習を実現させた。また、4年生の国家試験合格支援は所期の目標を達成でき、昨年度を上回る合格率の成果を得た。一方、大学院の学位取得者は、博士号については地域マネジメント専攻1名、修士号は観光学専攻5名、社会福祉学専攻6名であった。

個人の研究活動は、相変わらず満足のゆく成果を上げることができなかった。次年度は研究論文と著書の執筆に力を入れるように努める。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 井上　英也

1．教育理念

観光産業を日本の主産業へとの機運が高まり、アジア地域の経済発展に伴う大きな旅行需要により、その機運が現実味を帯びてきた中、喫緊の課題は、それを支える経営感覚を持った人材の育成だと考える。しっかりとした国際感覚を身につけた高度な専門職業人育成に取り組み、将来の観光産業を担う人材を育成し、社会に供給することに私の経験・知見を教育の現場で最大限に活かしていければと考えている。

特にわが国の宿泊産業は、伝統的な　“おもてなし”　に根ざした情緒的な運営手法に加え、欧米の先端ホテル企業において日々築かれている近代的な運営、経営戦略の構築が求められている。宿泊業の専門教育においては、基礎教育におけるマーケティング、ファイナンス、人材管理、システム管理などの概論を発展させて、ホテル、旅館の課題に対して総合的な解を求めていく実践的な授業の構築および運営を行う。

また、実習の企画・運営並びに就職支援も重要だと考える。加えて今後の宿泊産業の人材ニーズに鑑みるに、社会人の学び直しも視野に入れたプログラムを構築することも必要である。特にこの産業においては、高卒、専門学校卒の従業員も多く、経営幹部へのキャリア形成を考えると、この人材層に高等専門教育を提供することは現在の業界並びに観光立国を目指す社会への多大なる貢献である。

以下に、専門教育における教育理念を掲げる。

1.　グローバルな視点の育成

観光産業の内なる国際化に対応し、文化的な理解に基づく旅行者への提案、受け入れができる素養を身につけた人材の育成。

2.　経営感覚の養成

宿泊業およびその周辺産業に関する基礎知識を修得した上で、豊富な事例研究により、著しく変化する事業環境に柔軟に対応する応用力を身につけた人材育成。

3.　地域貢献の志

地域に根ざした産業である観光/宿泊業を通じて地方創成をなし、社会に貢献する志を持った人材の育成。

以上

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	9	⑥⑫
ホテル管理論	15/15(後期)	2	63	②④⑤⑥⑦
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	12	②④⑥⑦
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	12	②④⑥⑦
ＩＲ論	15/15(前期)	2	59	②④⑤⑦⑩
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	13	②④⑥⑦
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	12	②④⑥⑦
起業論	15/15(前期)	2	39	②④⑥
Hotel Management	15/15(後期)	2	6	①②④⑤⑥⑦
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	10	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	10	②④⑥⑦
ホテルビジネス英語	15/15(後期)	2	22	②⑦⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
宿泊業特講	15/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【前期】

・起業論　4.7
・IR論　　4.6

【後期】
・ホテル管理論
・ホテルビジネス英語

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①　ホスピタリティ産業における人事管理および人材開発
②　グローバル・ホテル・チェーンの経営管理
③　宿泊業におけるインバウンド戦略
④　地域の観光振興　ーDestination　Management　Organizationの在り方ー
⑤　統合型リゾート（IR）における人材マネジメント

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	7万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
佐世保市次世代創業者育成プログラム共同研究事業	佐世保市	2022年4月1日～2023年3月31日	7万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	なし
自己点検・評価委員会	委員	なし
発明等審査委員会	委員	なし
産学連携・研究支援センター	委員	なし
全学教育会議	構成員	なし
スポーツサポートセンター	センター長	強化指定部員の中から、学修面で問題がある学生を選出し、教職員、先輩学生が支援するプログラムなどを開始した。

地域連携センター	アドバイザー	近隣自治体（川棚町、東彼杵町）との包括連携協定に向けた支援を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
改革総合支援事業対応策検討WG	タイプ4WG委員	「社会実装の推進」に向けた活動に関する情報提供をした。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

長崎県立東翔高等学校出張講義／2023年3月13日／於：東翔高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
地域資源の差別化による新たな価値創造　～これからの九州・長崎 IR 環境整備のヒントをさぐる～	2022年7月22日	コアイノベーションセンター（佐世保中央公園内）	長崎国際大学　国際観光研究所
長崎県宿泊施設等人材マネジメントセミナー　～リーダーシップを磨く～	2023年3月2日	長崎県庁	長崎県　観光振興課
長崎県宿泊施設等人材マネジメントセミナー　～”やる気”を引き出す人材マネジメント～	2023年3月16日	佐世保アルカス	長崎県　観光振興課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県観光審議会	会長	2019年2月～現在に至る	長崎県知事
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏	委員	2017年7月～現在に至る	「海風の国」佐世保・小値賀観光圏推進委員会会長
一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会	代表理事	2017年3月～現在に至る	一般社団法人グローバル人材キャリア支援協会理事会
九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会	座長	2021年3月～現在に至る	長崎県IR推進課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

昨年度から続くコロナ禍の中、教育面においては、ライブで講義を進め、質的な維持はできたと考える。また、国際観光学科の今後に大きな影響を与えるIR誘致に関しては、人材育成面で長崎県、佐世保市および事業者をリードし、本学科の存在感を維持することに注力したが、国からの認可が遅れ、人材育成に関する具体的なプログラム作成には至らなかった。また、教員の研究活動および学生の実務経験の場として、近隣自治体との連携協定を進め、東彼杵町および川棚町との包括連携協定締結に成果があった。

以下に教育面および研究面を総括する。

１．教育

ホテル関連科目については、引き続き、受講生に基礎知識をしっかりと植えつけると共に、実践的な視点を持たせることに注力している。また、ホテル関連科目以外では、講義と演習を組み合わせた「起業論」は佐世保市が開催するビジネスプランコンテストへの応募を目指した。結果、2組が応募した。

ゼミにおいては、引き続き、地域の要望に応える必要もあり、東彼杵町、川棚町の観光資源を活用したビジネスプランを作成するなど学生の主体性を重んじることで創造性を育み、その成果物を第三者に伝えるコミュニケーション能力を育成することができた。

２．研究

コロナ禍に加え学科運営が多忙であったため具体的な成果を上げられなかった。長崎県および佐世保市が誘致を進めているIRに関しては、国際的な観光人材の育成が求められており、自治体、関連企業、地域の大学との共同研究の受け皿となるコンソーシアムの準備会において、国際観光人材育成に関する研究を進めている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 落合　知子

1．教育理念

担当する科目は博物館学芸員資格の取得に関する科目が多いため、知識は勿論のこと、学芸員としての技能、礼節などについても教育の中に取り入れている。特に、博物館実習Bにおいては、歴史資料の取扱いを指導する中で、単に取扱い方法を修得するのではなく、その歴史的背景をも理解し、資料の構造、法律的側面、コンディションなどの把握により、ひとつひとつの資料に対する最良の保存方法を見極める力を養うことを目的として指導している。

また、学芸員は研究者でもあり、教育者でもあるため、コミュニケーション能力が必要とされる。学生一人一人の個性を最大限に引き出し、否定するのではなく褒める教育を心掛けている。博物館実習Bに関しては、これまでの教育理念で概ね成功している。

一方、資格の取得を目的とせずに卒業単位として履修する学生が多くの割合を占める講義に関しては、学芸員資格を目指す一部の学生のみならず、その他大勢に対しての教育となるため、実習で実践している教育理念は当てはまらない。しかし、資格取得を目的とする学生への教育の質を下げることなく、多くの学生に博物館に興味を持ってもらい、博物館に誘うような講義を心掛けている。

大学院教育においては、博物館学を核として学生が取り組む研究分野を最大限に引き出すような指導を心掛けている。また、業績を付けることが重要であることから、大学院生を取り込んだ本の出版を実践している。これまで本学に就任してから2冊の本を雄山閣から出版した。令和3年5月に『医学・歯学・薬学系博物館事典』を出版した。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
博物館実習C	15/15(前期)	1	6	①⑦
卒業研究	15/15(前期)	4	3	①⑫
国内観光研修C（西日本）	15/15(通年)	2	21	⑥⑦⑪
博物館実習A	15/15(通年)	1	25	⑥⑦⑪
博物館実習C	15/15(通年)	1	32	⑦⑪
卒業研究	15/15(通年)	4	5	①⑫
博物館実習C	15/15(後期)	1	2	⑥⑦⑪
博物館資料保存論	15/15(前期)	2	121	②⑨
博物館資料論	15/15(後期)	2	96	②⑨
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	6	①⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	6	①⑫
日本史	15/15(後期)	2	103	②⑨
博物館実習B	30/30(通年)	1	10	②⑪⑫
生涯学習概論	15/15(前期)	2	171	②⑨
博物館概論	15/15(後期)	2	145	②⑨
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	6	⑥⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	6	⑥⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	7	①⑥⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
博物館特講	15/15(後期)	2	2
博物館特講	15/15(後期)	2	5
事例研究（博物館）	15/15(前期)	2	3
地域マネジメント論特別演習	15/15(前期)	2	1

観光事業特別演習	15/15(後期)	2	2
特別研究指導Ⅲ	15/15(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度はすべての授業が対面となり、教育効果の向上を図ることができた。また、補講などは遠隔授業を取り入れることで、学生の負担を軽減することができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

医歯薬学系博物館、資料保存、回想法

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	1	2	2	77万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

博物館資料価値の一考察／2023年3月／長崎国際大学国際観光学会／1頁～9頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

博物館資料価値の一考察／2022年10月／長崎国際大学国際観光学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日本遺産「三川内焼」の魅力発信と広報手段開発に関する研究	長崎国際大学国際観光学科	2022年4月～2023年3月	27万円
地域と協働した薬学史資料館の設立に関する研究	長崎国際大学	2022年6月～2023年3月	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	副委員長	男女共同参画推進セミナー開催 佐世保市男女共同参画推進委員会女性プロジェクトチームの参加、ライフデザイン＆キャリア形成セミナー開催、男女共同参画推進に係るアンケート実施
実習委員会	副委員長	観光研修等に係る審議。
学芸員養成課程委員会	委員長	博物館学芸員課程全般に係る総合的活動。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

発掘調査
博物館の特別展開催
短期大学の展示指導
薬学棟の展示指導
フィールドワーク

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

大学のグッズ製作。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
波佐見町歴史文化交流館評議員会	評議委員	2022年7月～現在に至る	波佐見町教育委員会
アルカス佐世保評議員会	評議委員	2019年4月～現在に至る	佐世保市
波佐見町まち・ひと・しごと創生推進協議会委員	委員	2019年4月～現在に至る	波佐見町
板橋区立郷土博物館協議会	委員	2017年4月～2023年3月	板橋区立教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

長崎国際大学グッドプラクティス賞

8．活動全般についての自己点検・評価

大学院生の指導の一環として、博物館の展示、展覧会活動を推進した。特に波佐見町歴史文化交流館の特別展の開催は大学にとっても大きな実績となった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 滝　知則

１．教育理念

１．教育理念

生命は一度きりであること。人間の尊厳を守ることの大切さ。この二つは、誰にでも共通して重要なことである。

本学の学生たちの中には、生命の不可逆性と人間の尊厳の大切さを、すでに明確に分かっている人たちも沢山いるはずである。この人たちには、本学での学修を通して、その理解をより深めたり広めたりしてほしいと思う。一方、直感的には分かっているという人たちもいる。この人たちには、その理解をことばで明示できるようになってほしいと思う。

今日の私たちが生きる場の特徴を、グローバル化の時代の地域社会という視点からとらえることができる。このような場の中で私たちは、お互いの尊厳を尊重するために何ができるのか。

その一つが、異文化を理解し、異文化を持つものどうしで一緒に働き、一緒に生きていけるようになることである。私たちは様々な異文化と出会う。相手の文化と自分の文化を比べると、確かに違いがある。しかし共通点もあるはずである。二つの文化の違いと共通点のどちらも、大切にすべきと考える。

文化の違いという言葉は、国民文化の違いという意味で使われることが、しばしばある。だが私たちは、これとは別の種類の文化の違いにも出会う。女性たちと男性たちの文化、障がいのある人たちと（今は）ない人たちの文化、地方（農村部）の社会と都市部の社会の文化などである。文化の違いと共通点の尊重は、国民文化以外の文化について考えるときにも、重要である。

これらのことを土台として、授業に臨んでいる。実施する授業方法は、講義に加えて、主に課題解決型の学修、学生同士の協働（グループワーク）や学外の地域社会の人たちとの交流である。

講義型と演習・実習型の授業で共通して取り組んでいるのは、地域社会（地元）で生きることの重視と、聞き手重視のコミュニケーションである。

都市部の地域社会と比べるとき、地方（農村部）の地域社会の人口や面積は小さい。盛り場も、消費できる商品やサービスも少ない。これは事実である。しかし、地方（農村部）の地域社会の文化を創造するための大変さ、創造されたすばらしさは、都市部の社会におけるものと共通するものがあると思う。

自分自身、都会で働いたり生活したりしたことがある。都会を否定するものでは、ない。同時に、地元に生きること、地元でがんばることに誇りを持つことができる人に、学生たちがなってほしいと考えている。

コミュニケーションをとるとき、話し手には自分が伝えたいことがある。ただし話し手の意向や都合のみに基づいて話しても、聞き手に伝わりにくいことが珍しくない。話し手の伝えたいことが結果として伝わりやすくなるようにするため、少しでよいので、聞き手の立場を考慮して話すことが大切である。

実施する授業方法であるが、講義系の科目では、課題解決、グループワークや調査結果の報告（考えたことや感じたことの言語化）といった方法を用いる。可能な限り、地域社会への注目と聞き手重視のコミュニケーションの実施も行う。

演習・実習系の科目では、地域社会の人たちとのやりとりの機会を設ける。滝が担当する演習・実習系科目のフィールドは佐世保市（三川内町と黒島町）である。講義系科目と同様、課題解決、グループワークや調査結果の報告（考えたことや感じたことの言語化）を行う。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ＩA	1/15(前期)	1	46	②④⑥
卒業研究	1/15(前期)	4	1	⑥⑫
卒業研究	1/30(通年)	4	13	⑥⑫
地域連携活動ＩB	1/15(後期)	1	33	②④⑥
専門演習ⅡＡ	1/15(前期)	1	14	④⑥
専門演習ⅡＢ	1/15(後期)	1	14	④⑥
International Relations	1/15(前期)	2	21	①⑥⑨
専門演習ⅢＢ	1/15(後期)	1	13	④⑥
異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論	1/15(前期)	2	101	①⑥
ホスピタリティとSDGs	1/3(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅢＡ	1/15(前期)	1	13	④⑥
専門演習ＩＡ	1/15(前期)	1	10	④⑥

専門演習ＩＢ	1/15(後期)	1	10	④⑥
国際交流研究	1/15(前期)	2	93	⑥⑨
ビジネス文書	1/15(後期)	2	97	①⑨
国際関係論	1/15(前期)	2	91	①⑥⑨
政治学	1/15(後期)	2	75	①⑥⑨
比較文化論	1/15(後期)	2	140	⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
アカデミックライティング特講	1/15(後期)	2	3
国際関係特講	1/15(前期)	2	2
国際関係特講	1/15(前期)	2	1
事例研究（国際関係）	1/15(後期)	2	2
観光事業特別演習	1/5(後期)	2	2
地域観光政策特別演習	1/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

（前期）異文化コミュニケーション論

Q13　R3　4.3、R4　4.0、増減　－0.4

各回の授業プリントの最後に、次の回の予習プリントを添付した。これに基づいて予習確認問題を出した。当日の授業内容の理解を助けたことと考えている。また、授業の感想を復習問題として課し、その回答を次回の授業冒頭で共有した。自分と同様の考え方を確認したり、自分が気付かなかった考え方を知る機会になったことと思う。授業の受け方に関するルールの指導を継続して行った。

授業の中では、次の小ワーク（練習）への関心が高かったと感じる。自分の話し方の特徴に気付き、相手に合わせた調整のポイントを見つける（第４回）、相互発話の練習（第５回）、話すときに聞き手の方を見るか見ないか、対人距離（第６回）、ステレオタイプを避けるため、コミュニケーションの相手の認識カテゴリー幅を広くする練習（第10回）などである。

前回はアンケート回収率が低かったためのバイアスがかかっていたことを加味しても、評価がやや下がってしまっている。受講生の関心に応えられるように内容をさらに改善する。板書・機器の使用も改善し、受講生に真面目にかつ楽しく学修してもらえるように努める。次年度も引き続きアンケートへの回答を求める。

（後期）比較文化論

Q13　R3　4.3、R4　4.0、増減　－0.4

①R3年度の回答率は60%を下回ってしまったが、R4年度は69.1％であった。一定の改善が見られたが、次回はより高い回答率を目指す。授業中ならびにマナバのコースニュースでアンケートへの回答の周知を複数回行った。次年度は周知の回数を増やす。

②この科目では３つのプロジェクトを、シラバス記載の順番通りに行った。しかし「シラバスと授業内容に違いがある」との回答があったのは、授業の進め方についての説明に不十分な点があったためと考える。授業終了時に次週の学修内容を予告したり、一つのプロジェクト終了時に次のプロジェクトのスケジュールを説明したりすることを徹底する。

③イギリスのウォーリック大学（UOW）とのオンライン交流を次年度行う際は、教室を二つに分けて行い、接続状況を改善する。

④UOWとのオンライン交流を実施した週と、交流の感想を他の学生と共有する週では、別々のグループ分けで授業を行った。本学の受講者数がUOWの参加者数よりもかなり多いためである。次年度は、グループの分け方を２種類（「大きな括りのグループ」と「少人数のグループ」）にすることと、その理由を繰り返し説明する。

⑤授業を受ける際の注意事項（教室後方を空けて着席する、事前許可のない帽子着用と飲食は不可、授業と無関係のスマホ使用と私語を不可とするなど）を、毎回の授業プリント冒頭に記載している。

これらの事項に関する指導は、引き続き行う（Q10への回答では評価されている）。ただし指導のしかたは、学生本人が納得できるタイミングで、納得してもらえる話し方で行う。教員が自分の感じていることや思っていることを、教員のペースで話してしまうと、学生に伝わらないことがあるため、不適切である。この点を反省している。次年度は改善する。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	国際関係論	1/15(前期)	2	171

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

a. 現代日本の国際関係と国際観光が相互に与える影響
b. 国際観光がホストとゲストの相互認識（ナショナリズム）に与える影響
c. 観光地の国際交流史の理解を活用した観光ガイド活動
d. 引揚の歴史との対比を通しての国際観光の特徴の把握
e. バリアフリー対応が佐世保市三川内町のやきもの観光にもたらす可能性の調査

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	1	0	1	1	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

初年次・共通教育部門の活動報告／2023年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要　第６巻／p. 76／共著／活動報告

佐世保市立広田小学校でのQSP異文化理解教室、九州文化学園高等学校でのQSP異文化理解教室／2023年3月／QSP異文化理解教室活動報告書（令和4年度）／pp. 1-25／単著／活動報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
島嶼部の地元住民と関係人口の協働による景観維持の可能性ー長崎県佐世保市の事例	日本学術振興会	令和5年度～令和7年度	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	副委員長	委員会ならびに図書館主催行事において委員長を補佐した。
自己点検・評価委員会	委員	授業公開の運営、授業公開アンケートの実施と集計、アンケート結果に関する意見交換会の実施を担当した。
教育基盤センター運営委員会	委員	初年次教育部門で『ホスピタリティとSDGs』の実施、入学前教育実施のとりまとめを行った。
国際観光学会編集委員会	委員長	『観光学論集』第18巻の編集の総括を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①サイレントブルーサークル（顧問）　赤十字血液センターとの連絡、学内献血ならびに学外での献血キャンペーンでの部員の活動を支援した。

②ローターアクトサークル（顧問）　学内での活動、ならびに令和5年度の活動計画の立案を支援した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市行財政改革推進会議	会長	R3(2021)年5月～R5(2023)年5月	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

地域連携活動IA（黒島）の現地学修（2022年5月）の一環として、佐世保市黒島の海岸（名切ノ浜、串の浜岩脈）での漂着プラスチックゴミの清掃を行った。この科目の履修者のうちの希望者が、黒島の地域おこし協力隊員のご指導とご支援を得て実施した。参加者は事前の予想以上に積極的に取り組んでくれた。2023年度も実施を計画している。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
QSP異文化理解教室	小学６年生５クラスと留学生（中国、ミャンマー、カナダ）の文化交流	R4年10月、12月	佐世保市立広田小学校
QSP異文化理解教室	高校１年生２クラスと中国からの留学生との文化交流	R4年12月	九州文化学園高等学校
QSP異文化理解教室	小学３年生・４年生とミャンマーの留学生との文化交流（オブザーバー参加）	R5年3月	小城市立三里小学校

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も当然ながら、各活動分野に真剣に取り組んだ。ただし報告者の力不足のため、改善すべき点が明らかになっている。次年度は、次のことを実施する。

教育活動では、授業内容のさらなる向上、内容をより分かりやすくための説明の工夫、ならびに落ちついて授業を受けられる環境の整備に、引き続き取り組む。

研究活動では、黒島の景観整備、三川内地区の魅力の発見と、QSPイブケンを通じた国際理解教育の支援に関する研究を行う。

大学運営活動では、担当業務の実施にあたり、伝えるべき情報を関係者により分かりやすくすること、作業の依頼にあたってはより実施しやすくすることに引き続き励む。

社会活動では、佐世保市行財政改革推進会議での活動を適切に行う。

国際交流では、佐世保地区での多文化共生のさらなる進展に貢献すべく、QSPイブケンでは対象校の生徒と本学の留学生が楽しく交流してもらえるよう、準備と調整をさらに充実させる。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 田中　誠

1．教育理念

私は、次の2点の教育理念を特に重視して教育実践を行っている。1点目は「教えることは学ぶこと」、2点目は「主体的に学び、考え、行動できる人材の育成」である。

よって、1点目の教育理念に基づき、すべての授業で授業内容をしっかり自らが学び、教材研究をしっかり行うこと、また、該当クラスの学生の特質を理解した上で、事前に入念に各授業を構成することを重視している。

2点目の教育理念の実践のためにも、学生がどうしたら「主体的に学び、考え、行動できる人材」となることができるのか、私の授業を通して学生に学んでもらうために、以下のような授業方法を行っている。

講義系の科目では、まず予習をして授業に参加してもらうこと、授業中も各自が主体的に参加できる内容を盛り込むこと、学生には授業のポイントをノートに書き取り、授業後にそれらをポートフォリオにまとめることで振り返りをさせること、ポートフォリオに授業のポイントをまとめたら、他の学生は、どのような点がポイントと考えたのか、他の学生のポートフォリオもチェックすることなどを学生に実践してもらう。

各ゼミでも、講義系の科目同様、しっかり予習をして授業に参加してもらう。また、少人数教育の特性を活かし、論理的に考えた上で、自分の意見が言えるだけでなく、他者の意見も傾聴できるようなトレーニングを行う。さらに、生涯にわたって主体的に学び続ける習慣をつけてもらうために、毎回課題を出し、その提出を徹底する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	4	⑥⑫
事前・事後指導	5/8(通年)	1	7	④⑦
教育実習Ａ	60/60(通年)	4	7	④
TOEIC対策Ｂ	15/15(後期)	2	44	①⑩
英語科教育法Ⅱ	15/15(前期)	2	0	①⑤
教職実践演習(栄養教諭)	1/15(後期)	2	5	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	8	⑤⑦⑩⑪
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	4	①⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	4	①⑥
英語科教育法Ⅲ	15/15(前期)	2	3	①⑤
TOEIC対策Ａ	15/15(前期)	2	49	①⑩
英語科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	4	①⑤
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	2	①⑥
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	2	①⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	2	①⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
グローバルコミュニケーション特講	15/15(前期)	2	1
グローバルコミュニケーション特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（グローバルコミュニケーション）	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度も、新型コロナの影響はありはするが、対面で授業ができる状況になり、学生とのコミュニケーションも取りやすくなった。授業に関しては、私が最も力を入れている事項であり、今年度も例年通り、熱意のある、わかりやすい授業を展開するために必死で取り組んだ。

まず講義型の授業について、前期の「TOEIC対策A」に関しては、学生の表情を確認しながら、対面で授業ができるようになった。対面授業となっても、例年通りに授業終了時にmanabaを使用して「授業の理解度」「授業外学修」「コメント」等を記載してもらうことは実施した。そして、学生のコメントに関しては、次回の授業で導入時に話をしたり、プリントを作成し配布したりした。また、授業外学修の時間を増やすために、２つの課題を毎回与えた。１つは、manabaに、その日の授業のポイントや覚えたいと思った事項を箇条書きでまとめさせること、２つ目は、manabaで、その日の授業内容の小テストを受けるというものである。さらに、manabaで、授業後すぐにその日の「解答・解説」のプリントを見ることができるようにしておき、復習がすぐできるような工夫もした。TOEICの授業は、難易度の高い試験対策なので、授業時には、熱意の感じられる授業を展開できるように努力をし、授業アンケートでは、７の「熱意の感じられる授業でしたか」については 今回も4.9という非常に高い評価を得ることができた。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.6と高評価を得ることができた。このレベルを維持していけるように努力していきたい。

後期の「TOEIC対策B」においても、前期同様に、丁寧な熱意のある授業を心がけた。その結果、７の「熱意の感じられる授業でしたか」については、前年度に引き続き 4.8という非常に高い評価を得ることができた。13の「この授業に参加して満足できましたか」の項目も4.7であった。このように学生から高い評価を得ることができ、ほっとしている。

「専門演習」に関しては、少人数クラスということもあり、双方向型の授業が適切に行えるよう意識した内容を取り入れ、学生に発表をさせる機会をできるだけ持たせるよう努力した。例年通り、授業外学修時間を確保するために、毎回の課題も課し、英語力の向上にも努めるとともに、日々学修に取り組む習慣作りにも取り組んだ。まだまだ、コロナの影響は大きく、様々な要因で不安を抱えている学生も多いが、その不安を少しでも軽減するために、できるだけコミュニケーションを密に取るように意識して、ゼミ生の指導を行った。

教職科目に関しては、例年通り、将来の教育者の育成という重要な課題を認識し、私個人の高校教諭時代の経験談を含めて、分かりやすい講義を心がけた。今年度は、対面で授業を実施できたが、ICTを活用した授業は、年々重要性を増している。ICTの活用に関しては、コロナ禍の中で、一気にレベルが上がった。今後は、対面授業の中にいかにICTをうまく活用していくのかについて、学生と共に学んでいきたい。

大学院の科目に関しては、少人数での授業であるので、今年度も厳しくも丁寧な指導を心がけて指導を行った。レポート等に関しては、丁寧なフィードバックも意識して行った。

全体を通しての反省としては、学生の学力格差がこれまで以上に目立つようになってきた印象があり、それに対応するために、様々な工夫をするものの、場合によってはこちらの想定どおりには授業が進まない場合もあった点である。また、やる気のない学生のやる気を出させるために、何かさらに工夫ができたのではないかという点もあげられる。この点は、試行錯誤している状況が続いているが、なかなか思ったほどうまくいかない。学生にやる気を出させ、学修時間を延ばすことができるように、これからも適切な課題を出し、授業外でも机に向かわせるような仕組みを構築していく必要がある。様々なレベルの学生が入学してくる中で、授業外学修の増加は、簡単にできることではないが、今後とも様々な方策を実施し、ポートフォリオ等を活用して、授業外学修時間の増加に努めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
TOEIC対策（オンデマンド型）	5	53	2022年10月10日-11月25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・外国語としての英語教育
・教育学
・言語学
・翻訳研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

持続可能なスポーツ指導に資する長崎国際大学教職課程学生の評価観に関する調査結果／2023年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要　第6巻／45頁～55頁／共著／事例報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員長	新型コロナの影響が大きい中でも、できるだけ対面の授業に移行しながら、本学の教育の質が担保できるように、適切な教務運営に尽力した。
全学共通教育委員会	副委員長	全学共通科目の留学生のための日本語関連科目をレベル別にし、教育効果を高めるために科目を見直し、次年度から新科目で実施していけるように改定した。
教育基盤センター運営委員会	教育基盤センター副センター長、副委員長	教育基盤センターの適切な運営のために、教務委員長として 副センター長の役割を務めている。
教職課程委員会	委員	教職課程委員会の適切な運営に尽力した。
人事委員会	委員委員	教務委員長として、人事委員会の委員を務める。
全学教育会議	構成員	本学における大学及び大学院の教育活動の総合的実施に係る 事項について審議を行うために設置された全学教育会議の構成員を務める。
カリキュラム委員会（学科）	委員長	国際観光学科のカリキュラム編成、担当者の調整等に尽力した。
グローバルツーリズムコース委員会（学科）	委員長	コロナ禍で、対面での交流が困難な厳しい年度の中であっても、グローバルツーリズムコースの適切な運営に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業 対策会議ワーキンググループ（タイプ1）	副WG長	私立大学等改革総合支援事業対策会議のワーキンググループ（タイプ1）副WG長を務めた。

(3) 課外活動の指導等

①英語リーディング力を高めるためのプリント学習指導

②TOEIC対策講座　担当

③IP TOEIC 実施責任者

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにおいて、英語教育、留学等の説明担当、および模擬授業実施。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	出席
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
本学教員の日常業務	4月2日	長崎国際大学	長崎国際大学（新任教員向けFD）
ICT活用による教育内容向上に関する研修会	4月13日	長崎国際大学	長崎国際大学　教務委員会FD/SD
アクティブアカデミーによる教員個人の諸活動報告等の入力方法	12月14日	長崎国際大学	長崎国際大学（新任教員向けFD）

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市犯罪のない安全・安心まちづくり推進協議会	会長	2019年11月～現在に至る	佐世保市
佐世保地域経済活性化推進協議会　教育関連ワーキンググループ	委員	2021年7月～現在に至る	佐世保地域経済活性化推進協議会
九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会	委員	2021年4月～現在に至る	九州・長崎 国際観光人材育成コンソーシアム～地方 創生・グローバル人材育成事業～
長崎県教員免許状更新講習連絡協議会	委員	2008年7月～現在に至る	長崎県大学・短期大学理事長・学長会
佐世保市教育委員会自己点検及び評価における外部評価委員	委員	2022年6月～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

令和4年度　学長裁量経費（教育改革）

取組名称：持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観・コミュニケーション能力育成プログラムの開発

配 分 額：20万円

担当者：浦郷淳・田中誠・乙須翼・神野周太郎・川上知子

７．受賞等

(1) 長崎国際大学ベストティーチャー賞（学生による授業アンケート部門)(講義型50～99人の部 令和3(2021)年度　TOEIC対策B) 第51号　受賞 2022年6月29日

(2) 九州文化学園勤続 30年 永年勤続表彰　2022年12月15日

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も新型コロナの対応が続く中、教育の質を下げないために全学の教務委員長として懸命に努力をした。コロナ禍も３年目となり、ようやく対面での授業がメインとなったが、教職員の疲弊は相変わらずである。このような中、本学の教学事項を滞りなく運営できたのは、本学の教職員全員の献身的な努力のおかげだと考えている。本当に感謝したい。

全学の教務委員長として、教育の質保証は、最優先課題であり、近年の学力格差が顕著に見受けられる状況の中でも、ディプロマ･ポリシーの達成に向けて、PDCAサイクルを適切に回していく必要がある。今後とも、一つ一つの事項を丁寧に点検・評価して、改善につなげていきたい。

学科のカリキュラム委員長としては、次年度からいらっしゃらなくなる教員の対応等で、担当者案の作成には例年以上に苦労したが、新しい科目の設置等もでき、学科の教育課程の適切な運営に寄与できたものと考えている。グローバルツーリズムコース委員長としてのコース運営に関しては、今年度は、ようやく留学に学生を送り出すことができた。2年生と3年生の両方が留学に行くことになり、その対応は非常に困難を伴うものであったが、国際交流留学生支援センターのご協力で、無事に送り出すことができた。グローバルツーリズムコースの運営は、担当スタッフの尽力なしでは、達成できないので、皆さんの協力を得ながら、さらに努力していきたい。

今年度も、厳しい臨機応変の対応が必要となる事項も多々あり、多忙な一年であった。体調面でも、少し無理がきかなくなってきていることは自覚している。体調管理については、周りの方々に迷惑をかけないように留意していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 中山　忠彦

1．教育理念

私の教育理念は私の教育理念は、これからの時代をたくましく生きていくために、以下の二点を重視し学生教育に当たっている。一つ目は「人を活かすことを第一に考えられる人」、そして、二つ目に「続けることを可能にするたくましい心を持つ人」を育成することである。

これらの人材を育成するためには、先ず私自身がそのモデルとなり学生に見せなければならないと考えている。一つ目の教育理念の達成には、講義系、実技系の科目に拘らず、学生にとって分かりやすい事例を取り上げ、問いかけ、意見を聴取し、その意見を必ず肯定し、人の想いを大切にすることを心掛けている。そのことによって、考え方を広げるなど、人を活かすことが自分が活きていくことに繋がることを実感させることである。そして二つ目の教育理念では、失敗してもチャレンジし続けることを体験させる。

特に、ゼミにおいては、卒業研究の作成だけでなく、「スポーツの価値」について追及し続けて、スポーツの魅力をどのように人に発信していくかのテーマで考え、失敗しても次の成功を信じて考え続ける教育活動をすることを心掛けている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
事前・事後指導	15/15(通年)	1	7	④⑦
教育実習Ａ	2/15(通年)	4	7	④
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	6	①②⑤⑦⑩⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	11	①④⑤⑥
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(前期)	2	12	⑨⑩
運動生理学A	15/15(後期)	2	82	②⑩
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	①②⑤⑦⑩⑫
レジスタンストレーニング（理論・実践）	15/12(前期)	2	30	④⑩⑪
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	①④⑤⑥
スポーツ医学	15/1(前期)	2	34	②⑩⑪⑫
球技Ｃ	15/15(後期)	1	22	②⑤⑦⑪
教職実践演習(中・高)	15/1(後期)	2	8	⑤⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅲ	15/15(後期)	2	5	⑨⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	6	①②⑤⑦⑩⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
トレーニング論	15/15(前期)	2	60	②⑨⑩
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	8	①②⑥⑧⑩⑫
スポーツ指導論	15/5(後期)	2	27	②⑥⑦⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	15/7(前期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

実施した学生による授業アンケートはいずれも比較的高い評価を得た。他の科目についても評価は概ね良好なものと考えられる。入職初年度のため、本学ポータルシステムの使用に戸惑い、授業進行を妨げることがあった。しかし、次年度はシステムを有効に使い、学生の学修が進む工夫を行っていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

あらゆる競技者のパフォーマンス向上にとって重要とされる「素早く動く」に主眼を置き、スピード・アジリティ・クイックネスを向上させるための要因について検証することを研究テーマとしている。
また発育発達段階における「素早さ」の向上のための要因について検証し、子どもたちの将来の豊かなスポーツライフに寄与できるようにすることを目標とする。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	15	12	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

福祉の未来形を求めて 第4章：運動・スポーツ 第2節：子どもの体力低下と発育発達段階に応じたトレーニングの必要性／共著・編著／2012／言視舎／106-113

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

福祉系大学新入生の体格および体力特性／2011年12月／近畿医療福祉大学紀要　第12巻第1号／106-113／共著／論文

福祉系大学生のライフスキルとスポーツの経験の関係／2011年12月／近畿医療福祉大学紀要　第12巻第1号／87-95／共著／論文

福祉系大学生のライフスキル獲得の調査（第１報）／2012年6月／近畿医療福祉大学紀要　第13巻第1号／17-22／共著／論文

幼児の発育発達特性や社会性の獲得に配慮したサッカー教室が幼児の心理状況や体力に及ぼす効果／2012年6月／近畿医療福祉大学紀要　第13巻第1号／23-29／共著／論文

福祉系大学生のキャリア意識に関する調査研究（第1報）／2012年12月／近畿医療福祉大学紀要　第13巻第2号／87-91／共著／研究ノート

体育系大学生の水泳の授業経験と水泳に対する好嫌度の特徴／2013年6月／聖泉大学スポーツ文化研究所紀要　第5巻第1号／29-37／共著／論文

小学校低学年児童のアジリティ能力に影響を及ぼす要因／2013年12月／神戸医療福祉大学紀要　第14巻第1号／53-58／共著／論文

福祉系大学生のキャリア意識に関する調査研究（第2報）／2013年12月／近畿医療福祉大学紀要　第14巻第1号／137-144／共著／研究ノート

体育系大学新入生の運動習慣及びBMIから見た肥満度の違いが体力に与える影響／2016年12月／神戸医療福祉大学紀要　第17巻第1号／57-66／共著／論文

小沢卯之助による剣術教材化への試み：医学的合理主義に立脚した体育観に基づく剣術の創生／2016年12月／神戸医療福祉大学紀要　第17巻第1号／99-106／共著／論文

大学生柔道選手におけるライフスキル獲得とキャリア成熟との関連／2016年12月／神戸医療福祉大学紀要　第17巻第1号／107-115／共著／論文

大学生の保持するスポーツ指導者観の実態とその変容可能性―福祉系大学体育系学科3年生を対象として―／2017年12月／神戸医療福祉大学紀要　第18巻第1号／53-58／共著／論文

大学生に対する7秒間走の即時効果／2017年12月／神戸医療福祉大学紀要　第18巻第1号／125-129／共著／研究ノート

7 秒間走の効果～7 秒間走の限界～／2018年12月／神戸医療福祉大学紀要　第19巻第1号／155-159／共著／研究ノート

7秒間走と8秒間走の比較／2019年12月／神戸医療福祉大学紀要　第20巻第1号／49-54／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

サッカー選手の方向転換を伴う疾走能力／1998年3月／大阪体育学会第36回大会

福祉系大学新入生の日常生活およびスポーツ場面での心理社会的スキル／2012年3月／大阪体育学会第50回大会

幼稚園および保育園でのサッカー教室が幼児の心理や体力に与える影響／2012年8月／日本体育学会第63回大会

小学校低学年児童のアジリティ能力の特徴と体格，運動能力との関係／2013年3月／大阪体育学会第51回大会

ゴール型球技の経験が方向転換走能力に及ぼす影響／2013年8月／日本体育学会第64回大会

生徒たちの水泳の得意度を高める授業とはー大学生のこれまでの水泳授業の経験と現在の水泳の得意度との関係からー／2013年8月／日本体育学会第64回大会

運動習慣の違いが大学新入生の体格やアジリティ能力に及ぼす影響／2014年3月／大阪体育学会第52回大会

中学生サッカー選手のアジリティ能力に影響を与える要因／2014年8月／日本体育学会第65回大会（

育成年代サッカー選手のアジリティ能力に影響を及ぼす体力要因の発達特徴／2015年8月／日本体育学会第66回大会

大学生の保持するスポーツ指導者観の実態とその形成要因ーＫ医療福祉大学３年生を事例としてー／2017年9月／日本体育学会第68回大会

大学生柔道選手におけるライフスキル獲得がキャリア成熟に及ぼす影響ー全日本柔道強化選手登録経験の有無からの検証ー／2018年3月／日本コーチング学会第29回大会兼第11回日本体育学会体育方法専門領域研究会

小学校低学年児童の方向転換を伴う疾走能力に影響を与える体力要因の発達特徴／2018年8月／日本体育学会第69回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	フレッシュマンセミナー企画運営、特待生制度の確認と制度適用の可否、卒業パーティーの参加者数の把握など学生の活動に関わる業務を行った。本学近隣地域の禁煙エリアのタバコポイ捨てパトロールを実施した。
スポーツサポートセンター	副センター長	本学強化指定部の活動支援業務のうち、コロナ禍における安心安全な活動についての助言を行った。 中学校運動部活動の地域移行について、佐世保市教育委員会と意見を交わし、本学が支援できる内容を提案した。
スポーツツーリズムコース	委員長	コース長として、スポーツツーリズムコースの目指す方向性について提案した。コースカリキュラムを整備し、順次性のある体系的な編成とし、カリキュラムの改善を図っている。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際観光学科学事委員会	委員長	学科内委員として学科学事を統括しまとめた。
国際観光学科カリキュラム委員会	委員	学科内委員としてコースカリキュラムの編成に貢献した。

(3) 課外活動の指導等

サッカー部顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①鎮西学院高校進路ガイダンス参加　2022年11月14日

②諫早農業高校進路ガイダンス参加　2023年2月17日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席

2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	出席
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

スポーツツーリズムコース主催でNIUキッズチャレンジスポーツを開催。4～10歳児とその保護者を対象として運動の楽しさや魅力を伝える運動教室を実施した。令和4年度は9月～2月に全6回開催した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

学科内コースの方針、育成したい人材の方向性について提案した。スポーツツーリズムコースで何を学ばせるのかについて、コースカリキュラムの編成について順次性を持った体系的な学びになるよう整備することができた。カリキュラムの編成については、科目数が増えすぎ複雑になっていることから、今後の取り組みとしてはスリム化を図りながら科目の配置をシンプルに分かりやすくすることを目標としている。

コロナ過であったが、これまで3年間開催できずにいたNIUチャレンジスポーツの実施を再開させた。ただし、これまでのものを見直し、子どものその後のスポーツへの取り組みに重要な枠割を果たす4～10歳までの子どもを対象として、運動スポーツへの興味関心を高めるための教室を開催した。この地域貢献事業では、学生もかかわらせ、人とスポーツの関わり及びその魅力の発信の仕方を学ぶ機会となった。

研究活動は、入職初年度で教育活動と地域貢献事業を軌道に乗せることが精いっぱいで、手を付けることができなかった。しかし、今後は地域貢献事業として開催したNIUキッズチャレンジスポーツを中心として「子どもとスポーツ」をテーマに具体的な研究課題を設定し進めていきたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 教授　　氏名 嶋内　麻佐子

1．教育理念

私は現在、長崎国際大学茶道文化研究所所長として、全学共通科目である「茶道文化」の講義と実技を担当している。

全学共通科目である「茶道文化」は、本学が立地している長崎県にゆかりの深い平戸発祥の武家茶である鎮信流茶道を取り入れ、茶道を通した人間教育に力を入れている。そのため、私の教育理念は、相手をもてなす心（ホスピタリティ）を持ち、日常生活に必要な礼儀作法や高いコミュニケーション力を有した学生を育成することである。したがって、「茶道文化」の授業では、配当年次毎にカリキュラムを編成し、学生の発達段階に即した授業内容を展開するよう努め、ホスピタリティの獲得を重視している。「茶道文化ⅠA・ⅠB」は、平成29年度から初年次教育の1科目となり、茶道の基本となる礼法や薄茶点前の習得を目標としている。また、「茶道文化ⅡA・ⅡB」についても、濃茶点前の習得を通して茶道の基礎を学ぶ内容となっている。「茶道文化ⅢA・ⅢB」では、不時点前や雪吹点前や逆勝手点前の習得と併せて、地域の方々をお客様として「観月茶会」を実施し、大寄せの茶会の実践を行う。「茶道文化ⅣA・ⅣB」は、「正午の茶事」と「卒業の茶事」の2回の茶事を通して、学内外よりお客様をお呼びし、数寄屋での茶事を実践する。4年間の集大成となる茶事は、茶道の精神性を理解し、亭主と客が相互に協力することで成功するものであり、相互理解の関係性というものは一般の社会においても重要である。しかし、今年度はｺﾛﾅ禍の影響のため「観月茶会」および「正午の茶事』は中止とした。その代りとして、茶道文化ⅢとⅣでは、波佐見町歴史文化交流会館において茶会を実施した。さらに「茶道文化ⅡとⅢでは、「ミニ茶会」、茶道文化Ⅳでは、茶事を簡略化した茶会を授業時間内に実施。

以上のような授業内容を通して、学生には相手を思う気持ちを養うと同時に、それを行動に移すことができる主体性や実践力を学んで欲しいと考えており、そのために、授業では一貫して少人数教育を徹底し、学生が主体的に発言し、行動するという授業方法を行っている。また、補助員制度を有効に活用し、上級年次生が下級年次生に学んだことを伝える仕組みをつくり、自己修養のための活動も積極的に実施している。また、平成31年度に開校した九州文化学園小・中学校の茶道教育も担っており、そこで得た知見を「茶道文化」に反映し､教育活動に活かしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	54	②③⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	98	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	87	②③⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	9	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	10	②③④⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅠA	15/15(前期)	1	47	②⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅠB	15/15(後期)	1	47	②③⑥⑨⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	7	②④⑥⑦⑨⑪⑫
茶道文化ⅣA	15/15(前期)	1	5	②③④⑥⑩⑪⑫
茶道文化ⅡA	15/15(前期)	1	18	②④⑥⑦⑨⑪⑫
茶道文化ⅡB	15/15(後期)	1	27	②③⑥⑨⑩⑪⑫
茶道文化ⅣB	15/15(後期)	1	3	②③④⑥⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

茶道文化Ⅰでは、満足度は4.6で全体平均とは同数である。前期オンラインと対面を交互に行っていたが、後期は全面対面に切り替えた。対面での担当者とのコミュニケーションを図ることができたことや道具に触れる時間が増えたことが満足度につながったと考える。さらにクラスの人数が多いところは、茶室２か所と一般教室１つ計3つの場所を使って授業を行い、点前の流れと部分的な技術指導に努めた。受講態度については、4.5で全体平均と同数のクラスや0.1ポイント低いクラスもあった。後期より全面対面での授業、並び実技確認を行い、個別のフィードバックをする時間を設けたとこで授業への取り組む姿勢に変化が見られ

た。茶道文化Ⅱでは、満足度は4.5で全体平均より0.1ポイント低い。茶道は、複数の指導者で構成されているため、点前技術指導の改善を求める声もあり、指導の統一を図るように努めた。受講態度は、4.7で全体平均より0.2ポイント高い。対面での授業が増えたことと。実技確認を実施することで実践的に学ぶ時間が増えたことが学習意欲につながったと考える。茶道文化Ⅲでは、満足度は4.7で全体平均より0.1ポイント高い。前期に学外の茶会に参加し、客作法の実践を行い日頃の成果発表ができたことが、満足度の向上につながったと考える。受講態度は、4.7で全体平均より0.2ポイント高い。茶会参加で、学生間および指導者との距離が近くなりコミュニケーションがとりやすい環境が学習意欲の向上につながったと考える。茶道文化Ⅳでは、満足度が5.0，全体平均より0.4ポイント高い。2年間はコロナ禍で正式な茶会を実施できなかったが、今回は略式ではあったが懐石を含めた形で「卒業茶会」が開催でき満足度の向上につながった。受講態度は4.6で全体平均より0.1ポイント高い。茶会を経験することで、学生や担当者ともコミニケーションが密に行われ良い結果につながった。そのことを通して茶道の奥深さや魅力を実感できたと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	茶道文化Ⅰ	15/2(前期)	1	55
長崎短期大学	茶道文化Ⅱ	15/1(後期)	1	226
長崎短期大学	茶道文化Ⅲ	15/3(前期)	1	154
長崎短期大学	茶道文化Ⅳ	15/2(後期)	1	150
九州文化学園料理師専修学校	カップリング＆シュガー	15/2(後期)	1	9
九州文化学園歯科衛生士学院	茶道文化Ⅰ	10/2(前期)	1	35
九州文化学園歯科衛生士学院	茶道文化Ⅰ	26/2(後期)	1	34
九州文化学園中学校１年	日本文化教育	30/30(通年)	1	16
九州文化学園中学校2年	日本文化教育	30/30(通年)	1	20
九州文化学園中学校３年	日本文化教育	30/17(通年)	1	24
九州文化学園小学校１年	日本文化教育	30/30(通年)	1	36
九州文化学園小学校２年	日本文化教育	30/30(通年)	1	21
九州文化学園小学校３年	日本文化教育	30/30(通年)	1	18
九州文化学園小学校４年	日本文化教育	30/30(通年)	1	23

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
補助員研修（春季研修会）	24	11	2022年3月8日、3月10日、3月11日、3月15日、3月16日、3月18日
補助員研修８夏季研修）	24	7	2022年9月5日、9月７日、９月９日、９月１３日、９月１４日、９月１６日
補助員会	3	11	2022年4月18日、8月5日、2月21日
茶道部学生開国際指導（道具説明・点前指導・リハーサル）	4	19	2022年10月19日、10月26日
薬学科総合演習ⅢAのヒューマニズム（茶道）教育	4	99	2022年6月1日、6月8日、6月15日、
九州文化学園中学校２年生松浦史料博物館見学	2	20	2022年7月25日
九州文化学園中学１年生サマースクール	2	16	2022年8月4日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「小・中学校との比較による大学茶道教育の検討事業」

「感性を育む大学茶道教育の実践事業」

「小・中学校の取り組みを還元した茶道教育の実践」

「茶道と教育について」

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	80万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
大学茶道教育による人材育成の実践及び検証事業	令和4年度長崎国際大学学長裁量経費採択	2022年4月～2023年3月	30万円
「高大連携事業」から「中学・高校・大学連携＆融合事業」へ	令和4年度長崎国際大学学長裁量経費	2022年4月～2023年3月	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携委員会	アドバイザー	連携事業案内冊子作成、2023履修証明プログラム、長崎国際大学寄付講座に関する規程、QSP活動報告アドバイスを行った。さらに、キッズキャンパスでは、茶道部門で学生等の指導に当たった。
茶道文化研究所	所長	茶道文化教育に携わる、九州文化学園全体の教職員に対して、教育と茶道技術指導を行った。さらに新人１年目の教員に対して、茶道文化の際指導を行う上での実技確認とその後の指導を行った。 大学では、波佐見歴史文化資料館の要望を受け「波佐見茶会」を２回開催した。今後連携協定を結んでいる状況を踏まえ、継続事業となるよう大学シラバスに取り込む工夫と学生への技術指導を行った。 さらに九州文化学園中学校では、３年生の「観月茶会」を開催した。また中学２年生は、平戸松浦史料博物館において「茶室」の歴史文化の触れ、客作法などの教育支援にあたった。さらに小中学校での参加日合計７回保護者に対して、教育内容の紹介を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
茶道文化補助員の教育指導	特任教授	大学規定に沿って補助員選考を行い、春・夏に補助員研修を企画し、技術指導と教育方法の指導を行った。また、授業終了後の反省会や、1年間全体の反省会を企画し、指導者教育を行った。また、動画を使い２年生と３年生の茶道文化履修学生に対して補助員活動報告を行った。
九州文化学園小中学校教員の茶道指導	特任教授	小中学校での日本文化の授業の際に、担当教員に対して授業計画に従い茶道の技術点前の指導を各学年（小学校１年から４年まで、中学校１年から３年まで）ごとに３０回行った。
長崎短期大学・専修学校部門の教職員の茶道指導	特任教授	短期大学と専修学校教職員に対して、点前の技術指導と授業で使用する動画指導とアドバイスを行った。さらに１２月に長崎短期大学茶道大会時期には、教職員に対して、茶席設置の確認と亭主用道具を選出し、説明を行った。
長崎短期大学教職員授業のための実技確認指導	特任教授	短期大学教職員が茶道文化の授業を担当するにあたり、点前技術ができているかどうかの確認を６名の教職員に対して実技試験を行った。さらに，それぞれの技術向上のための指導方法と点前技術の指導を行った。

(3) 課外活動の指導等

①茶道部顧問　茶道部の茶道活動支援を行っている。今年度は、学際での茶席運営と点前の技術指導を行った。

②補助員研修　大学及び小中学校茶道指導のための支援活動を行った。

③中学２年生研修　平戸松浦史料博物館内研修で、茶室「閑雲亭」の茶室の歴史と構造について説明、および客作法等の指導を行った。

④茶道文化Ⅳ　波佐見茶会（７月２日）実施の際、茶席

⑤九州文化文化学園小学校２年生と３年生を大学生主催の「波佐見茶会」に各1席茶席を設け、客作法の成果の場となるよう支援活動を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス/7月24日/長崎国際大学（自明堂）

オープンキャンパス/8月7日/長崎国際大学（自明堂）

オープンキャンパス/3月21日/長崎国際大学（自明堂）

オープンキャンパス/3月19日/長崎国際大学（自明堂）

ウクライナ学生受け入れ入校式/７月5日/長崎国際大学（自明堂）

大学祭にて鎮信流茶道紹介/10月30日/長崎国際大学（自明堂）

九州文化学園中学校「3年生生徒による観月茶会」/11月17日/九州文化学園中学校「わらべの間」

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	対象外
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
新任教員授業研修会「建学の精神と茶道教育」	令和4年4月2日	長崎国際大学	長崎国際大学基盤センター/自己点検・評価委員会
「郷土長崎」「武家茶道って知ってますか」	令和4年11月15日	長崎県立明誠高等学校	長崎県立明誠高等学校校長 安藤嘉朗

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
NPO法人茶道鎮信流梶の会（全国組織）	幹事	2012年～現在に至る	茶道鎮信流宗家　松浦章
茶道鎮信流佐世保支部松清会	幹事	2006年～現在に至る	鎮信流佐世保支部支部長 松浦純二

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

本年度は、小中学校での茶道教育の公開のために、小学校は１年時から４年時まで、中学校は１年時から３年時までの保護者に対して授業公開を実施した。茶道教育の実態を通して、普段とは異なる児童や生徒の姿に感動する保護者の様子が見られた。また、さらに中学３年生は、卒業の行事として「観月茶会」を実施し、保護者を招待した。生徒もさることながら保護者も感無量の様子が見られた。

今回初めての企画として、大学生主催の学外での茶会に「茶道文化Ⅳ」の茶会に小学3年生が、「茶道文化Ⅲ」の茶会に小学２年生が客作法の実践の場として参加し、大学生、小学生ともに同じ流派の作法を確認する良い機会となった。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、前期はオンライン授業と対面授業を柔軟に対応した。後期は、全面対面授業に切り替えクラスの人数が多いところは、茶室２か所と2201教室を使い学生が密にならず点前技術の習得ができるように工夫した。教室では、オンラインでの手元技術の動画、歴史講座などを取り入れ、茶室では点前の流れを行い、２つの流れを組み合わせる工夫を施した。また、茶道文化Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは実技確認を実施することで、自発的に点前の練習を試みる場面が多くみられた。茶道文化ⅢとⅣで今回初めて波佐見茶会を実施した。正式な茶会での客作法やもてなす側の立場など交互に味わうことで、おもてなしの奥深さを知る良い機会となった。そのことにより、茶道への興味関心につながった。

つぎに、九州文化学園小中学校では、年間通して対面で授業を行った。中学生は、平戸の松浦史料博物館や大学でサマースクールに参加し、大学生と中学生とも茶道を通した交流を行い有意義な時間であった。中学３年生は、集大成として「観月茶会」を実施し、生徒、指導者、保護者など一体感となる成果発表の場となった。さらに、小中学７クラスの授業参観を行い、保護者へ日本文化の理解と日頃の成果を確認してもらい、それぞれの生徒の日頃目にすることができない姿を発見する良い機会となった。

研究面では、今年度も学長裁量経費の採択を受け「大学茶道教育による人材育成の実践および検証事業」に取り組んだ。特に今年度は、学内だけにとどまらず学外の茶会を実施した。茶会を通して亭主と客の立場から、「見る」「見られる」の視点でとらえることにつながり、相手に対しても考えた行動をとれるようになることが分かった。大学のおける教養教育としての茶道教育の深化とレベルアップにつなげるための研究につながっていることから、今後も継続して検証していきたいと思っている。

報道活動としては、大学で開催のオープンキンパスで茶道の企画をし、実施した。（４回）さらに、学外企画として２回茶会を実施し、いずれも100以上の客をもてなし、地域の活性化につなげることができた。

ワーキング・グループ活動として、補助員指導を夏・春休みを利用して、研修を企画し指導者研修の向上を目指した。

教職員に対しての「建学の精神と茶道文化」の講和等により、茶道文化の理念を伝えることができた。さらに短期大学の教職員には、点前指導者としての技術確認と指導を行い茶道文化の理解に結び付けることができ、今後も継続して精神と技術の指導を図りたいと思っている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 大井田　かおり

１．教育理念

(1)建学の理念を念頭に置いて

若者が考える人間尊重や人間関係と、中高年が考える人間尊重や人間関係にギャップが出て来ている。若者の言い分をきちんと聞いて尊重するように心がけたい。

(2)専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成を念頭に置いて

短期的な視野の利益を追うのではなく、長期的な視野での利益を考えられる人材を育成しなくてはならないと考える。それと同時に、短期的な教育効果を追うのではなく、数年後に「じわじわ効いてくる」教育をこころがけたい。

(3)地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成を念頭に置いて

「特定の地域しか見えず客観性を失う」状態にならず、地域を愛し貢献するのは意外と難しい。観光には利益の問題がどうしてもからむため、地域を愛することの大切さを伝えると同時に、地域を愛しすぎて客観性を失う怖さも伝えなくてはならないと思う。

(4)異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を念頭に置いて

現在の中学校高校教育が英語を重視するため、「異文化理解力＆国際社会貢献力＝語学力」と思い込んでいる学生が少なくない。そのため、英語が苦手な学生は異文化理解への自信を失っている傾向がある。人間はコミュニケーションの多くを非言語的なもので行っている。よって、異文化理解力＆国際社会貢献力と語学力はあまり関係がない（ゼロではないが）。自信を失っている学生にそのへんをうまく伝える方法はないかと模索中である。

(5)専門力に関して

観光学は学際的な学問なので、狭く深く何かを行うのではなく、すべての学問分野に精通することが専門力となる。嫌いな分野や苦手な分野から逃げず、浅くてもかまわないので一通り「かじる」ことが必要となる。苦手なものであっても知的好奇心を失わずにいてもらうための工夫は試行錯誤になると思うが、自分もそこからは逃げないように頑張ろうと思う。

(6)情報収集、分析に関して

間違っても未熟でもいいので、一生懸命考えることの大切さを伝えていきたい。学生は間違えることを恐れ、正解のないことを考える際に模範解答を欲しがる傾向にある。倫理上深刻な問題でない限り、学生が一生懸命考えたことは評価し尊重したい。

(7)コミュニケーション力に関して

学生に上の世代の定義のコミュニケーション力を押し付けないようにしたいと考える。

(8)協働・課題解決力に関して

特にゼミなどでは時々グループ学習を行う。優秀な人は自分が1人でした方が早いため、他の人に任せず、よその人は優秀な人に頼るだけで終わることになりがちである。そうならないための工夫を常に考えることが必要だと思う。

(9)多様性理解力に関して

例えば性に関する多様性を柔軟に受け入れる等、上の世代の教職員が学生に学ぶことも多い。自分も学生に学ぶものは謙虚に学びたいと思う。

授業は常に現在というより、近未来を見据えたうえで、行うように心がけたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
旅行業務エキスパートⅡB	15/15(通年)	2	2	①⑧⑨
国内観光研修C（西日本）	15/15(通年)	2	10	②④⑥⑦⑫
卒業研究	15/15(通年)	4	9	⑥⑫
国内観光研修D（九州・沖縄）	15/15(通年)	2	8	②④⑥⑦⑫
卒業研究	15/15(通年)	4	1	⑥⑫
海外旅行実務	15/15(後期)	2	35	①⑧⑨
旅行業務エキスパートⅡA	15/15(前期)	2	2	①⑧⑨
観光史	15/15(後期)	2	188	①⑩
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	10	①⑥⑧
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	①⑤⑫
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	12	①⑤⑫

専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	4	①⑥
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
国際観光論	15/15(後期)	2	172	①⑩
海外観光資源B	15/15(前期)	2	9	①⑧⑨
専門演習ＩA	15/15(前期)	1	3	①③⑤
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	8	①③⑤⑥
学際連携研究	15/4(前期)	2	218	⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
旅行業特講	15/15(後期)	2	5
事例研究（旅行業）	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は旅行業務取扱管理者資格試験関係の授業は、講義ではなく、試験を前提にした過去問や問題集を徹底して行うことにした。その結果、受験者の模擬試験の点数向上には役に立ったが、試験を受けない受講者にとっては苦痛だったようである。受験中心に考えた場合、多く問題を解く方が効果的なことはわかったので、その旨をシラバスでもう少し詳細に告知した方がよい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

360度バーチャル映像を観光に生かす

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

HMDを使用したバーチャル旅双六教材の開発：地歴学習への応用／2022年7月10日／日本教育メディア学会研究会論集第53号／70頁～75頁／共著／学会発表論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

HMDを使用したバーチャル旅双六教材の開発：地歴学習への応用／2022年7月10日／日本教育メディア学会2022年第1回研究会（東京学芸大学）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
旅行業務取扱管理者養成課程委員会	委員長	国内・総合共に夏休み期間を利用し、旅行業務取扱管理者試験に向けての強化授業および模擬試験を実施した。今年度から、旅行業務取扱管理者試験合格者の進路を調査し、その結果をパンフレットやポスターにすることとした。また、そこには、難関である総合試験合格者の体験記を載せることで、モチベーションを上げることを目的とした。
研修・地域連携員会	委員	委員ということで、9月と2月の2回観光研修を実施し、コロナ禍で受講がしにくくなっている人の減少に貢献するようにした。また、23年度用に廉価の観光研修案を提出したが、退職が決定したため、実施できなくなったが、委員内の案としてストックしておくこととなった。
オープンキャンパス委員会	委員	ブースや講義を担当するだけでなく、オープンキャンパス中に流す動画の作成も担当した。
ボランティアセンター委員会	委員	本年は主だった災害がなかった。
学生生活サポート室員	室員	前期は毎週学生相談のため待機を行った。
観光学論集編集委員	委員	委員なので、査読を行うほか、注・参考文献を中心とした校正チェックを担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

よさこいサークルの指導。ただし、前期中に部員不足により解散。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

9月11日　ゼミ生と眼鏡岩・弓張岳展望台の清掃活動を行う。

9月23日　セミ生と石岳展望台・展海峰の清掃活動を行う。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は有志のゼミ生と佐世保市で星空が美しい場所の清掃活動を行った。屋外活動なので、コロナ禍であっても可能である。こうした試みは時々行ってもよいと思う。ゼミ生と少年科学館にて、流星群や七夕時に星を見ながら佐世保ジャズのコンサートを行うというのを企画したが、退職によって、実現できなかったのが残念である。コロナで活動に制限が加えられていたが、コロナを開襟する前に退職するのが残念である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 落合　和昭

1．教育理念

建学の理念を基として、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現を図るため、これまでの実務経験を背景にホテルビジネスマネジメントを追求する。また人を育てる喜びを通じて、その普及や浸透を図るとともに、今後一層期待される「事業性を正しく理解し、その向上をもって礎とする」人材の育成と研究を推進し、もって文化と健康を大切にする社会の建設に資する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(通年)	4	8	②④⑥⑦
国内観光研修D（九州・沖縄）	7/7(通年)	2	2	②④⑥⑦
卒業研究	15/15(後期)	4	-	②④⑥⑦
ホテルオペレーション	15/15(後期)	2	84	②④⑤⑥⑦
キャリア開発Ⅱ	15/15(前期)	2	274	①②⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	11	②④⑥⑦
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	11	②④⑥⑦
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	9	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	9	②④⑥⑦
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ブライダルマネジメント	15/15(後期)	2	101	②④⑥⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	8	②④⑥⑦
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	7	②④⑥⑦
宿泊業論	15/15(前期)	2	189	②④⑤⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業満足度は4.3以上を目指し、前期合計では目標の4.3を達成したものの、4.4と3.9の合算であり一部に改善の必要性を認めた。但し、担当教員の取り組みについてはいずれも4.4以上であるため、更に深いレベルでの改善を検討する。その結果後期については向上が見受けられ、4.5と4.4（合計平均4.4）となった。講義内容は異なるため単純比較は馴染まないが、否定的な満足度が無くなったこともあり、引き続き授業改善と学習効果向上に努めていきたい。特に、専門演習での最も満足度の高い項目として、「熱意の感じられる授業でしたか」が4.8の回答を得ている。実際の宿泊施設を活用した商品企画などの取り組みも実施しており、引き続き学術的な演習と臨場感ある体験を学ぶ演習形態の充実を図りたい。この観点は、一般講義においても、「ホテルの見学もあって非常に楽しい」「現場の視点で細かく学べた」「理解が深まり易い」など、ポジティブなコメントを数多く受けることができており、今後IR誘致など環境の変化にも対応した実践を目標とする。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
ホテルビジネス実務検定（ベーシック1級・2級）に向けたQ-LEARNによる遠隔指導	30	36	2022年4月～2023年3月
ホテルビジネス実務検定（ベーシック1級・2級）団体受験主宰	2	33	2022年11月・2023年3月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ホテル開発論・顧客満足とホテルの事業性における考察

2021年度では、コロナ禍におけるホテル開発の適切な対処方法を見出すことを研究し、グローバルスタンダードホテルの開発チームからのインタビューなどを踏まえて、事業スキムの調査と構築プロセスを加えることの優位性を確認した。
2022年度においては、ホテルの事業性向上に必要とされる評価方法について、これまでの実務経験を基に文献調査や校外研究活動の成果を反映して、今後の臨床研究に必要な項目と基準を特定した。
今後については、これらの結果を踏まえた実践的な検証を目標とし、考察を深めていくこととしたい。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	2	0	0	3	3	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

ホテル・旅館の経営者から次世代へおくる熱いメッセージ／共著・編著／2017年1月／株式会社オータパブリケーションズ／70頁～71頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

市場変動を見据えたホテル開発プロセスの再見／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／85頁～102頁／単著／研究ノート

ホテルの事業性向上に資する実績評価の考察／2023年3月／長崎国際大学論叢第23巻／33頁～46頁／単著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
満足度調査の活用による事業性向上について	一般社団法人　平戸観光協会	2021年3月	0万円
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考（令和2年度）	一般社団法人　宇久町観光協会	2021年3月	0万円
プライベートアイランド構想に基づく観光コンテンツの再考（令和3年度）	一般社団法人　宇久町観光協会	2022年3月	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研修・地域連携委員会	委員長	研修・地域連携委員会の任務は、今年度の「観光研修」「地域連携活動」プログラムの履修者確認と催行不催行の確認、引率補助教員の選任を行うとともに、次年度のプログラムの募集と調整を行うことである。 １．2022年度計画の国内観光研修6本（団体引率型）と2本（個人移動型）の催行（但し、団体引率１本中止）、地域連携活動6本の催行 2022年度の観光研修について、COVID-19の影響から「海外観光研修」は計画されなかったが、「国内観光研修」団体引率型はシングルルーム適用を原則（一部例外を含む）として、後期追加2本を含む6本の催行が実現し、個人移動型の2本（うち1本は後期追加分）と併せて卒業要件の充足を図った。また、地域連携活動については、計画された10本のうち、履修者のあった6本はすべて催行できた。 2．2023年度観光研修・地域連携活動プログラムの募集と調整 2023年度の観光研修プログラムについては、学科教員から提案された観光研修（団体引率型）国内6本、海外1本の計7本を計画した。地域連携活動プログラムについては、2022年度と同様の計10本を催行する方向で学科会議に上程した。なお個人移動型の観光研修については、COVID-19の影響が予測の範囲を超えない限り、2023年度は見合わせることとしたい。
ホテル経営管理者養成課程委員会	委員長	ホテル経営管理者養成課程委員会の任務は、必要条件となる「ホテルビジネス実務検定ベーシックコース」の団体受験を主宰するとともに、ホテルマネジメントへの理解と関心を喚起し、最終的にホテル経営管理者として認定される学生の育成と表彰を行うことである。 １．一般財団法人日本ホテル教育センターによる「ホテルビジネス実務検定ベーシックコース1・2級」団体受験の実施 11月19日の第1回団体受験では総数20名が受験し、2級11名・1級1名（合計12名）の認定を受けることができた。本年度2回目（2023年3月3日）の団体受験では11名が参加し、2級2名、1級1名が認定された。本年度の受験者は合計31名に達し、更なる就職成就率向上への寄与を目指す。 ２．2023年3月度卒業生のホテル経営管理者資格認定について 卒業生のうち4名が必要な講義の単位を修得し、且つホテルビジネス実務検定の2級以上を取得していた。加えて、英検準2級またはTOEIC470以上が認定条件となるため合格証の提出を求めたところ、2名が確認されたため卒業時に認定証を授与した。
研究倫理委員会	委員	全ての委員会審議案件に関して、データベースを作成し、委員会にて報告を行った。その結果、対象件数は前年同期比109.5%であったが、そのうち条件付き承認が同280.0%と伸長しており、委員会審議の厳格性を認めることができる。また、卒論案件は同115.2%と、前年を5件上回っていることから、教育的な観点からも浸透が図られていることを確認した。
キャリア委員会	長期インターンシップ責任者	長短インターンシップのうち、ホテル関連施設の合計12名（前期：長期3名・短期5名／後期：長期1名・短期3名）を担当し、キャリア開発の促進を図った。また人気の高いゲストハウスウェディングの研修を実現するなど、プログラムの充実も図っている。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
九州・長崎国際観光人材育成コンソーシアム準備会	委員	IR誘致や本学への波及拡大に関して活動を行っている。
オープンキャンパス	ブース責任者等	ホテルやブライダルに関するブースを設営したほか、委員会の指示に基づきタイムキーパーなどの役割を担った。
観光人材養成大学間連携会議	ワーキンググループメンバー	IR誘致に伴う人材育成に関して、近畿地区大学間連携会議に参加して、長崎IR誘致に伴う人材育成に関する参考とする。

(3) 課外活動の指導等

今後の課題としたい。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

ホテルビジネス実務検定において、2022年4月に優秀指導校賞を受賞したため、本学ホームページを通じて告知を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
ホテル・観光・ブライダル	2022年11月	沖縄県　名護高校	沖縄県　名護高校
サービスの職業（ホテルマン等）	2022年12月	長崎県　私立創生館高校	長崎県　私立創生館高校
サービス業とは	2021年5月	長崎県　佐世保東翔高校	長崎県　佐世保東翔高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
川棚町観光施設運営あり方検討委員会	委員長	2021年～2022年9月	川棚町

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

教養セミナーを通じてSDG'sに関する講義を行い、学生への関心喚起と理解促進を図った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
九州・長崎国際観光人材育成セミナー	主宰団体メンバー	2022年7月	長崎国際大学	コンソーシアム準備会

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

実務経験を持つ大学教員として2年目となる本年度は、教育面において、ホテルビジネス実務検定の団体受験を年2回に引き上げたほか、4年生の卒論就職指導、ゼミ生によるホテルマーケティング部門への商品企画プレゼンテーション実施など、活動の幅や深度を増やすことができたと自負しております。また、初めて国内観光研修を主宰し、学習領域の拡大にも努めております。研究面では、前年度に引き続きこれまでの成果を論叢に研究ノートとして寄稿する一方、観光・地域連携活動委員長、ホテル経営管理者委員長、キャリア委員など、大学運営にも積極的に関わってきました。今後は、クラブ・サークル活動との関係づくりについても、機会を模索したいと思います。また学外においても、川棚町の観光施設に関する委員会を完遂したほか、来年度は長崎コンシェルジュ認定委員会への参画も内定しており、引き続き国際観光学科に相応しい研究と教育を柱として、観光の振興と人材育成に寄与して参りたいと思います。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 乙須　翼

1．教育理念

・授業に関して

私が授業をする上で最も重視しているのは、学生の批判的思考力の醸成である。つまり、授業を通して、学生の視野が受講前より広がり、物事を多角的・多面的に考え、また自分の言葉でその考えを表現できるようになればと願い、授業を展開するようにしている。

教育学というと、多くの学生は学校や教師の話を期待するが、学校という場所は社会の縮図とも言える場所であり、子ども達は、現代という時代や日本社会という社会が親や教師、学校に要求・期待している様々な機能や働きの対象として存在し、常にそれらの影響を受ける形で生活している。したがって、教育という現象を捉え、教育について考えるためには、現代とはどういう時代なのか、日本社会はどういう特徴を有しているのかなど、物事を多面的・多角的に考え、俯瞰で見る姿勢、また自身の価値観を相対化したり、客観視したりする力が必要となる。

上記の点を鑑み、授業をする際には、子どもや学校、教育や家族の問題が、どのようにその時代や社会と繋がっているのかを必ず学生に考えさせるように心掛けている。具体的に言えば、講義形式の授業で話をする際には、そのテーマの歴史（文化や宗教も含む）や社会（法や制度、政治など）との関連性を意識して話すよう心がけている。また、学生が授業で扱うテーマと自分自身の生活との関係性に気づき、自分の言葉で物事を深く、そして多角的・多面的に考えるくせがつくよう、必ず授業では「問い」を冒頭で設定し、その「問い」に関して学生がコメントやノートを作成するような流れで授業を構成している。そして、グループワークやディスカッション、スピーチといったアクティブ・ラーニング型の授業においては、「問い」に関連して、学生が自分自身の考えを言葉にして表現し、学生同士で意見交換をする中で、多様な考え方があることを知り、それらを互いに認めることができるような雰囲気づくりを心がけている。

大学という場所が、学生が社会人（市民）として生きていくために最後に学ぶ場所であると考えると、大学での一コマ一コマの授業が成人教育の重要な時間である。その点を常に考えながら授業を展開するようにしている。

・学生の指導全般に関して

学生と接する際に大事にしているのは、学ぶという目的において教員と学生は上下関係ではなく、フラットな関係であるという点を常に意識するということである。教員と学生はとかく上下の関係と捉えられがちであるが、そういった考えは、大学で教育にあたる大学教員としては非常に危険であり、また研究者としても自身の考えを狭めるものである。したがって、私自身は、学生のどんな些細な疑問や悩みに対しても、真摯に向き合うという姿勢を心がけ、むしろ、自分の発想にはなかった考えや、自分の年齢や立場になると思いつかない観点を与えてくれる存在として学生を位置づけ、接するようにしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(前期)	4	1	⑥⑩⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	⑥⑩⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	-	⑥⑩⑫
事前・事後指導	2/8(通年)	1	7	⑥⑦⑫
教育実習Ａ	0/60(通年)	4	7	⑪
栄養教育実習	0/20(通年)	1	5	⑪
事前・事後指導(栄養)	2/8(通年)	1	5	⑥⑦⑫
教育原理	15/15(後期)	2	41	①⑪
教師論	15/15(前期)	2	42	②③⑤⑦⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	①⑤⑥
教職実践演習(栄養教諭)	2/15(後期)	2	5	①⑤⑦⑫
教職実践演習(中・高)	4/15(後期)	2	8	①⑤⑦⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	5	⑤⑥⑩⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	5	⑤⑥⑩⑫
キャリア開発Ⅰ	8/15(後期)	2	248	④⑨⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑩⑫

教養セミナーB	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑫
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	4	①⑤⑥⑩
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	4	①⑤⑥⑩
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑩⑫
教育学	15/15(前期)	2	90	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は、講義科目や演習科目、ほぼすべての授業を対面で実施することとなった。授業アンケートについては、前期に3科目、後期に1科目実施した。満足度についてはすべて4.0を超える結果となった。遠隔授業が続いていた科目については、遠隔授業時に工夫した動画の使用やワークシートの修正、学生への課題提出などを対面でも引き続き取り入れた。一部の授業については、遠隔時の工夫が対面でも成功したと考えているが、教室で授業をすることにより、インターネットに各自がすぐにアクセスできない、PCでの回答が即時にできない、教室のスクリーンが見にくい、Zoomとの併用に手間がかかるなど、うまくいかない点もあった。授業中の学生の態度については、マスク着用であったこともあり、私語もなく悪いものではなかったが、教職科目については受講生の数が非常に多く、学生間の学習意欲の差が目立った。また遠隔授業ではチャット等でのリアクションを一斉に要請することができたが、教室で多人数となるとそこが難しく、双方向性がやや失われた部分もあった。
次年度からは対面が基本となると思うが、上記に述べたいくつかの点に関して、再度工夫をしながら進めていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎外国語大学	教育原理	15/15(前期集中)	2	11
伊万里看護学校	教育学	15/15(前期)	2	31

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

欧米の子ども史（18世紀後半から19世紀初頭のアメリカを中心に）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	2	2	40万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大学1年生対象の教職課程科目における学生の評価力量育成に関する研究／2023年3月／長崎国際大学教育基板センター紀要第6巻／1-15／共著／原著論文

持続可能なスポーツ指導に資する長崎国際大学教職課程学生の評価観に関する調査結果／2023年3月／長崎国際大学教育基板センター紀要第6巻／45-55／共著／事例報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
教職課程で学修する学生の意識変容に関する研究 ー評価の分析を通してー（共同：浦郷淳・乙須翼）	2022年度(令和4年)国際観光学科学科共同研究費	2022年4月～2023年3月	20万円
持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観・コミュニケーション能力育成プログラムの開発（共 同：浦郷淳・田中誠・乙須翼・川上知子・神野周太郎）	2022年度(令和4年)学長裁量経費	2022年6月～2023年3月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター委員会	委員	各種アンケート結果に対する学科教員へのフィードバックの依頼、取りまとめ、委員会での報告などを行った。
教職課程委員会	副委員長	教職課程運営の事務的な調整や確認、教育実習や教職実践演習などのオムニバス授業の調整や進行、学生への履修指導などを中心に、教職課程委員長を支援した。その他、教職課程関連のオンラインシンポジウムなどに参加し、今年度義務化された自己点検評価に関する情報収集を行い、自己点検評価のWG長として自己点検評価報告書の作成ならびにアクションプランの作成を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	昨年度まで教養セミナーワーキング・グループ長を務めていたため、新任教員に対する授業研修会にて「教養セミナーと初年次教育」として講話を行った。初年次・共通教育部門委員として教養セミナーWGメンバーを務めた。その他、評価IR・研修部門委員、紀要編集副委員長を務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナーワーキング・グループ（教育基盤センター運営委員会内）	メンバー	昨年度までワーキング・グループ長を務めていたため、初業務の引き継ぎを今年度のワーキング・グループ長に行った。またメンバーとして、シラバスの検討、教材の検討、manabaによる諸連絡等を行った。
教育基盤センター紀要編集委員会（教育基盤センター運営委員会内）	紀要編集副委員長	編集委員長、また編集委員と共に、原稿の確認、査読者の選定、査読、査読後論文の修正確認などを行った。
教職課程自己点検評価ワーキング・グループ	ワーキング・グループ長	今年度義務化された自己点検評価について、自己点検評価報告書のとりまとめ、執筆などを行い、アクションプランの作成を中心的に担った。
初年次教育委員会（国際観光学科内）	委員長	委員長として、前期は全学の教養セミナーWGとの調整を行い、後期は教材や授業展開の作成と発信、及び教員への連絡等を行い、教養セミナーBの授業運営を中心的に担った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外

2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市立早岐小学校 学校評議会	学校評議員	平成23年度～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市立早岐小学校 学校支援会議「早岐っ子会」	委員	平成29年度～現在に至る	佐世保市教育委員会
九州教育学会理事会	長崎県選出理事	平成31年度～現在に至る	九州教育学会
九州教育学会第74回大会準備委員会	大会実行委員長	令和2年11月～令和3年12月	九州教育学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

九州教育学会第74回大会準備委員会の大会実行委員長として、2022年12月3日・4日の両日、オンラインで大会を実施した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は4月より、教育活動やその他業務が対面となり、徐々にではあるが、コロナ禍前の活動レベルに教育、業務、研究も戻すことができたと考えている。教育面においては、対面授業が中心となり、学生の卒論指導などゼミ生の指導、授業については、ほぼ以前のペースで実施することができた。業務面においては、今年度は教職課程自己点検評価の初回実施ということで、他大学等の情報を入手、検討しながら、WG長として無事に報告書をまとめることができた。また、今年度は学会の大会が本学で実施されることが決まっていたため、その準備と運営に尽力した。一方、研究については、計画通りというわけには行かなかった。次年度は、コロナ禍の遠隔授業で工夫した点などを生かした教育活動を継続すると共に、研究活動にもう少し力を入れたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 尾場　均

１．教育理念

「若者の人材育成と地域連携活動」と「PBLによる大学生の社会人基礎力育成」
地域と連携することにより、教育活動の成果を積極的に地域社会や産業界のニーズに結びつけ、幅広い情報を得ることで社会的な視野が広がる。理論だけにとらわれない実学重視のカリキュラムで、地域連携活動、プログラミング、映像制作、ラジオ放送、などの多くの実践の場で、学生が社会で通用する実践力（社会人基礎力）を身につけるカリキュラムをつねに考えている。
社会人基礎力が身につく効果的な実践教育で、考える力や人とつながる力、考え抜く力を身につけ、その教育成果を社会に活かせる人材の育成が、私の教育理念である。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ＩA	15/15(前期)	1	17	②④⑥
国内観光研修B（東日本）	15/15(通年)	2	21	⑦⑩
卒業研究	15/15(通年)	4	11	⑥⑪
地域連携活動ＩB	15/15(後期)	1	16	②④⑥
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	10	⑥⑪
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	⑥⑪
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	11	⑥⑪
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	11	⑥⑪
教養セミナーA	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＡ	15/15(前期)	1	74	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＢ	15/15(後期)	1	75	③
映像文化論	15/15(前期)	2	42	②
情報処理論	15/15(後期)	2	27	②
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	19	③⑪⑫
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	18	③⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	⑥⑪
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	7	⑥⑪
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＡ	15/15(前期)	1	87	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＢ	15/15(後期)	1	91	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＡ	15/15(前期)	1	109	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＢ	15/15(後期)	1	97	③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教養セミナーA
昨年度に大幅に方針を変更することにより4.9（以前は4.2）の評価であった。
決められた授業内容に、興味を持ってもらうため、現代の問題など身近なテーマを追加したりすることで、学生の理解度、参加意欲が多く、課題や質問、授業の中での発表など積極的であった。授業内容以外でも、自由に自分の意見を言える状況を作った。
学生同士のコミュニケーションはとても大事である。教科書以外での内容を取り入れ内容を深める努力が評価につながったと思

われる。欠席も少なく、楽しい雰囲気で授業を進められた。有効な私語（発表に関する相談）を作る工夫でセミナーの雰囲気もよくなった。
数年前の評価からとても向上している。ただ共通カリキュラムをそのまま使うのではなく、その内容を工夫して授業内容を作ることが大事である。
次年度も同様な事業内容やセミナーメンバーの雰囲気作りも心がける。後期の面談などで自由記述の内容も解決・改善する。

コンピュータ基礎演習ＩA
今年度4.6　(2021年　4.2　2019年　4.4　2018年4.4)
昨年度、これまでになくスコアを落としたが、今年度はこれまでのアンケートでも高い評価となった。
オンライン授業に内容を変更したことで、これまでの対面授業で工夫していた部分が欠けたことが、昨年の結果であるが、今回はオンラインで工夫した内容を対面でも活かせたのが要因だと思う。個人が独自で問題解決をする内容であるため、質問や考える時間を作ること、またオンラインで個別対応ができない学生へのアシスタントによる対応などである。数年前の対面授業よりゆっくりと進め、何度も繰り返す授業の内容で進めていくことが、学生の評価につながったと思う。
授業内容の理解を把握するために、学生の動きや雰囲気を直接見られる対面授業は、演習には必要だと思う。特にほぼ全員がカリキュラムで提示している目標に達することができた。宿題の提出率も再履修者以外は、ほぼ全部提出されていた。15回の授業により学生のスキル向上が見える内容となった。
着席してモニター越しの授業から、久しぶりの対面授業で最初は戸惑ったが、学生の評価を見ると対面授業での評価が向上した。何度も繰り返すことやできるまで待っていることはオンライン授業で学んだ指導内容であり、対面で活かされたと思う。復習を行うことは、毎回の授業アンケートで把握することで、学生の理解度が低い内容を再度説明できたと思う。また、実際に使える知識や技術を授業の内容に混ぜて解説することは、毎回のアンケートでも評価が高く、今後も最新のICTの状況や技術革新などをわかりやすく授業に取り入れ理解してもらう。

コンピュータ基礎演習ＩB
0.5スコアの向上であった。0.7のスコアが減少した。自由記述を見ると、昨年度の多かった「授業スピードが速い」などが減った。
この授業は3クラスで実施しているため、内容や進むスピードはすべて同じ内容である。毎回実施している授業アンケートを実施しているが、昨年度とは違い、「早い」「難しい」「授業スピードが早い」が極端に減った。昨年度の反省もあり、大きく改善したこと、そして対面であることが大きな要因であった。課題の提出率も高く、小テストの内容もよく、授業の理解ができていたと思われる。
教科書の内容とは別に、会社での実践で使われる内容やデータの分析など、授業の内容にも学生の評価は高くなったと思われる。佐世保市の佐世保市の人口推計データを分析する授業など学生のレポート内容を見ると満足度が高いと思われた。今後もこのような事業内容を組み入れたい。またICT関連の講義も取り入れ、授業の感想では評価は高かった。情報に関する時事的な話も学生は興味を持ってくれていた。
オンラインとは違い、公欠の学生が多く最終試験まで何度も補講授業を実施することになった。また質問等も多く、昨年のオンライン授業の学生が内容を理解しているか心配である。自由記述も評価は高く感じている。次年度はシステムが変更されるため、また新たに内容を修正している。今後もしっかりと学生の状況を見て授業を進めていきたい。

情報処理論
昨年度と同じ4.6であった。オンライン用に内容の変更を対面に戻してこの科目を実施した。今回はオンラインで出来なかった、実際に見たり聞いたり触ったりすることができた。また社会生活に関係する内容も多いため、受講者はより満足できたと思われる。スマートフォンと決済、詐欺情報など、教科書の記述にない内容も多く取り入れ学生の関心も高かった。教科書がすでに過去のモノになっているこもあり、正確な情報を使えるために授業の準備をおこなった。
多くの学生の居眠りが少なかったことが印象的である。授業内容がこれから社会で生活するために必要な内容だと理解してくれていたと思う。学生に有益な情報をICTの時事的な話の中で伝えていくことは学生の授業態度や学習意欲につながっていると思われる。特にスマートフォンに関連する内容は質問も多く、内容に関心を持ってもらった。
「教科書の内容に留まらない時事問題や情勢なども絡めた授業で非常に興味を持って取り組むことができた」「内容がとても面白いので毎回楽しく参加してます」など授業内容に満足してもらった。新聞やテレビを見ていない世代ではネットで自分が好きなことだけを知ることで詐欺や架空請求、ビットコインなどの内容を詳しく授業の中で伝えることが重要であり、そのための科目だと思っている。社会の情報にアンテナをつねに立てるように指導した。履修後もこの分野について興味を持ち続けて欲しい。

映像文化論
昨年度のオンラインでの授業からすべて対面での授業を開講した。
昨年度のオンライン用に授業内容を変更したため、大幅に対面授業へ対応するための内容変更となった。
スコアは4.8で昨年のオンラインは4.5、その前の対面授業だけのスコア4.4であった。0.3のスコアの情報である。
映像の質の向上と資料の教育教材の選別、内容も現代との比較とその進化にともなう経緯などを詳しく述べたこともスコアの向上と多くの学生が興味を持った授業内容につながったと思う。

映像文化に興味を持ってもらう、特にYoutubeを基点に様々な国や地域、文化や時代、作品を選び、詳しく説明することを心がけている。その成果が学生の興味や関心を持つ内容になったと思う。まず欠席が少ない。そして多くの学生が小レポートを提出している。またレポートの内容も理解や驚きを見ることで授業関心度を確認することができた。
何でもネットで調べれば見れる現代だからこそ、自分でも見てみたい、調べたいという意欲を持ってもらえたと思う。
前回の授業についてレポート内容にある様々な意見を、後日に共有することで、内容理解にもつながったと思われる。
授業もとても静かで作品や説明を聞く姿が多く見られた。
自由記述からは否定的、厳しい意見はなく、満足度が非常に高い意見が多くみられた。
その結果は、毎回の学生の授業態度（私語、欠席が少ない）や、毎回の授業アンケート、そして4.8のスコアから関心を持った授業であったと思われる。
前年度の配布プリントに関しては、「パワーポイントの印刷があればテスト勉強もしやすいのではないのかなと思います。」の意見に対応したことも要因だと思われる。
「とても興味深い内容ばかりで面白かったです。」「どの授業もとても興味深いもので見ていて楽しいくて取って良かったなと思う授業でした。」など内容が伝わったと思う。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
伊万里看護師学校	情報科学	15/15(前期)	1	25

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

研究面において、観光アプリケーション開発、を目標とする。ICT関連のソフトウェアの開発、映像制作、位置情報を使ったアプリケーションの開発
教育研究面において、PBLの実践として、会社設立による経営指導、遠隔を含む授業モデル、映像制作を活用した新しい授業を実践する。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	50万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
SDGsゴール3.4.8.17学内外対象イベントの実施	長崎国際大学　学長裁量経費	令和４年度	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
産学連携・研究支援センター	副センター長	産学連携・研究支援センター に関する活動

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

「学校とミュージアムの共創~平和教育と鑑賞プログラム」長崎県立美術館　講師
NIUキッズキャンパスで「スマートフォンアプリ開発講座」を小学生対象に実施した。
AUGM長崎Plusを開催、全国からICT関連の有識者を招き無料の講座を開催した。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

令和4年度テレビ番組「佐世保だョ全員集合!」番組回数12作品
ラジオ番組「はっぴいRadio場」番組回数48作品
「碧波みなと」（あおばみなと）SNSで投稿数 251件
国際観光学科をSNSで情報発信した。
NR長崎新聞の記事原稿の制作

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
「学校とミュージアムの共創~平和教育と鑑賞プログラム開発」	2022/11/3	長崎県立美術館	長崎県立美術館
「学校とミュージアムの共創~平和教育と鑑賞プログラム開発」	2022/1/7	長崎県立美術館	長崎県立美術館

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市文化振興委員会	副委員長	令和４年度	佐世保市
佐世保市過疎等地域振興持続支援事業	委員長	令和４年度	佐世保市
佐世保中央高等学校評議会	委員	令和４年度	長崎県立佐世保中央高等学校

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2022/12/11『きらフェス佐世保独楽大会&佐世保独楽体験』　主催
2022/12/11渋谷と佐世保が短編映画の街になる！　主催

2023/2/18.19渋谷・佐世保短編映画祭　実行委員
2023/2/24.25　戸尾市場で食べ歩き　　主催

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

●研究面:スマートフォンカメラによるARシステム。スマートフォンでARタグによる仮想映像のマーカー型AR、空間認識AR、スマホ用商店街デジタルマップを制作提案した。
●教育面：ポートフォリオを活用した授業を実践、PBLの実践では、映像制作と佐世保独楽大会など複数のPBL型のイベントを開催、NR長崎新聞の原稿制作、ラジオの番組制作、地元テレビ局での番組制作などによりアントレプレナー醸成などの成果が得られた。大学ベンチャー起業実践によりキャリア教育も実践できた。
●社会貢献面：「渋谷と佐世保が短編映画の街になる！」　「きらフェス佐世保独楽大会&佐世保独楽体験」「渋谷・佐世保短編映画祭」「戸尾市場で食べ歩き」など多くの地域イベントを開催して地域に貢献した。
今後も継続したい。
。また佐世保文化研究会で国家間、世代間の交流と伝統文化の伝承の場を形成した。
●大学運営面：地域連携関連の副委員長、学科広報委員長として連携・広報活動などの運営に従事した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 佐野　香織

１．教育理念

私の出発点でもあり研究関心は、異なる人々が共に学びよりよい社会を培うための日本語教育です。興味・関心を拡げ深めながら学ぶことと、ことばを共に培う教育実践を国内外で行って参りました。それは、人材育成の観点からも、興味・関心の学びとことばの教育は分けて考えることができるものではなく、共に育み培っていくものであると考えているためです。こうした観点から、研究、学生教育、教師教育の往還をめざし,実践を行っています。具体的には主に以下のようなことをしてきました。

１）ローカルな課題とグローバルな視座の学習デザイン・学習環境設計

①のローカルな発見から課題解決へのプロセスには、成人学習論、学習環境設計の理論が関わっています。自らのローカルな実践をふりかえり、グローバルな視座で主体的に学びあう学習環境デザイン、ラーニングコモンズにおける学習支援環境設計と運営、MOOCsを用いて自己決定感を持ちながら、自己調整学習を可能とする学習支援の企画開発・実践等を行ってきました。

２）協働で地域とことばを創るクリエイティブ・ラーニング

現在、複言語・複文化が進むことが想定される日本社会に対応した新たなことばの考え方、ことばの教育が求められています。留学生は日本の街に一時的に訪れる「お客様」としての存在だけではなく、留学生もまた、市民と一緒に安全で快適な、持続可能なまちを創ることに貢献できる存在です。私は、この「つくる」という経験を通して学び、共にことばをつくる観点から、次のような実践研究をしてきました。　1)「やさしい日本語」をつくる地域実践、2)SDGs達成をめざし、「食品ロス」の課題解決から、文化としてのそのまちの「食」、人のつながりをつくることば、まちの食と人の持続可能な仕組みづくりとモデル化をめざした実践研究

３）「体験の言語化」を通した、社会参加をめざした教育

身の回りの生活や文化を通して、社会にかかわり、社会に働きかけるための新たなことばと学びを「つくる」ことを念頭においた教育をめざします。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
日本語教育実習	30/30(前期)	2	1	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
日本語教育実習	30/30(通年)	2	3	①②④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究	0/15(通年)	4	8	なし
日本語Ａ	30/30(前期)	2	12	②③⑧⑨⑫
日本語教授法Ｂ	15/15(後期)	2	6	⑥⑦
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	10	①④⑤⑥⑧⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑧⑩
日本語Ｂ	30/30(後期)	2	11	②③⑧⑨⑩
日本語コミュニケーションＢ	15/15(後期)	2	7	①②④⑤
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑦⑩
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑦⑩
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥⑩
日本語コミュニケーションＡ	15/15(前期)	2	21	②④⑪
日本文化論	8/15(後期)	2	62	②④⑪
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
異文化理解特講	15/15(後期)	2	2
異文化理解特講	15/15(後期)	2	4

事例研究（異文化理解）	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生の満足度は高く、引き続き対話型のグループ活動を取り入れた授業をよりよくしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

地域日本語教育、応用言語学、成人教育・学習、省察的実践の学び、生涯学習、支援者教育・学習、組織の学び、ラウンドテーブル、ラーニングコモンズ

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	1	2	6	1	1	182万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

『越境する日本語教師と教師研修　実践を省察するラウンドテーブル』／共著・編著／2023年3月／くろしお出版／共著　99-109

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

「国際共修において教員が描く境界とその境界へのかかわり方の問い直し―２大学間の教育実践での教員の協働探究を通して―」／2023年3月／『留学生交流・指導研究』Vol.25／pp.49-61／共著／論文

「大学から仕事領域へのアクティブトランジション：キャリア形成支援としてのシャカイジン×ガクセイ　ワークショップの試み」／2023年3月／『長崎国際大学論叢』第23巻／13頁～20頁／単著／研究ノート

「「他者」との「かかわり」の中で学生はどのような学びを得たのか―「Challenge campus SDGs」の実践―」／2023年3月／『長崎国際大学論叢第』第23巻／21頁～32頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

「「国＝文化＝人」を問い直していないのは私たちなのかもしれない一二大学間の教育実践における教員の協働探究」／2022年8月／CAJLEカナダ日本語教育振興会 Annual Conference 2022

「＜鏡のホール＞ ＜学びのエコシステム ＞ としての「日本語ボランティア」「研修」再考後の展開　―2018年CCBI発表後の批判的跡づけ」／2022年8月／The Second International Symposium for Critical Language Education Language Education For Social Future: The Current State of Critical Content-Based Instruction (CCBI)

「日本語教育におけるナラティブによる教師教育の展望」／2022年8月／第25回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム

「Well-beingを視座とすることで始まることばの学びのダイナミクス」／2023年3月／言語文化教育研究学会第9回年次大会

「Round talk’n 2022 コン_ヴィヴィアリティ」／2023年3月／言語文化教育研究学会第9回年次大会

「「平和」をテーマにした対話型絵本ワークショップ実践における学びを考える」／2023年3月／第29回大学教育研究フォーラム

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「日本学研究を担う海外大学若手人材育成：往還する省察的学びのモデル提案と実践研究」	科学研究費補助金	2019年～2023年	182万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員	令和4年度男女共同参画セミナーを企画、開催に尽力した。
キャリア委員会	委員	学生のキャリア意識向上のため、インターンシップ指導に貢献した。また、インターンシップ先を2件新規開拓した。
地域・観光研修委員会	委員	コロナ禍においてもできうる範囲を考え、地域・観光研修の企画、開催に尽力した。
ハラスメント相談員	相談員	特記事項なし
ピアサポート相談員	相談員	特記事項なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス　ブース企画、大学WEBサイト国際観光学科広報　学生の活動について記事掲載した。

高校出前模擬授業　2022年10月14日　佐賀清和高等学校「多文化共生をつくることば」

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	6

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
文化庁令和4年度日本語教育人材の研修プログラム普及事業　連続講座	2023年1月14日	オンライン	長崎県国際課・国際交流協会
九州文化学園中学校　人権週間講話	2022年12月14日	九州文化学園中学校	九州文化学園中学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
令和4年度長崎県多文化共生施策推進総合調整会議	委員	2022年4月~2023年3月	長崎県国際課
令和5年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 企画・評価会議	委員	2023年2月~3月	文化庁
言語文化教育研究学会　年次大会委員会	シンポジウム担当委員	2022年4月~2023年3月	言語文化教育研究学会
言語文化教育研究学会　研究集会委員会	副委員長	2022年4月~2023年3月	言語文化教育研究学会
言語文化教育研究学会	理事	2022年4月~2023年3月	言語文化教育研究学会
日本語教育学会　国際連携委員会	委員	2022年4月~2023年3月	日本語教育学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2022年5月14日　ウクライナチャリティイベント「「おとなりにウクライナからの避難の方が引っ越してきたら」主催

平和絵本ワークショップ主催開催

2022年

①　7月18日　地域交流拠点　HOGETホゲット

②　10月28日・29日　長崎国際大学　開国祭

③　12月3日　武雄市こども図書館

④　12月17日　嬉野温泉旅館　和多屋別荘　三服

2023年

⑤　1月28日・29日ながさき愛の映画祭（長崎ブリックホール）

⑥　3月17日　長崎国際大学　SDGs記念イベント

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

令和4年度　長崎国際大学学長裁量経費　「SDGs推進奨励制度」SDGs賞

８．活動全般についての自己点検・評価

留学生教育、特に日本語レベルを踏まえたカリキュラム、クラスのシステム整備を一通り行い、来年度以降の新たなコース設計に備えることができた。来年度以降の留学生教育に生かしていきたい。

留学生の就職先、インターンシップ先の開拓をキャリアセンターと協働できた。

社会貢献としてもSDGS活動としても、平和絵本活動をゼミの学びとして行い、学生の成長が見えた。
来年度も対話とことばの活動を継続していく。

日本社会、長崎県、佐世保市においても少子高齢化、外国人労働者増を見据えた地域日本語教育基盤整備、研究が急ピッチで進む中、研究、委員活動貢献の双方ができた。来年度は科研研究としても進めていく。

共著出版、他論文執筆が重なり、今年度終了予定の科研研究成果が出せなかった。継続が認められたため、成果として論文執筆をめざす。

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 城前　奈美

1．教育理念

学生自身の特性を活かし、その力を伸ばす。学生同士のつながり、社会とのつながりを密にさせ、コミュニケーション力を伸ばす。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
観光研修E	3/3(前期)	2	32	⑦⑩
旅行業務エキスパートＩB	8/15(通年)	2	5	①⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	15	⑥⑫
観光研修E	3/3(後期)	2	2	⑦⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	10	⑪⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	10	⑥
旅行業法・約款	15/15(前期)	2	42	①⑨
旅行業務エキスパートＩA	8/15(前期)	2	25	①⑨
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	⑪⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	7	⑥
観光経済論	15/15(後期)	2	103	⑨
経済学	15/15(前期)	2	195	⑨
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	15	⑥
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	15	⑥
地域観光研究A（ｱｼﾞｱ・ｵｾｱﾆｱ）	15/15(後期)	2	92	⑥⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光経済特講	15/15(後期)	2	1
観光経済特講	15/15(後期)	2	1
事例研究（観光経済）	15/15(前期)	2	1
特別研究	30/30(通年)	8	1
観光事業特別演習	5/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2年ゼミ生が日本観光研究学会九州・韓国南部支部主催の大学生論文発表大会に出場し、優秀賞を受賞した。

2022年度「地域観光研究A(アジア・オセアニア）」は4.3、「旅行業法・約款」は4.5、「教養セミナー」は4.6であり、全体平均と同等程度であり、例年と同様の結果であった。全面的に対面授業となったため、出席を促す対策、代理出席を防ぐ対策を強化していく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	観光法	15/15(前期)	2	103
九州産業大学	観光政策論	15/15(集中)	2	5

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
旅行業務取扱管理者（国家試験対策）	6	15	6/9,6/16,6/23,7/7,7/14,7/21

３．研究活動

(1) 研究テーマ

台湾におけるバーチャルツーリズムの量的・質的分析
～スポーツ・ツーリズムとエスニック・ツーリズムの観点から～

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Sport Tourists’ Participation Patterns in Online Sporting Events: Evidence from the Tianzhong Marathon in Taiwan ／2023年3月／Committee of International Conference on Tourism Sciences (ICTS)

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	副委員長	・入試業務（年間14日） ・合格者へのお祝いメッセージ作成 ・作問最終校閲 ・委員会事前協議 ・合否判定事前協議 ・学部教授会への上程
キャンパスライフヘルスサポートセンター運営委員会	副委員長	・委員会事前協議 ・学生サポート室担当教員選定・打診補助 ・ピアサポート運営（大学院、ピアサポート講習会等） ・配慮申請面談（年間約20件） ・NPS執行部運営補助（新歓祭、月例会議、研修会等） ・委員会、合理的配慮の検討会議への出席
人間社会学研究科学務委員会	委員	・会議出席 ・大学HP記事作成
学科内募集委員会	委員	・出張講義の手配 ・大学パンフレットの製作
学科内カリキュラム委員会	委員	・カリキュラムの再編。
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員	・16件の研究倫理審査

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
QSP	委員	・年間計画書、報告書作成。 ・D国際交流・観光・まちづくり委員会のとりまとめ。

人間社会学研究科観光学専攻	副専攻長	・専攻会議事前打ち合わせ ・入試作問のとりまとめ ・専攻内修士論文中間発表会の運営 ・大学HP記事作成
長崎国際大学国際観光学会編集委員会	委員	・論集の合見積もり依頼 ・査読

(3) 課外活動の指導等

準硬式野球部顧問、公式試合引率（春季リーグ、九州大会、秋季リーグ）、練習視察（コロナ対策）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

年間4回のオープンキャンパス運営（ブース運営、模擬授業、等）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
東南アジアの経済発展	2022年8月3日	ZOOM	長崎県立長崎東高等学校
クルーズ船を事例に観光の学びを知ろう！	2022年10月7日	長崎県立島原高等学校	高大連携事業

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市景観審議会	委員	令和4年度	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2022年7月17日に、3年ゼミ生とスポごみ大会in平戸に参加。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
全国大会	分科会司会進行、等	2022年12月17・18日	日本観光研究学会
第２回研究会	研究会運営	2022年12月4日	日本観光研究学会九州・韓国南部支部会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

日本観光研究学会九州・韓国南部支部 副支部長（２回の研究会開催、大学生論文発表大会運営、役員会開催）

７．受賞等

International Conference on Tourism Sciences（ICTS2023）（2023年3月20・21日）で発表した「Sport Tourists' Participation Patterns in Online Sporting Events:
Evidence from the Tianzhong Marathon in Taiwan」が、The Best Oral Presentationを受賞。

８．活動全般についての自己点検・評価

入試・募集委員会とキャンパスライフヘルスサポートセンター運営委員会のダブル副委員長として、また観光学専攻の副専攻長として、各種大学運営業務に、例年より多くの時間を費やした。その中で、修士課程修了生1名、学士課程15名を輩出し、2年ゼミ生は大学生論文発表大会（日本観光研究学会九州・韓国南部主催）において、優秀賞を受賞した。研究活動の数は少ないものの、1本の発表がThe Best Oral Presentationを受賞することができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 城本　高輝

１．教育理念

サービス産業である観光ビジネスは、現在はコロナ禍で停滞しているものの、今後、大きな復活が期待できる分野です。

私は、国土交通省（観光庁）、大阪府都市魅力創造局、公益法人、交通事業者等において、観光白書・観光立国推進基本計画の作成、まちづくり、産学官連携、地域貢献、緊急雇用創出事業等に取り組み、今後の日本経済の発展のためには、観光ビジネスが非常に重要な教育分野であると実感してきました。

今後、観光ビジネスが、さらに飛躍していくためには、「産官学」が連携しながら、重要な役割を果たしていく必要があります。私は、今まで「産官」の立場で、観光ビジネスの発展に尽力してまいりました。
現在は、「学」の分野において、実務家として教育を進め、若い学生に観光学を教えながら、観光ビジネスのさらなる発展に寄与していきたいと考えています。私の実務家としての経験を、学生に教えるだけでなく、生きた模擬体験として、ワーキングなどで活用しています。

近年、観光ビジネスにおいては、一律的な団体旅行よりも、それぞれのお客様のニーズにあわせた多様化、差別化が進んできています。このため、従来型のパッケージツアーよりも、個人の趣向に合わせた体験型の旅行を期待したり、自然ツーリズム、文化ツーリズム等、「コト」を重視するニーズが高まってきており、こうした動きに対応できるよう、世の中の動きをしっかり掴み、それをサービスや価値として提供できる能力が必要であると考えています。
ここ最近は、ウィズコロナ、アフターコロナという視点についても考えて能力が必要です。

また、これからは、会社が個人を育ててくれる時代ではなく、自分で考えてから行動し、自身でスキルアップをしていきながら、自分の働きたい会社に移っていったり、自分で起業していく時代になります。
さらに、観光分野においては、上から目線での理念や言葉の押し付けだけでは、物事は進みません。多くの人とコミュニケーションを図り、多くの人の心を動かすことが出来る能力が必要とされます。こうしたことは、学生にはしっかりと意識しておいていただきたいと思っています。

そのためにも、会社経営のノウハウ、IT等のシステムエンジニアとしてのスキル、着地型旅行商品等のサービス開発能力、ビジネスの場における交渉力、多くの方の共感を得られるプレゼンテーション力等を、少しずつ、学生の間に身につけて欲しいと考えています。

学生時代に実務家から観光ビジネスを学ぶことは、将来のチャレンジの幅を広げる大きな意義があります。私は、学生と細やかにコミュニケーションを図りながら、講義終了後には、知識だけでなく、個々の学生がスキルアップを実感できるような成果を意識して、教育を進めていく所存です。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	15	⑥⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑩
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	6	①⑥⑩
テーマパーク論	15/15(後期)	2	112	①②③④⑩
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	15	⑤⑦⑩
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	15	⑤⑦⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	7	①⑥⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	7	①⑥⑩
マーケティング論	15/15(前期)	2	158	①④⑥⑩

環境デザイン論	15/15(前期)	2	22	⑩⑪⑫
観光事業論	15/15(前期)	2	169	①②③④⑪
地域振興論	15/15(後期)	2	136	①②③④⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光事業特講	15/15(後期)	2	1
観光事業特講	15/15(後期)	2	3
事例研究（観光事業）	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

観光のあり方が大きく変わろうとしているので、テキストだけに頼るのではなく、学生には観光地を見学してもらったり、観光体験をしてもらい、座学以外の学習にかなり力を入れ、成果をあげることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
東京交通短期大学	鉄道システム論	15/15(前期)	2	51
東京交通短期大学	鉄道工学	15/15(後期)	2	33

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
「観光ビジネスについて考えよう！」の講義　※佐賀県立佐賀東高等学校	1	40	2023年3年14日（予定）

３．研究活動

(1) 研究テーマ

観光、ワーケーション、移住、地方創生、交通、働き方改革、離島活性化

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	3	2	7	1	1	20万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

小値賀島（長崎県北松浦郡小値賀町）の活性化策について−学生目線で小値賀島のワーケーション及びエコツーリズムを考察する−／2022年9月／日本国際観光学会自由論集Vol.6／113～119頁／共著／論文

西九州新幹線に関わる二次交通についての考察 ―ワーケーションを推進する嬉野温泉および雲仙温泉における新しいモビリティの検討―／2023年3月／長崎国際大学国際観光学会観光学論集第18巻／11～21頁／共著／論文

ゼミ活動での体験学習における学習機会と評価についての考察 ―小値賀島および宇久島における島暮らしワーケーション体験を事例に―／2023年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第6巻／17～30頁／単著／論文

労働と余暇の先行研究にもとづくワーケーションの一考察 −桝潟俊子の生活空間の考え方などを事例に−／2023年3月／長崎国際大学論叢第23巻／47～59頁／単著／研究ノート

就職活動と鉄道知識に関するデータ収集および検証について −東京交通短期大学の学生アンケートから−／2023年3月／東京交通短期大学研究紀要第28号／ 20～54頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

受け入れ側から見たワーケーションの実態（長崎県を事例に）／2022年6月／日本観光経営学会

長崎県佐世保市宇久町（宇久島）の現状及び今後の活性化について／2022年6月／島嶼コミュニティ学会

西九州新幹線に関わる二次交通についての考察／2022年10月／長崎国際大学国際観光学会

長崎県の島嶼地域の新しいモビリティについての一考察／2022年10月／日本島嶼学会

雲仙市のワーケーションおよびモビリティについての研究 （島原半島ユネスコ世界ジオパークの学術的価値向上を目指して）／2022年12月／農村計画学会

長崎県の小値賀島における大学ゼミのフィールドワークについての考察／2022年12月／島嶼コミュニティ学会

令和４年度島原半島ユネスコ世界ジオパーク学術研究奨励事業／2023年2月／学術研究奨励事業に係る成果報告会（ジオ空教室）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和４年度島原半島ユネスコ世界ジオパーク学術研究奨励事業	島原半島ジオパーク協議会	2022年8月～2023年2月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	学生の就職支援
キャリア委員会	委員	短期・長期インターンシップの企画運営
カリキュラム委員会	委員	大学カリキュラムの検討

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国際観光人材育成コンソーシアム九州・長崎準備会	委員	IRの推進に向けた観光人材の育成
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム	委員	大学教育の活性化
佐世保地域経済活性化推進協議会 仕事関連ワーキンググループ	委員	佐世保市産業の活性化

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスでのブース出展（２回）

開国祭でのブース出展（１回）

NHK「ニシノハテ革命」出演

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
大阪府トライアスロン協会	参与	2020年4月～	協会事務局

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

鹿児島県出水市コワーキングスペースアドバイザー

千葉県鋸南町コワーキングスペースアドバイザー

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

和歌山大学大学院にて博士課程在学中

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

学会での発表や論文執筆などを積極的に行い、大きな研究成果を得ることができた。

また、学生と課外活動を積極的に行い、教育活動にも大きな成果をあげることができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 新藤　照夫

１．教育理念

授業内外での学生との双方向のコミュニケーションを重視し、個々の学生が主体的に学修でき、卒業までにそれぞれ独自のホスピタリティを獲得していくことができるよう、教員としてサポートを行っていくことを教育理念としている。授業においては、安心安全の場を設定し、学生が容易に発言できる環境を保持しながら、アクティブラーニングを通じてプレゼンテーションスキルやコミュニケーション能力を育成することを主眼としている。

英語関連科目において具体的に実践したいことは、次の３点である。①英語により正確かつ迅速に情報を入手し、自発的に意思疎通を図れるようなバランスの取れた４技能の土台を定着させること、②その土台となる技能をもとに、専門領域に関する情報を英語を通じて受信・発信できる実用的な運用力への応用を図ること、③異文化背景を持つ他者との柔軟な異文化コミュニケーション能力の育成に努めることである。その結果、学生が自らのコミュニケーション能力によって得た情報や文化交流から、知見をより豊かにし、グローバルな視野のもと活躍できる人材になることを理想だと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	3	⑥⑫
英語コミュニケーションＡ	15/15(前期)	2	37	②⑩⑪
English Writing Skills Ⅰ	30/30(前期)	2	24	④⑩
English Writing Skills Ⅱ	30/30(後期)	2	24	④⑧
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	④⑤⑥⑩
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	3	④⑤⑥⑩
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	3	④⑥⑩⑪
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	3	④⑥⑩⑪
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	11	④⑤⑥⑩
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	1	④⑤⑥⑩
英語学	15/15(後期)	2	9	①②⑩⑪
英語コミュニケーションＢ	15/15(後期)	2	33	②⑩⑪
言語と文化	15/15(前期)	2	38	②⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

English Writing Skills Iでは、昨年度と比較すると、満足度は変わらず4.8の高評価ととなった。学生の英語力に応じた授業の改善の成果とともに、個別のサポートの機会を増やしたことが一因かと思われる。

言語と文化では、講義の内容の難易度が高い中で、全ての項目で全体平均を上回ったことに加え、満足度が4.8を得られたことは評価に値する。対面授業でのディスカッションをコロナ前のように行えるようになれば、授業参加の意識もさらに高まると考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	38

福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	35
福岡大学	フレッシュマン・イングリッシュⅢ	15/15(前期)	1	35
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	33
福岡大学	インターミディエイト・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	32
福岡大学	フレッシュマン・イングリッシュⅣ	15/15(後期)	1	36
環太平洋大学	異文化コミュニケーション論	15/15(集中)	2	17

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

クライシス・コミュニケーションにおける謝罪の文化的差異

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員長、教務課、学科長との連携を図り、学科内の教務事項の運営に尽力した。
研究センター委員会	副委員長	研究センター委員会の副委員長を務め、委員会の円滑な運営を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

女子ソフトボールサークルの顧問を務めた。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
実用英語技能検定	面接委員	平成17年4月～現在	公益財団法人日本英語検定協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】　GTコースについては、授業内外での学修支援に努めた。IELTSは2月末に結果が出るが、目標に達する可能性は十分ある。授業評価の満足度が4.9や4.8と高い科目が多いことは、教育実践の成果の証かと思われる。

【研究】　博士論文の完成を進めているとともに関係する論文を2点投稿した。

【社会貢献】　今年度は社会貢献といえる活動はなかった。

【大学運営】　副学科長として、学科長をサポートしながら学科運営には積極的に寄与した。学生の満足度を高めるための教育活動の見直しは、個人では実施できたが、学科としての改善にはうまく関与できなかった。オープンキャンパスにはアドバイザー的な立場で関与し、観光志向の女子をターゲットとした企画の創出を促した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 竹田　文雄

１．教育理念

実務家教員であるからこそ出来る教育の在り方を常に考え、そして常に進化向上させていくことに力点を置く。
学生に対しては、常に以下の４点を求めていく。
・世間の動きを知ることを「習慣化」して、様々なことに対して興味や関心を持つようにする。
・自身の意見を「まとめる力」を伸ばす。
・自身のまとめた意見を他者とシェアすることで、自身の意見を「伝える力」を伸ばす。
・意見を出し合うことで、自分自身の「聴く力」と「語る力」を伸ばす。
以上の４点について、学生が自発的に取り組むように後押しをしていく。
そして長崎国際大学の学生を、ホスピタリティに溢れた、どこででも誰とでも堂々と渡り合える社会人となれるように育成していきたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(通年)	4	8	②④⑥⑦
旅行ビジネス英語	15/15(前期)	2	38	②⑨
海外観光資源Ａ	15/15(後期)	2	78	②⑨
地域観光研究Ｃ（ﾖｰﾛｯﾊﾟ）	15/15(前期)	2	72	②⑩
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	②④⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	②④⑥⑦
地域観光研究Ｂ（ｱﾒﾘｶ）	15/15(後期)	2	66	②⑨
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	3	①②⑩⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	3	①②⑩⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥⑦⑪⑫
航空業論	15/15(前期)	2	114	②⑨
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	11	①②⑩⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	10	①②⑩⑫
ツアープランニング	15/15(後期)	2	99	②⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

スムーズな授業運営を第一に考え、あらゆる面において担当授業の準備とフォローアップを優先させました。
しかしながら前期・後期のいずれにおいても、資料の作成とその活用手法、および授業自体の進行手法について改善の余地が多々あることを自己レビューしております。
また後期には公開授業の機会を与えていただき、自身では気が付かなかった留意すべき点、改善すべき点を多々ご指摘いただきました。
これらの点を次年度の準備にフィードバックしてまいります。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・パッケージツアーの変遷と進化（「商品造成」「着地型観光・旅ナカ」）

・統合型リゾート/IR「日本型」の展開

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

統合型リゾート「日本型」に求められる「型と規模」についての考察／2022年4月／長崎国際大学論叢／75頁～84頁／単著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	入試の学力試験会場での受験生への応対に留意し、受験生の本学への入学動機の向上を心掛けた。入試面接も同様である。また入試募集媒体（NIU STUDY、NIU LIFEなど）の改編にも積極的に参画し、より魅力的な内容に仕上げることができた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席

2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
9	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
進路ガイダンスと模擬授業：海外観光資源A（ローマとキリスト教）	5月30日	本学1201教室	私立柳川高等学校
アクティブラーニングで学ぶ国際観光（パリ）	6月14日	本学1101教室	長崎県立清峰高等学校
進路ガイダンスと模擬授業： 海外観光資源A（フランス）	6月15日	私立九文高等学校	私立九文高等学校
進路ガイダンスと模擬授業： 海外観光資源A（パリ）	12月6日	長崎総合科学大学付属高校	長崎総合科学大学付属高校
進路ガイダンスと模擬授業： 海外観光資源A（イタリア）	3月4日	長崎県立川棚高等学校	長崎県立川棚高等学校
進路ガイダンスと模擬授業： 海外観光資源A（ローマ）	3月8日	私立海星高等学校	私立海星高等学校
アフターコロナ期を見据えたインバウンド戦略セミナー	5月25日	名切コアイノベーションセンター	日本インバウンド連合会
進路ガイダンスと模擬授業： 海外観光資源A（ローマ）	3月6日	私立九文高等学校 2年生	私立九文高等学校
進路ガイダンスと模擬授業： 海外観光資源A（ニューヨーク）	3月14日	私立九文高等学校 1年生	私立九文高等学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県消費生活審議会	委員	令和3年度より現在に至る	長崎県県民生活環境部 食品安全・消費生活課
佐世保市スポーツ推進計画策定委員会	委員	令和3年度より令和4年度9月まで	佐世保市教育委員会
九州・長崎 国際観光人材育成コンソーシアム準備会	委員	令和3年度より現在に至る	長崎県IR推進課
一般社団法人大学ゴルフ授業研究会	委員	令和3年度より現在に至る	一般社団法人大学ゴルフ授業研究会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

授業の自己点検・評価にも記しましたが、資料の作成とその活用手法、および授業自体の進行手法について改善の余地が多々あることを自己レビューしております。

後期に公開授業の機会を与えていただいたことで、自身では気が付かなかった留意すべき点、改善すべき点を多々ご指摘いただき、たいへん感謝いたしております。

R5年度につきましては、R4年度に得た見識を担当授業の運営に反映させて、授業運営の一層の充実を図ってまいります。

また、九文法人全体、大学、学部、学科の運営に一層寄与できるように努めてまいります。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 Thom W Rawson

１．教育理念

私達は自らやってみることによって一番良く物事を学ぶ。伝統的な講義において、アイデアや考えは教授から学生へと伝えられる。このような学び方は有効である。しかしながら本当の学びと理解は実際に経験することによって得られると私は思っている。

誰かが、家がどのようにして建てられたについて話をしているのを聞くことにより、あなたが建築について少しは学ぶ事ができるのが良い例である。 誰かが家を作っているのをみて、あなたはさらに多くの事を学ぶだろう。しかしながら、一度最初から最後まで実際に家を建てる工程に関われば、その仕事を達成する知識を完全に得る事が出来る。

私が学生たちに英語を教える時、学生たちがその言語を使うときに一番活動的になる。私の講義を聞くことによって耳を慣れさせる事は出来るが、英語を使うスキルは、彼らが実際に練習するまでは基本的なレベルのままである。 それらの練習を助けるため、私は学生達に教室の外で学ぶ技術を大事にするように伝えている。 良い英語の勉強法を教えてあげて、それに慣れる事により、学生達は授業が終わった後でもずっと学び続ける事が可能である。

We learn things best by doing those things ourselves.

In a traditional lecture, ideas and thoughts are transferred from the teacher to the student. This way of learning can be effective. However, I believe real learning and understanding come from getting firsthand experiences. A good example is that by listening to someone talk about how a house is built, you can learn a bit about house building. Watching someone making a house, you will learn a lot more. However, once one participates in the actual process of building a house with the builder from start to finish, the knowledge of how to accomplish this task is fully realized.

When I teach English to students, the most active learning happens when the students make use of the language. Listening to my lecture helps to train their ears, but their skills in using English remain at a basic level until they can get firsthand practice. To support these practices, I require students to focus on the skills they need to learn outside of the classroom. By teaching good English study habits, students can carry on with learning long after the class is finished.

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英会話	1/30(後期)	2	5	①②③④
英語演習ＩＡ	1/15(前期)	1	30	①②
Practical English ⅡB	1/30(後期)	2	24	①②③④⑤
English Writing Skills Ⅲ	1/30(前期)	2	14	④⑧
Practical English ⅠB	1/30(前期)	2	24	①②③④⑤
English Reading Skills Ⅱ	1/30(後期)	2	24	①④⑪
English Reading Skills Ⅰ	1/30(前期)	2	22	①④⑪
Practical English ⅢA	1/15(前期)	1	13	②③④
英語演習ⅡＢ	1/30(後期)	1	24	①②
英語演習ＩＢ	1/30(前期)	1	33	①②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Information Technology	1/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

In the past year, I've requested 6 or 7 courses to be evaluated by students. In most of those cases, I've been satisfied with the results of the questionnaires. Students seem happy with the content and the curriculum of the courses I offer. I will continue to work hard to present students with organized and informative lessons in each of

my courses in both the spring and fall semesters. この1年間で、6、7講座に学生による評価を依頼しました。そのほとんどのケースで、アンケートの結果には満足しています。学生たちは、私が提供する講座の内容やカリキュラムに満足しているようです。今後も、春学期、秋学期ともに、各講座で整理された有益な授業を提供できるよう、努力していきたいと思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

I have always been interested in using technology to support learning. As such, my research has primarily focused on educational technology, online tools for learning, and the interoperability of learning tools. I am also interested in learning analytics.

私は常に、テクノロジーを使って学習を支援することに関心を持ってきました。そのため、これまで主に教育工学、学習用オンラインツール、学習ツールの相互運用性などを研究対象としてきました。また、学習分析にも関心を持っています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	8	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

MOOCカリキュラムの方法論を用いたオンデマンドカリキュラムの観察／2022年3月／長崎国際大学論叢／14／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Benefits of Asynchronous Debates using Online Tools／2022年11月／2022年 日本言語教育学会（JALT）全国大会

オンデマンドコースの3学期分／2022年2月／日本ムードルムート2022

Moodleのラーニングアナリティクスに関する最新情報／2022年2月／日本ムードルムート2022

Google AssignmentsとMoodle／2022年2月／日本ムードルムート2022

IVEプロジェクトによる異文化間フォーラム交流のための「Discussion Metric Reports」について／2022年2月／日本ムードルムート2022

初心者のためのMoodleコンピテンシーと学習プラン／2022年2月／日本ムードルムート2022

Moodleでリソースとアクティビティを追加する／2022年2月／日本ムードルムート2022

Moodleを使った授業／2022年2月／日本ムードルムート2022

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
International Exchange Committee	Vice-chair	I work hard in the committee to participate in the monthly meetings and to make announcements in the monthly faculty of sociology meeting.月例会への参加や、社会学部月例会での発表など、委員会の中で頑張っています。
Moodle Association of Japan	VP R&D	I am the vice chair of the research and development committee in the Moodle Association of Japan. I have been promoted to the vice-president of the association beginning in April of 2023. I work hard to help promote Moodle LMS throughout Japan and to host the MoodleMoot Japan annual conference.日本ムードル協会で研究開発委員会の副委員長を務めています。2023年4月から協会の副会長に昇格しました。私は、日本中にMoodle　LMSを普及させるため、またMoodleMoot　Japan年次大会を開催するため、一生懸命働いています。
Global Tourism Program	Committee Member	I participate actively as a member of the Global Tourism Program's committee. When meetings are held, and activities are required, I am an active participant. I work hard to promote the Global Tourism program. I also work hard to help students in the GT program.私は、グローバル・ツーリズム・プログラムの委員会のメンバーとして、積極的に参加しています。会議が開かれ、活動が求められるとき、私は積極的に参加します。私は、グローバル・ツーリズム・プログラムの推進に尽力しています。また、GTプログラムに参加する学生を助けるために努力しています。
Graduate Student Tourism Journal Committee	Committee Member	I help the committee to publish the annual Tourism Studies journal that contains papers written by graduate students at NIU. I primarily help translate the English titles of the research papers.NIUの大学院生が書いた論文を掲載した年刊の観光学雑誌の発行委員会を手伝っています。主に研究論文の英語タイトルの翻訳を手伝っています。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

I am currently serving as the chief technical advisor for the online website "Xreading.com." This website hosts a library of English books that are written at various levels of the English language. They are helpful for students learning English. A majority of the students at NIU are using this website. I serve to advise the CEO of the company. I help with technical problems and understanding for new development on the website. I also work closely with the software developers based in India.私は現在、オンラインサイト "Xreading.com" のチーフテクニカルアドバイザーを務めています。このウェブサイトは、さまざまなレベルで書かれた英語の本を集めたライブラリーをホストしています。英語を学ぶ学生にとって有益なものです。NIUの学生の大半はこのウェブサイトを利用しています。私は、会社のCEOにアドバイスをする役目を担っています。技術的な問題や、ウェブサイトの新規開発への理解を深めるためのサポートをしています。また、インドにいるソフトウェア開発者とも緊密に連携しています。

７．受賞等

2021年 ベストイノベーション賞 2位、 日本ムードル協会の日本ムードルムート2022、Moodle フォーラム ディスカッション指標レポート

８．活動全般についての自己点検・評価

I am satisfied with my efforts at NIU. I work hard to give high-quality classes. I work hard to help organize the teachers in my department. I am trying to promote NIU through the open campus and other activities. I want more teachers to try and use QLEARN LMS instead of the current system at NIU. I will continue to work hard to improve.
NIUでの取り組みに満足しています。私は、質の高い授業を行うために努力しています。 私は、自分の学科の先生をまとめるために努力しています。オープンキャンパスなどを通じて、NIUのPRに努めています。NIUの現在のシステムではなく、もっと多くの先生方にQLEARN LMSを使ってみてほしいです。これからも向上心を持って取り組んでいきたいと思います。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 森尾　真之

1．教育理念

大学は社会のハブとして、元気な地域社会と成長する学生を育てるバックエンジン。
人材育成において社会に資する最も大切な力は「絵を描く力＝構想力」。
そのため学生一人一人の可能性を信じて、「感じる」場を提供すること。
そして胸を張って夢を語る学生を一人でも多く育てたい。
１．「学生同士が出会う場所」で仲間との学びを通して感じる。
２．「実社会との接点」のインプットで、社会とのかかわりと自分の可能性を感じる。
３．「思いを実現できる場所」で考えが現実化するダイナミズムと達成感を感じる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
旅行業務エキスパートＩB	15/15(通年)	2	5	①⑨
国内観光研修A（北海道）	2/2(通年)	2	30	⑦⑩
インターンシップB	2/2(通年)	2	44	④⑦⑪
卒業研究	15/15(通年)	4	14	⑥⑫
MICE研修	3/3(後期)	1	3	④⑥⑦⑪
国内旅行実務	15/15(前期)	2	59	①⑩
地域産業の魅力	15/15(後期)	2	93	①②⑥⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	②⑥⑦⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	②⑥⑦⑫
旅行業論	15/15(後期)	2	86	①⑨⑩
旅行業務エキスパートＩA	7/7(前期)	2	25	①⑨
長期インターンシップ	2/2(前期)	8	6	④⑦⑪
長期インターンシップ	2/2(後期)	6	2	④⑦⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
専門演習ＩＩＢ	15/15(後期)	1	7	②⑥⑦⑫
専門演習ＩＩＩＡ	15/15(前期)	1	14	②④⑥⑦
専門演習ＩＩＩＢ	15/15(後期)	1	14	②④⑥⑦
専門演習ＩＩＡ	15/15(前期)	1	10	②⑥⑦⑫
MICE論	15/15(後期)	2	46	②⑩
国内観光資源	15/15(前期)	2	103	①⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2	2
観光マーケティング特講	15/15(前期)	2	5
事例研究（観光マーケティング）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

例年との大きな変化はないが、学生からの反応が年々わかりづらくなっているため、講義の運営に変化が必要だと感じている。
特に比較的人数が少ない講義については、個別の対応なども検討すべきで、大型講義とのメリハリが重要になると考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡女学院大学	国内旅行業務取扱管理者試験講習	4/2(前期)	0	0
大学コンソーシアム長崎	長崎学Ⅰ	1/1(前期)	2	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

大村湾における一体的な観光圏に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	副委員長	キャリアセンターオンラインの普及に関する取り組み
地域連携センター委員会	副委員長	地域の高校生に対する寄付講座に関する取り組み
国際観光学科キャリア委員会	委員長	インターンシップの参加促進、よりきめ細かいキャリア指導機会の設定
スポーツセンター会議	委員	スポーツ学生のキャリア指導に関する取り組み

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①ゴルフ部顧問

②文科系サークルNIU LABO顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

佐世保北中学学校訪問　国際観光学科の学び（7月14日）

国際観光研究所における活動
①研究所HP開設
②HP内に高校生向けサイトSt.labを開設。3月のオープンキャンパスへの広報を行う。
③研究所主催の外部セミナーを実施（下記5に記載）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
NIU TOURISM SEMINAR#2	2022年7月22日	コアイノベーションセンター	国際観光研究所主催「IRセミナー」
NIU TOURISM SEMINAR#3	2022年11月25日	本学内	国際観光研究所主催「コーチングセミナー」
第1回Earth Day in Kawatana	2022年4月29日、30日	川棚町大崎海水浴場	企画運営
平戸地域教育旅行誘致プログラム	2022年通年	平戸市	東武トップツアーズ(株)
SDGs探究ツアー企画協力	2022年8月	壱岐市	JTB長崎支店、つくるのわデザイン

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
東彼杵町総合戦略推進会議	委員	令和２年～現在に至る	東彼杵町
西九州新幹線広報プロモーション業務委託に係るプロポーザル審査	審査委員	令和４年４月	長崎県地域振興部新幹線対策課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）
①「大崎スローライフ協議会」アドバイザー
②佐世保市早岐地区まちづくり団体「ハイキーパーソン」アドバイザー
③長崎県地域振興部地域づくり推進課　「長崎県ローカルコーディネーター事業」アドバイザー
④学園祭でのゼミ活動（川棚町とのタイアップによる産品を使用した地産地消カレーの制作および販売）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

22年度海外留学に係る海外航空券予約のとりまとめのための旅行会社との連携（株式会社日本旅行）

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

活動そのものは意欲的に行い、特に地域からの要請による取り組みが多く、コロナ禍にも関わらず多くの学生による関与の機会が提供できたのは良かった。反面、21年度の入院手術後の経過もよかったため、本年度に意欲的な多くの取り組みを行ったが、やはり体力的に難しい部分があり、中途半端に終わったものも多く、取り組みの関する十分な精査が必要であると改めて認識した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 准教授　　氏名 山内　美穂

1．教育理念

自ら考え主体的に行動できる人を育てることが私の教育理念である。

現代社会では以前に比べ情報が簡単に収集できるようになっているが、その実、現代の社会の在り様はますます複雑になっている。インターネットなどから簡単に得られる情報をうのみにしたり、それらから振り回されるのではなく、自ら深く考え、判断し、行動できる人を育成したい。そのために授業や学生の指導では、私が一方的に話すのではなく、できるだけ対話形式で、学生自身で深く思索したり、何かを発見したりしながら問題解決を図るように仕向けたいと考えている。

また、これからの社会で特に必要とされている「多様性への理解力」をはぐくむことにも重きをおいている。本学のように、さまざまな文化背景の人々がともに学ぶ環境で、自身とは違う部分を認め、色々な視点から物事を見られるような教育をしたい。そのために、自らも多様性理解力を高める努力を続けながら、学生には色々な年齢や文化背景の人々と交流できるようなチャンスを創出していくことに注力している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
日本語教育実習	15/15(前期)	2	1	⑪
卒業研究	15/15(前期)	4	3	⑦⑫
日本語教育実習	15/15(通年)	2	3	⑪
卒業研究	15/15(通年)	4	6	⑦⑫
卒業研究	15/15(後期)	4	－	⑫
日本語会話Ａ	30/30(前期)	2	3	②③⑧⑨
日本事情Ⅰ	15/15(後期)	2	35	①②③⑤⑥
日本語表現法	15/15(前期)	2	133	⑧⑨⑩
日本語会話Ｂ	30/30(後期)	2	6	②③⑧⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	9	①②⑦⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	9	①②⑦⑫
日本文化論	15/15(後期)	2	62	①②④⑤
日本事情Ⅱ	15/15(前期)	2	13	①②③⑤⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥
専門演習ⅠＡ	15/15(前期)	1	10	①④⑤⑥
専門演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	10	①④⑤⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	8	①④⑤⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光言語特講	15/15(前期)	2	1
観光言語特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（観光言語）	15/15(後期)	2	2
特別研究	15/15(通年)	8	－
特別研究	15/15(通年)	8	－

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は　「教養セミナーA」では平均4.3～5点、後期に「日本事情Ⅰ」でアンケートを実施した。

「教養セミナーA」では平均4.3～5点、「日本事情Ⅰ」4.4～4.9点の評価を得た。コロナ禍も3年目に入り、対面の授業が可能になった。そこでオンラインではどうしても目が届きにくいディスカッションやグループ活動を多く取り入れて、学生が発言したり考えたりする機会を増やす工夫をした。授業の満足度を見ると、どちらも4.9点という評価だったので、概ね満足は得られたと思うが、個別の点数が比較的低かった部分にも今後、さらに工夫を重ねる必要があると感じている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

【日本語教育のための日本語文法】

日本語が母語ではない人が日本語を勉強するときには、日本語の色々な文法ルールを学ぶが、日本語教育ではそれらを分かりやすく伝えることが大切である。私は文法研究にコーパスや自然会話データを使用し、自然に使われる日本語の中から文法ルールを発見する。

【異文化理解教育】

「国際共修」の実践と研究。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

正課外の異文化間協働活動を参加学生はどのようにとらえたか―M-GTAを用いた分析―／2022年8月20日／留学生教育学会 第２７回ＪＡＩＳＥ年次大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	・新入生オリエンテーションなどでのCHサポートセンター紹介 ・サポートを申請した学生との面談
カリキュラム委員会	委員	・留学生の日本語力向上及び就職支援に向けた日本語科目カリキュラムの作成
学事委員会	委員	・保護者に向けた国際観光学科紹介冊子の作成 ・保護者会実施に向けた学科内教員への諸連絡 ・国際観光学科および観光学専攻卒業式の準備と実施

国際観光学論集編集委員会	委員	論文集編集

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

ダンスサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
日本語支援ワークショップ	2022年12月18日	早岐地区コミュニティセンター	佐世保国際交流ボランティア協会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・「カレーフェス2022in Kawatana」実施

・地域の日本人と外国人が交流する会「ひるまちにほんご43」実施

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

本学に着任し4年目となった今年は、教員として教育活動だけでなく大学運営や地域にも貢献できるように可能な限り努めたつもりである。研究活動も昨年よりは積極的に行ったが、科研費の申請はできなかったのが反省点である。日本語担当の先生方と協力して日本語カリキュラム改善もさらに進めた。新年度の留学生教育も工夫を加えながらより良くしていきたいと考えている。観光学論集の査読依頼担当をつとめているが、業務の効率化を進めた。今後も自身が関われるところでは業務の効率化を進めたい。また一方では、ゼミ生や院生などを中心に学生対応は丁寧にしていきたいと思っている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 浦郷　淳

１．教育理念

Ｉ　think Ｉ can.
学びは一生涯続くもの。学校は、その価値に気付く場。
子どもは有能な学び手であり、その学びを支える存在として環境が存在する。
教師は一環境であり，学びの邪魔にはなってはならない。
授業は、単に知識を教授するのではなく、先人の知恵でもある知識に問いかけ、新たなものを見い出し、さらに世に発信する契機となるもの。
子どもを信じ、彼らに「I think I can(私にはできると思う)」そんな自信をもたせること。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/60(通年)	4	5	①⑥⑪⑫
事前・事後指導	8/3(通年)	1	7	④⑦
教育実習Ａ	60/0(通年)	4	7	④
栄養教育実習	20/0(通年)	1	5	⑦
事前・事後指導(栄養)	8/3(通年)	1	5	④⑦
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	9	①②③④⑤
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	7	⑥⑩⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	8	⑥⑩⑫
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	8	⑥⑩⑫
ホスピタリティとSDGs	15/5(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫
教職実践演習(栄養教諭)	15/3(後期)	2	5	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(中・高)	15/3(後期)	2	8	⑤⑦⑩⑪
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	8	③⑤⑥⑧
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	③⑤⑥⑧
教育方法論	15/15(後期)	2	50	①④⑥
教育課程論	15/15(前期)	2	25	③⑤⑥⑧
総合的な学習の時間の指導法	8/8(前期)	1	23	①④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教育課程論では、満足度が4.7であった。満足とする学生が17名と回答者の3分の２を超えており、また、全員が4点以上であることから授業としての充実度は高かったと考える。さらに満足度が上がるように授業方法の工夫を行っていきたい。
教育方法論では、満足度が4.6であった。人数が昨年度よりも多かったため、意図的に座席を配置し、様々な学生と交流できるように設定した。その設定とグループワークによって、教職として必要なコミュニケーション能力の育成につながるように努めた。
教養セミナーAは、満足度が4.2であった。ただ話を聞くだけでなく，学生自身が考え，制作したものをもとに発表する時間を設定した。知ることだけでなく使うことを中心とした授業展開とした。
専門演習ＩBの満足度は、4.4であった。本科目では、学外の機関と共同研究をすすめた。その結果学生の意欲は高かったもの

の、その過程においては意識の差が見られた。個々のニーズを面談等を通して明らかにしつつ、改善に努めていけたらと考える。
専門演習ⅡBの満足度は、4.8であった。留学生が多い科目であり、言語の所での難しさはあった。そのため、個々の問題意識を書かせることを中心としていた。一方で課題そのものに抵抗感のある学生もあったため、学生の実態に応じた対応をしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
2022年度教員採用試験対応模擬試験第3回目	2	3	2022年4月11日
2022年度教員採用試験対応模擬試験第4回目	2	2	2022年6月2日
2022年度教員採用試験対応模擬試験第4回目	1	1	2022年6月4日
2022年度教員採用試験2次試験履歴書記入・面接指導	2	2	2022年8月3日，その他個別対応
2022年度教員採用試験2次試験履歴書記入・面接指導	1	1	2022年8月12日，その他個別対応
2023年度教員採用試験対応模擬試験第1回目（国際観光学科・栄養学科）	2	4	2022年12月1日
2023年度教員採用試験対応模擬試験第1回目（社会福祉学科）	2	1	2022年12月5日
2023年度教員採用試験対応模擬試験第1回目（国際観光学科）	1	1	2022年12月10日
2023年度教員採用試験対応模擬試験第2回目（国際観光学科）	2	2	2023年2月10日
2023年度教員採用試験対応模擬試験第2回目（社会福祉学科）	2	1	2023年2月11日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 経験主義と系統主義を結び付けた教育活動の組織と展開
② グループ・モデレーション法を中心とした指導方法改善に資する評価研修法の開発
③ 児童・生徒の学びを促進する授業展開の在り方

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	4	2	5	3	3	50万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

算数授業の当たり前を「子どもの姿」から問い直す-Ｒｅデザイン問題解決の授業-／共著・編著／2022年5月／明治図書／共著：84頁～86頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

学習指導要領のコード化が与える小学校特別活動への影響に関する一考察／2022年3月／長崎国際大学論叢第22巻／47頁-58頁／単著／研究ノート

ICT活用が生み出す生活科授業での「時間」についての一考察ー1年生「学校紹介」に焦点をあててー／2023年3月／兵庫教育大学大学院同窓会教育実践研究論文集vol.4／30頁-39頁／単著／論文

児童の学びに対する保護者の捉え方に関する一考察ー小学校1年生「道徳」での取組を手がかりにー／2023年3月／長崎国際大学論叢第23巻／1頁ー11頁／単著／原著論文

主体的・対話的で深い学びからの授業改善の実際ー２つの小学校での校内研究における授業参観を通してー／2023年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第6巻／31頁ー43頁／単著／研究ノート

大学1年生対象の教職課程科目における学生の評価力量育成に関する研究／2023年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第6巻／1頁ー15頁／共著／原著論文

持続可能なスポーツ指導に資する長崎国際大学教職課程学生の評価観に関する調査結果／2023年3月／長崎国際大学教育基盤センター紀要第6巻／45頁ー55頁／共著／事例報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

生活科における描くことに関する一考察／2022年 6月／日本生活科・総合的学習教育学会・第31回全国大会・広島大会（オンライン）

数学的な見方・考え方を能動的に働かせる児童育成に関する一考察／2022年 8月／日本数学教育学会第104回埼玉大会（オンライン）

演算決定過程における図の活用に関する研究ー「割合」の学習場面に焦点を当ててー／2022年 8月／日本数学教育学会第104回埼玉大会（オンライン）

「よさ」を実感する指導の工夫ー 4 年生「概数」の実践を通してー／2022年 8月／日本数学教育学会第104回埼玉大会（オンライン）

タブレット端末活用による個の学習選択場面創出に関する一考察／2022年 8月／日本数学教育学会第104回埼玉大会（オンライン）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費・基盤研究（C）研究協力者	関西福祉科学大学・香田健治	2022年4月～ 2023年3月	10万円
持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観・コミュニケーション能力育成プログラムの開発	令和4年度 学長裁量経費	2022年6月～ 2023年3月	20万円
教職課程で学修する学生の意識変容に関する研究ー評価の分析を通してー	国際観光学科共同研究費	2022年4月～2023年3月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教職課程委員会	委員	教職課程学生の適正な履修と教育実習が適切実施につながるように，事前指導・訪問指導等に努めた。 教職課程内に設置された、自己点検評価報告書作成のWG委員を務め、作成に携わった。
学生生活サポート室	室員	学生生活サポート室室員として前期の担当を行った。
人間社会学部教授会運営	委員	人間社会学部教授会の運営委員として、教授会の議題整理、運営を行った。
国際観光学科オープンキャンパス委員会	委員長	オープンキャンパス委員会の委員長として、4回のオープンキャンパスの企画・運営を行った。
国際観光学科初年次教育委員会	委員	学科内の初年次教育が円滑に進むように、委員長指示に沿って準備等に努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教職課程員会自己点検評価報告書作成ワーキング・グループ	委員	教職課程内に設置された、自己点検評価報告書作成のWG委員を務め、作成に携わった。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①各種講演時における大学紹介及びオープンキャンパスの紹介

②2023年3月25日開催今年高3になる附属小生の座談会講演講師における大学紹介とパンフレットの配布

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席

2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
29	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
生活科の観察は何を描けば良いのか	5月13日	武雄市立北方小学校：ZOOM配信	佐賀県生活科総合的学習研究会
講話：『主体的で対話的な学びの創造』に向けた算数の授業づくり	6月1日	佐賀県唐津市立北波多小学校	佐賀県唐津市立北波多小学校
指導助言：児童がわかる楽しさやできる喜びを味わう算数科の授業づくり：小学校3年生の授業を通して	6月15日	佐賀県白石町立有明南小学校	佐賀県白石町立有明南小学校
指導助言：小学校5年生の実践を通した小中連携と授業づくり	6月20日	佐賀県嬉野市立吉田小学校	佐賀県嬉野市立吉田小中学校
指導助言：『粘り強く解決し、学びを深める児童の育成 ～算数科授業づくりの工夫を通して～』小学校2年生の授業を通して	6月23日	佐賀県鹿島市立明倫小学校	佐賀県鹿島市立明倫小学校
指導助言：日常的学級経営の在り方と指導の実際	7月4日	佐賀県鹿島市立明倫小学校	佐賀県鹿島市立明倫小学校
授業力向上における算数の現状	7月21日	佐賀大学教育学部附属小学校	佐賀大学教育学部附属小学校
学び合いを通して，思考力・表現力を高める学習指導について	8月1日	佐賀県伊万里市立南波多郷学館	佐賀県伊万里市立南波多郷学館
対談：個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて	8月2日	佐賀県唐津市立北波多小学校	佐賀県唐津市立北波多小学校
授業づくりとその改善	8月2日	佐賀県多久市立東原庠舎中央校	佐賀県多久市教育委員会
ワークショップ：算数科授業におけるICTの活用	8月9日	筑波大学附属小学校	全国算数授業研究会
演習：算数の授業づくりとその具体	8月18日	佐賀県鹿島市立明倫小学校	佐賀県鹿島市立明倫小学校
講話：児童がわかる楽しさやできる喜びを味わう算数科の授業づくり：授業づくりの具体	8月24日	佐賀県白石町立有明南小学校	佐賀県白石町立有明南小学校
演習：自ら学び続ける児童生徒の育成を目指す授業のための指導案作成	8月26日	佐賀県鳥栖市立麓小学校	佐賀県鳥栖市立麓小学校
指導助言：『自ら学び続ける児童生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びに向けた授業の実践を通して～』小学校5年生の授業事例を通して	10月7日	佐賀県鳥栖市立麓小学校	佐賀県鳥栖市立麓小学校
指導助言：『主体的で対話的な学びの創造』小学校2年生の授業を通して	10月12日	佐賀県唐津市立北波多小学校	佐賀県唐津市立北波多小学校
指導助言：鹿島市教育研究会研究大会「粘り強く解決し、学びを深める児童の育成 ～算数科授業づくりの工夫を通して～」の具現化ー小学校1年生の実践を通してー	10月26日	佐賀県鹿島市立明倫小学校	佐賀県鹿島市教育研究会/鹿島市立明倫小学校

確かな知識及び技能を習得し、自分の考えを表現できる児童の育成（算数科）～教えて考えさせる授業と問題解決型の授業の取組を通して～	10月31日	佐賀県伊万里市立伊万里小学校	佐賀県伊万里市立伊万里小学校
指導助言：小中連携における小学校の授業づくり―3年生と6年生の実践を通してー	11月4日	佐賀県鳥栖市立麓小学校・鳥栖西中学校	佐賀県鳥栖市立麓小学校
総合的な学習の時間との向き合い方	11月8日	佐賀県武雄市立山内中学校	佐賀県中学校教育研究会総合的学習の時間部会
指導助言：中学校道徳の授業を通した小中連携と授業づくり	11月9日	佐賀県嬉野市立吉田中学校	佐賀県嬉野市立吉田小中学校
地域にふれ，自立し生活を豊かにし，自己の生き方を考えることができる児童の育成～自己の成長を実感できる指導を通して～	11月16日	佐賀県伊万里市立牧島小学校	佐賀県伊万里市立牧島小学校
指導助言：児童がわかる楽しさやできる喜びを味わう算数科の授業づくり：小学校5年生の授業を通して	12月7日	佐賀県白石町立有明南小学校	佐賀県白石町立有明南小学校
指導助言：『自ら学び続ける児童生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びに向けた授業の実践を通して～』小学校4年生の授業事例を通して	12月9日	佐賀県鳥栖市立麓小学校	佐賀県鳥栖市立麓小学校
これからの教育の在り方について	12月16日	佐賀県嬉野市立五町田小学校	佐賀県嬉野市立五町田小学校
指導助言：研究実践の現在地	12月22日	佐賀県唐津市立北波多小学校	佐賀県唐津市立北波多小学校
「課題意識をもち，自ら学ぶ児童の育成」 ー学習評価を生かした算数科の授業づくりー	12月26日	佐賀県基山町立基山小学校	佐賀県基山町立基山小学校
パネリスト：公開授業Ⅰ　見つめ直す『わたし』の算数授業	1月21日	広島県三原市立南小学校	全国算数授業研究会
生活科の授業づくり	2月20日	佐賀県鹿島市立明倫小学校	佐賀県小学校教育研究会生活科総合的学習の時間部会藤津支部

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①８月２０日佐賀県個を生かし集団を育てる研究会　夏の会・技術サポート（ボランティア）

②２月１８日佐賀県生活科総合的な学習の時間研究会・指導者研修会技術サポート（ボランティア）

③新興出版社啓林館から、生活科教科書に関する業務委嘱を受ける。

④３月２５日今年高3になる附属小生の座談会講演講師（ボランティア）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

2022年度兵庫教育大学大学院同窓会教育実践研究論文奨励賞

８．活動全般についての自己点検・評価

教育については、アクティブラーニングを意識した授業を展開したことで、学生の満足度も高かった。次年度も、学生自身が

学びをメタ認知できるような指導方法の工夫を行っていきたい。

業務については、入職１年目ということでわからない点も多々あったが、周りの先生方のサポートを得ながら努めることができた。次年度も学科内業務、教職課程委員会の業務について、貢献できるように努めたい。

研究については、学会発表、論文投稿等はできたが、科研費が不採択であったので、自身の研究をより焦点化していきたい。

社会貢献については、小学校の校内研究支援に数多く関わり、大学での研究を還元する機会を得た。次年度もさらに還元できるように努めていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 江島　弘晃

１．教育理念

大学機関を通して、高度な学術的および専門的内容を主体とした知識を獲得する学生の育成教育を信条とする。具体的には、学生には、高い専門性と幅広い見識を獲得できるように、自身の講義、実習や専門演習を通して課題認識・課題解決を図る能力を育成する。講義に関しては、運動生理学を軸に授業内容の理解度を高めるために実例を多用したスライドを用いる工夫を行っている。専門演習に関しては学生の卒業論文を学術誌に掲載させることを目標にすることで学生の専門性向上を高めることを心掛けている。

大学教員として学生とともに探求心を育み、研究の醍醐味を理解させ教育することを大学教員としての理念として掲げている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スポーツ実習Ｄ（スキースノーボード実習）	15/15(後期)	1	11	④⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	11	⑥⑫
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	23	④⑤⑪
保健体育科教育法Ⅱ	15/15(前期)	2	7	⑨⑩
武道	15/15(後期)	1	20	④⑪
発育発達論	15/15(前期)	2	83	①②⑨⑩
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	12	⑤⑩⑪
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	10	⑤⑩⑪
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	5	②③⑤⑧
運動生理学B	15/15(後期)	2	93	②⑩
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	24	④⑤⑪
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	②⑤⑥
健康科学	15/15(前期)	2	52	②⑦⑧⑩⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	②⑤⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	5	②③⑤⑧
スポーツ実習Ｂ	15/15(後期)	1	20	④⑤⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

着任2年目ということで、授業の展開を前年度から修正しながら授業を展開した。授業アンケートなどでは概ね学生から理解しやすい、説明が丁寧などの好評を得ることが出来たため次年度も創意工夫しながら本学の学生の意見を尊重しながら授業展開していきたい。実習形式の授業では安全面また感染症対策の徹底など、通常の授業と注意点が異なったため、今後も感染症の対策など考慮すべき改善が求められる。しかし、健康観察の提出確認や授業前の県外外出の確認などを行ったため引き続きこれらの授業展開を行っていく。教育効果としては、授業のノートを必ず記載させ、試験時の参考資料として使用させる、授業毎のレポートの提出を徹底することで学生主体となって考えるという教育効果を行い、次年度も展開していく。アンケートの評価の尊重しながら授業改善の詳細な内容を図っていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	30/30(通年)	2	90

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

脂質が骨格筋の形態・機能に与える影響

健康増進を打ち出す運動の新規メカニズムの解明

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	1	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

Medical Science Digest／単著／2022年5月／ニューサイエンス社／1347-4340

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Impaired fatigue resistance, sarcoplasmic reticulum function, and mitochondrial activity in soleus muscle of db/db mice.／2022年9月／Physiological reports／e15478／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

The role of lipid hydroperoxides in skeletal muscle of type 2 diabetes／2022年10月／Cold Spring Harbor Asia, ron, Reactive Oxygen Species & Ferroptosis in Life, Death & Disease

Novel insight into understanding diabetic myopathy; calcium dysregulation／2022年10月／3 rd Edition of World Congress on ENDOCRINOLOGY, DIABETES AND METABOLISM

糖尿病性筋萎縮を理解するための新しい洞察～カルシウム代謝不全～／2022年9月／第77回　日本体力医学会大会

糖尿病における骨格筋異常と物理療法／2022年8月／日本物理療法研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	長崎国際大学論叢第23巻の発行のため論文原稿の査読の取りまとめを担当した。また本学の第23回学術研究報告会の司会を担当する予定である。
スポーツサポートセンター	委員	委員として競技力向上支援部門および地域スポーツ振興・事業開拓部門を担当した。
国際観光学科会議運営	学科事務局員	学科会議の事前打ち合わせの日程調整、会議資料作成などを担当した。その 他、学科内業務を実施した。
国際観光学科スポーツツーリズムコース委員会	委員	コースの運営、イベントの企画などを担当した。また、コース内の会計を中心として担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

陸上競技部　顧問

剣道サークル　監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

第77回日本体力医学会のシンポジウム座長、日本物理療法研究会、福岡大学でのセミナー登壇者として大学の研究の広報活動を実施した。

出張講義を2回実施した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

まず、教育活動は講義を3つ、実習を2つ担当し、教育活動に勤しんだ。卒業研究では10名の指導を行い、プレゼンテーションも満足のいく内容であった。次年度も継続して講義、実習を通して学生が満足のいく教育活動を実施していく。

研究活動は、1件の国際誌に受理され、それは卒業研究を軸にしたものであり、研究と教育の両立を図ったものが実現できたと考えている。

職務に関しては学科事務局員として会議の運営および委員会活動も問題なく実施することが出来た。まｔ、スポーツセンター委員、研究センター委員として業務を遂行することができた。引き続き職務を遂行していく。

社会活動はセミナーの登壇、シンポジウムの企画など大学の広報活動でに貢献出来たと考えている。充実した研究活動を実施することで社会活動に繋げる活動を予定する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 川上　知子

１．教育理念

最も大事にしたいことは、学生一人ひとりの実態を把握することである。そのためには、時間を丁寧に共有することを意識したい。少人数のゼミであれば、定期的な個別面談を実施し、学生が何を目指し、どんなことを日々頑張って取り組んでいるのかを把握し、その学生の取り組みを認める声かけを大事にしたい。その積み重ねて構築された信頼関係を土台とし、時には学生自身の悩みや進路相談などにも丁寧に心を傾け、学生の主体的な人生への一歩を応援できる存在の一人となりたい。また、授業で関わる学生においては、週に1、2回の関わりとなることから信頼関係の構築には時間を要するものと思われる。しかし、授業準備や授業の展開、授業後の対応において、名前を意識的に呼ぶようにし、「自分のことを認識してくれている」という学生の自覚を促し、学生の授業内での変容もキャッチし、その成長をしっかりと言語化して伝えることを大事にしたい。学生たちは高い学費を払って学びに来ている、その学びの保証はもちろんだが学生自身の自信と成長を促せるような関わりを大事にしたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
事前・事後指導	1/1(通年)	1	7	⑦
教育実習Ａ	1/1(通年)	4	7	⑦
教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む。)	1/15(前期)	2	24	①④⑩
生徒指導論	1/8(後期)	1	19	②⑤⑩
生徒指導論（栄養）	1/15(後期)	2	4	②⑤⑩
専門演習ＩＢ	1/15(後期)	1	4	①⑥⑩
教養セミナーＢ	1/15(後期)	1	9	⑥
専門演習ⅡＢ	1/15(後期)	1	6	①⑥⑩
進路指導論	1/8(後期)	1	19	②⑩
教職実践演習(栄養教諭)	1/3(後期)	2	5	②③⑥⑩⑪
教職実践演習(中・高)	1/4(後期)	2	8	⑥
専門演習ＩＡ	1/15(前期)	1	4	①⑥⑩
教養セミナーＡ	1/15(前期)	1	9	⑥
ダイバーシティとグローバル市民論	1/15(後期)	2	123	①②③④⑩
専門演習ⅡＡ	1/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑪
特別活動論	1/15(前期)	2	25	①②③⑤⑥⑩⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生の実態を授業の様子や課題から把握し，学生の実態に応じた授業の展開を意識した。特に教職を目指す学生への授業においては，授業者の意図を考えながら授業を受ける視点をもたせ，自分だったらどのような教育方法を通して，生徒と関係をつくり，授業をつくっていくかについて，具体的なイメージを持たせることも大事にした。授業アンケートは，良い結果の傾向ではあったが，次年度新たな気持ちで，再度学生の実態把握を丁寧に行い，力がつく授業を目指して頑張っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学保育学科	教育経営論	2/30(前期)	２	８０
長崎短期大学保育学科	教育方法論	2/30(後期)	２	８０

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
公務員対策（論作文、数的推理）	1	1	2022年6月
教員採用試験対策（論文添削，学習計画の相談）	1	2	2023年3月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

青年期における不登校傾向とアイデンティティ発達との関連

現在は、青年期の中の大学生に焦点を当て、大学生を対象に実施した質問紙調査の分析・考察をまとめ、3月27日に論文投稿した（日本青年心理学会）。査読結果を待つ時間で，次の中・校生を対象とした研究に取り掛かるために，まずは倫理申請の作成，調査と計画的に研究を進めていきたい。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	260万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
青年期段階の不登校とアイデンティティ発達との関連にみる不登校対応モデルの構築	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	2022年4月 － 2025年3月	210万円
「レッスンスタディーとカリキュラムマネジメント教職研修」開発の国際的研究	日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2020年10月 － 2024年3月	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教職課程委員	委員	教職課程委員会への参加と各種書類の確認，教職を目指す学生への指導等
初年次教育委員	委員	教養セミナーの授業構築のサポート，全体会のサポート等
学事委員（保護者会・卒業式）	委員	保護者会資料作成，卒業式運営の計画実施等
オープンキャンパス委員	委員	年4回のオープンキャンパスの各ブースの会場準備担当

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教職課程自己点検評価ワーキング	委員	教職課程の自己点検評価報告書を作成して提出するにあたり，他の委員と分担をして，本学の教職課程の成果と課題について報告書を作成。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにて，教職課程の模擬授業を実施。25名ほどの保護者・本人が参加してくださった。教職課程は本学のうりの一つだと考えているので，今後も自分にできることで広く周知していきたい。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	出席
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
不登校・個別相談	定期開催	オンライン	中学生保護者
発達障害・個別相談	定期開催	電話	小学生保護者
教職員キャリア相談	2023年1月30日	研究室	長崎県教職員（小学校）
教職におけるレジリエンスについて（講演）	2022年11月26日	オンライン	常葉大学教育学部

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本青年心理学会研究委員	委員	2022年4月1日～現在に至る	日本青年心理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

保護者・教員を対象とした個別相談（ボランティア）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
イラン教育大学・カリキュラム学会とのシンポ	講演参加	2022年12月21日	オンライン	国際科研B関連講演者倉本哲男

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は大学に慣れることで精いっぱいの状況で任されたことに尽力する1年であった。ただ，3月になり，教員採用試験対策に向けての準備を始めた学生からのアポが増えており，学生への教師教育に時間を割く機会が増え，とてもやりがいを感じている。2年目になるとほかの色々な業務が増え，学生指導に使える時間も制限される現実は否めないが，学生の進路実現に向けては，優先して時間を確保し，尽力したいと考えている。自分自身のことになるが，4月から博士論文へのカウントダウンが始まり，調査・分析・考察・論文執筆のサイクルを確実にこなす1年にすべく，限られた時間を有効活用し，学内業務，学生指導，研究，どの分野も妥協せず取り組んでいきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 川上　直彦

1．教育理念

私の教育理念は、全学のディプロマ・ポリシーに基づき、人間尊重の中で、主体的に参加するアクティブ・ラーニングを通して、学生一人ひとりがホスピタリティを構成する5つの能力（①専門力、②情報収集・分析力、③コミュニュケーション力、④協働・課題解決力、⑤多様性理解力）を獲得できる教育を実践することである。

私が担当する国際観光学の歴史関連の授業（世界文化遺産論、美術と観光、世界史、History A＆B）および専門演習IA-IIIBでは、①、②、④、⑤を重視している。①専門力について、遺跡・遺物や古代文明の歴史、そして関連する博物館・美術館に関心を抱かせ、専門的課題に取り組ませることにより、専門力を習得させている。②情報収集・分析力につて、事前学習、講義、そしてパワーポイント資料から情報収集を行い、配布資料に取得情報を記載し、講義ノートを作成することにより、情報収集と分析力を習得させている。④協働・課題解決力について、学生同士で協議させ、講義ノートを完成させることにより協働・課題解決力を習得させている。⑤多様性理解力について、世界の諸地域の主要な歴史の流れと古代文明の諸文化の違いを学ぶことにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業における講義、学生同士の協議、小テスト、そして2本から4本のレポート課題を課す授業方法を取り入れている。

また、私が担当する国際観光学の英語関連の授業（英語演習IA-IIB）においては、③と⑤を重視している。③コミュニュケーション力について、英語でのスピーキング力、リスニング力、リーディング力、ライティング力それぞれに焦点を当てた授業を行い、英語で学生同士の意見交換を頻繁に実践させることによりコミュニュケーション力を習得させている。⑤多様性理解力について、さまざまな世界の日常の生活に関するトピックについて英語で学習させることにより、多様性理解力を習得させている。そのため、毎回の授業において、学生同士の英会話、小テスト、宿題を課す授業方法を取り入れている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	30/30(通年)	4	3	⑥⑫
世界史	15/15(前期)	2	65	①④⑥⑨⑩
英語演習ＩＡ	15/15(前期)	1	22	①②
英語演習ⅡＡ	15/15(後期)	1	23	①②
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	3	①⑤⑥
History A	15/15(前期)	2	8	①⑤⑥⑨⑩
History B	15/15(後期)	2	7	①⑤⑥⑨⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	10	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	4	①⑤⑥
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	1	①⑤⑥
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	6	①⑤⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	6	①⑤⑥
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	1	①⑤⑥
英語演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	32	①②
美術と観光	15/15(前期)	2	36	①⑨
世界文化遺産論	15/15(後期)	2	43	①③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
芸術文化資源特講	15/15(前期)	2	5
事例研究（芸術文化資源）	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教養セミナーA：満足度4.1/5.0

満足度は、4.1とそれほど良い評価ではなかった。教養セミナーにおいては、学生との信頼関係を構築することが大事であると考えている。そのため、授業とは関係ない話なども含めて、できるだけ授業を明るい雰囲気で展開するように心がけている。しかし、今年度の教養セミナーの学生は、学ぶことに関して興味・関心が持てなかった学生が多かったようである。学生の良いところみつけ、たくさん褒めることによって、授業への興味が向上されるよう、今後も努力したい。

英語演習IA:理解度4.7/5.0、満足度4.6/5.0

授業に対する満足度の平均は、4.6とそれなりに良い結果を得られることができた。授業中に学生個人個人と対話をする機会が多くあるので、その時にできるだけ褒めることによって、学生の授業への興味向上につなげていきたいと考える。また、隣の学生と英語で会話をする機会を多く設けている。15回の授業をつうじて隣に座る学生のみならず、色々な学生と英語で話す機会を提供し、授業を楽しんでもらうようにしたい。

英語演習IIB:理解度4.3/5.0、満足度4.2/5.0

授業に対する満足度の平均は、4.2とそれなりに良い結果を得られることができた。しかし、前期の英語演習（薬学基礎クラス）の満足度4.6から、0.4評価が下がった。今回の後期は薬学基礎クラスではなく、もう一つレベルが高い中級クラスに対してアンケートを実施した。基礎クラスおよび中級クラス共にPre-intermediateレベルの教科書を使用しているが、薬学中級クラスだと少々内容が簡単で物足りないと感じたことが評価が下がった原因でないかと考える。薬学中級クラスでは、Intermediateレベルの教科書を使用することを考えた方がいいかもしれない。

大学院芸術文化資源（前期）：満足度2.8/4.0
大学院事例研究（芸術文化資源）（後期）：満足度4.0/4.0

前期は、履修した学生は5人で、後期が2名のみであった。前期に関しては、満足度はあまり高くなかったが、後期は、満足度は高かった。前期については、日本人学生と留学生との間で日本語能力のギャップが大きく、日本人の日本語レベルに合わせて授業を展開した。何人かの留学生はかなり理解に苦しんでいる様子だったので、満足できなかったのではないかとス足する。後期については、留学生2名と人数が少ないため、幅広く、そしてきめ細かく授業を展開し、理解を促すことにつとめたことが、高評価につながったと考える。来年度についても良い評価を取得できるようがんばりたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

紀元前2300年頃、古代メソポタミアにおいてアッカド王朝が人類史上初の統一国家を建設し、史上初の首都と定義可能な都市「アガデ」を創設した。しかし、このアガデの所在地は未だ発見に至っていない。近年、申請者は、楔形文字史料、3次元地形データ、及び衛星画像・写真を、地理情報システムを介して分析し、テル・シンカーの遺丘が、アガデに推定できることを示した。今後の研究では、1950年代まで遡り撮影されたアメリカ軍のU2スパイ偵察航空機及びGAMBIT衛星とHEXAGON衛星写真を、地理情報システムを介して分析し、機械化農地開拓から失われた同遺丘の地形景観の全貌を復元し、アッカド王朝の首都と定義可能な規模・範囲を持った遺丘であったのか検証する。更には、遠隔から地表面に散在する土器片の編年確立を試み、アッカド王朝時代に同遺丘を年代付けできるのか検証する。本研究の成果は、自身のアガデ＝テル・シンカーの仮説を補強し、次の発掘調査へ繋げることが期待できる。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

The Location of the Ancient City of Akkade: Review of Past Theories and Identification of Issues for Formulating a Specific Methodology for Searching Akkade／2023年3月／AL-RĀFIDĀN: Journal of Western Asiatic Studies, Vol. 44／45頁～68頁／単著／論文

Searching for the Location of the Ancient City of Akkade in Relation to the Ancient Course of the Tigris Using Historical Geographical and GIS Analyses／2022年12月／AKKADICA: Revue Semestrielle du Centre Assyriologique Georges Dossin, Vol. 143／101頁～135頁／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

南メソポタミア北部地域におけるティグリス川古代流路：復元流路に対するGIS及び歴史地理学的分析による考察／2022年10月／日本オリエント学会第64回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会（学科、大学院、全学）	委員長（学科）、委員（大学院、全学）	①学科の研究倫理委員会委員長として、教員が行う研究18件、学科生の卒業研究41件の計59件の研究倫理審査を行った。 ②大学院の研究倫理委員として、大学院生が行う研究17件（再審査含む）の研究倫理審査を行った。
国際観光学科グローバルツーリズムコース委員会	委員（学科）	前期・後期の国際観光学科所属の1年生及びグローバルツーリズム所属学生対象の英語試験（CASECテスト）の運営・管理業務全般を担当した。
国際観光学科共同研究予算委員会	委員（学科）	令和4年度の学科共同研究11件、国際観光学会運営補助費、学科教育研究充実費5件、そして予備費の予算管理を厳正に行った。また令和5年度の共同研究の募集についても実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席

2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

一般財団法人日本国際協力システムの要請により、下記の日本国政府国際協力案件においてアドバイザーを務めた。
①ベトナム「ベトナム国立歴史博物館文化遺産保全機材整備計画」
②パプアニューギニア「パプアニューギニア国立美術博物館視聴覚機材整備計画」
③ペルー「『アルトゥーロ・ヒメネス・ボルハ』プルチュコサイト博物館文化財研究・教育機材整備計画」
④ザンビア「リビングストン博物館展示企画機材整備計画」イラク「国立スレイマニア博物館展示機材整備計画」

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】学部・大学院の担当科目をつうじて、学生の良い点を見つけ、褒めることに心がけ、学生の前向きな学習姿勢を引き出せる授業を展開することができた。

【研究】自身の専門分野の世界最高峰の一つに位置づけられる、ベルギーの国際学術誌に、査読有り論文を1本掲載した。日本の国際学術誌雑誌にも、2023年3月に査読有り論文が1本掲載されることが確定している。自身が専門とする学問分野の日本の学会において口頭発表を1本行った。最後に、科研費「基盤研究C」の申請を行った。

【大学運営】学科・大学院・全学研究倫理委員会委員として、教員と学生の年間６０本以上の研究・卒業論文の倫理審査を厳正

に実施した。特に、学科研究倫理委員会委員長として、審査業務全体の90%以上の業務を一人で担当・遂行した。学科共同研究予算委員として、全体業務の90%以上の業務を一人で担当・遂行した。学科グロバールツーリズム委員として、年3回実施されるCASEC英語テストの運営業務を担当・遂行した。本学国際観光学会の「観光学論集」の編集業務の主担当者として、現在編集業務に従事している。入試の「世界史」作問、そして「英語」問題校閲を担当・遂行した。

【特記事項】昨年のイタリアと日本の国際学術誌への査読有り英語論文2本の掲載に引き継続き、今年度も2本の英語論文が、ベルギーと日本の国際学術誌の査読審査に採択され、今年度中の掲載が確定している。ベルギーの国際学術誌の査読審査に採択されたことは、特筆に値する。本誌は、多国籍大手情報サービス企業の（株）トムソン・ロイター（Thomson Reuters）社に上級ランクに格付けされる国際学術誌となる。また、本誌への論文の査読と掲載決定は、以下の欧米の超一流の研究者：ベルギー・ゲント大学、アメリカ・シカゴ大学、オランダ・ライデン大学の名誉教授3名、イギリス・ロンドン大学UCL校とフランス・パリ大学ソルボンヌ校の教授2名、そして、アメリカ・ジョンズ・ホプキンズ大学とイタリア・ローマ大学サピエンツァ校の准教授2名の、合計7名で構成される国際編集委員会が行っている。アメリカ・シカゴ大学の名誉教授は、メソポタミア考古学の世界的権威であり、2名の査読者の内の1人は、ほぼ確実に同研究者であったと推測される。また、本誌に掲載される私の論文は、150年以上の研究の目をすり抜け、未だ発見に至っていない、「人類史上最古の首都と定義付けされる古代都市の所在地探査」という、研究論文としては途方もなくスケールが大きく、研究の難易度が非常に高いものとなる。そのため、本論文の執筆当初から、結論に到達できないリスクを伴っていた。しかし、142本に及ぶ英語・ドイツ語・フランス語の参考文献から、最終的に新説となる結論を導き出した。超一流の国際編集委員会の査読審査に合格し掲載される、私の論文の学術的意義と学会への貢献度はとてつもなく大きく、今後、世界中で出版される古代メソポタミア文明の概説書に、私の論文が引用され続けられることは間違いない。更に、（独）日本国際協力機構（JICA）イラク事務所長の要請を受け、古代メソポタミアの地であるイラク共和国において日本の文化庁長官に相当し、古代メソポタミア文明を専門とする考古学者である人物とのオンライン協議を経て、本論文を同人物に提出している。日本の国際協力の枠組みの下、今後更なる教育・研究の発展を期待することができる現状にもある。この成果は、平成29年度長崎国際大学学長裁量経費（科研費チャレンジ）に採択され、研究費の拡充があったこと、文献史料入手のためイギリスとドイツへの計3回の出張ができたことにも起因しており、今年度においても、チャンスを提供してくれた長崎国際大学に改めて感謝申し上げたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 大渡　ドーガン

1．教育理念

教員として、学科を教えることだけでなく、学生に必要な機会と必要な力を与えることで、その学生達にとって、より良い人生や人として必要なことを教えることができると、私は信じています。私の教員としての目標は、学ぶことへのモチベーションをアップし保ち、自身で学ぶことの大切さを伝えることです。このことを目標においているので、学生を評価する時は、その学生の能力や成績、知識に重点を置くのではなく、その学生がどのように努力をしたかを見るようにしています。また、学生が、教員の私に対して、気軽に質問や応援、ヘルプを求めやすい雰囲気を心がけています。答えを学生に伝えるのではなく、学生自身に発見、解答を生むことを頭に置いています。このようなことを踏まえ、グループワーク、ディスカッション、ディベート、そして問題解決の思考が大切だと、私は思っています。NIUがアクティブラーニングを大切にしているので、私のこのような教育理念と通ずるものが多いと考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英語演習ＩＡ	15/15(前期)	1	28	①②
Practical English ⅡA	30/30(後期)	2	23	②③④
英語演習ⅡＡ	15/15(後期)	1	29	①②
Practical English ＩA	30/30(前期)	2	24	②③④
English Reading Skills Ⅲ	30/30(前期)	2	13	①④⑤⑪
英語演習ＩＡ	15/15(前期)	1	40	①②
Japanese Culture B	15/15(後期)	2	11	②⑤⑥⑨
Practical English ⅡB	30/30(後期)	2	24	①②③④⑤
Practical English ＩB	30/30(前期)	2	24	①②③④⑤
Japanese Culture A	15/15(前期)	2	15	②⑤⑥⑨
英語演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	33	①②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期、「Reading Skills III」「Practical English IB」「「英語演習IA」の授業で、授業アンケートを実施しました。「Reading Skills III」の授業では、学生満足度は4.9点でした。「Practical English IB」クラスでは、学生の満足度は5.0でした。「英語演習IA」の学生満足度は4.4です。どの授業も学生の満足度は高かったと思います。学生の意見を参考に、授業中の教材を充実させることで、満足度を向上させることができると思います。

後期に「Practical English IIA」クラスと「英語演習IIB」クラスに対して、授業アンケートを実施しました。「Practical English IIA」は、グローバル・ツーリズムの授業です。「Practical English IIA」の授業では、満足度は4.7点でした。生徒の満足度は非常に高かったと思います。生徒の感想から、授業中のアクティビティーの説明をもっと充実させることが、授業の改善につながると思います。「英語演習IIB」クラスでの学生満足度は4.7でした。この授業に対する学生の満足度は高かったと思います。授業の改善点はたくさんありました。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	English A	15/15(前期)	1	35
佐賀大学	English C	15/15(前期)	1	35

佐賀大学	Intercultural Communication IV	15/15(後期)	1	20

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

研究テーマは、教育学、カリキュラムデザイン、言語学、異文化コミュニケーションです。特に、カリキュラム計画、バイリンガリズム、多読、留学、コンピュータ支援学習について研究しています。さらに、私は英語学習者に関する民族誌的研究に興味を持っています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	13	15	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Observations of On-Demand Curriculum Using MOOC Curriculum Methodology／2022年03月／長崎国際大学論叢／59～73／共著／論文

Exploring Modern Japanese Culture with Technology／2022年01月／2021 ICLE SIG Conference Proceedings／9~16／単著／論文

Developing an On-Demand Curriculum using MOOC Curriculum Methodology／2021年03月／長崎国際大学論叢／1~16／共著／論文

Reflections on Implementing ER Across All First-Year English Classes at a University in Japan／2020年03月／長崎国際大 学論叢／1~8／共著／論文

Utilizing the Moodle Database Activity for Supporting Student-Centered Learning in Developing an Intensive English Program Curriculum／2019年03月／長崎国際大学論叢／31~44／共著／論文

Preparing Students to Study Abroad in the Netherlands／2019年03月／長崎国際大学論叢／1~10／共著／論文

Preparing Students for IELTS with Weekly Video Journals／2018年08月／2017 KoTESOL Conference Proceedings／60~72／単著／論文

Review of xreading／2017年11月／Extensive Reading in Japan／23~28／共著／論文

Improving the Global Tourism Course Curriculum with Regard to Study Abroad Preparation: Initial Observations on One Student's Experience at a Dutch University／2017年03月／長崎国際大学論叢／127~132／共著／論文

An Exploration of Creative Sentence Writing as a Means for EFL Vocabulary Acquisition／2017年03月／長崎国際大学論叢／97~104／共著／論文

Methodological Changes to an Active Learning Tourism Video Project／2017年03月／長崎国際大学論叢／91~96／共著／論文

The Benefits and Challenges of Using Google Forms with Extensive Reading／2017年03月／2016 PanSIG Conference Proceedings／100~119／共著／論文

Active Learning Tourism Video Project／2016年03月／長崎国際大学論叢／1~12／共著／論文

Supporting Active Learning with Moodle／／2015年03月／長崎国際大学論叢／13~22／共著／論文

Building a Sustainable Curriculum／2015年03月／2014 PanSIG Conference Proceedings／98~112／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Creating a Multi-Lingual User Guide in Moodle／2023年03月／2023 MoodleMoot Japan

Benefits of Asynchronous Debates using Online Tools／2022年11月／48th Annual JALT Conference

Evaluating Three Semesters of On-Demand Courses／2022年2月／2022 MoodleMoot Japan

Exploring Modern Japanese Culture with Technology／2021年11月／47th Annual JALT Conference

Reflections on developing an on-demand curriculum／2021年11月／47th Annual JALT Conference

Teaching Culture in an On-Demand Context／2021年7月／1st ICLE Conference

Developing a Multilingual On-Demand Curriculum for English Communication Classes／2021年2月／2021 MoodleMoot Japan

Implementing a Mobile App for University Classes／2020年11月／46th Annual JALT Conference

Moodle Strategies for On-Demand Lessons／2020年9月／2020 MoodleWeek Japan

Making a MOOC／2020年2月／2020 MoodleMoot Japan
Preparing Students for Study Abroad with Video Journals／2020年2月／16th Annual CamTESOL
Making a MOOC - What We've Learned So Far／2019年11月／45th Annual JALT Conference
The Power of Bibliobattles in the ER Classroom／2019年5月／2019 PanSIG Conference
Utilizing the Moodle Database Activity for Student-Centered Learning／2019年2月／2019 MoodleMoot Japan
Using Bibliobattles to Engage Students with Extensive Reading／2018年12月／8th ICRTEL 2018

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学　広報委員会	委員	大学ホームページのトピックスを作成する
国際観光学科　広報委員会	委員	学科ページのトピックを準備する。学科SNSのアカウント管理
人間社会学部　会議資料作成委員会	委員	人間社会学部教授会資料の作成
グローバルツーリズム 委員会	委員	GT活動や学生の育成について話し合い、計画する。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

クラブやサークルの担当ではありません。グローバルツーリズムコースの学生のために、イベントや活動の企画を手伝いました。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

大学ホームページにグローバルツーリズムコースに関する記事を2本執筆。
オープンキャンパスで使用するグローバルツーリズムの資料作成留学生向け大学案内を更新。
留学生向け大学案内を更新。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
Life in America	2023年2月	武雄市立山内東小学校	武雄市立山内東小学校
Becoming More International	2022年11月	佐賀県立武雄高等学校	佐賀県立武雄高等学校
Promoting Understanding Across Borders	2022年7月	武雄市 北方公民館	ICE-T

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
JALT（全国語学教育学会）異文化間コ財務管理者 2018年6月~現在 国内委員会 ミュニケーション支部	財務管理者	2018年6月~現在	国内委員会
第1回 異文化間コミュニケーション支部 学会	技術責任者	2022年9月	国際会議（オンライン）
Takeo World Friends	委員	2009年4月~現在	国際交流団体

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

5月　ICE-T 異文化交流活動　ボランティア

8月　Takeo World Friends オンライン祝賀会 ボランティア

10月 ICE-T スポーツエベント　ボランティア

12月　ICE-T 国際料理イベント　ボランティア

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
Troy International Exchange Program	長期留学の手配をしました。(5名)	2022年8月～2022年12月	トロイ大学留学生サービスセンター
Arkansas Tech International Exchange Program	長期留学の手配をしました。(1名)	2022年8月～2022年12月	アーカンソー工科大学留学生サービスセンター

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

アメリカ留学を企画する。

アメリカでの短期留学を企画する

武雄の中学生に国際交流の準備をさせる。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年も頑張って、一年の目標を達成することができました。学生が対面授業に戻ったことで、学生を積極的にサポートすることができました。私は、生徒の英語力を向上させ、生徒の留学に備えることができました。また、多くのクラスでカリキュラムを改善することができました。授業アンケートで得た情報をもとに、生徒のニーズをよりよく満たすことができたのです。

また、多くの研究をすることができました。完成した科研費の研究プロジェクトに追加で取り組んだのです。科研費の研究プロジェクトは、NIUの英語授業の改善に貢献しました。また、学生向けの教育アプリを作成する研究プロジェクトにも参加しました。さらに、オンライン学習ツールのための学生ガイドブックを書く研究プロジェクトにも参加しました。 今年は論文を1本書きました。また、今年は国際会議で3つのプレゼンテーションを行いました。

2022年、私は学生の留学準備のために尽力しました。海外の大学と海外留学について連絡を取りました。私は学生に留学に関する重要な情報を提供した。学生の留学申請をサポートした。また、短期留学の計画も開始しました。

今後は、もっと研究に時間をかけたい。個人的な研究にもっと力を入れ、個人的な研究テーマについてもっと発表したいです。また、もっと国際的な組織と関わりを持ちたいと考えています。さらに、もっと時間を見つけて現地のアクティビティに参加したいです。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 神野　周太郎

１．教育理念

私の教育理念は、「体育の重要性と意義」、「スポーツの価値とは何か」という問いに対して自らの考えを述べることのでる人間の育成に寄与することである。

現在、スポーツの日（旧体育の日）や日本スポーツ協会（旧日本体育協会）といったように、「体育」は「スポーツ」に代替され始めています。それは、スポーツが文化として日本に根付き始めている証拠である。しかし、懸念されるのは体育＝スポーツという認識の広まりだ。スポーツは体育と代替可能なものではなく、体育という事実を構成する一要因である。体育は、教科名に留まらない人間の身体（運動・活動）と教育に関するものであり、よって私は「体育、スポーツとは何か」という問いを前提に、それら概念を明確に区別させ、現代における両者の重要性を学生に伝えたい。

その理由は、第一に保健体育教員の存在意義が、単にスポーツの専門家、部活動の顧問、生活指導をすることではなく、子どもの成長の一端を担う教育者であるということを認識させるためである。第二に、将来学生が地域のスポーツ振興に関わる際、「スポーツがもつ価値」を個々の経験のみでとらえるのではなく、「人間にとって」、「地域にとって」という広い視野で考えられるようにさせるためである。今日スポーツの場は、人々が関わる公共空間（スポーツの公共性）として重要な意義を持つことから、その視点は重要と考える。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スポーツ実習Ｄ（スキースノーボード実習）	15/15(後期)	1	11	④⑪⑫
水泳	15/15(通年)	1	25	⑫
卒業研究	15/15(通年)	4	10	⑥⑫
事前・事後指導	4/8(通年)	1	7	④⑦
スポーツ運動学	15/15(後期)	2	13	⑫
保健体育科教育法Ⅱ	13/15(前期)	2	7	⑨⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	7	⑤⑥⑦
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	10	⑤⑥⑦
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	10	⑤⑥⑦
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(前期)	2	12	⑨⑩
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	23	④⑤⑪
教職実践演習(中・高)	2/15(後期)	2	8	⑤⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅲ	15/15(後期)	2	5	⑨⑩
学校保健学	6/15(前期)	2	16	②③
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	7	⑤⑥⑦
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	9	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
スポーツ原理	15/15(前期)	2	88	②
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	13	⑤⑥⑦
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	13	⑤⑥⑦
保健体育科教育法Ⅰ	15/15(後期)	2	22	⑨⑩
スポーツ指導論	4/15(後期)	2	27	②⑤⑥⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

ポジティブな意見を多くもらえた。担当授業のバックグラウンドとなる学問分野の理解をより精緻にして教授内容の充実を図りたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
星槎大学	スポーツ原理	15/15(前期・後期)	2	60
星槎大学	スポーツ哲学	15/15(前期・後期)	2	60

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
保健体育科教員養成課程履修者向けの授業研究会（模擬授業）	6	20	4月～12月
水泳補講	6	6	12月～3月

3．研究活動

(1) 研究テーマ

① 体育思想形成に向けた身体経験概念の構築

② 人はなぜ岩を登るのかについての人文科学的考察

③ 野外活動が人間にもたらす学びや行動変容のメカニズム

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	66万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
野外活動が学生にもたらす効果と「社会人基礎力」の関係 −対自然的活動がもつ教育的意義に焦点を当てて−	長崎国際大学国際観光学科	2022年4月～2023年3月	26万円
持続可能なスポーツ指導に資する教職課程学生の評価観・言語技術育成プログラムの開発	長崎国際大学学長裁量経費	2022年4月～2023年3月	40万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学事委員会	オリエンテーション運営	オリエンテーション運営の企画
スポーツツーリズムコース委員会	委員	スポーツツーリズムコース運営
観光学論集編集委員会	委員	原稿投稿フローの整備

学生員会	委員	フレッシュマンセミナー企画運営、学園祭サポート、卒業アルバム作成支援
教職課程委員会	委員	保健体育科教員養成課程担当

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

バドミントン部（男女）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

出張講義：体育学・スポーツ科学系のキャリアガイダンス／12月6日／場所：長崎総合科学大学附属高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

十分に活動できていると自負する。今後は、組織内外におけるあ出来事を乗り越え、大学教員としての本分である研究活動を最優先に、教育活動を付随させ活動していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 陳　慶光

1．教育理念

海外旅行の大衆化、情報技術の進展により国境を越えた人々や文化の交流が盛んになっている。このようなグローバル社会に生きている学生たちにとって、大学生活は様々な出会いの機会に溢れている。しかし、異なる価値観や文化が出会うとき、学生たちはどのように交流の機会を最大限に生かせるのだろうか。

今までの学習と教育経験をふり返り、観光教育について改めて考えさせられた。今時の大学生は異文化交流の機会をごく簡単に手に入れるが、それをうまく生かせなければ宝の持ち腐れとなってしまう。学生のあらゆる機会を最大限に生かすにはどうしたらよいでしょうか。その答えの鍵を私の調査フィールド、東北で目にした。東北には食、雪、伝統、工芸品などの「宝物」（観光資源）がたくさんある。しかし、その宝物の持ち主（地元の人々）はそれに気付いていない、もしくは気付いていても、それを誇ることを良しとしない。異文化交流のチャンスをもっと生かしたい。宝物を大事にしたい。そのような学生を増やすため、「宝物」に気づく仕組み作りが大切だと思う。それゆえ、国際観光学科の授業を通して知識やスキルを習得させるほか、私が今までの仕事と研究で得た経験やネットワークを活用して、学生たちにグローバル社会における色々な可能性に気づかせる仕組みを強化していきたい。

総じて、グローバル社会で活躍できるプロデューサー的人材の養成を目的として、創造性やインサイト、リーダーシップに不可欠な教養や知識、国際的視野等に基づくカリキュラムを展開したいと考えている。地域と人々の多様性を理解する事で地域の魅力を引き出し、ひいては国際交流や観光による地域活性化に結実させる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	15/15(前期)	4	3	⑥
卒業研究	30/30(通年)	4	3	⑥
卒業研究	15/15(後期)	4	-	⑥
観光学概論	15/15(前期)	2	178	②⑦
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	3	②⑥
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	2	②⑥
観光倫理	15/8(前期)	2	230	①③
専門演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	6	⑥
専門演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	6	⑥
Tourism Geography	15/15(前期)	2	7	⑤⑥
Japanese Economy	15/15(後期)	2	1	⑤⑥
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	②⑥
スポーツツーリズム	15/15(後期)	2	118	②⑦
Tourism Marketing	15/15(前期)	2	20	⑥⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	8	①⑥⑦⑧⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	①⑥⑦⑧⑪⑫
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	②⑥
地域の理解と連携	15/4(後期)	2	124	②④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2022年度にアンケートを実施した授業に対する検討は以下の通り：

【観光学概論】

満足度（4.4）の評価をいただいた。満足度の分布（5点96人、4点67人、3点16人）から見ると、良くも悪くもないと感じる学生が一定数あることを読み取れたかと思います。今までは遠隔で授業を行ったが、来年からは他の大人数対面授業での経験を活かして、魅力的且つ迫力のある授業を目指したい。

【観光倫理】
満足度（4.6）の評価をいただいた。理論と事例の結合、関連動画で興味を喚起する授業の進め方は満足度に繋がったのではないかと思います。自由記述から、「プリントの見やすさ」「小テストの問題文の見直す」などのコメントを来年度の改善に活かしたい。メリハリのある授業（遠隔授業を30分の3セットに分けること）と動画の活用にたくさん肯定のコメントをいただき、国際観光学科の4年次必修科目として良いバランスがとれたと思います。

【スポーツツーリズム】
遠隔授業で高評価を受けたスポーツツーリズムは対面になって満足度が落ちた。「授業の内容的に対面じゃなく、遠隔でもできたと思う」とのコメントから伺えるように、大人数の講義型科目は遠隔授業との相性がいい点もあると思うが、対面授業ならではの授業構成と方法を考案したい。また、去年は遠隔授業のなか、アンケート回答率は34.9%にとどまったが、今年の回答率は88.1%だったことで、サンプリングバイアスの可能性もあると感じた。

【Tourism Marketing】
満足度（4.7）の評価をいただいた。前回の復習、グループディスカッションとプレゼンテーション、講義、この三つのセットによる授業構成と関連動画の活用で興味を喚起する授業の進め方、及び欧米からの留学生がいることが満足度に繋がったのではないかと思います。ほとんどの履修者はGTコース所属の3年生である。英語力と学習意欲の高い学生が多い印象を受けた。今年はようやく欧米からの留学生が入り、日本人学生に非常にポジティブな影響をもたらす実感がありました。

【Tourism Geography】
満足度（4.7）の評価をいただいた。前回の復習、課題についてグループディスカッションとプレゼンテーション、講義、この三つのセットによる授業構成と関連動画の活用で興味を喚起する授業の進め方、及び欧米からの留学生がいることが満足度に繋がったのではないかと思います。英語力と学習意欲の高い学生とそれほどでもない学生が両方いまして、工夫が必要と感じました。満足度（4.7）、授業内容（4.3）、方法（4.3）の評価をいただいたが、理解度（4.2）は低めであった。全英語で観光地理学を学ぶのは難しい面もあるが、来年度にはよりきめ細かい指導を行いたい。

【教養セミナーA】
満足度（4.3）の評価をいただいた。満足度の分布から見ると、4点、3点、2点を評価した学生がそれぞれ一人いました。一人一人の状況に応じた指導を行えるように心がけていたが、全員が満足には至らなかった。後期には授業アンケートのほかに面談の際にも学生からフィードバックを得るように工夫したい。去年と違って、対面授業の比率がかなり増えていたので、遠隔とは異なるクラス運営のスキルが必要だと思っています。全体としては「一年生だから、もっと面倒を見る」と「大学生だから、自分で責任を取るべき」のバランスを取りながら進めて行きたい。

【専門演習ＩB】
満足度（4.5）の評価をいただいた。ゼミ活動に興味を感じた学生とあまり興味を感じなかった学生の両極化が見られ、ゼミ選考の際に工夫したい。また、不本意あるいは勘違いしてこのゼミに入ってしまった学生に関しては、学生一人一人の状況（卒業後のプランと学力、意欲など）に合わせて目標を設定し、フレキシブルなゼミ活動を取り入れたい。

【専門演習ⅢB】
満足度（5.0）の評価をいただいた。卒論の完成に向かってきめ細かく指導していたことが評価に繋がったと思う。全員目標をもってゼミ活動と卒論に取り組んでいた。学生の努力がゼミ内容の充実と学生のいい評価につながったと実感した。卒業後に大学院の進学希望の学生に対して、日本観光研究学会九州支部会で主催する2022年度学部生論文発表大会の指導ができてよかったと思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

『スポーツツーリズムによる地域活性化』

スポーツツーリズムは場所に魅力的なイメージを与え、観光客や企業、住民を惹き付ける素材として地域に恩恵をもたらす可能性に満ちている。インバウント誘致や地域活性化イベントとして特色のあるスポーツイベントを研究対象に、主催者と各ステークホルダー、参加者などのアクターの視点から、各アクターの相互作用によって作り出される価値と、その価値共創メカニズムを解明することを目的にしている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	1	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Value co-creation in sport tourism: the practices of international participants in a tourism running event／2023年3月／Journal of Sport & Tourism／10.1080/14775085.2023.2186928／単著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Sport Tourists' Participation Patterns in Online Sporting Events: Evidence from the Tianzhong Marathon in Taiwan／2023年3月／International Conference on Tourism Sciences (ICTS)

Exploring the Role of Online Community in International Sport Tourism: LINE App Usage by Taiwanese Runners in the 2022 Berlin Marathon／2023年2月／The 33rd Annual Council for Australasian Tourism and Hospitality Education (CAUTHE) Conference

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	特になし
学生生活支援相談室	室員	学生生活支援相談室観光研究所の運営に貢献した
観光研究所運営委員会	委員	観光研究所の運営とウェブサイト作成に貢献した
キャリア委員会	委員	短期インターンシップの実施に貢献した
観光学論集編集委員会	委員	観光学論集の査読、編集、校閲に貢献した

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

波佐見高等学校大学見学会模擬授業

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学生と地域の接点を増やすゼミ活動に取り組んでいた。ゼミでは、「スポーツツーリズムによる地域活性化」をテーマに、マラソン大会でのフィールドワークを通じて地域活性化効果を調査することを目的に活動しています。コロナ禍でリアルな大会の調査に行けない中、学生が小規模マラソン大会を自ら作る・走ることで、スポーツツーリズムによる地域活性化効果を体感するProject Based Learning（問題解決型学習）に取り組んでいた。その一環として、学生らが波佐見町と川棚町・大崎半島で小規模のマラソン大会を開催した。これらの活動を通じて、学生にSDGsの目標３，１１，１４，１５，１７について考えるきっかけを作ればと思う。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】

担当科目：観光学概論、スポーツツーリズム、観光倫理（オムニバス）、Tourism Marketing、Tourism Geography、Japanese Economy、地域の理解と連携（オムニバス）、教養セミナー、専門演習。全体として、自分の専門分野を活かして授業を行うことができたと思う。観光マネジメントコース科目において、理論と事例の結合、関連動画で興味を喚起する授業の進め方は満足度に繋がったのではないかと思う。グローバルツーリズムコース科目において、聴く、読む、書く、話す、4つのスキルを向上させる授業の進め方は満足度に繋がったのではないかと思う。ゼミ指導学生の状況：1年生9名、2年生9名、3年生3名、4年生9名。学生一人一人の状況と個性に合わせて指導できたと思う。日本語能力や学習意欲が不足している学生もいる中で、ほとんどの4年生が無事卒業・就職できている。今後も学生一人一人の状況と個性に合わせて指導していきたいと思う。

【研究】

今まで力を入れてきたスポーツツーリズムの研究に、スマートツーリズムの視点を加える研究を開拓している（スマート・ツーリズムの構造とメカニズムに関する観光学的研究；立教大学学術推進特別重点資金）。実績：査読付き論文1本、学会発表2回。今年度学会で発表した研究の論文執筆に着手し、さらに研究成果を出せるように努めたいと思う。また、地域活動と連携した研究も進めたい。

【大学運営】

年間の業務サイクルの中でペースをつかむことができたと思う。今後も先生方に助言をいただきながら、積極的に委員会の仕事に携わっていきたい。来年度はQSPの留学生交流支援WGに加入するので、学習しながら貢献できればと思う。

【地域活動】

去年から学科の先生たちと取り組んでいた西海市雪浦地区の地域活動は規模縮小でも今年は実施できた。来年度中にその成果を論文にまとめたい。ゼミ活動に関しては、今年度は引き続き、マラソン大会における学生運営イベントを取り組んでいた。その一環として、学生らが波佐見町と川棚町・大崎半島で小規模のマラソン大会を開催した。これらの活動を通じて、地域が抱えている課題の解決に少しでも貢献できたと思う。今後は地域貢献活動に学生も巻き込みながら、学生たちの可能性を引き出す取り組みを構築していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 中島　金太郎

1．教育理念

私の教育理念は、理論と実践力を兼ね備えた人材の育成である。

私の担当する博物館学芸員課程は、国家資格である「学芸員」資格取得のための専門的な過程である。学芸員は博物館に関する専門家であり、博物館・美術館はもちろん動物園や水族館に勤務する際にも必須の資格である。資格の取得が就職に結びつく課程であることから、全国的に見ても学芸員を退職した者が自身の経験を基に博物館学を講じている傾向が強い。博物館の実務家教員は、豊富な経験を基にした実務論を教授できる一方で、理論教育が不十分であることが多々指摘されている。博物館学芸員課程は、実務に耐えられる学芸員を養成することが求められる傾向にあるが、裏付けとなる理論を知らずして円滑な実務は不可能であり、理論と実践力の両輪が学芸員養成には必須であると私は考えている。

例えば「展示」は、モノを並べるだけであれば誰でもできるが、各資料の性格や年代、地域性を把握し、他の資料との組み合わせや地域との関連性を考えたうえで展示を行うことで、資料だけでなくその背景までも理解できる展示を作ることができる。また博物館で資料を扱ううえで「保存」が大きな要素となるが、資料を形成する素材の特性を把握し、食害する虫や適切な温湿度の知識を得ることで、より適切な管理・運用が可能となるのである。

このような博物館学の理論を理解し、取り扱い方法などの実践的技術を習得することが、実務に耐えられる学芸員の養成に繋がるのである。一方、実践力については博物館の現場で日々研鑽することで身につくことが期待できるが、理論については自ら学習しない限り大学卒業後に涵養することが難しいことから、私の授業では十分な理論を学習できるような授業構成を意識している。

私の担当する学芸員関連の授業は、講義形式の「博物館展示論」「博物館経営論」「博物館情報・メディア論」と実習形式の「博物館実習ABC」がある。これらの科目に加え、講義科目「文化財保護論」「民俗学」、「地域連携活動ＩA・B」教養セミナーおよび専門演習を講じている。

講義科目ではパワーポイント（PPT）を使用し、私がこれまで実地調査した事例と写真を多用しながら、各講義テーマの理論を理解できるよう心掛けている。遠隔授業時は、Zoomを使用してリアルタイム講義を行い、授業後に映像をYouTubeで公開する形を採っている。学生からの意見では、一回あたりの学習内容が多いとの指摘があるものの、90分という限られた時間内で理論を教授するためには、内容を多く盛り込まざるを得ない。また、ディスカッションなどによる課題解決は殆ど行わず、講義形式の授業にポートフォリオを組み合わせた授業を行っている。ややもすれば一方向的な授業になりかねないが、少しでも多くの事例と知識を学生たちに享受してほしいとの考えから当該形態を採用している。

逆に実習科目では、10名程度の少人数クラスで密度の濃い双方向的な授業を意図している。特に「博物館実習B」では、実際の博物館で勤務する「博物館実習C」の受講に向けて、学芸員として必要な資料の取り扱い方法を指導しているが、資料を取り扱う上で事故があってはならないので、学生の進捗状況をつぶさに確認しながら授業を行っている。当該授業でも、各資料の取扱いに先立って、資料に関する知識や取り扱いの理念等を講義したうえで実習させ、知識と技術の両者を取得できるよう心掛けている。

上記に加え、学生たちには長崎や九州だけといった狭い視野ではなく、日本全国的あるいは世界を視野に入れた博物館活動ができる人材となってほしいと考えている。このため、学生たちには馴染みがない可能性があるものの、日本の各地の事例や中国・韓国の事例等も授業内で積極的に使用している。豊富な事例を基に知識を享受することで学生自身の視野を広げ、広く興味を持ってもらい、活躍の幅を広げることも、私が学生に望むことである。

以上、理論と実践力を兼ね備えた人材育成、および視野の広い人材の育成が、私の基本的な教育理念である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
地域連携活動ＩA	15/15(前期)	1	17	①②⑥⑦
博物館実習C	15/15(前期)	1	6	⑦⑪⑫
国内観光研修C（西日本）	15/15(通年)	2	21	①⑤⑦⑫
博物館実習A	30/30(通年)	1	25	①④⑥⑦⑪
博物館実習C	30/30(通年)	1	32	⑦⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	10	④⑫
地域連携活動ＩB	15/15(後期)	1	19	①②⑥⑪
博物館実習C	15/15(後期)	1	2	⑦⑪⑫

卒業研究	15/15(後期)	4	-	④⑪⑫
博物館実習B	30/30(通年)	1	14	②⑦⑫
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	11	④⑥⑪
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	11	④⑥⑪
博物館実習B	30/30(通年)	1	13	②⑦⑫
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	14	④⑤⑥⑦
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	14	④⑤⑥⑦
博物館経営論	15/15(後期)	2	106	①②⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	9	④⑤
教養セミナーB	15/15(後期)	1	9	④⑤
博物館展示論	15/15(前期)	2	83	①②⑨⑩
博物館情報・メディア論	15/15(後期)	2	77	①②⑤⑥⑨⑩
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	3	④⑤⑥⑦
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	3	④⑤⑥⑦
文化財保護論	15/15(前期)	2	99	①②⑨⑩
民俗学	15/15(後期)	2	105	①②⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
文化財特講	15/15(前期)	2	2
文化財特講	15/15(前期)	2	1
事例研究（文化財）	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義科目は、半期分の内容をまとめた配布資料集を作成・配布した。また、学生の予習・復習頻度の向上を目指して、各回の予習・復習内容をより丁寧に提示することに努めた。さらに、今期からは対面授業を基本とし、未入国者や体調不良者のみ遠隔を行うハイブリッド授業をおこなっているため、両者に対応できるよう授業後の映像提供や課題提示について工夫することができた。

教養セミナー9名、専門演習Ⅰ3名、専門演習Ⅱ16名、専門演習Ⅲ12名の対応は概ね問題無くできたと思われる。しかし、コロナ禍の影響を受けた休学・退学が数件あり、特に休学者は復学を目指して学生をケアしていくことが重要と考えられる。なお4年生は、卒業予定の10名全員が卒業論文を提出したものの、過年度生3名が未だ卒業延期となっている。休学中の過年度生も併せ、十分な指導を行っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
博物館実習B（火曜4限）	4	4	2022年11月～2023年1月
博物館実習B（水曜1限）	4	5	2022年11月～2023年1月
卒業研究	10	8	2021年11月～12月
地域連携活動ⅠB	8	10	2021年11月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

2022年度は、主に博物館学と考古学、地域連携に関する研究を行った。

①博物館学

元々の研究テーマであった「地域博物館の発達史」の延長として、地域に根差した機関である寺院に設置されている博物館「仏閣博物館」に関する研究を継続実施した。

②考古学

一昨年度より、西海市西海町横瀬郷での発掘調査を継続実施している。

③地域連携

佐世保市教育委員会、波佐見町教育委員会と共同研究を実践している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	1	3	4	4	124万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

アジアの博物館と人材育成　東南アジアと日中韓の現状と展望／共著・編著／2022年3月／雄山閣／208

長崎県西海市西海町横瀬郷第2次試掘調査報告書／共著・編著／2022年6月／長崎国際大学博物館学芸員課程／102

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

地方自治体と連携した地域文化資源周知のための取り組み／2022年3月／『全博協研究紀要』第二十四巻／31頁～53頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

遺跡博物館の現状と展望／2022年5月23日／佐賀県東名縄文の会令和4年度総会

横瀬浦試掘調査出土遺物に関する一考察／2022年6月13日／西海市史談会

南蛮船来航以前の横瀬浦に関する一考察／2022年2月25日／長崎国際大学第22回学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和4年度国際観光学科共同研究費「長崎県北地域における文化遺産の確認と継承に関する研究」	長崎国際大学国際観光学科	令和4年4月1日～令和5年3月31日	27万円
令和4年度国際観光学科共同研究費「日本遺産「三川内焼」の魅力発信と広報手段開発に関する研究」	長崎国際大学国際観光学科	令和4年4月1日～令和5年3月31日	27万円
令和4年度学長裁量経費「地域と協働した薬学史資料館の設立に関する研究」	長崎国際大学	令和4年7月1日～令和5年3月31日	50万円
令和４年度鹿町歴史民俗資料館旧蔵資料の整理及び台帳作成業務	佐世保市コミュニティ・協働推進課	令和4年5月9日～令和5年3月24日	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	新型コロナウィルス感染症の影響により、現地での災害支援活動無し。
博物館学芸員課程委員会（学科）	委員	博物館学芸員課程の円滑な運営のため、委員会活動を主体的に実施した。
オープンキャンパス委員会（学科）	委員	オープンキャンパスの実施に際して活動を実施した。
大学院専攻会議	書記	大学院観光学専攻会議の運営担当として、資料作成、議事録作成等を担当した。
長崎国際大学国際観光学会	幹事	事務業務全般、学会運営業務等を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

同好会「地域文化研究会」顧問

同会の顧問として、西海市西海町横瀬郷の発掘調査の指導等を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

博物館学芸員養成課程のリーフレットを作成し、オープンキャンパス、出張講義等々で活用した。

また、2020年度から継続的に連携している佐世保市教育委員会文化財課と共同で、宮地区コミュニティセンターにおける企画展示を年2回開催した。

加えて、第4回オープンキャンパスに合わせ、薬学科と合同で企画展示「古くて新しい薬学の世界」を薬学棟6号館で開催した。

さらに、大学ホームページのトピックスとして、①薬学科との合同企画展示の開催、②波佐見町歴史文化交流館での特別展の開催、③西海市横瀬郷での発掘調査の成果報告会、④Made in SASEBO フォトコンテストの開催、⑤④の開国祭での実施報告、⑥国際観光学会研究発表会の実施報告の6件を申請、アップロードした。①はTVさせぼで、②は波佐見町のケーブルテレビで実施状況が放映された。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
地域文化の保全と博物館・考古学を知ろう	2022年7月12日	長崎県立長崎明誠高等学校	長崎県立長崎明誠高等学校
発掘調査からみた横瀬浦の歴史	2023年1月23日	西海市立西海北小学校	西海市立西海北小学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
全国大学博物館学講座協議会	会計監査役員	2020年5月～2022年6月	全国大学博物館学講座協議会
全国大学博物館学講座協議会西日本部会役員会	委員	2018年4月～現在に至る	全国大学博物館学講座協議会西日本部会
佐世保市立図書館協議会	委員	2021年10月～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①長崎県立長崎明誠高等学校において、2022年7月12日に出前講座を行った。

②西海市立西海北小学校において、2023年1月23日に出前講座を行った。

③長崎県教育委員会文化財担当と連携し、西海市での発掘調査を実施（令和4年7月～）。

④佐世保市教育委員会文化財課と、市内コミュニティセンターの展示作業等に関する連携を計画・実施。

⑤人間社会学部研究棟1階において、令和4年4月～6月に「第2回SDGs推進企画展示昆虫・植物展」を、令和5年1月より「第3回SDGs推進企画示焼物の修理・修復展」開催し、学生に対するSDGｓの啓発活動を実施した。

⑥令和4年7月～10月に波佐見町歴史文化交流館において合同企画展「古くて新しい薬学の世界」を開催した。

⑦同展示に付帯して、8月に波佐見町歴史文化交流館でUVレジンを使用した標本制作ワークショップを実施。

⑧佐世保市コミュニティ・協働推進課からの委託事業として、旧鹿町歴史民俗資料館の収蔵資料調査を実施。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

2022年6月6日、10月31日、11月22日の3回、長崎短期大学1階の展示ケースを使用して企画展示を実施した。

７．受賞等

令和4年度長崎国際大学学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」　ESD賞受賞「SDGs展示を用いた啓発活動ならびに展示教育に関する取り組み」

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は、授業、研究、地域貢献の分野で力を発揮することができた。

授業科目の中でも講義は、対面授業の本格的な再開に伴い、充実した内容を講ずることができたと考える。年々、反応が薄い学生が増えている感があるが、授業アンケートの評価は良好であり、学生の理解しづらい点や興味・関心のある点を重点的に講ずることで、理解につながっていると思われる。実習科目については、コロナ禍前にほぼ戻ったものの、今後の見通しが立たないことから、より柔軟に対応できるよう次年度に向けてカリキュラムの改訂を進めていきたい。ゼミ・教養セミナー運営は、昨今留学生の所属が増えていることから、日本語の指導を含めて学生の特質に合った指導方法を模索していきたい。

研究活動では、横瀬浦の発掘調査を中心とした地域に根差した研究活動を推進した。横瀬浦の調査を実施する中で、国立科学博物館やたばこと塩の博物館、島根県立古代出雲歴史博物館など他地域の研究者とも知遇を得、共同で研究を進めることができている。本調査も3年目になり、その成果に対し地域の興味・関心が高まっていることから、地域貢献の意味を含め継続的に取り組んでいきたい。また、本来の研究テーマである仏閣博物館の研究は、本年度科研費にチャレンジしており、中長期的に取り組んでいきたい。

地域貢献は、佐世保市、西海市、波佐見町との協働が主であった。佐世保市との連携は今年で4年目を迎え、旧鹿町歴史民俗資料館に関する連携事業を3か年計画で予定していることから、次年度以降も継続して活動を行っていきたい。また、波佐見町との連携では、歴史文化交流館開館1周年記念事業と銘打って、特別展の開催とそれに付帯したワークショップ、講演会などを順次開催でき、地域振興に寄与することができたと思われる。本年度は、外部機関からの講演やゲスト講師を頼まれることが多く、今後も依頼があった場合には、本学のPRを含めて協力していきたい。

なお、本年度からは大学院科目を担当することになり、学部の授業との差異を出すことに苦慮している。また、院生の論文指導等は、留学生の指導が主であることから試行錯誤を繰り返している現状である。次年度は、これまでの専門分野の知識や技術をより深め、質の高い教育を実践できるよう努力していきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 東出　朋

1．教育理念

・批判的に物事を観察し、自ら課題を見つけて解決に取り組む姿勢を持つ人を育てる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
日本語教育実習	1/1(前期)	2	1	①
日本語教育実習	1/1(通年)	2	3	①
卒業研究	15/15(通年)	4	9	①
教養セミナーB	15/15(前期)	1	4	①
教養セミナーA	15/15(後期)	1	2	①
専門演習ⅡA	15/15(前期)	1	10	①
専門演習ⅡB	15/15(後期)	1	11	①
日本語会話B	30/30(後期)	2	5	①
専門演習ⅢA	15/15(前期)	1	9	①
アカデミックジャパニーズⅡA	30/30(前期)	2	7	①
アカデミックジャパニーズⅡB	30/30(後期)	2	8	①
専門演習ⅢB	15/15(後期)	1	9	①
日本語の研究A	15/15(前期)	2	46	①
日本語の研究B	15/15(後期)	2	37	①
専門演習ⅠA	15/15(前期)	1	4	①
専門演習ⅠB	15/15(後期)	1	5	①
日本語教授法A	15/15(前期)	2	17	①

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

日々改善している。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

日本語

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	1	1	273万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

日本語話者とロシア語話者のポライトネスの認識の相違に関する小考ー依頼表現に対する適切性判断とその自由記述からの検討ー／2022/10／言語文化論究49／39-46／共著／研究ノート

关于「と思う」引用句前接的判断助动词消隐现象的考察―学习者与日语母语者的对比分析／2022/12／高等日語教育10／30-40／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

発話末に位置する対称人称詞の分析―九州方言を例に―／2022/05/21／日本方言研究会　第114回研究発表会

「こと（だ）と思う」におけるコピュラの有無に関する分析―レジスターに着目して―／2023/03/18／第2回東アジア言語文化研究会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日露（イン）ポライトネスを切り口とした異文化理解教育のための教材および指導法開発	日本学術振興会　科学研究費助成事業	2020年～2023年	273万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	委員	国際観光学科の広報

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席

2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

日々努力している。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 ブレンダン　ヴァン

１．教育理念

私の教育理念は、アクティブラーニングの原則に基づいています。特に外国語としての英語では、生徒が実際にコミュニケーションに必要な課題をこなし、フィードバックに基づいて改善していくことが必要です。このため、教師である私にはいくつかの責任が課せられています。まず、私が必要なだけ話すのではなく、できるだけ生徒が成長するための課題に取り組めるような授業設計をする必要があります。第二に、私は学生に対してタイムリーかつ有益なフィードバックを提供しなければなりません。つまり、授業の前後に、生徒が成長するために必要なサポートを一生懸命に行う必要があるのです。学期始めに英語が得意かどうかは重要ではありません。一番大切なのは、生徒が成長し続けることです。

My educational philosophy is based on the principle of active learning. Especially for English as a foreign language, students need to do real communicative tasks, and improve based on feedback. As a teacher, this places several responsibilities on me. First, I need to design my classes in a way that I am not talking only as much as necessary, and for as much as possible, students are working on tasks to help them grow. Second, I must provide feedback to students in a timely and helpful manner. This means that before and after class, I need to work very hard to provide the support necessary to help students grow. Whether or not students are good at English at the beginning of the semester is not important. The most important is that they continue to grow.

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究	1/15(前期)	4	2	⑫
卒業研究	1/15(通年)	4	3	⑫
英語演習ⅡＡ	1/15(後期)	1	26	④⑤⑦
Practical English ⅡA	1/30(後期)	2	23	④⑦⑩
English Writing Skills Ⅰ	1/30(前期)	2	24	④⑧
Practical English ⅠA	1/30(前期)	2	24	④⑤⑩
English Writing Skills Ⅱ	1/30(後期)	2	24	④⑩
専門演習ⅡＢ	1/15(後期)	1	4	⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	1/15(前期)	1	7	④⑤⑦
専門演習ⅢＡ	1/15(前期)	1	4	④⑤⑦
専門演習ⅢＢ	1/15(後期)	1	4	④⑤⑦
専門演習ＩＡ	1/15(前期)	1	5	②④⑤
Practical English ⅢB	1/15(前期)	1	13	⑥⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは大好評でした。３学期連続ベスト・ティーチャー賞の受賞をしました。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀大学	英語A	1/15(前期)	1	1
佐賀大学	英語B	1/15(後期)	1	1
佐賀大学	英語C	1/15(前期)	1	17

佐賀大学	英語D	1/15(後期)	1	17

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
IELTS指導	1	10	１～2月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

外国語としての英語教育

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	10万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Creating a Multi-Lingual User Guide in Moodle／2023年2月／MoodleMoot Japan

An Reading & Writing Course for the With-Corona Era／2023年2月／崇城大学SUTLF

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
QLearn Student Manual	学長裁量経費	２０２２年度	10万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	交換留学の派遣・受入
GTコース委員会	委員	GTコースに関する事業
OPC委員会	委員	OPCに関する業務

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

国際センターの英語を話すスタッフが全員移動してしまったため、日本人の海外留学や外国人留学生の本学への入学を支援するために、余計な仕事をたくさんしてしまいました。

また、教務課と英語の授業を担当する非常勤講師とのやり取りも手伝っています。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

学内・学外でのゲスト講義

英語版SNS

広報資料の翻訳協力

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
講義	10月23日	本学	佐賀県教育委員会
講義	10月15日	オンライン	夢ナビライブ
研究室訪問	10月15日	オンライン	夢ナビライブ

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
Kyubun and GT Student Event	GT生と中学生の交流会	2022年8月	九文中学校
雛祭お茶会	GT生と米軍の交流会	2023年3月	米軍基地

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
SDGs at Nagasaki International University	基調講演者	2022年4月27日	オンライン・フィリピン	St. Dominic College of Asia

(3) その他特記すべき活動

IELTS検定の実施（2月11日）の担当をした

７．受賞等

ベスト・ティーチャー賞前期

ベスト・ティーチャー賞後期

８．活動全般についての自己点検・評価

今年は高い水準で授業を行うことができました。国際センターのスタッフが増えたので、研究を続け、新しいプロジェクトを始めることができます。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　国際観光　　職名 講師　　氏名 末永　貴久

１．教育理念

長崎国際大学の国際観光学科スポーツツーリズムコースの学生に対する教育理念を以下のように考える。

１.スポーツには様々な領域や考え方があることから、多角的な視点を身につけさせる
将来、スポーツ選手だけでなく、コーチ、マネージャー、トレーナー、スポーツ経営者、スポーツジャーナリスト、研究者など、何らかのスポーツに関連する仕事に就くことを考え、それぞれの仕事に必要な知識や技術、視点が異なることを踏まえ、多角的な視点を身につけることで、自分が将来どのような仕事に就くかに関わらず、幅広い分野で活躍できる人材を育成する。

２.専門性に富んだ視点を身につけさせる
スポーツにおいては、上記の多角的な視点に加え、それぞれの要素に対する専門的な視点を持つことが求められる。スポーツ指導の種目的な専門性、トレーニング方法を提供することが必要であるように、多角的な視点に加え、深い専門性取り組む視点を身につけさせる。

３.組織運営能力を身につけさせる
スポーツには様々な組織が関わる。例えばクラブやチーム、リーグ、協会などの組織には、それぞれ役割があり、連携が求められる。組織運営能力を身につけることで、チームを成長させるために必要な戦略的な判断や、効果的なマネジメントが可能になる。

４.常に学び続ける姿勢を持たせる
スポーツは日進月歩で進化し、選手のトレーニング方法や戦術、技術も常に進化し続けている。また、スポーツ界に関わる環境も急激に進化していることから、常に新しいアイデアや情報を学び続けることが必要となる。

５.コミュニケーション能力を養う
人としてスポーツに関わる限り、コミュニケーション能力は必須である。常に自分に関わる人の気持ちを考え、行動できる人材に育成していく。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
エアロビクス（陸上・水中）	3/3(前期)	1	23	②④⑩⑪
ジョギング・ウォーキング	15/15(前期)	1	49	⑩
地域スポーツ	15/15(後期)	2	84	④⑤⑥⑩⑪
レジスタンストレーニング（理論・実践）	4/4(前期)	2	30	④⑩⑪
コンディショニング	4/4(後期)	1	27	⑩⑪
スポーツ社会学	15/15(前期)	2	121	②③④⑤⑥⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	8	①⑥
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	8	①⑥
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	23	④⑤⑪
スポーツ実習Ｂ	15/15(後期)	1	11	④⑤⑪
スポーツマネジメント	15/15(前期)	2	49	④⑤⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業への満足度や内容への興味は概ね良好であったため、受講学生が教員の意図を理解し、満足しながら授業に取り組んだことが伺える。授業の前週に次回何をするかを明示し、その内容を調べておくよう指示した。授業当日は、改めて実施方法について資料で示し、学生に主体性を持たせつつ、運動能力やコミュニケーション能力も配慮しながら実施した。

人数や環境の要因によりシラバスの種目・内容で授業ができないときもあり、変更しながら取り組むこともあったが、事前に学生に伝え、準備をしながら取り組んだため、シラバスとの整合性があるとの評価を得たと考える。

授業ではコロナ禍であり、スペースや人数的にも難しい運営であったが、コロナ感染やスポーツ障害に注意を払うことを伝え、行動の指示を出したことによって、学生が安心して参加できたのではないかと考える。

これらのことにより、大きな問題もなくある程度の満足度を得ることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保工業高等専門学校	健康と科学	30/30(通年)	1	4

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
健康運動実践指導者対策勉強会	3	3	11月～1月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者に対するフレイル測定

地域におけるスポーツの実践事例

発達障害児への運動指導

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

西海学園進路ガイダンス担当（R4.6.20）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	出席
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
6	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
日宇地区コミュニティセンター講座	7月29日	日宇地区コミュニティセンター	佐世保市教育委員会
佐世保市運動普及推進員養成講座	8月25日	佐世保市役所	佐世保市
中部地区コミュニティセンター講座	10月26日	中部地区コミュニティセンター	佐世保市教育委員会
江迎地区コミュニティセンター講座	11月18日	江迎町公会堂	佐世保市教育委員会
長崎県県北保健所職員健康講座	11月25日	県北保健所	長崎県
佐世保市ウォーキング・健康遊具講座	3月6日	相浦地区公民館	佐世保市

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県健康ながさき21推進協議会	委員	H26～現在に至る	長崎県
長崎県健康ながさき21身体活動運動専門部会	委員	H29～現在に至る	長崎県
佐世保市健康シップさせぼ21専門部会	委員	R4～現在に至る	佐世保市
長崎県健康長寿日本一推進会議	委員	H29～現在に至る	長崎県

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

日本健康運動指導士会長崎県支部支部長（H26～現在に至る）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

大学におけるコンディショニングセミナーを主催（7月、11月）

キッズキャンパスにおいてスポーツツーリズムコースブースの講師を担当（11月）

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

大学では特任という立場での採用であったので、授業に重点を置いた活動であった。しかし、学長裁量経費を獲得し、佐々町におけるフレイル測定を行い、地域との連携に取り組んだ。また、オープンキャンパスやコースの共同研究事業、各種イベントなどには可能な限り参加し、貢献する活動ができたと自己評価する。また、個人的には地域での指導や講師として活動し、社会活動にも取り組んだ。

来年度からは立場が変わるので、大学の常勤教員として、また地域スポーツ担当として、大学内外での活動を積極的に推進したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 相羽　枝莉子

1．教育理念

主体的に学び，考え，行動できる人材の育成を教育の柱として，教員自らが学生と共になってホスピタリティの伸長を目指す．また，学生が高い専門性と幅広い見識を獲得できるよう，体系的に整理された知識・技能を伝えるとともに，アクティブラーニングを積極的に取り入れ，多様な視点で専門領域あるいは地域社会における課題の発見・解決力を育成する．

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スポーツ実習Ｄ（スキースノーボード実習）	15/15(後期)	1	11	④⑪⑫
水泳	15/15(通年)	1	25	⑫
事前・事後指導	1/15(通年)	1	7	④⑦
教育実習Ａ	1/15(通年)	4	7	④
保健体育科教育法Ⅱ	15/15(前期)	2	7	⑨⑩
専門演習ＩＡ	15/15(前期)	1	9	②④⑥⑦
スポーツ実習Ａ	15/15(前期)	1	24	④⑤⑪
保健体育科教育法Ⅳ	15/15(前期)	2	12	⑨⑩
スポーツ心理学	15/15(後期)	2	106	⑤⑥⑩⑫
エアロビクス（陸上・水中）	7/15(前期)	1	23	②④⑩⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	6	②④⑥⑦
スポーツ実習Ｂ	15/15(後期)	1	23	④⑤⑪
スポーツ医学	1/15(前期)	2	34	②⑩⑪⑫
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫
専門演習ⅡＢ	15/15(後期)	1	6	②④⑥⑦
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	8	⑤⑦⑩⑪
保健体育科教育法Ⅲ	15/15(後期)	2	5	⑨⑩
器械体操	15/15(前期)	1	9	⑪⑫
球技Ｂ	1/15(後期)	1	23	⑪
専門演習ＩＢ	15/15(後期)	1	9	①⑥
スポーツ指導論	1/15(後期)	2	27	②⑤⑥⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期・後期を通じた授業アンケート及びそのフィードバックによって，より良い授業を目指すことができた。2022年度の授業評価の数値目標として，「スポーツ心理学」において，①「授業を受けた態度」平均4.1以上，②「理解度」4.3以上としていた。結果として，それぞれ順に4.15，4.3であり，いずれの項目も目標の数値を上回る結果となった。

「スポーツ心理学」では，心理学の理論を扱うことが多いため，単なる「知識の定着」にならないよう，スポーツの現場とのリンクを意識して授業を展開することができた。その他授業全体を振り返ると，改善点として，予習や復習課題の確認などが挙げられ，2023年度以降の授業で改善に努める。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生活と健康	30/30(通年)	1	80
佐世保市立看護専門学校	体育	30/30(通年)	1	80

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・スポーツ競技者が試合場面で使用する感情調節方略とパフォーマンスの関連

・女性スポーツ競技者におけるFAT発症の心理的要因

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	3	6	5	5	163万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

みなさん！読んでみてください『The effect of self- and interpersonal emotion regulation on athletes’ anxiety and goal achievement in competition』／単著／2023年2月／九州スポーツ心理学会会報第27号／5頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

野球における投球・送球イップスの発症要因に関するパイロット・スタディー競技特性不安と完全主義に着目してー／2022年10月／社会関係研究／28 (1)／共著／論文

Factors Involved in the Psychological Development of Baseball Players Experiencing the Yips: Social Support, Meaning-Making Processes, and Overcoming the Yips.／2022年10月／Journal of Physical Education and Sport／22 (9), 2141-2151／共著／Paper

Determinants of the prolongation of the yips in golfers: The roles of social support and overcommitment to sport／2022年12月／Central European Journal of Sport Sciences and Medicine／38 (4)／共著／Paper

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

女性スポーツ競技者の感情調節と食行動異常傾向の関連／2022年9月2日／日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会

投球・送球イップスを呈する野球選手における投球動作時の心理状態／2022年9月2日／日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会

若年層のスポーツを「ささえる」活動におけるスポーツコミットメントモデルの検証／2022年10月1日／日本スポーツ心理学会第49回大会

テニス競技者におけるサーブパフォーマンスに有効な感情調節方略の検討ー感情調節方略の使用傾向に着目してー／2022年10月2日／日本スポーツ心理学会第49回大会

野球における投球・送球イップスの評価方法の検討／2022年10月2日／日本スポーツ心理学会第49回大会

日常的・地域規模のスポーツを「ささえる」活動の 継続促進・阻害要因の検討／2023年3月4日／九州スポーツ心理学会第36回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
感情調節方略が運動パフォーマンスに及ぼす影響	九州体育・スポーツ学会研究助成	2020年8月～2022年8月	15万円
プレッシャー下での感情調節方略がパフォーマンスに及ぼす影響ーバスケットボールのフリースローをパフォーマンス課題としてー	日本私立学校振興・共済事業団体若手・女性研究者奨励金	2022年4月～2023年3月	40万円
女子学生アスリートにおけるFAT発症の実態把握と分野横断的支援	令和4年度長崎国際大学学長裁量経費	2022年4月～2023年3月	55万円
周辺視野の違いが運動実施時の生理的・心理的変動に及ぼ す影響	国際観光学科共同研究費	2022年4月～2023年3月	27万円

野外活動が学生にもたらす効果と「社会人基礎力」の関係−対 自然的活動がもつ教育的意義に焦点を当てて−	国際観光学科共同研究費	2022年4月～2023年3月	26万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
安全衛生委員会	委員	勤務報告表の管理，年次休暇取得の促進に努めた。
国際観光学科スポーツツーリズムコース委員会	委員	会議に参加し，コースの発展に努めた。
国際観光学科会議運営委員会	書記	書記として学科会議の運営に参画した。
スポーツサポートセンター委員会	委員	会議に参加し，構成委員との情報共有に努めた。
長崎国際大学国際観光学会	幹事	書記，編集委員会の業務補佐等を担当した。
国際観光学科学事委員会（オリエンテーション）	委員	委員として，学科オリエンテーションの運営に努めた。
国際観光学科オープンキャンパス委員会	委員	オープンキャンパスに向けた準備段階で，会場設営などに従事し，円滑な運営に努めた。
スポーツサポートセンター委員	委員	委員として会議に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

①女子アーチェリー部 部長
②男子アーチェリー部 部長
③女子硬式テニス部 顧問
④男子硬式テニス部 顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

出張講義
①聖和女学院高校 / 10月7日
②宮崎県立小林高校 / 11月4日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	−	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	−	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	−	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	−	研究倫理研修	出席
2022/6/6	−	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	−	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	−	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	−	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
スポーツ現場に活かせる社会心理学を求めて	3月5日	久留米大学	九州スポーツ心理学会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2022年5月～2023年3月
佐世保市を拠点とするバレーボールチームのジュニア選手に対する心理サポート活動

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

・資格
スノーボードバッジテスト検定2級 取得

７．受賞等

令和4年度日本スポーツ心理学会 優秀論文奨励賞「スポーツの試合中における感情調節方略尺度の作成」

８．活動全般についての自己点検・評価

・教育
2022年度より初めて専門演習を担当し，受講生は2年生・3年生で合計15名であった。良かった点として，学内での専門的な学修に加えて，心理サポート活動やプロスポーツの試合会場でのフィールドワークなど，実践的な学びを取り入れることができた点である。次年度は卒年次生を担当することになるので，学生が3年間学んできたことを，卒業論文研究で十分に発揮できるよう指導していきたい。
・研究
専門領域の学会にて学会賞を受賞することができた。また，科研費の申請のほか6本の研究資金を申請するなど，研究費の獲得に努めた。反省点としては，研究費の獲得ができていないことから研究に遅れが出ている点である。次年度は引き続き外部資金の獲得にチャレンジして研究費を得た上で，調査・実験を実施し，それらの成果をまとめて国内外の雑誌に投稿していきたい。
・地域貢献
佐世保市のスポーツの発展を目指し，スポーツ心理サポート活動を1年間継続して行ってきた。今後もこの活動を続けることで，佐世保市のスポーツチームの支援，競技レベルの向上などに貢献していきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　国際観光　　職名 助教　　氏名 幸山　智子

1．教育理念

私の教育理念は、①物事を主体的に考えて行動する力、②自分とは異なる人や文化（多／他なるもの）を理解・受容する力を持った人材を育成することである。

英米文学・文化研究を専門とする教員として、とりわけ全学共通科目である英語演習においては、語源や表現の由来についての説明を含めることによって「ことばの背景にある歴史や文化」を感じてもらえるよう努めている。そうすることによって、英語を母語とする人々の考え方や価値観といったものへの理解を深めることができるだけでなく、自分自身が生まれ育ってきた環境について客観的に考えてみることができる。いわゆる「クリティカル・シンキング」の基礎ともなるだろう。

また、授業においては、なるべく受講生同士で話し合う機会（ペアワークやグループワーク等）を設け、課題の設定や解決に主体的に取り組ませることにしている。このような授業形式は、考えを自分のことばで効果的に発信する練習、あるいは自分とは異なる考えを大らかに受け入れて新たなアイデアのもととする練習となる。情報を自ら調べる習慣も身についてくる。

言語学習とは、母語の外への旅であり、その過程では（複数のレベルでの）対話が生じる。そこから培われる力は、他者への理解を基本とする「ホスピタリティ」を育む上でも重要であろうし、学生たちの卒業後の活躍を支えてゆくものだと信じている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
英語演習ＩＡ	1/15(前期)	1	32	①②
英語演習ⅡＡ	1/15(後期)	1	38	①②
英語演習ＩＡ	1/15(前期)	1	27	①②
英語演習ⅡＡ	1/15(後期)	1	35	①②
英語文学	1/15(前期)	2	27	①③⑤⑥⑨⑩
English Reading Skills Ⅱ	2/30(後期)	2	24	①④⑪
教養セミナーA	1/15(前期)	1	9	①⑥⑦⑧⑩⑪
教養セミナーB	1/15(後期)	1	9	①④⑤⑥⑦⑪⑫
English Reading Skills Ⅰ	2/30(前期)	2	22	①④⑪
英語演習ＩＢ	1/15(前期)	1	38	①②
英語演習ⅡＢ	1/15(後期)	1	28	①②
英語演習ＩＢ	1/15(前期)	1	29	①②
英語演習ⅡＢ	1/15(後期)	1	27	①②
英語演習ⅡＢ	1/15(後期)	1	29	①②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前年度に引き続き、授業アンケートでは高い評価を得ることができた。対面授業が増えたこともあり、学生とより密にコミュニケーションを取りながら授業を展開することができた。ただし、課題の目的や意図を明確に提示することが十分にはできていなかったように思う（とくにEnglish Reading Skillsの授業）。次年度以降は同授業担当者ともよく相談し、改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

Tenessee Williamsをはじめとしたアメリカ戯曲（演劇作品）における「触覚」の描写に注目し、社会背景や作家の詩学を分析する研究を継続した。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	国際観光学科のピアサポート活動担当者として、学生組織の運営に携わった。また、配慮面談や配置表作成等を担当した。
教育基盤センター運営委員会	委員	国際観光学科の入学前教育に携わった。（後半は、学修支援室担当者に変更）
学科事務局（国際観光学科）	庶務	国際観光学科の事務局員として、各種業務を担当した。
グローバルツーリズムコース委員会	委員	保護者会資料作成や広報用（Web掲載用）記事の執筆を複数手がけた。コース会議においては、議事録を作成した。資格試験の監督を担当した。英語資格特待生の申請手続きを担当した。また、QLEARNのユーザーガイド作成に関連する学科共同研究に携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

入試関連業務

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は早い段階で退職を決意し、研究面においても分野変更を検討する等、過渡期となった一年であった。そのため、表立った業績は残すことができない苦しい期間でもあったが、今後の人生において重要な足がかりとなるステップ／人脈を着実に積み重ねることができた。同時に、事務局や委員会の業務も積極的にこなすことができ、学科や大学の運営に貢献することができたと考える。本学での経験を生かし、新たなスタートを切りたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 木村　勝彦

1．教育理念

私の教育理念は、哲学・倫理・宗教に関する専門的知識の教授を通して、ものごとを主体的に考え抜くという哲学的態度を培い、人間愛に満ちたヒューマニズムの精神及び異なる価値観に対する寛容の精神を涵養することである。

こうした教育理念に従い、まず全学共通教育においては以下に述べるような私独自の教育活動を通して、本学における人材育成に貢献したいと考えている。まず「哲学」においては、歴史上に展開されてきた哲学のさまざま知的挑戦の試みを教授することによって、原理的問題について徹底的に考察し、主体的に自己の思想を形成していく人材を育成する。また「倫理学」においては、善悪の価値判断に関する倫理的な問いを教授することによって、いかなる人の人間性に対しても尊敬の念を失うことのない人格を陶冶し、ヒューマニズムの精神に富んだ有為の社会的成員を育成する。さらに「宗教学」においては、古代から現代に至るまで連綿と存在してきた世界中の多様な宗教・信仰への理解を通して、異なる価値観や信仰に対して寛容の精神を有する情操豊かな人材を育成することである。これらの教育活動により、人間社会学部、健康管理学部、薬学部のそれぞれの学びに共通して必要とされるホスピタリティとヒューマニティの精神を身につけさせたいと考えている。

また国際観光学科の専門科目である「観光倫理」や、大学院地域マネジメント専攻及び観光学専攻における諸科目においては、現代社会の主要な社会活動の一つである観光をめぐる倫理学的或いは宗教学的な考察を通して、観光とそれを基盤とする地域マネジメントに貢献し得る高度専門職業人の育成に寄与することを目指している。

さらに教職課程科目である「道徳教育論」においては、教員を目指す学生たちに道徳教育の意義と必要性を教授することにより、子どもの人格形成に大きく関わっていく教員としての心構えと態度を培うことを目指している。また隔年で実施している「人権と平和」においては、具体的な人権課題に関する啓発と教育の重要性を教授すると同時に、原子爆弾被災県である長崎県に立地する大学で学ぶ者として平和探究の精神をもって教育活動に従事することの重要性を自覚させることを目指している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
事前・事後指導	3/15(通年)	1	7	④⑦
教育実習Ａ	3/15(通年)	4	7	④
道徳教育論	15/15(後期)	2	13	⑤⑥⑩
観光倫理	15/15(前期)	2	230	①③
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	8	⑤⑦⑩⑪
宗教学	15/15(前期)	2	189	①③
哲学	15/15(後期)	2	131	①③
ダイバーシティとグローバル市民論	5/15(後期)	2	123	①④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
観光倫理特講	15/15(前期)	2	1
観光倫理特講	15/15(前期)	2	3
事例研究（観光倫理）	15/15(後期)	2	2
特別研究	30/30(通年)	8	1
地域マネジメント論特別演習	5/15(前期)	2	1
観光倫理思想特別演習	15/15(前期)	2	1
特別研究指導Ⅰ	30/30(通年)	4	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度前期の大学院の授業は対面で実施可能だったものの、学部の多人数を対象とする講義科目は引き続き遠隔授業となったため、担当した全学共通科目の「宗教学」と「ホスピタリティとSDGs」および国際観光学科専門科目の「観光倫理」はマナバを

利用したオンデマンド方式によって実施した。このうち「宗教学」の授業アンケートにおける満足度の平均評価値は4.4で、自由記述のなかに否定的な意見も見られなかったため一定の評価が得られたものと判断できる。「ホスピタリティとSDGs」は小職も単位認定者となっているが、多くの教員によるオムニバス形式による授業で、なおかつオンデマンドによる実施であったが、小職の担当回は全体の導入の役割を果たした。また「観光倫理」は科目開設当初から小職が単独で実施し、昨年度より陳慶光講師との共同実施としているが、今年度からは小職の担当回数を少なくした。小職の担当に関するアンケートの満足度では4.7と高い数値を示し、否定的な意見も見られなかったため、高い評価を得られたものと判断している。ただし両科目とも、オンデマンド方式で一定期間内に回答を求めるアンケート実施方法であったためが、回答率が7割よりもはるかに低い数字にとどまったが、全体的傾向は変わらないものと思われる。

後期は全学共通科目の「哲学」「ダイバーシティとグローバル市民論」、教職課程科目の「道徳教育論」の3つを担当した。すべての授業が原則として対面による実施となったため、多人数を対象とする講義科目である「哲学」も3年ぶりの対面によって実施することができた。久々の感覚で非常に新鮮な気持ちで講義をすることができ、受講生の方も全体として真面目に授業に向き合っていたように思われる。満足度に関するアンケートの平均評価値は4.4で「宗教学」と同程度であったが、自由記述による意見のなかに「一方的でおもしろくない」等々の否定的なものも見られたことは反省しなければならない。「ダイバーシティ」は小職と川上知子講師が科目担当者となっているが、後半は多くのゲストスピーカーを迎えての授業というかたちで実施した。満足度の平均評価値は4.6で、否定的な意見も見られなかったため、高い評価を得られたものと判断できるであろう。教職課程科目の「道徳教育論」は満足度の平均評価値4.7であったが、教職志望者を対象とし、しかも少人数であればさらに高い評価を得られるべきであったと考えている。

大学院については博士後期課程1名（留学生）、修士課程2年次1名、1年次2名（うち留学生1名）の主指導教員として指導にあたり、修士2年次生は無事に修士（観光学）の学位を取得して修了することとなった。他の3人は引き続き在学するが、学位取得のためにはさらに時間をかけた厳しい指導が必要であると感じているところである。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 宗教の哲学的研究
② 宗教的聖地の変容と観光との関係に関する研究（特に長崎県のキリスト教聖地をめぐって）
③ 観光倫理の構築に関する研究
④ 道徳教育の意義と実践に関する研究（特にカントとヤスパースの教育論をめぐって）
⑤ 人の死に関わる場所を対象とするダークツーリズムの研究（特に広島・長崎の原子爆弾被災地、沖縄の戦跡をめぐって）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

市制120周年 佐世保徳育推進会議10周年記念誌／共著・編著／2023年3月／佐世保徳育推進会議 編集委員会／1頁、48頁～70頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	副委員長	自己点検・評価の実施に関する審議における委員長（学長）の補佐
ＩRセンター運営委員会	委員長	大学評価IRに関する審議の統括
教育基盤センター運営委員会	委員長	教育基盤センターの運営に関する審議の統括
人事委員会	委員長	教員の採用人事・昇任人事に関する審議の統括
全学共通教育委員会	委員長	全学共通教育の科目編成と実施に関する審議の統括
輸出管理委員会	委員長	輸出管理の実施に関する審議の統括
教員資格審査委員会	副委員長	教員の採用・昇任に際しての資格審査に関する審議における委員長（学長）の補佐
教職課程員会	委員長	教職課程の科目編成と実施に関する審議の統括

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
私立大学等改革総合支援事業タイプ1対策会議	議長	私立大学等改革総合支援事業のタイプ1申請に関する事項のとりまとめ
私立大学等改革総合支援事業タイプ4対策会議	議長	私立大学等改革総合支援事業のタイプ4申請に関する事項のとりまとめ
学長裁量経費事前審査会	議長	学長裁量経費の採択に関する事前審査のとりまとめ

(3) 課外活動の指導等

① 硬式野球部　顧問
② 男子アーチェリー部　顧問
③ 女子アーチェリー部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① ＱＳＰ事業「リケジョ」記者会見　2022年6月30日
② 進研アド「内部質保証の取組みについて」取材　2022年7月29日
③ ウクライナ人学生受入れ　記者会見　2022年9月16日
④ 徳育推進10周年について　佐世保ケーブルテレビ取材　2022年10月15日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
道徳力をいかに磨くか（座談会構成・進行）	2022年10月15日	アルカスSASEBO大ホール	佐世保徳育推進会議
桃太郎説話からみる宗教学	2022年11月19日	ホテルローレライ	佐世保西ロータリークラブ

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本学術会議（第一部会哲学委員会）	連携会員	2020年10月～現在	日本学術会議会長
評価システム改善検討委員会	副委員長	2016年4月～現在	公益財団法人日本高等教育評価機構
評価員会議	評価団長	2005年10月～現在	公益財団法人日本高等教育評価機構
佐世保徳育推進会議	会長	2012年4月～現在	佐世保徳育推進会議
長崎県日中親善友好協会佐世保支部	理事	2018年6月～現在	長崎県日中親善友好協会
佐世保市スポーツ協会評議員会	評議員	2020年5月～現在	佐世保市スポーツ協会
学校法人九州文化学園評議員会	評議員	2017年4月～現在	学校法人九州文化学園
長崎国際大学同窓会	理事	2010年～現在	長崎国際大学同窓会「悠和会」

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
学術講演「日本における中国文化の一局面ー近世の長崎から考える」	日本文化センターにおける講演・質疑応答	2022年6月10日	中国・福建技術師範学院
日本文化研究センター顧問	日本文化研究センターに対する学術的助言	2022年6月10日～現在	中国・福建技術師範学院

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

① 中国・福建技術師範学院との包括協定に関する協議と締結
② 韓国・釜慶大学国際交流センター長来学への対応
③ 日中親善友好協会佐世保支部理事会及び総会への出席・協議
④ 中華人民共和国駐長崎総領事館開設記念式典への出席

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍３年目で引き続き感染対策が求められたため、学会活動や調査研究活動、そして国際交流活動、地域貢献活動などの面で大きな制約を受けた１年間であった。そうしたなかで副学長としての校務と授業を両立させることに腐心したが、十分な研究実績や国際交流の成果を上げることができなかったことに忸怩たる思いを抱いている。次年度はコロナの状況も落ちつき、さまざまな局面で日常が回復してくることが期待されるので、かつて行っていたような活動を再開したいと期しているところである。

大学院は対面での授業を実施できたものの、学部の授業は前期がオンデマンド方式で、後期にようやく３年ぶりでの対面実施

がかのうとなった。授業評価等の内容はさしたる変化もなく、低下もしない代わりに顕著な向上も見られなかった点は反省されなければならない。このところ大学院生の研究能力・研究意欲の対価が懸念される状況にあるが、小職が主指導を担当している大学院生にも大いに問題を感じざるを得なかった。定員確保のために日本語能力、学力が不足する学生を大学院に受け容れることが、その学生自身のキャリア形成にとって真に有意義かどうかを検討すべきであると感じる。

学外での学術活動に関しては、日本学術会議の連携会員に選出されたのがコロナ禍がはじまった2020年のことであったため、東京乃木坂の日本学術会議での会議等は開催されず、オンラインによるZOOM会議ばかりとなっている。そうしたなかで小職が所属する第一部会哲学委員会のなかの「古典精神と未来」部会で高校生向けの教科書を出版することが企画され、2023年5月に岩波書店のジュニア新書として刊行される運びとなった。小職も共著者の1人としていくつかの章を担当し、既に校正の段階に入っていることは成果として報告に値するであろう。

学外の地域貢献活動としては、発足以来小職が会長を務めている佐世保徳育推進会議が10周年記念式典を挙行した。アルカスSASEBO大ホールを会場として開催された式典では、冒頭に会長挨拶を述べたほか、特別記念講演の講師として招聘した一般社団法人倫理研究所の丸山敏秋理事長（小職の大学院の先輩）を交えた座談会のコーディネーター及び進行役を務めた。なおこの式典の内容については、この3月に刊行された『佐世保市制120周年 佐世保徳育推進会議10周年記念誌』に収録されている。

また公益財団法人日本高等教育評価機構の評価員の業務は今年度も委嘱され、薬学系大学の認証評価に係る評価チームの団長として評価員会議を統括し、11月には３年ぶりの実地調査も行った。団長としての業務を担うのは連続11校目となり、それなりのキャリアになっていると評価できよう。そうしたキャリアを考慮して委嘱された評価システム改善検討委員会では昨年度より副委員長の職にあり、第4クールの評価システム構築に向けてオンライン会議で検討を重ねているところである。

総じてコロナ禍による大きな制約はあったものの、従来になっている学内の業務、社会活動業務は着実に継続して遂行したと自己評価することができる。ただし、学術研究の面ではいくつかの刊行物・刊行予定物はあるものの、十分な成果を上げたとは言えないため、来年度はさらに精進して成果を出すべく努める所存である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 脇野　幸太郎

1．教育理念

・学生が自ら学び、考え、解決し、理解する。これらのことを通じて、「学ぶことの意義と楽しさ」を体感してもらえるような教育を行うこと。

・社会人として、「切り替え」のできる力（やるときはやる、楽しむときは楽しむ）を身につけてもらうこと。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
家族法	15/15(後期)	2	9	①②③⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	5	④⑤⑥⑧⑨
貧困に対する支援	15/15(後期)	2	49	①②③⑨
社会保障論Ａ	15/15(後期)	2	7	①②③⑨
社会福祉総合演習（福祉共通）	2/15(前期)	1	37	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	2/15(後期)	1	37	⑧⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	⑤⑥⑦⑧
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	⑤⑥⑦⑧
貧困に対する支援	15/15(前期)	2	48	①②③⑨
福祉科教育法Ⅰ	15/15(前期)	2	3	①③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
福祉科教育法Ⅱ	15/15(後期)	2	3	①③④⑤⑥⑦⑧⑪⑫
社会保障論Ｂ	15/15(前期)	2	56	①②③⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	6	⑤⑥⑦⑧
専門演習B	15/15(後期)	1	6	⑤⑥⑦⑧
学際連携研究	2/15(前期)	2	218	⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
社会保障特講	15/15(後期)	2	3
特別研究	15/15(通年)	8	1
地域マネジメント論特別演習	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業評価アンケートの結果（理解度・満足度）は、ほぼ例年並みであった。毎年ここからのもう一伸びを目標としているが果たせていない。「真に理解できる授業」「理解できる楽しさを体感できる授業」の実践を目指し、次年度も工夫と研鑽に励みたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
山口県立大学大学院	地域・社会系専門講究Ⅱ（社会保障）	15/15(夏期集中)	2	6
長崎県立大学	保健医療福祉行政特論	8/8(後期)	1	5
佐世保市医師会看護専門学校	社会保障論	15/15(後期)	2	16

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策追加学修時間	15	37	2022年4月～2023年1月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・ドイツにおける公的扶助制度の歴史的生成過程に関する研究
・社会保障としての住宅政策に関する研究
・地域と社会保障に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	3	0	0	0	1	1	470万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

トピック社会保障法第16版／共著・編著／2022年4月／信山社／300

国民の福祉と介護の動向／共著・編著／2022年9月／厚生労働統計協会／328

社会福祉士国家試験過去問解説集／共著・編著／2022年4月／中央法規出版／602

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
Webを活用したソーシャルワーク実習プログラム・実習教材の開発・運用・評価	日本学術振興会	2021年4月～2024年3月	470万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	もう1名の学科教務委員（柳副学科長）とともに、学科内の教務事項への対応、教務委員会・教務課との調整・連携を行った。
自己点検・評価委員会	委員	もう1名の自己点検・評価委員（中村龍文教授）とともに、授業評価アンケートと、それに基づく面談等の業務に従事した。
発明等審査委員会	委員会	発明、特許取得等に関する審査の審議に参加するとともに、同委員会学修支援部門の部門リーダーとして、スポーツ系学生の支援プログラムの立案に関与した。
スポーツサポートセンター運営委員会	委員会	スポーツサポートセンター運営に係る審議に参加するとともに、学修支援部門の部門リーダーとして、スポーツ系学生の学修支援プログラムの立案に関与した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
拡大部局長会議	メンバー	コロナ対策、授業の実施方針等、学内の重要事項に係る審議に参加した。
全学教育会議	メンバー	学科長として、学科運営に係る報告を行った。
私立大学等改革総合支援事業会議	メンバー	type3のメンバーとして審議に参加した。
ベストティーチャー賞選考基準見直し検討ワーキンググループ	メンバー	ベストティーチャー賞選考基準見直しにかかる審議に参加した。

(3) 課外活動の指導等

・吹奏楽部顧問
・福祉系大学経営者協議会災害支援委員会　「ソーシャルワーカーの声プロジェクト」における学生の指導
・大村市教育委員会「票育活動」アドバイザー
・佐世保市就労支援協議会（障害者福祉事業所の経営者団体）ボランティア活動（スポーツ大会運営）における学生指導

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・第2回オープンキャンパス学科内担当者
・島原高校進学説明会　出張講義
　⇒当日参加生徒が、第3回オープンキャンパスにも参加。
・九文高校福祉コース2年生体験学習
・大村城南高校出前授業（2022年10月28日）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	14

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
成年後見制度　市民講演会「暮らしに活かす成年後見制度」	2022年10月4日	アルカス佐世保中ホール	佐世保市、佐世保市社会福祉協議会
令和4年度成年後見制度利用促進事業第1回情報交換会	2022年8月19日	長崎国際大学（オンライン）	佐世保市社会福祉協議会
いきいきコープ長崎理事協議会学習会「暮らしに活かす成年後見制度」	2022年10月19日	三菱記念会館（長崎市）	いきいきコープ長崎
社会福祉法人三省会やまずみ荘　ケアマネジャー試験対策講座講師	2022年8月29日、9月8日	やまずみ荘	社会福祉法人三省会
NPO法人フリースペースふきのとう　連続講演会「国民年金について」	2022年11月26日	佐世保市民活動プラザ	NPO法人フリースペースふきのとう

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉審議会	委員長	2016年4月～	佐世保市長
佐世保市総合計画審議会	委員	2021年4月～	佐世保市長
佐世保市保健福祉審議会　民生委員審査専門分科会	委員	2016年4月～	佐世保市長
佐世保市社会福祉協議会	理事	2017年4月～	佐世保市社会福祉協議会
させぼ成年後見センター運営委員会	委員長	2015年4月～	佐世保市社会福祉協議会

東彼杵町地方創生効果検証懇話会	委員	2018年4月～	東彼杵町長
長崎県介護保険審査会	委員	2018年4月～	長崎県知事
長崎保護司選考会	委員	2012年5月～	法務大臣
佐世保市成年後見制度利用促進協議会	委員	2021年4月～	佐世保市長
社会福祉法人友愛会	評議員	2018年12月～	社会福祉法人友愛会
社会福祉法人一粒の麦の会	苦情解決第三者委員	2019年5月～	社会福祉法人一粒の麦の会
社会福祉法人清風園	苦情解決第三者委員	2015年4月～	社会福祉法人清風園
社会福祉法人宮共生会	評議員	2018年4月～	社会福祉法人宮共生会
いきいきコープ長崎	苦情解決第三者委員	2017年12月～	いきいきコープ長崎

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・NPO法人フリースペースふきのとう　アドバイザー

・大村市選挙管理委員会「票育活動」アドバイザー（大村市・長崎大学・長崎県立大学と共同実施）

・12月3日　佐世保市就労支援協議会　農福マルシェスポーツイベント運営ボランティア（学生と参加）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

学科長として、学科運営のとりまとめに当たった。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

学科長2期目（3年目）に入り、2021年度より導入の本学科新カリキュラムの本格実施、コロナ対策、国家試験対策、学生募集対策等、学内業務、学科運営に没頭した1年となった。そのぶん、研究面がおろそかとなり、論文等の研究成果の公表が全くできずに終わった。

次年度は、国家試験対策とその成果の増進、定員充足、新カリキュラム完成年度を迎えるにあたってのカリキュラムの見直し等の学科業務に、学科教員とタッグを組んでさらに邁進するとともに、最終年度を迎える科研の研究成果公表、現在執筆中の新たなテキストの完成、論文の公表等、学術・研究面での充実を図りたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 大町　いづみ

1．教育理念

きめ細やかな指導により、理解度に応じた学習支援を実施。
学生の学習意欲の向上を第一に自ら学び、自律して考え、行動、実践できる人を育てる。
楽しい大学生活を送る。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
社会福祉総合演習（介護）	15/5(通年)	1	12	⑩
介護総合演習Ⅱ	15/15(通年)	1	8	③⑤⑩⑫
介護総合演習Ⅲ	15/15(通年)	1	14	③⑤⑩⑫
介護実習Ⅰ	30/30(通年)	4	15	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅱ	15/15(通年)	2	8	①⑫
介護実習Ⅲ	30/30(通年)	4	13	④⑤⑦⑪⑫
介護過程ⅢB	15/15(通年)	1	13	④⑤⑦
介護過程ⅢA	15/15(前期)	1	14	①②③⑤⑥⑦⑧
生活支援技術ⅡB	15/15(後期)	1	15	①②③⑦⑨
福祉と緩和ケア	15/4(前期)	1.5	8	②⑦
在宅医療概論	15/1(前期)	2	264	①②⑤⑩⑪
専門演習A	15/15(前期)	1	3	④⑤⑦⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	3	④⑦⑩⑪⑫
介護概論ⅢB	15/15(後期)	2	13	④⑤⑦
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑩⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	④⑤⑥⑦⑩⑫
ホスピタリティとSDGs	15/3(前期)	2	395	④⑤⑥⑦
介護における医療的ケアⅡ	15/15(後期)	2	9	②③⑦⑧
介護概論ⅢA	15/15(前期)	2	14	①
発達と老化の理解Ⅱ	15/10(後期)	2	4	①②③⑥⑨⑩
障がい者スポーツ	15/1(後期)	2	20	⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑪⑫
認知症の理解Ⅰ	15/5(前期)	2	16	①⑨⑩
介護における医療的ケアⅠ	30/30(前期)	4	10	②③⑦⑧⑨⑫
介護過程Ⅰ	15/15(後期)	1	15	④⑤⑥⑦⑨
介護総合演習Ⅰ	30/30(通年)	2	16	①②④⑤⑥⑦⑫
認知症の理解Ⅱ	15/15(後期)	2	25	①⑥⑨⑩
学際連携研究	15/1(前期)	2	218	⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
介護福祉特講	15/15(前期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生による授業評価では、概ね、全教科ともに、平均よりも高い評価であった。しかし、授業の予習（準備）において、学生への周知がうまくいきにくかったことから（学習意欲が低い）いかに、学習に興味、関心を持って取り組むことができるようになるのか、教材や、演習など教育方法の工夫を、さらに進める必要がある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学薬学部	在宅医療実践学	15/1(前期)	2	60
長崎大学薬学部	在宅医療概論	15/1(後期)	2	60
長崎県立大学看護栄養学部看護学科	在宅看護論	15/3(前期)	2	56
長崎県立大学看護栄養学部看護学科	在宅看護論	15/10(後期)	2	60

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策講座（介護福祉士）補習	9	12	2022，12,29,31,2023,1，2，3,10,17,

３．研究活動

(1) 研究テーマ

多職種連携、エンドオブライフケア、在宅看護

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

新型コロナウィルス感染流行時に感染症指定医療機関で働く看護職の精神的健康に関連する要因／2022，12，4／第24回　日本看護科学学会学術集会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター	委員	全学の地域連携センター委員会にて、活動企画、運営、評価　について活動した。自らも、キッズキャンパス活動など、企画運営に参画した。
学科運営委員会	委員	毎月、実施される、学科運営会議にケアワークコース長として参加し、学科内運営に係る活動、企画、運営への検討に積極的に参画した。

倫理委員会	委員	学科内で提出された倫理審査事例について、委員として、倫理的側面から適切に実施ができる内容かについて検討し、倫理的に問題がなく適切に実施できるように文書にて審査した。
ケアワーク委員会	委員長	ケアワークコース内容に係る事案について、毎月定例に開催し、コース内教員で意見交換、情報の共有、検討事項に対する協議等を行い、共通認識の下、教育が適切に行えるように、また、課題に対する早期解決ができるようにコース運営、コース内学生についての教育等について検討した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

2023年度からの手話サークル立ち上げに向けて準備を整えた。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

ケアワークコース内、ゼミ活動誤などについて、積極的に代がKホームページから活動内容を発信した。
2022年度、大町からの学科についてのホームページでの広報活動発信回数6回。大学祭（開国祭）では、
映画上映時、学科広報ブースを設け、学科内の情報を発信した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
7	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
認知症サポーター養成講座の開催（3回実施）	2022,11,12,2023,1,20,3,9	長崎国際大学	佐世保市長寿社会課
訪問看護師養成講習会講義	2022,10,10,12,4	長崎県看護協会研修センター	長崎県看護協会
第36回日本母乳保育学会座長	2022,9,17	長崎大学医学部記念講堂	長崎大学医歯薬学総合研究科小児科学森内浩幸教授
九州文化学園高等学校福祉科2年生1日体験学習	2023,3,9	長崎国際大学	九州文化学園高等学校福祉科

九州文化学園小・中学校　中学1年生「福祉学科紹介」出前講座	2023,3,16	九州文化学園小・中学校	九州文化学園小・中学校
九州文化学園小・中学校　小学4年生「福祉体験」出前講座	2023,3,20	九州文化学園小・中学校	九州文化学園小・中学校
E-FIELD（厚労省委託事業人生の最終段階における医療体制整備事業）相談員研修会講師	2023,2,5	長崎大学	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療学・永田康浩

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県看護協会運営委員会	理事・助産師職能委員長	2022,4～2022,6	長崎県看護協会
介護福祉士養成大学連絡協議会	理事・介護福祉士国家試験対策委員会	2022.6～継続中	介護福祉士養成大学連絡協議会
長崎県介護福祉士養成施設連絡協議会	代表者	2022,4～継続中	長崎県介護福祉士養成施設連絡協議会
佐世保市小値賀町介護認定審査委員会	委員	2021,4～継続中	佐世保市長寿社会課
第36回母乳保育学会実行委員	委員	2022,4～2022,9	長崎大学医歯薬額総合研究科小児科学森内浩幸

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

すべての委員会では、代表者、委員として、積極的に活動、企画等に参画した。次年度も介護にかかわる環境整備、教育支援など積極的に活動していく。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

学会企画、運営については委員として参加した。今後は、学会の誘致や国際学会開催に向けて、積極的に活動していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 齊藤　晋治

1．教育理念

大学教育は人間の人格的発達における重要な時期である。一般的な知識を身に付けた上で専門領域の学びを深め，一方で自分自身の発見を行いつつ，個々のアイデンティティの形成を図ることが重要であると考えている。そのため，在学中に学生がどのように変化し，結果として何を獲得したのかという点に着目しながら，専門職養成にいて，理論と実践を融合させるための教育に力を注ぎたいと考えている。特に自分の考えを自身の言葉で語ることができるようになるためにアクティブラーニングを取り入れつつ，常に志向を止めず想像力を働かせるような教育実践を目標とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
精神保健福祉援助実習Ｂ	15/0(通年)	5	5	①⑥⑦
精神保健福祉の原理Ⅱ	15/15(後期)	2	17	①②④⑤⑥⑧⑨
精神保健福祉援助演習（専門）Ａ	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑩
共通福祉演習	15/2(後期)	1	48	①②⑤⑥⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	3	①⑤⑥⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	3	①⑤⑥⑩
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡＡ	15/15(前期)	2	7	①⑤⑥⑩
精神保健福祉援助演習（専門）Ｂ	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑩
精神保健福祉援助実習指導ⅡＡ	15/0(前期)	1	6	①⑥⑦
精神保健福祉援助実習指導ⅡＢ	15/0(後期)	1	5	①⑥⑦
精神保健福祉の原理Ⅰ	15/15(前期)	2	19	①②④⑤⑥⑨⑩
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡＢ	15/15(後期)	2	6	①⑤⑥⑩
現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	15/15(前期)	2	34	①④⑤⑥⑩
現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	15/15(後期)	2	33	①④⑤⑥⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
障害者福祉	15/15(前期)	2	54	①④⑩
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠＢ	15/15(後期)	2	6	①⑤⑥⑩
精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅠＡ	15/15(前期)	2	7	①⑤⑥⑩
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅰ	15/5(後期)	1	7	①⑥⑦
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	15/5(後期)	1	6	①⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
精神保健特講	15/15(前期)	2	3
事例研究（精神保健）	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは科目によって評価のばらつきがあり、担当科目の得手不得手や初めて担当する科目か同課によって評価が分かれていた。

回数るを重ねることにより、内容をブラッシュアップしていき高評価が得られるような科目としていきたいと考えている

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（１）Webを活用したソーシャルワーク実習プログラム・実習教材の開発・運用・評価

（２）精神保健福祉士の資質向上を促進するキャリアラダー開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

他大学及び専門職団体との連携による精神保健福祉援助実習岳寧実習の試み／2023/01／純心現代福祉研究第27号／不明／共著／報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
人間社会学研究科	社会福祉学専攻長	人間社会学研究科社会福祉学専攻長を担い、専攻会議の運営に携わった。
人間社会学研究科学務委員会	委員	人間社会学研究科教授会開催にあたり、委員として教授会審議・報告内容の検討を行う。
IR委員会	委員	毎月開催される委員会への参加やアンケート結果に対する学科の意見集約などをおこなった。
図書委員会	委員	図書館に関する図書選定などをおこなった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
学科運営委員会	委員	学科会議の議題を検討する会議に参加
コース長会議	委員	学科での課題をまとめ、今後の学科の方向性を検討する会議に参加
メンタルヘルスコース会議	コース長	メンタルヘルスコースについて毎月の課題や進捗状況を確認するための会を運営

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
精神保健福祉士国家試験委員会	９回	東京	社会福祉振興・試験センター

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市社会保健審議会	委員	令和３年４月～現在	佐世保市
佐世保市障害福祉審議会	委員	令和３年４月～現在	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度より人間社会研究科社会福祉学専攻長を担うこととなり、新しい役割に緊張感をもって臨めた１年であった研究については分担研究者としてある程度の成果が求められる状況であったが、細々と進めている状況となっている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 坂本　雅俊

1．教育理念

本学の教育理念を実現するために全力でパフォーマンスを尽くす。
本学の矜持を体得した社会福祉人材を世界に送りだし、真の地域貢献の目的を達成する。
社会福祉学専攻において、社会福祉学の高度・先端研究者を育成する。
ボランティア活動や審議会活動等に取り組み、社会貢献する。
学生主体の授業や課外活動を通して、学生の人格的発達に寄与する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
社会福祉現場実習指導	15/15(前期)	1	1	⑦
社会福祉現場実習	30/30(前期)	2	1	⑦
相談援助実習	30/30(通年)	4	4	⑦⑫
生きがい情報士実習	30/30(通年)	1	6	⑦⑪
ボランティア論	15/15(通年)	2	124	②⑦⑩
相談援助の理論と方法ⅡB	15/15(後期)	2	60	①④⑤⑨⑩
ソーシャルワークの理論と方法（共通 ） Ⅰ	15/15(後期)	2	1	①④⑤⑨⑩
卒業研究	30/30(通年)	4	7	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	5	①④⑥
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	4	①④⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	2/15(前期)	1	37	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	2/15(後期)	1	37	⑧⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	②④⑥⑦
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	②④⑥⑦
健康・生きがいづくり総論	8/8(前期)	1	35	①②⑨
スクール（学校）ソーシャルワーク演習	1/15(後期)	1	8	①⑤⑥⑩
ソーシャルワーク演習（社会） Ⅰ	15/15(前期)	1	14	④⑤⑥⑦⑩
ソーシャルワーク演習（社会） Ⅱ	15/15(後期)	1	13	④⑤⑥⑦⑩
ソーシャルワークの理論と方法（共通 ） Ⅰ	15/15(前期)	2	88	①④⑤⑦⑨⑩
保健医療と福祉	15/15(後期)	2	90	①②⑥⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	3	②④⑥⑦
専門演習B	15/15(後期)	1	3	②④⑥⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
高齢者福祉特講	15/15(後期)	2	2
高齢者福祉特講	15/15(後期)	2	1
事例研究（高齢者福祉）	15/15(前期)	2	1
特別研究	15/15(通年)	8	-

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

ソーシャルワークの理論と方法（共通） Ⅰでは、板書や熱意については4.0、興味は3.6である。満足は3.5である。学生の興味と国家試験科目として小テスト作成のアクティブラーニングが負担となっている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者福祉支援論　　子ども学習支援ソ0シャルワーク　医療ソーシャルワーク論

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

保健医療と福祉／共著・編著／2022年9月30日／ミネルヴァ書房／48ー58

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員長	年2回、4学科担当者及び佐世保市から外部委員を招聘し、倫理委員会を開催した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外

2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
SDGｓ会議あらお　市民のつどい	10月16日（日）	荒尾市メディア交流館	社会貢献事務所よかばい荒尾

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県国土利用計画審議会	委員	令和4年4月～令和5年3月	長崎県知事
佐世保市国民保険運営協議会	委員	令和4年4月～令和5年3月	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

NPO法人フリースペースふきのとう　年間を通してボランティア活動

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

新カリキュラム科目「保健医療と福祉」「ソーシャルワークの理論と方法」など、厚労省が示した授業内容を社会福祉士養成課程において授業を行った。一方では、画一的な教育を学生に対して行うことへの不安もあった。本来、自由に思考する方法を考え出す場である大学での教育が、十分に展開できない不自由さを改めて認識した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 中村　龍文

1．教育理念

すべては基本から → 基本の徹底的な習熟を目指した教育

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
障害の理解Ⅰ	10/15(前期)	2	24	③⑤⑨⑩
福祉と緩和ケア	3/15(前期)	1.5	8	②⑦
医学概論	15/15(前期)	2	57	①②③⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	7	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
発達と老化の理解Ⅰ	5/15(前期)	2	6	①②③⑩
加齢と障害に関する理解	7/15(後期)	2	17	③⑤⑨⑩
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	37	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	37	⑧⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	④⑤⑥⑦⑪⑫
発達と老化の理解Ⅱ	5/15(後期)	2	4	①②③⑩
認知症の理解Ⅰ	10/15(前期)	2	16	①⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域医療・保健特講	15/15(前期)	2	2
地域医療・保健特講	15/15(前期)	2	3
特別研究指導Ⅲ	30/30(通年)	4	0
特別研究指導Ⅲ	30/30(通年)	4	－

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度の授業アンケートは、前期・医学概論、後期・加齢と障害に関する理解で、その評価を受けた。今年度は、対面授業で講義を行った。前者については、回答率39.1%で、低い回答率であった。学生にとって難解とされる医学関係の講義であり、一度聞くだけでは中々理解できないことがあると思われるので、視覚からと聴覚からの双方からの情報を活用し、繰り返しその講義を聴いて、予習・復習が容易に出来る環境を整備した。しかし、学生の理解度を深めるためには、更なる工夫が必要であることを痛感している。「プリント配布希望」があった。詳細な講義資料をマナバで配布していて、それで十分と考えていたが、やはりこれについては「ペーパーレス時代」ではあるが再考する余地があると考えられた。後期については、回答率は47.1%であり、これも低い回答率であった。ここでも視覚からと聴覚からの双方からの情報を活用し、繰り返しその講義を聴いて、予習・復習が容易に出来る環境を整備した。詳細な評価は難しい所であるが、質問12、13での回答者の半数以上で４以上の評価であったことより、ある程度は私の講義は受け入れられたものと考えられる。しかし、その他のそれぞれの項目で3や2の評価があったことに対しては更なる工夫が必要であることを痛感している。学生は積極的にマナバに準備された講義資料を十分に活用し、講義に臨んで欲しいと考える。そうすれば、理解度も高まり、医学の面白さを自分のこととして実感出来るようになると考える。いずれにせよ今後、もしどこかで講義をするような機会があれば、これまでに学生達から受けてきた、多くの批判を参考にして、講義を構成し、臨んでいきたいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験合格支援講座1)	1	37	2022/6/16
国家試験合格支援講座2)	1	37	2022/10/18
国家試験合格支援講座夏季集中講座	1	37	2022/9/6
国家試験合格支援講座冬季休暇学修	1	37	2022/12/26

３．研究活動

(1) 研究テーマ

HTLV-1関連脊髄症の病態解明と治療法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	20万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
厚生労働科学研究費補助金	厚生労働省	2022/4/1 - 2023/3/31	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	なし
人間社会学部社会福祉学科倫理委員会	委員長	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外

2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県指定難病審査会	委員	2019/1/1　～　現在	長崎県知事
社会保険診療報酬請求書審査委員会	審査委員	2015/6/1　～　現在	公立学校共済組合長崎支部長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

PubMed掲載の国際誌からの査読依頼が18編あり、すべてに対応した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は本学勤務における最終年度であった。今年度も昨年に引き続きコロナ禍の状況とはいえ、全体的に活動性・生産性の低い年度となった。今後は、本大学在籍の9年間の間に培われた貴重な経験を生かして、今後の職場で活動して行きたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 教授　　氏名 柳　智盛

1．教育理念

私は社会的な弱者といわれている人への支援をしていくためにその仲間を広げていきたい。特にさまざまな「障がい」をもって生きていく方々の心理的支援を目指している。また、長崎国際大学の理念の中には「人間尊重」を基本理念とし「ホスピタリティ」の獲得を目指すことが謳われていることから、人を支援する際の相手を尊重することは支援者として身に付けなければならない重要な課題である。このような観点からの教育あるいは授業において我々の教員に課せられた重要な課題であることといえよう。

大学教員としての私の役割は、学生が支援者の立場のみならず、人と関わる際に相手を尊重し、ホスピタリティ精神をもって関わることができるか、その際、専門的知識と高い技能及び社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を身に付けることができるかについて教育の場で常に考えながら学生に働きかけていきたい。このような役割を果たしていくための基本的な教育理念として次の2つをあげる。

一、私の専門領域である心理学（臨床心理・障がい児者心理、教育心理）の分野における知限を広く紹介し、学生の実践的な課題に役立てられるように手助けする。

二、「人間尊重」を身に付け、相手の立場に立って接することができる力を持てるような授業を目指すことを心掛けたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	90/90(通年)	4	6	⑦⑫
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	30/30(通年)	2	35	⑦⑫
事前・事後指導	2/8(通年)	1	7	④⑦
教育実習Ａ	60/60(通年)	4	7	④
障害の理解Ⅰ	5/15(前期)	2	24	③⑤⑨⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	5	⑤⑦⑩⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	5	⑤⑦⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
障害の理解Ⅱ	5/15(後期)	2	18	③⑤⑨⑩
加齢と障害に関する理解	8/15(後期)	2	17	③⑤⑨⑩
相談援助実習指導ⅡＡ	15/15(前期)	1	6	①④⑥
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	12	①⑤⑥⑦
相談援助実習指導ⅡＢ	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	37	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	37	⑧⑨
教職実践演習(栄養教諭)	1/15(後期)	2	5	⑤⑦⑩⑪
教職実践演習(中・高)	1/15(後期)	2	8	⑤⑦⑩⑪
教育心理学	15/15(前期)	2	18	③⑤⑩
心理学	15/15(前期)	2	51	③⑤⑦⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
発達心理特講	15/15(前期)	2	4
事例研究（発達心理）	15/15(後期)	2	1
特別研究	30/30(通年)	8	1

福祉と心理特別演習	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業アンケートにおいては、「心理学」「教育相談」「教養セミナー」「専門演習B」「相談援助実習指導ⅡB」の授業科目についてアンケートを実施した。満足度の平均が3.9～4.7の結果であった。全学共通科目でありながら社会福祉士国家試験の指定科目の「心理学」とセミナー科目である「教養セミナーソー」は、大学の導入期でもあり、大学での学修と大学生活に慣れていくことも意識して指導を行った。また、シャルワークに関するより専門的な内容で展開していたことで、少し難しい内容であったにも関わらず、受講生が高い興味関心を持って授業に臨んでいたことから授業の展開はしやすかった印象を持っている。特に、福祉学科専門科目においては社会福祉士といて専門職を目指す学生に必要とする支援の基本的な技法についても自ら気づき自己覚知ができるようなワークを行うことで、学生個々の意見を述べさせることで授業への意識・意欲が向上できたと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学園	心理学	15/15(後期)	2	35
九州文化学園調理師専門学校	高齢者心理	3/15(後期)	2	16

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１．障がい児・者への臨床心理学的援助における援助者のセルフモニタリング

脳性まひや発達障害児・者への臨床心理学的アプローチとしての臨床動作法援助場面において援助者の認知的プロセスとしてセルフモニタリングを修正・展開していくことによって、より効果的で適切な援助に繋がることである。

２．発達障がいを伴う子どものためのグループセラピーとプログラムの改善

アスペルガー障がい・高機能自閉症・ADHDなどの発達障がい児のグループにおいて、集団プレイセラピーや心理劇を用いて、同年代他児への接近と自己主張の調整を促し、対人関係の経験を増やしていくことで、失敗体験の積極的回避・対人志向性の質的変化を促していくことである。そのため、グループセラピーのプログラムには①自身の感情をコントロールすることで周囲の状況や他児の気持ちに注目し、②その中で対人的な意識を引き出すことや、③お互いの気持ちや意見、行為を協調させながら一つの活動に協力して取り組むことを通して、④同年代集団における一体感、達成感、被受容体験といった肯定的な体験を促すことを目的としたプログラムの改善を試みた研究である。

３．高等教育における障がい学生への支援

障害者差別解消法の施行に伴い、高等教育機関においてさまざまな障がいを持つ学生の教育を受ける権利を保障するための体制及び支援について模索していくことが研究の目的である。特に、高等教育における合理的配慮の考え方やサポート体制の一つであるピア・サポートの活用方法を確立していくことである。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	70万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
NIUピア・サポート活動によるSDGsの実現Ⅱ―目標4・10の実現	令和4年度長崎国際大学学長裁量経費	2022.5～2023.3	30万円

WEB回答システムを活用した要支援学生の早期支援体制の整備	令和4年度長崎国際大学学長裁量経費	2022.5～2023.3	40万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務委員として全学及び学科のカリキュラムの編成や調整などの検討を行った。
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員長・副センター長	全学的な学生支援の体制づくりのため、FD・SDの企画、ピア・サポート運営に携わった。また、合理的配慮面談や検討会議への出席・審議を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程履修・実習などについて検討・改善を図った。
教育基盤センター運営委員会	委員	本学の教育の質の向上に向けて検討・改善を図った。
学科運営委員会（社会福祉学科）	副学科長	社会福祉学科の運営に係る事項に関する審議検討のための準備に携わった。
社会福祉学科学生支援委員会（社会福祉学科）	委員長	社会福祉学科内のSA運営、特別奨学金制度利用学生への支援などに関する事項の総括を行った。
ソーシャルワークコース運営委員会（社会福祉学科）	委員	ソーシャルワークコースの運営や主に障害福祉分野の実習に関する検討・改善を図った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
障害学生就職支援ワーキングチーム	代表	社会福祉法人南高愛隣会と本学の障がい学生支援部署及びキャリアセンターのメンバーで高等教育機関における障がい学生キャリア形成及び就職支援について検討を行った。

(3) 課外活動の指導等

長崎国際大学のピア・サポート執行部（NPS執行部）の運営やピア・サポーター学生の研修などを行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

「夢ナビライブ2022福岡」のウェブ開催にて、高校生を対象に大学講義の体験を通して本学について紹介した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
特別支援教育コーディネーター基礎研修講座	2022年6月27日	長崎県教育センター	長崎県教育センター所長
西九州大学・西九州大学短期大学部合同FD研修会	2022年6月2日	オンライン開催	西九州大学学長
大学コンソーシアム石川「障がい学生支援セミナー」	2023年2月27日	オンライン開催	公益社団法人「大学コンソーシアム石川」会長

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市いじめ防止対策推進委員会	会長	2022年7月17日～現在に至る	佐世保市教育委員会教育長
九州大学附属総合臨床心理センター	センター研究員	2022年4月～2023年3月	総合臨床心理センター長
LOCAL STATION PLUS「運営推進会義」	委員	2024年4月～現在に至る	社会福祉法人南高愛隣会理事長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①2015年4月～現在に至る／佐世保市学習支援会／学習支援ボランティア学生の募集の取りまとめ役／佐世保市生活福祉課学習支援委員会

②2015年4月～現在に至る／九文事例検討会／アドバイザーとして参加／九州文化学園所属教職員

③2015年4月～現在に至る／自閉症児の余暇活動／活動企画者及び相談役として参加／長崎県自閉症親の会佐世保支部

④2022年4月～2023年3月／Reaching out to People（難病患者の会）／委員／佐世保地域リハビリテーション広域支援センター・Reaching out to People2022実行委員会

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度の学生指導においては、4年5名、3年5名の指導を行った。卒業論文では、各学生の興味がある専門領域に深く踏み込んだ内容で指導することができた。その内1名は、配慮が必要な学生に対し、ゼミ時間外での個別指導を通して卒論研究論文を提出することが出来た。また、4年生の内に3名が社会福祉士国家試験に挑戦し、2名が合格した。その内1名は精神保健福祉士、もう一人は介護福祉士とのダブル合格した。

全学的業務においては、CHサポートセンター運営委員会副委員長及び学生相談室長として、心理学の本来の専門領域を生かせて、学内の学生支援及び障害学生への支援体制の構築に携われたことは大きな収穫となった。特に今年度は、大学全学のピア・サポート体制がCHサポートセンターを中心に運営されるようになったことで、本学の障害学生の支援体制が充実されたことは大きな収穫となった。

社会活動としては、昨年度の引き続き「佐世保市いじめ防止対策推進委員会」の委員長として、佐世保市立の小中学校で起きる様々な事案について委員会内での検討を行った。

個人の研究活動として、今年度は学長裁量経費プロジェクトの一環として、本学の学生支援の現状や支援体制に向上の向けたＦ

Ｄ・ＳＤを企画実施し、障がい学生支援として取り組んでいる活動を通して、NIUピア・サポートによるSDGsの目標4【教育】と目標10【不平等】を実現に向けて取り組んだ。さらに、学内のバリアフリーマップの修正作業を学生らと取り組み改訂版のバリアフリーマップを発行することができた。全在学生のこころの健康を支援するための「WEB回答システムを活用した要支援学生の早期支援体制の整備」は図るための取り組みを行った
社会福祉学科においては、副学科長として学科長を支えることがきたことは、貴重な経験となったが、学科業務と研究をより効率的に遂行するため、研究活動をより計画的で積極的に取り組み大学教員としての教育・研究・社会活動のバランスを図っていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 梅野　潤子

1．教育理念

授業や研究指導等の知的活動を通して、社会福祉専門職として必要とされる能力を学生が自律的に開発することができるように促し、その環境を整えることを教育理念としている。より具体的には、以下の点を重視して教育に取り組んでいる。

・社会福祉専門職として必要とされる能力を、学生自身が身に付けるプロセスを重視する。
・一つひとつの学修の意味を学生自身が理解し、実践できるようにする。
・具体的な学修活動を通して、価値・知識・技術を体得する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
スクール（学校）ソーシャルワーク実習	15/15(前期)	2	3	⑩
相談援助実習	30/30(通年)	4	6	⑥⑦
共通福祉演習	15/3(後期)	1	48	②⑥⑦⑩
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	6	⑥⑦
卒業研究	30/30(通年)	4	5	⑥⑦
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	7	⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	15/3(前期)	1	37	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	15/3(後期)	1	37	⑧⑨
相談援助演習ⅢA	15/15(前期)	1	16	⑥⑦
ソーシャルワーク実習の理解	15/5(前期)	1	62	⑥⑦
スクール（学校）ソーシャルワーク演習	15/15(後期)	1	8	⑥⑦
相談援助演習ⅢB	15/15(後期)	1	16	⑥⑦
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	13	⑥⑦
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	11	⑥⑦
専門演習A	15/15(前期)	1	4	⑤⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	5	⑤⑩
スクール（学校）ソーシャルワーク論	15/15(前期)	2	14	⑩
児童・家庭福祉	15/15(前期)	2	61	②
スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導	15/15(前期)	1	3	⑦
学際連携研究	15/1(前期)	2	218	②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
家族・児童福祉特講	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業評価アンケートでは、各科目ともに5段階中5～4段階の評価を得ており、受講生からは概ね高い満足度を得ている。授業改善のため、各科目の受講生の要望を聴いたうえで授業内容に反映するとともに、小レポートなどにおいても随時、興味関心や理解度を把握している。今後も同様の取り組みを継続し、受講生のニーズに即した授業内容を提供したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士追加学修時間	10	37	2022年4月6日、6月9日・14日、7月28日、9月5日、10月26日、11月18日・22日、12月13日・23日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

・ソーシャルワークプロセスにおける子どもの参加促進に関する研究

・ソーシャルワークにおけるICT活用に関する研究

・地域における児童福祉実践研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	2	1	3	1	1	429万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

社会福祉士養成における情報通信技術(ICT)活用教育に対する一考察／2022年4月／日本情報経営学会誌第42巻第1号／36-43頁／共著／論文

児童福祉用語の標準化の必要性ー子どもを中心とした地域支援を目指してー／2023年3月／長崎国際大学論叢第23巻／71-81頁／単著／論文

「こども基本法」により子どもへの支援はどう変わるのか／2022年9月／ながさきのふくし第22号／2-3頁／単著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

利用者指向の情報システム構築に関する一考察ー児童養護施設における記録の電子化活動の評価ー／2022年6月25日／日本情報経営学会第83回全国大会

タイムスタディによる児童福祉司の業務分析ー子どもの参加を指向したアセスメントシステム構築のためにー／ 2022年7月10日／日本社会福祉学会九州地域ブロック第63回研究大会

子ども主体アセスメントシステム構築に向けた一試論 ータイムスタディから得た示唆ー／ 2022年7月10日／日本社会福祉学会九州地域ブロック第63回研究大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費助成事業 基盤研究(C)	日本学術振興会	2020年4月～2023年3月	429万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	各種入試における書類審査・監督業務・面接を担当した。また、オープンキャンパスにおいては学科プログラムを運営した。
社会福祉学科国家試験合格支援委員会	委員長	社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の国家試験合格率に資するため、合格支援プログラムの立案・運営・評価に関する統括を行った。
入試作問担当者（国語）	責任者	一般入試2回分の問題の作成、及び校閲を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

佐世保市青少年教育センター「メンタルフレンド」事業　学内担当者

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

国家試験合格支援に関する記事を作成し、大学ホームページに掲載した（合格支援プログラム開始、模擬試験実施、国試実施報告）。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
諫早市要保護児童対策地域協議会代表者会議「すべての子どもが自分の人生を歩むために地域の大人にできること～ヤングケアラーの育ちを考える～」	2022年8月9日9日	諫早市すくすく広場	諫早市子育て支援課
令和4年度 佐世保市教育センター課題研修「子どもの心配を支援につなげる～外部機関との連携～ 」	2022年8月18日	佐世保市総合教育センター	佐世保市教育センター
令和4年度 児童福祉司任用前講習会・任用後研修「子どもの育ちのニーズを満たすソーシャルワーク～アセスメントから支援計画へ～ 」	2022年8月26日	県北振興局	長崎県こども家庭課
佐世保地域支え合いセミナー「地域共生社会の実現に向けたふくし教育～子どもの参加と協働を目指して～」	2022年12月2日	アルカス佐世保	佐世保市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市子ども・子育て会議	委員／分科会長	2020年～現在	佐世保市子ども政策課
佐世保市社会福祉協議会ふくし教育推進委員会	委員長	2020年～現在	佐世保市社会福祉協議会
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP) こども育成専門委員会	委員	2020年～現在	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)
児童相談体制強化のためのスーパーバイザー・アドバイザー	スーパーバイザー	2021年～現在	長崎県こども家庭課
日本社会福祉学会九州地域ブロック第63回研究大会実行委員	実行委員	2021年～現在	日本社会福祉学会九州地域ブロック

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

前年度までコロナ禍により研究の進捗が遅れていたが、今年度においては学会発表、研究会、論文投稿を行うことができ、一定の成果を得ることができた。教育においては、学科の主要な専門職要請科目を担当するとともに、国家試験合格支援プログラムの統括を行った。学内においては、入試・募集委員を担当し、地域においては各種委員や研修活動によって専門職育成に貢献した。

次年度も、今年度の実績を踏まえて各方面での役割を果たしていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 大畠　啓

1．教育理念

私の教育理念は、社会的存在として人間を理解する視点を身につけることである。具体的には、人間をその置かれた社会的な環境（経済的・政治的・文化的環境および社会関係の総体）から捉える視点を獲得することである。

複雑で不透明な現代社会を生きる学生にとって、自分と社会とのつながりは容易には見えてこない。我々の目の前に広がっているのは、〈私〉に閉じこもりがちな学生の経験の世界であり、そこに幽閉された学生は、「社会」をリアルに経験できない。この個人化された世界に相対し、馴染んだ「見えないもの」を見えるようにするなかで、自分が抱え込んでいる困難さを生み出す仕組みを明らかにするのが、私の教育理念である。よって授業では、国家試験を念頭に置いて学生の感想や質問に口頭で答えるフィードバックの他に、講義の中に意見表明の場やペアワークなどアクティブラーニングを組み込む授業方法を用いて、自己表現や主体性を育む方法論を重視している。それらを通じて学生には、考え方の違う他者と協働する困難と同時に喜びを、学んでほしいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	15/15(通年)	4	5	⑦⑫
共通福祉演習	3/15(後期)	1	48	①②⑤⑥⑩
専門演習B	15/15(後期)	1	2	⑥
卒業研究	30/30(通年)	4	9	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
社会の理解	15/15(後期)	2	6	②
社会福祉の原理と政策Ⅰ	15/15(前期)	2	70	②
相談援助実習指導Ⅰ	15/15(後期)	1	11	①⑤⑥⑦
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	5	①④⑥
社会福祉の原理と政策Ⅱ	15/15(前期)	2	50	②
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	37	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	37	⑧⑨
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	⑥
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	7	⑥
社会福祉の原理と政策Ⅱ	15/15(後期)	2	60	②
障がい者スポーツ	1/15(後期)	2	20	⑪
社会学概論	15/15(前期)	2	164	②⑤
専門演習A	15/15(前期)	1	2	⑥
社会学	15/15(後期)	2	178	②

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
まちづくりマネジメント特講	8/15(前期)	2	3
社会福祉調査特講	15/15(前期)	2	1
社会福祉調査特講	15/15(前期)	2	1
人権思想・社会福祉史特講	15/15(後期)	2	3
事例研究（社会福祉調査）	15/15(後期)	2	1
事例研究(人権思想・社会福祉史)	15/15(前期)	2	1
特別研究	30/30(通年)	8	-
社会福祉思想特別演習	15/15(後期)	2	2

特別研究指導Ⅰ	30/30(通年)	4	-

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度学部・大学院では、昨年度とほぼ同様の授業を担当した。今年度はコロナ禍対応のため、座学の授業では対面と遠隔授業のハイブリッド形式を取った。遠隔授業である「社会学概論」では、オリジナルに作成したプリントをポートフォリオに添付して、それを読んでもらい、感想をポートフォリオに提出させ、それを材料に次回のプリントを作成するというフィードバックの形式をとった。「障がい者スポーツ（オムニバス）」は、今年度も取りまとめを担当し、コロナ禍において外部講師の日程調整を適切に行った。「社会福祉の政策と原理ⅠⅡ」でも、国試問題を用いた知識定着のための小テストを毎回実施した。「社会の理解」は対面形式の授業が好評であった。「卒業研究」と「専門演習AB」「専門基礎演習AB」では、できるかぎり意見交換の時間を取り、教員と学生、学生間の相互理解が深まるよう務めた。大学院の科目は遠隔授業においても院生に資料作成を義務づけ、その資料をもとに丁寧に指導することを心掛けた。今年度は主指導の形で担当する院生がいたため、調査のスキルと知識を伝達するのに多くの時間とエネルギーを費やした。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	社会学	15/15(後期)	1	70

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

社会学（現代ドイツの社会理論、福祉専門職論）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
広報委員会	副委員長	学科のために広報催事を企画し、学生募集に貢献した。
入試募集委員会	委員	学科のためにOCを企画し、学生募集に貢献した。
作問委員会	委員	入試問題を作問した。
人間社会学研究科研究倫理委員会	委員長	人間社会学研究科の研究倫理審査を取りまとめた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

龍谷高校進路ガイダンス参加/2月21日/場所:佐賀龍谷高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和4年度性教育講話	9月7日	長崎県立鹿町工業高校	長崎県立鹿町工業高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会運営委員会	委員	平成29年度～現在に至る	佐世保市
佐世保市地域福祉計画推進委員会	委員	令和2年度～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

勤務9年目。コロナ禍に対応する遠隔授業の数が大幅に減ったため、準備に費やすエネルギーと時間はかなり節約することができた。ただ来年度以降は、学科のコース制移行や社会福祉士のカリキュラム改正を受けて、授業準備に多くの時間を取られることが予想される。本年度の経験を活かして、授業の準備作業や運営をスムーズに行いたい。コロナ禍のもと、運営に苦慮してきた「障がい者スポーツ」とOCも、今年度は昨年の経験を踏まえスムーズに運営することができたと自負している。研究面では学会誌に論文を投稿することはできなかったが、週間書評誌の『図書新聞』に専門書籍の書評を掲載することができた。今年運営委員長として新たに担務した「コミュニティーコース」の運営であるが、来年度に始まるコースの授業準備を手探りで進めている。今年労力を最も要したのは、大学院の研究倫理委員長業務である。慣れない業務が年度の前期に集中し、時間とエネルギーを多く費やした。広報委員としては、学科のトピックスニュースの掲載本数が今年も20本を超えたこと、三つの広報催事を実行でき、そのうち一つはテレビと新聞の取材を受けたことを素直に喜びたい。コロナ禍や緊縮財政の中、教員の数も減少し厳しい学科運営が続くが、来年度も正副学科長を適切にサポートし、学科に課せられた諸目標（定員充足、国家試験の受験者数と合格者数、合格率の増大など）の達成を目指したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 野田　健

1．教育理念

私の教育理念は、一緒にひたむきに何事にも取り組むことで培われる『福祉マインドの醸成』にある。そして、それをカタチにするために必要だと考えられる①他者のぬくもりや苦しみを「感じる力」、社会や他者の視点から「考える力」、自分の考えを「発信する力」の3つの力を高めていけるよう働きかけることが、私の教育者としての務めである。

こうした考えになったのは、私自身がカタチにしたい次の3つの言葉と出逢ったからである。まず1つ目は、大学時代に学んだ『共生』である。この言葉は、誰かの“ため”ではなく、“ともに”生きることの大切さをを教えている。2つ目は、介護職員時代に教わった『人間大好きになれ、笑顔を絶やすな、感謝の気持ちを忘れるな』である。これは、社会福祉事業を立ち上げ、地域の方々を救おうとした僧侶が、職員だけでなく出逢った方々がともに心掛けるべき言葉として挙げたものである。そして、3つ目は、専門学校教員時代に学生との歩みから生まれた『ハートのある人になる～手と手をつなごう～』である。将来、介護福祉士になることを志す若者とともに、地域とつながって、そこでのふれあいから成長していくこと過程をスローガンにしたものである。

これらの言葉を実際に行動・態度で表すならば、上記した3つの力を使い、他者と一緒に、ひたむきに、目の前にある事象に応えていくことが求められる。今現在、私自身がそれに努めているところであるが、それを「やって見せ、言って聞かせてさせてみて、誉めていく」ことで、『福祉マインドの醸成』を図れると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	90/90(通年)	4	8	⑦⑫
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	30/30(通年)	2	35	⑦⑫
就労支援サービス論	8/8(前期)	1	50	①⑥⑨⑩⑫
相談援助の基盤と専門職Ｂ	15/15(後期)	2	11	①⑥⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	7	⑥⑦⑫
ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）	15/15(前期)	2	46	①⑥⑨
ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）	15/15(後期)	2	44	①⑥⑨
相談援助実習指導ⅡＡ	15/15(前期)	1	7	④⑤⑥⑦⑩⑪
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	10	④⑤⑥⑦⑩
相談援助実習指導ⅡＢ	15/15(後期)	1	8	①④⑤⑥⑦
社会福祉総合演習（福祉共通）	15/3(前期)	1	37	⑧⑨⑫
社会福祉総合演習（福祉専門）	15/3(後期)	1	37	⑧⑨⑫
福祉経営論	15/15(前期)	2	60	②⑫
福祉の哲学・倫理	15/15(後期)	2	12	①②⑤
ソーシャルワーク実習の理解	15/15(前期)	1	62	①②④⑥⑦⑪
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	13	④⑤⑥⑦⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	10	④⑤⑥⑦⑩
相談援助の基盤と専門職Ａ	15/15(前期)	2	9	①⑥⑨
専門演習A	15/15(前期)	1	6	⑥⑦⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	6	⑥⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
福祉政策経営特講	15/15(後期)	2	4
福祉政策経営特講	15/15(後期)	2	2
事例研究(福祉政策経営)	15/15(前期)	2	1
特別研究	30/30(通年)	8	－

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期「ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）」「相談援助実習指導ⅡA」、後期「ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）」「相談援助実習指導ⅡB」の授業アンケートを実施し、いずれの科目も満足度は概ね4.5点であった。

授業の改善点はそれぞれの科目で異なるが、学生の授業への関心をどのように引き出していくか、学生一人ひとりとどのように深くコミットメントしていくかが重要であると考える。今後も授業の資料や内容を改善していくことを続けていくが、合わせて学生一人ひとりとの向き合い方に着目し、学生と一緒に授業を作りだしていくことに着目し努力することが求められる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援（追加学修時間、夏季集中講座）	15	37	6/23,7/14,7/21,9/9,9/16,10/25,11/1,11/15,11/25,12/6,12/13

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①介護福祉士の専門職性の検証

②社会福祉士養成における実習指導のあり方に関する研究

③ボランティア体験による学生の成長に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

新カリキュラムにおけるソーシャルワーク実習教育のあり方に関する研究 ー実習指導者の実習教育の体制整備及び実習教育への期待や思いに関するアンケート調査結果からー／2023年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要 第18号・第19号（合併号）／10頁～21頁／共著／論文

コロナ禍における長崎国際大学社会福祉士養成課程の相談援助実習に関する実施報告／2023年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要 第18号・第19号（合併号）／67頁～78頁／共著／実践報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	副委員長	学生生活を守るために、委員会通常業務（会議運営等）を行ったほか、学祭や卒業アルバムに関する活動に尽力し、大学運営に貢献した。
スポーツサポートセンター	委員	主に強化指定部の競技力向上、地域スポーツ振興、スポーツ系学生支援を図るため、安全・安心部門の担当として、会議等に参加した。

学科運営委員会（学科内）	委員	学科の安定・発展的運営を図るために、委員で学科会議前に集まり議題を整理していき、適切な運営に貢献した。
ソーシャルワークコース委員会（学科内）	委員長	社会福祉士養成の適切な運営のために、業務の実施、会議の運営等を行い、学生が実習を無事に終えることに貢献した。また、新型コロナの影響により実習が中止になるリスク対策として、学内実習の整備を実施し、運営した。
社会福祉学会九州地域部会研究大会運営委員会	委員	2022年7月に実施した日本社会福祉学会宮中地域部会・第63回研究大会を開催するため、その準備・運営を担った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部　部長

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①第1回オープンキャンパスでの社会福祉学科プログラムの運営を担当（2022年7月24日）
②第2～4回オープンキャンパスでの社会福祉学科プログラムの運営補助を担当（2022年8月7日、8月21日、3月19日）
③社会福祉士養成課程での行事・実習、ボランティア活動に関する記事を大学HPへ掲載

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
社会福祉協議会経営は「人」の育成から	11月11日	平戸市社会福祉協議会	平戸市社会福祉協議会
社会福祉士実習指導者講習会	12月3日	鎮西学院大学	長崎県社会福祉士会
社会福祉士養成課程新カリキュラム説明会及び勉強会	12月10日	長崎国際大学	自主開催

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①10月21日：ボランティア活動／「YOSAKOIさせぼ祭り 幼稚園タイム（九州文化学園幼稚園）」に学生とともに参加

②12月11日：ボランティア活動／「ハッピースマイル子育て応援事業（平戸市社会福祉協議会）」に学生とともに参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

（教育）A評価：前期の2科目の授業評価は概ね4.5点であり、一定の評価ができる。

（大学運営）A評価：行事・委員会等はほぼすべて参加した他、従来の業務ではないものにも尽力する等、適切に業務を行った。

（社会貢献）B評価：コロナ禍に入り、社会貢献活動は行なえていない状況にある。ただ、社会福祉学科九州地域部会第63回研究大会の担当をしたほか、平戸市社会福祉協議会や長崎県社会福祉士会の研修会等の講師を担ったため、一定の評価はできる。研究に関しては、現在のところ本学社会福祉学会の紀要に2本投稿予定のため、それが叶えば一定の評価はできるが、科研費申請は取り組めておらず、反省が残る。

（反省点）　昨年度、この欄に「大学教員としての意識の低さ」を記載するとともに、妥協してしまう弱さを綴った。その点に関して、今年度もあまり改善はされず、モチベーションが維持できなかった。その理由は、本学科の方向性や専門職教育のあり方を明確に見い出せず、自分自身の中で悶々とし、結果、自分自身の心の中に“甘さ”や“ゆるさ”が芽生えてしまったからである。また、私自身が先生方と様々な事柄を介し価値観のズレを感じる機会が多く、そのズレによって疲弊・混乱を招くなら、静観したほうがよいと考える場面が増えたからである。ついては、これらの弱い感情をどのようにコントロールし、今後どのような立ち位置で業務を行うかが来年度の課題であると考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　社会福祉　　職名 准教授　　氏名 韓　榮芝

１．教育理念

教育の理念は、以下のような３点を主にとしている。

・学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。

・コミュニケーション力を育成を基盤にして探求力を獲得させ、ディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成を行う。

・学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力と課題解決力を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	4/7(通年)	2	35	⑦
地域福祉論Ａ	1/15(前期)	2	2	①②⑧⑨⑩
地域福祉論Ｂ	1/15(後期)	2	9	①②③⑧⑨⑩
専門演習A	1/15(前期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑪⑫
専門演習B	1/15(後期)	1	6	①②③④⑤⑥⑦⑪⑫
卒業研究	1/30(通年)	4	6	⑧⑨⑩⑫
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	1/15(後期)	2	47	①②③⑧⑨⑩
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	1/15(通年)	1	12	①⑤⑥
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/5(前期)	1	37	⑧⑨⑫
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/5(後期)	1	37	⑧⑨⑩
中国語ＩＡ	1/15(前期)	1	13	②③⑧⑨⑩
中国語ＩＢ	1/15(後期)	1	12	③⑦⑧⑨⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
地域福祉計画特講	1/15(前期)	2	2
事例研究（地域福祉計画）	1/15(後期)	2	2
事例研究（地域福祉計画）	1/15(後期)	2	1
特別研究	1/30(通年)	8	3
特別研究	1/30(通年)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

アンケート「中国語Ⅰ」の結果について、前期の満足度は4.5で、前年度より0.1ポイントをアップすることができた。後期は4.9（前年度4，5）だった。今年度も小人数クラスでコロナ流行以来の対面授業となり、三密を避けるために多少影響があったものの、受講生の中国語に対する興味や自信を持ってるように、個人発表や個別指導を丁寧に行い、高い満足度を得ていい効果が表れた。また、ソーシャルワーク（社会）実習指導においても、新カリの科目であり、初めて2年生の実習科目でもあるので、取り組み方や予想ができない状況の中で最初から学生らの不安を取り除くために、学生のご要望や実情に応じて時間をかけて個別指導やグループワークなどを行い、満足度4.7に綱かった結果だと思われる。そして、地域福祉と包括的支援体制Ⅰに関しては、新カリの導入から2年目の授業科目である。満足度は去年同様（3.7）であり、目標（4.0）を達成することができなかった。来年度はこの科目を重点的に授業の方法や内容の編成などを受講生らのご意見や要望、または実情に応じてさらなる工夫をしていかなければならいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	中国語ＩＡ（筆記・読解）	1/15(前期)	1	12
長崎県立大学	中国語ＩＢ（筆記・読解）	1/15(後期)	1	8

長崎県立大学	中国語ⅡA（購読）	1/15(前期)	1	6
長崎県立大学	中国語ⅡB（購読）	1/15(後期)	1	2

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
保育士講座	1	8	2022年5月10日
社会福祉士国家試験対策講座（夏期）	4	10	8月～9月
社会福祉士国家試験対策講座（主に転学科生・編入生を対象に）	7	6	12月～１月
日本語能力試験補習講座（留学生を対象）	5	3	5月7月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

Withコロナで地域のつながり活動の現状と課題
～日中両国の高齢者在宅ケアの実際比較を通して～

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター	委員	ボランティアセンターの運営、学生参加の募集など

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
日本社会福祉学会　九州ブロック研究大会開催委員会	委員	大会を成功するため、大会の運営、企画、主な担当責任として、広報作成、会計などを行った。

(3) 課外活動の指導等

書道サークル顧問兼監督、学生のみならず、地域の方たちも含め、書に興味を持ち書道愛好者を対象に書道の指導及び、開国祭時の書道展の出展、佐世保市広田地区公民館での故郷祭りの出展などの運営にも携わった。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

社会福祉学科オープンキャンパスの参加、主に3月のオープンキャンパスの企画、運営などを責任者として行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県　児童厚生員養成講座　講師として	2023年2月10日	諫早市看護師学校	長崎県庁児童福祉課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市都市計画審議会	副会長	Ｒ２年～４年	佐世保市役所　市長
西海市社会福祉協議会評議員会	評議員	R2年～4年	西海市社会福祉協議会会長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

8月19日　平戸市　災害ボランティアセンターの実動訓練におけるボランティア活動の学生募集、引率、指導など、
11月19日　南高愛隣会佐世保中央障がい者施設開催のイベント「2022　PLUS　マルシェ」障がい者買い物支援活動のボランティアの募集、引率、指導などを行った。
1月15日（日）長崎県庁日中友好協会　中国語コンクール　審査員として
3月26日（日）長崎県立大学　中国語3級・4級検定試験監督として
年に数回早岐警察署の警官に社会福祉の動向について学ぶ合い会の開催

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
旅行・養老・医療三位一体一海南「候鳥」式養老モデル事業フォーラム	海南養老サービス発展状況セミナ、日中の養老サービスの現状と課題について講演	12月2日	オンライン発表	海南省海口市日本領事館

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

（教育）ゼミ生は3年生6名（内留学生４名）、4年生6名（内留学生1名）計12名、大学院生修士課程（2年次４名、全て留学生）の指導をしており、学習状況を細目に確認する。ゼミ運営には卒論指導、就活支援、日本語教育などの実施、離脱防止のため学生と面談を随時に行い、学生に開国祭やボランティア活動の参加、部活やバイトなどバランスよく、規則正しい生活ができるように指導する。4名の修論指導や就活支援も行う。国試合格率をアップさせるため、追加学修やテスト監督、資料作成を担当。学内外の卒業生に大学院の進学を促し、進学率の増加に繋げる。課外教育では日本語講座の開催や保育士講座の科目担当に勤める。国試合格支援委員会のメンバーとして、高い合格率を達成するため、編入生や転学科生への指導を力入れて補習を行った。福祉学会紀要やニュースレターの編集、投稿など学内学会委員として努め。63回九州地域部会研究大会の実行委員、広報会計として担当。（社会貢献）早岐警察署との連携を通じて在宅高齢者の地域生活支援を強化する。佐世保市都市計画審議会副会長に努め、佐世保市と瀋陽市との提携プロジェクトに参加。長崎県中国語コンクールの審査員として務める。ボランティアセンターの主担当として外部の要請や連携を図りながら引率者として学生の活動参加がスムーズにできるように取り組んでいる。（大学運営）全学国際交流委員として、上海大学との共同研究・海外短期研修の企画案や運営などに努める。学科委員会では、実習委員会、学生支援委員会、学内学会、ボランティアセンター、などに努める。書道サークルの顧問に努め、開国際書道展や廣田公民館でのふるさと書道展の開催に努めた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 浦　秀美

1．教育理念

私の教育理念は、想像と創造ができるような学生、常に自己研鑽できるような学生を育てることです。そのために理論と実践とを統合することを大切にしています。社会で必要とされている福祉人材、福祉そのものの向上に寄与出来るような人材を育てます。また、一人ひとりの福祉観（介護観）を培うために、自分自身で考え、相談し、判断できる人材を育成することも大切にしています。

よって、授業では原理・原則を学ぶことを主軸にしつつも最新の福祉現場の現状についての情報伝達、情報共有を重視しています。

学生には、国家試験合格のための知識に留まらず、専門職として必要な実践に役立つ福祉に関する知識を学んでほしいと考えています。また、自分自身の身近な存在に必要な福祉の知識や技術を学んでほしいとも考えています。そのために、国家試験の出題基準に則した知識や技術を網羅した講義や演習、そして、現在の福祉現場の実情に即した福祉に関する知識や技術を取り入れた授業方法を行います。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
社会福祉総合演習（介護）	15/5(通年)	1	12	①④⑪
介護総合演習Ⅱ	15/15(通年)	1	8	①④⑤
介護総合演習Ⅲ	15/15(通年)	1	14	①④⑤
介護実習Ⅰ	60/60(通年)	4	15	④⑨
介護実習Ⅱ	30/30(通年)	2	8	②⑫
介護実習Ⅲ	60/60(通年)	4	13	④⑤⑦⑪⑫
生活支援技術ⅢA	15/15(前期)	1	16	②⑤⑦⑨⑩⑪
共通福祉演習	15/3(後期)	1	48	①②⑤⑥⑩
介護過程ⅡA	15/15(前期)	1	8	④⑤⑥⑦⑨
生活支援技術ⅣB	15/15(後期)	1	15	①④⑧
専門演習A	15/15(前期)	1	5	①④⑤⑥
卒業研究	30/30(通年)	4	7	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
介護基礎学Ⅱ	15/15(後期)	2	18	①③⑦⑨
生活支援技術ⅢB	15/15(後期)	1	14	②⑤⑦⑨⑩⑪
社会福祉総合演習（福祉共通）	15/1(前期)	1	37	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	15/1(後期)	1	37	⑧⑨
介護概論ⅠA	8/8(後期)	2	46	④⑤⑨
介護概論ⅠB	8/8(後期)	2	10	①④⑤⑧⑨⑩
生活支援技術ⅣA	15/15(前期)	1	15	①④⑧⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦⑪⑫
生活支援技術ⅡA	15/15(前期)	1	16	②⑨⑪
専門演習B	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥
介護福祉論	15/15(前期)	2	15	②⑤⑦⑨⑩
介護援助技術	15/15(前期)	1	1	②⑥⑦⑩
介護総合演習Ⅰ	30/30(通年)	2	16	⑤⑥⑦⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度前期は四科目の授業アンケート（教養セミナーA、生活支援技術ⅢA、介護過程ⅡA、介護福祉論）を実施した。後期は三科目の授業アンケート（生活支援技術ⅢB、生活支援技術ⅣB、介護基礎学Ⅱ）を実施した。

前期の四科目については総じて平均値より上回る評価であったのに対し、後期の三科目は平均値を下回る評価も見られた。

授業構成や方法は前期や例年と大きく変化していなかったのだが、評価そのものは下回っており、その原因を今後検討した上で、次年度は評価を上げていけるようにしたいと考えている。自由記述にあった、資料の文字の大きさが小さかったというものも、原因であり、モニターに映す際の工夫も今後取り組んでいきたいと考えている。

また、私語対策は随分できるようになってきたが、遅刻対策については課題を残す。出席管理システムで授業開始後5分以内は遅刻と打刻されないことから、授業開始5分までの時間に入室し、カードをかざす学生が散見された。適宜注意はしたものの改善が図られなかった学生もいたことから、次年度も注意喚起をしていきたいと考えている。

さらに、精度の高い評価から自己点検・評価を行うためには、回答率を上げることが必要である。例年8割、9割の回答率があったが、今年度は特に後期の1科目の回答率が低かった。前期はアンケート回収方法をオンラインとし、後期は対面での実施、回収としたのだが、生活支援技術ⅣBについては、成人式翌日の実施で欠席学生が多く、回答率が低かった。そのため、今後は実施方法と実施日程を十分に留意しながら設定していきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専修学校	食介護論	15/1(後期)	なし	なし
長崎県立佐世保東翔高等学校	介護職員初任者研修	15/4(後期)	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
介護福祉士国家試験支援　追加学修	2	12	令和5年1月6日、1月12日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者介護
介護福祉
介護福祉教育
介護福祉士養成教育
福祉分野における現場実習と教育
福祉分野における人材養成（育成）
認知症ケアモデル
介護人材育成
介護福祉士に対するオンライン研修システム
介護実習における実習施設と養成校との連携

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

精神保健福祉士国家試験模擬問題集2023／共著・編著／2023年7月25日／中央法規出版株式会社／12頁、14頁、15頁、87頁、88頁、105頁、106頁、149頁、156頁、158頁、162頁、163頁、190頁、191頁、192頁、195頁、196頁、197頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	・長崎国際大学論叢査読者の選出 ・長崎国際大学学術報告会の報告者及び座長の選出 ・長崎国際大学学術研究報告会の事前訪問及び当日運営 以上3点について活動し、貢献することができた。
ハラスメント委員会	委員	・大学院入学生OR（春季・秋季）にてハラスメント防止説明 ・社会福祉学科ORにてハラスメント防止説明 ・国際観光学科OR用のハラスメント防止説明の伝達 ・ハラスメント案件への対応 ・STOPハラスメント小冊子修正に係る提案 ・ハラスメント防止動画（教職員用、学生用）に係る提案 以上6点について活動し、貢献することができた。
教養セミナー部会	部会長	・教養セミナー編成 ・入学生ORに係る業務（資料作成、当日運営、関係各署との連携） ・教養セミナー定例会の議題設定、議事運営、議事録作成 ・社会福祉学科会議にて定例会報告、会議資料作成 ・外部講師招聘に係る業務（教務課との連携） ・専門基礎演習編成 以上6点について活動し、貢献することができた。
ケアワークコース運営委員会	委員	・ケアワークコースに関する提案 ・介護実習に係る業務（実習指導者会議欠席施設・事業所への訪問説明、実習配属案への提案等） ・長崎県介護福祉士養成施設等事例検討事業に係る業務（高校生1日体験学習の企画・実践） ・介護福祉士国家試験対策に係る提案、国家試験合格支援委員会での審議決定事項の報告、審議案の作成 以上4点について活動し、貢献することができた。
国家試験合格支援委員会	委員	・委員会への参画 ・介護福祉士部会による検討事項についての発議 ・社会福祉士、介護福祉士国家試験模擬試験に係る業務（教室確保、受験料払込手続き、模擬試験進行表の作成、座席表の作成、模擬試験監督教員との連携等） 以上3点について活動し、貢献することができた。
保育士講座委員会	委員長	・希望学生の集約 ・教務課との連携ポートフォリオの設定等 ・科目担当教員への依頼 ・資格取得に関する情報配信 ・資格取得に興味のある学生の個別相談対応 以上5点について活動し、貢献することができた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

外部での会議や検討会、セミナーや講習会、非常勤講師担当時に随時広報活動を行うことができた。

・介護人材確保支援事業（長崎県）会議時

・介護福祉士養成施設入学者確保支援事業（長崎県）での高校訪問時

・介護実習巡回時

・介護実習指導者講習会時
・非常勤講師（長崎県立佐世保東翔高等学校）時
・キャリア教育セミナー事業（長崎県立西彼農業高等学校）時
・高大連携事業時（九州文化学園高等学校　介護1日体験学習）
・虐待防止セミナー時

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
14	8

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
東彼3町ケアセミナー講演会	5月27日	オンライン	東彼３町
九州文化学園高等学校進学ガイダンス	6月14日	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校
長崎県高校生に対する求人力アップのための介護事業所向けセミナー	6月21日	オンライン	長崎県
佐世保市高齢者虐待防止法ネットワーク検討会	9月2日	オンライン	佐世保市
令和4年度介護福祉士実習指導者講習会	9月3日、10月8日、10月9日	オンライン	公益社団法人介護福祉士会
長崎県高齢者権利擁護推進員養成研修	9月15日、9月16日	アルカス佐世保	長崎県
長崎県立西彼農業高等学校キャリア教育セミナー	9月20日	長崎県立西彼農業高等学校	長崎県立西彼農業高等学校
公益社団法人認知症の人と家族の会長崎地区あじさい会地方講演会特別公演	10月29日	もりまちハートセンター	公益社団法人認知症の人と家族の会長崎地区
高齢者虐待研修	11月25日	特別養護老人ホームあいのうら	特別養護老人ホームあいのうら
長崎県高齢者権利擁護推進員養成研修報告会	12月2日	長崎県庁	長崎県
高齢者虐待出張セミナー	12月16日	オンライン	長崎県社会福祉協議会
長崎慈光園虐待防止法研修会	1月20日	オンライン	長崎慈光園
九州文化学園高等学校内部進学ガイダンス	2月6日	九州文化学園高等学校	九州文化学園高等学校
長崎県介護福祉士養成施設人材確保事業　1日介護体験	3月9日	長崎国際大学	長崎県

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
入所検討委員会	第三者委員	平成27年12月～現在に至る	社会福祉法人江寿会特別養護老人ホームサンホーム江上
長崎県佐世保県北圏域介護人材育成・確保対策地域連絡協議会	委員	平成30年4月～現在に至る	一般社団法人長崎県介護福祉士会
社会福祉法人あい里理事会	理事	令和2年6月～現在に至る	社会福祉法人あい里
長崎県令和4年度介護現場における多様な働き方導入推進事業実施業務委託に係る落札者決定基準審査会	学識経験者	令和4年4月～令和5年3月31日	長崎県
佐世保市令和4年度高齢者虐待防止法ネットワーク委員会	委員	令和4年4月～令和5年3月31日	佐世保市
長崎県高齢者虐待防止法・身体拘束ゼロ作戦推進会議	委員	令和3年7月～現在に至る	長崎県
令和4年度高齢者推進員養成研修運営作業部会	委員	令和3年3月29日～現在に至る	長崎県
日本介護福祉学会	理事	令和3年9月～現在に至る	日本介護福祉学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・長崎県感染症対策に資する介護ロボット等導入促進事業補助金に係る審査会にて審査員を担当する（令和4年5月24日）
・西和女子学院高等学校大学見学会について模擬授業を担当する（令和4年12月9日）
・佐世保市高齢者虐待防止ネットワーク委員会にて委員を担当する（令和5年1月30日）
・社会福祉法人あい里理事会にて理事を担当する（令和5年3月24日）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、昨年度の授業評価を回復させるために、学生へのわかりやすい授業について検討を重ね、実践した。前期科目については、相互のやり取りの中で展開ができ、評価を回復できたこと、新たな授業手法を身につけることができたことは評価したい。後期科目については、前期と同様の取り組みをおこなったが、評価が芳しくない科目もあり、さらなる教材研究や授業の展開について検討が必要であると考えている。

また、昨年度と同様に、社会貢献についての取り組みも充実していた。虐待防止セミナーの流れで高齢者の権利擁護に関する研修や、介護人材を増やすための管理者への講話、認知症を持つ家族の会での講話など、多岐に渡り活動ができたことも評価したい。介護実習での巡回時に講話の話になり、次年度も施設・事業者と連携を図りながら研修や勉強会が開催できる予定である。長崎県社会福祉協議会からの出張セミナー依頼についても継続されるが、高齢者・障害者・医療分野に加え、次年度は児童分野の虐待防止についての研修会を開催予定であり、福祉分野の全般においてさらに取り組んでいこうと考えている。

さらに、長崎県内の介護（初任者、実務者、介護福祉士）を養成する高等学校との関わりも増え、情報交換や共有に尽力した一年だった。

研究面についても、レビューを増やしながら執筆を進められていることは自分自身の自信にもつながっている。介護福祉・保育、障害分野での介護といったことをテーマに設定し、研究も深めていきたいと考えている。科研費への申請も含め、次年度は研究面についての実績を残すように取り組んでいきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 久田　貴幸

1．教育理念

私の教育理念は、自ら考え行動できる能力と他者との関係を円滑に行うための能力を持った学生を育てることである。そのために、学生の能力や特性に合わせた問題提起や取り組みがしやすい環境を整え、学生同士の関係性を観察したうえで調整を図ることを大切にしている。また、社会に必要とされている福祉専門職像を満たしたうえで、さらなる専門性の向上に寄与できる人材を育てることにも力を注いでいる。そのために、専門的知識と技術を実践に活かすための思考について、常に意識させるよう促している。

学生には、今後の医療・福祉の中核的人材としてリーダーシップが取れる能力を身に付け、福祉のクリエイティブな側面を知ってもらうことで、社会福祉の専門職として社会における福祉の増進・進展に寄与できる人材になるための基礎を作り上げてほしいと考えている。そのために、学内における学習を基礎として、地域社会とのかかわりの中で自身の立ち位置をしっかりと認識できる人になってもらうための促しを常に心がけて学生と関わっている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
社会福祉総合演習（介護）	15/4(通年)	1	12	①④⑪
介護総合演習Ⅱ	15/15(通年)	1	8	①④⑤
介護総合演習Ⅲ	15/15(通年)	1	14	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅰ	60/60(通年)	4	15	④⑥⑩⑫
介護実習Ⅱ	30/30(通年)	2	8	①⑫
介護実習Ⅲ	60/60(通年)	4	13	④⑤⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	16	④⑤⑥⑦⑩
キャリア開発Ⅱ	15/15(前期)	2	274	①②⑩
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	8	②⑦
専門演習B	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦
卒業研究	15/15(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨
介護概論ⅠA	7/15(後期)	2	46	④⑤⑨⑩
介護基礎学Ⅰ	15/15(前期)	2	15	①③⑦⑨
介護概論ⅠB	7/15(後期)	2	10	①④⑤⑧⑨⑩
生活支援技術ⅣA	2/15(前期)	1	15	①④⑧⑨
障がい者スポーツ	4/15(後期)	2	20	⑪
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑦
専門演習A	15/15(前期)	1	5	①④⑤⑥⑦
生活支援技術ⅠB	12/15(後期)	1	15	①④⑤⑥⑦⑪⑫
生活支援技術ⅠA	15/15(前期)	1	16	④⑤⑥
介護過程ⅡB	15/15(後期)	1	8	④⑤⑦
コミュニケーション技術	15/15(前期)	1	15	④⑤⑦
介護概論ⅡA	15/15(後期)	2	15	④⑤
介護総合演習Ⅰ	15/15(通年)	2	16	⑤⑥⑦⑫
地域の理解と連携	5/15(後期)	2	124	②④⑥

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業は、ほとんどが対面で実施された。コロナ禍で取り入れた授業スキルに加えて、従来行ってきたアクティブラーニングを展開することができた。これにより、学生からは一定の満足度を引き出すことができたと考える。

しかし、細かい点で言えば課題も見つかった。今後の授業では、今年度で培ったスキルを活用しつつ、課題が解決できるよう取り組んでいきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	隣接医学	3/3(前期)	2	27
長崎県立大学シーボルト校	社会福祉論	15/15(Q2)	2	60

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

〇介護福祉士養成における介護実習の教育的課題に関する

〇介護現場におけるスーパービジョンに関する研究

〇介護現場における教育プログラムの開発に関する研究

〇福祉人材のメンタルヘルスに関する研究

〇外国人介護労働者の現状と課題

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	100万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：〇頁～〇頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：〇頁～〇頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学術アドバイザリー契約	株式会社ディーエスブランド	2022.5.1-2022.9.30	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	ボランティアセンター副センター長、副委員長	ボランティア活動については、新型コロナ感染症の状況を鑑み活動できなかったが、不定期で行われる会議において委員長の補佐を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員,WG長	教養セミナーのワーキンググループの取りまとめと、入学前教育担当者として活動した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

駅伝部の顧問として、学生の引率等を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

○九州文化学園高等学校において、映画「ケアニン」の上映会を企画実施し、介護のイメージアップを図るとともに、本学への入学促進に努めた。

○玉成高校において、福祉系大学で学ぶ意義について出張授業を行った。

本学で実施された、体験授業（玉成高校・九文高校）において模擬授業を実施した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
介護職員中堅職員研修会	2022.11.26	オンライン	長崎県介護福祉士会
実習指導者講習会(1日目)	2022.9.3	オンライン	長崎県介護福祉士会
実習指導者講習会(2日目)	2022.9.4	オンライン	長崎県介護福祉士会
実習指導者講習会(3日目)	2022.10.8	オンライン	長崎県介護福祉士会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市保健福祉協議会	委員	2019年度~(現在に至る)	佐世保市長
佐世保市地域包括支援センター運営会等議会	委員	2019年度~(現在に至る)	佐世保市長
特別養護老人ホームサンホーム江上 入所判定委員会外部委員	外部委員	2020年度~(現在に至る)	佐世保市長
長崎県介護事業所認証評価制度検討委員会	副委員長	2022年度~(現在に至る	長崎県知事

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も教育・研究・社会貢献の各分野において、バランスの良い活動を目指していた。しかし、研究については、「高齢者の身体活動に関する文献研究」について執筆要諦であり、文献のレビューとリスト化を行ったところで終了してしまい、執筆まで至らなかった。教育・社会貢献については、概ねイメージ通りに進めることができた。来年度は、科研費の申請を見越して、地域における人材確保の活動を行いたいと考えている。

来年度こそ、教育・研究・社会貢献をバランスよく活動したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 裵　孝承

1．教育理念

私の教育理念は、個々の個性を尊重しながら、他人と協力（連携）できるグローバル人材を目指し、ソーシャルワーカーとして、暖かい心を持ち、なおかつ科学的なアプローチも可能な人材を養うことである。
この理念を実現するために、①多様性を知る＆理解すること、②お互いが分かり合うこと（コミュニケーション力を高める）、③社会現状（課題など）を、的確に分析し、社会福祉を探求すること、④実習教育を徹底的に行うことを教育方針に入れている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ	30/30(通年)	2	35	⑦⑫
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	19	④⑤⑥⑦⑩
共通福祉演習	15/6(後期)	1	48	①⑤⑥⑩
相談援助の理論と方法ⅠA	15/15(前期)	2	11	①④⑤⑦⑨⑩
専門演習A	15/15(前期)	1	5	⑥⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	5	⑥⑫
社会福祉調査論	15/15(前期)	2	45	①④⑤⑥⑦⑨
ソーシャルワーク実習指導（社会）Ⅰ	15/15(通年)	1	9	①②④⑤⑥⑦⑩⑫
社会福祉総合演習（福祉共通）	15/1(前期)	1	37	⑧
社会福祉総合演習（福祉専門）	15/1(後期)	1	37	⑧
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	7	⑤⑥
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	6	④⑤⑥⑦⑩
高齢者福祉	15/15(後期)	2	52	①②⑤⑥⑨
ソーシャルワーク実習の理解	15/9(前期)	1	62	①②④⑥⑦⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅰ	15/15(前期)	1	14	④⑤⑥⑩
ソーシャルワーク演習（社会）Ⅱ	15/15(後期)	1	13	④⑤⑥⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	①④⑤⑥⑧⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

おおむね授業に満足していた。予習復習のアンケート結果が低いため、予習復習のできる体制を作り、その評価が高くなった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
社会福祉士国家試験合格支援（追加学習時間）	15	34	通年

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・介護支援専門員に対するサポートに関する研究
・地域における子ども・子育てニーズに関する研究
・実習指導者の実習指導を通した自己成長に関する研究
・地域福祉推進に関する市民の意識調査研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	2	2	500万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

九州西部地域の子ども・子育て支援団体の活動状況と子ども・子育てニーズとの関連性 -子ども支援団体の支援者のインタビュー調査結果を中心に-／2023年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要 第18号・第19号（合併号）／1頁～9頁／共著／論文

新カリキュラムにおけるソーシャルワーク実習教育のあり方に関する研究 ―実習指導者の実習教育の体制整備及び実習教育への期待や思いに関するアンケート調査結果から―／2023年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要 第18号・第19号（合併号）／10頁～21頁／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
佐世保市地域福祉に関する市民意識調査	佐世保市	2022年4月～2023年3月	50万円
介護支援専門員に対するサポート体制のモデル構築に関する実証的研究	日本学術振興会科学研究費補助金	2018年～2024年3月	450万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職委員として、合同就職説明会、就職ガイダンスを企画・開催し、学生の就職に貢献した。
安全衛生委員会	委員	学内の安全衛生のために、会議に出席し、必要な情報などを学科に説明した

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外

2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

「面倒見のいい大学」を意識しながら、教育・研究を行いました。学生と教育を通して密に関り、日々努力しています。国試対策支援にも積極的に協力し、個別に声をかけるなど、学生の多様な面でを支援しています。今年度は、新しく担当する科目が多かったが、授業は徹底的に準備して行ったと自負します。　研究面では、佐世保市委託の「地域福祉推進に関する研究」を、3800名に対してアンケート調査を実施しました。最終的には、佐世保市地域計画に提案用の報告書を作成し、論文にもつなげる予定です。しかし、時間的な余裕がなく、科研の進行ができず最終年度になってしまいました。来年度は、新たな科研も申請したいですが、採択されても研究が進むのか、不安が残ってしまいます。子育て中の自分の時間管理に関する反省もしていますが、若手・女性研究者として、研究もできるような業務環境になればと思っております

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 講師　　氏名 丸山　貴志

1．教育理念

本学の理念でもあるホスピタリティの探求・実現は社会福祉の人材育成において重要な内容である。
この教育理念のもと、ソーシャルワーカーには欠かせない多職種連携を積極的に進め、その中心的な立場でリーダーシップが取れ、そのうえで協調性があり協働できる人材育成を行う。
またいかなることにも積極的に自ら学び、解決策を導き出す力を身につけることができる人材の育成に取り組んでいきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
精神保健福祉援助実習Ｂ	30/30(通年)	5	5	⑫
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	18	④⑤⑥⑦⑩
精神医学と精神医療Ⅱ	15/15(後期)	2	11	①④⑤⑥⑨
精神保健福祉援助演習（基礎）	15/15(前期)	1	5	①④⑥⑦
専門演習A	15/15(前期)	1	2	④⑤⑥⑪⑫
専門演習B	15/15(後期)	1	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	6	④⑤⑥⑧⑨⑩⑫
社会福祉総合演習（福祉共通）	15/15(前期)	1	37	⑧⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	1/15(後期)	1	37	⑧⑨
相談援助演習ⅢＡ	15/15(前期)	1	16	⑤⑥⑦
精神保健福祉援助実習指導ⅡＡ	15/15(前期)	1	6	④⑥⑦⑩⑫
精神保健福祉援助実習指導ⅡＢ	15/15(後期)	1	5	⑫
相談援助演習ⅢＢ	15/15(後期)	1	15	⑤⑥⑦
障がい者スポーツ	1/15(後期)	2	20	⑪
ソーシャルワーク演習（精神）Ⅰ	15/15(後期)	1	7	①④⑥⑦
ソーシャルワークの理論と方法（共通 ）Ⅱ	15/15(後期)	2	60	①④⑩
権利擁護と成年後見論	15/15(後期)	2	8	①④⑤⑥
社会福祉総合演習（精神）	9/15(前期)	1	6	①⑥
ソーシャルワーク実習指導（精神）Ⅰ	5/15(後期)	1	7	①⑥⑦
精神医学と精神医療Ⅰ	15/15(前期)	2	12	①④⑤⑥⑨
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	5/15(後期)	1	6	①⑥⑦

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

精神保健福祉の分野が専門のため、担当している科目は少人数の科目が多い。そのなかで共通科目である「ソーシャルワークの理論と方法（共通）Ⅱ」の授業は受講人数が多く、また国家試験を目指していない学生も履修しているため授業内容の水準をどこに合わせるのかは今後授業を進めていくないかで見極めて授業を構成する必要があると感じた。
この科目については旧カリキュラム時代からあわせて3期目の担当のため、年々ブラッシュアップできてはいる。引き続き小規模の授業との違いを見極めた授業、国家試験を目指している学生とそうでない学生、双方が存在する授業についての工夫を今後の課題として改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	社会福祉	15/15(前期)	2	なし
佐世保市立看護専門学校	社会福祉Ⅰ	7/7(後期)	1	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・チーム医療の中のソーシャルワーカーの役割

・認知症医療連携について

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Prospective clinical intervention study of aripiprazole and risperidone in the management of postoperative delirium in elderly patients after cardiovascular surgery／2022年7月／Psychiatry and clinical neurosciences／DOI.20.1111/PCN.13446／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

認知症医療と介護連携のための縦断型連携パスの有用性の検証／2023年2月／第23回学術研究報告会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	フレッシュマンセミナーを担当。また開国祭の担当、実行委員会への参加、企画や運営についての助言等を行い、委員会運営に貢献した。 卒業パーティー運営に関する学生員会内の担当者として、準備、当日運営の業務に貢献した。 その他、全体の業務として、定期的な会議に参加し、タバコポイ捨て撲滅運動、学生の表彰や処分に関する検討を行い、円滑な委員会運営に貢献した。
就職委員会（学科内）	委員	学科の学内就職委員の先生と協力し、学科での就職セミナーの準備運営、その他就職活動に関する業務を行い、円滑な運営に貢献した。
国家試験合格支援委員会（学科内）	委員	精神保健福祉士の国家試験対応を主に担当し、全体の委員会の会議への参加や国家試験合格支援対策の検討を行い、円滑な委員会運営に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市地域自立支援協議会	委員	2020年から現在に至る	佐世保市障がい福祉課
波佐見町地域包括ケア会議	アドバイザー	2022年から現在に至る	波佐見町地域包括支援センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、特に国家試験合格支援について、担当の精神保健福祉士の合格率が100％を達成することができたことは評価できる点である。特に後期からは受験予定学生に対してこれまでの経験を踏まえて個人の特性に合った受験対策を実施することができたことが、いい結果につながったのではないかと考えている。

授業に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響が、かなりなくなり、昨年度に引き続き、ほとんどが対面授業になったことで学生への指導も細やかに行き届くようになったと感じている。こちらも学生一人一人の特性をしっかり理解したことが、よりよい指導につながったものと思われる。

研究については、論文が1本アクセプトされたが、以前から共同で研究している先生の共著者としての論文のため、来年度は筆頭著者としての論文を1本は発表したい。また学会発表についても、来年度はコロナの影響もなくなると思われるため積極的に発表していきたい。

その他、学生員会の活動であるが、フレッシュマンセミナーの実施、開国際の実行委員会への協力や卒業パーティーの実施の協力など、大学のイベントに積極的に介入したことについても評価できる点だと感じている。一方、大学の学外の活動があまりできていなかったので、こちらも積極的に増やしていきたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 助教　　氏名 中村　尚生

1．教育理念

高等教育における教育理念および目標、ならびにそれらを達成するための方法論について述べる。

第一に、大学生が修学生活において自主性や創造性を涵養できるような教育実践をおこないたいと考える。特に、私の専門である障がい児・者の心の有り様や、その奥深さについて履修生や指導学生に教授したいと考える。それにあたっては、旧来の受動型の授業ではなく、アクティブラーニングによる教育形態を積極的に実践する。そのなかで、教員としてさまざまな問題提起をおこない、履修生などには主体的・能動的に学びの場に参加することを奨励したい。

次は、大学生の立場に立った教育を心掛けることである。具体的には、きめ細やかにコミュニケーションを図り、修学意欲を高めたいと考える。大学という高等教育機関における目標の最たるものが、学生の知的好奇心を刺激し、引き出すことであると考える。そのために、学生たちが“知的好奇心を持って学問を楽しく修める”きっかけを与えることは、大学教員の大きな役目だと認識している。また、よりよい修学環境を保障するために、障がい学生への合理的配慮を怠らぬように留意する。

次は、多様な価値観に開かれた人材育成をおこうことである。それにあたっては、障がいの有無や、国籍、世代の違いによらない多様な交流の中で、多様な価値観に触れ、既存の価値体系を再構築する機会を提供できるように、教員としても障がいに対する理解啓発を積極的におこなうことや、留学生との国際交流、世代の異なる地域の人々との交流を学生たちに奨励したい。

ここからは、教員として大学生をどのように支援するか、について述べる。

まず何より、学生の心に寄り添った支援を心掛けたいと考える。具体的には、臨床心理学を専門とする教員として、専門性を活かした知識、技法を用いながら、心理的な危機状態にある学生や障がいを有する学生に対して支援をきめ細やかにおこなっていきたいと考える。さらには、共生社会の実現やそれに伴う法整備が加速度的に推進される社会的状況と照らし合わせ、これまでの臨床実践の経験を活かし、合理的配慮の提供に伴う関係調整やコーディネートとしての機能を果たしたい。また、セーフティーネットとしての居場所作り活動を実践し、心理的な危機を抱える学生のゲートキーパーとしての役割を果たしたいと考える。さらには、ネットワークや相談資源を活用し、教員間で日頃より情報交換をおこなったり、キャンパスライフヘルスサポートセンターなどの技術職員との多職種連携を図ったり、緊密な連携や協力体制を構築し、より効果的な支援を提供できるように尽力したい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
相談援助実習	90/90(通年)	4	4	①⑤⑦⑪⑫
ソーシャルワーク演習（共通）	15/15(前期)	1	18	①④⑤⑥⑦⑩⑪
心理学	15/15(後期)	2	111	①②⑤⑦⑧⑨⑩
児童心理学	15/15(後期)	2	36	①②⑤⑦⑨⑩⑪
特別支援教育	8/8(後期)	1	20	①②⑤⑦⑨⑩⑪
相談援助実習指導ⅡA	15/15(前期)	1	4	①⑥⑩⑪⑫
相談援助実習指導ⅡB	15/15(後期)	1	4	①⑥⑩⑪⑫
社会福祉総合演習（福祉共通）	1/15(前期)	1	37	⑨
社会福祉総合演習（福祉専門）	0/15(後期)	1	37	なし
専門基礎演習A	15/15(前期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門基礎演習B	15/15(後期)	1	8	①②④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティとSDGs	2/15(前期)	2	395	①⑩
教職実践演習(中・高)	3/15(後期)	2	8	①⑥⑦⑩
臨床心理学	15/15(前期)	2	107	①②⑥⑦⑨⑩
臨床心理学	15/15(後期)	2	10	①②⑤⑥⑦⑨⑩
キャリア開発Ⅰ	5/15(後期)	2	248	①②⑥⑦⑩
障がい者スポーツ	2/15(後期)	2	20	①⑥⑨⑩
教養セミナーA	15/15(前期)	1	7	①②④⑤⑥⑩⑪
教養セミナーB	15/15(後期)	1	7	①②④⑤⑥⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度のアンケート結果と共通する事項として、履修生の準備学修の時間があまり確保できていなかった点が挙げられる。本学の学生は、他大学と比較し授業外学修時間が極端に少ないことも踏まえると、積極的に改善に向け取り組むべきだと考える。具体的には、履修生が予習・復習の意義を感じられるような授業設計をおこなうべきだと考える。例えば、反転学習を取り入れ、授業課題が次回の授業内容と明確な連続性をもつように工夫したり、復習の必然性を高めるために随時試験を授業内で複数回実施したりすることが挙げられるだろう。一方で、履修生の満足度と理解度は概ね良好な結果が得られた。受講生の日常生活や授業内の体験ワークの経験と関連させながら、授業を展開し興味関心や理解度を高められたことや、小テストを複数回実施し履修生が学修到達度をその都度確認しながら達成感をもているようにしたことが本結果に肯定的に作用したと考えられる。

また、いずれの授業においても一定数出席や課題提出状況が芳しくない履修生がいる。そのような学生には、準備学修の必要性を個別に丁寧に説明し、準備学修を奨励することで授業の興味関心や理解度を高めることや、授業課題などについて不明な点を解消し、学修意欲を引き出すことなどを実践していくべきである。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

今年度は、発達支援領域における保護者を対象としたグループセラピーのプロセスや、それに携わるセラピストの発達モデルについて検討した。

まず、グループセラピーの一形態である「親の会」のセラピストの成長プロセスの検討を通じて、セラピストの発達モデルの構築を試みた。初学者のセラピストを対象としたアンケート調査を実施、その結果、1年目と2年目のセラピストには、保護者心理の理解のあり方や、技術的な成熟に質的な差異が見出された。1年目のセラピストは、子育てに関係する保護者の心理的状態に着目し、「親の会」のプログラムのねらいに忠実に進行することを心掛けていた。一方で2年目のセラピストは、参加者同士の相互交流による保護者の心理的変容を感受し、グループダイナミクスに応じて柔軟に進行していた。これらの差異は、セラピストの観察範囲の拡がりによって、複数の保護者に注意を払えるようになったことが関係していると推測された。今後は、発達支援領域外のセラピストや、初学者の段階にないセラピストにもアンケート調査を実施し、汎用性のある発達モデルを構築していく。また発達モデル構築を踏まえ、セラピストの成長に必要な教育的かかわりをあわせて検討する。

次に、自閉スペクトラム症のある思春期の子どもをもつ「親の会」の実践プロセスを量的および質的分析の両面から検討した。実施したプログラムをねらいや内容の観点から分類した結果、回想型、計画立案型、追体験型の3つのタイプが抽出された。量的分析の結果、いずれのプログラムにおいても保護者の子ども理解を促したことが示唆された。また、子どもの診断時期を指標とした質的分析の結果、回想型は子どもの診断から時間的経過のある保護者がいる場合に適用の妥当性が高まると考えられた。計画立案型では、保護者同士の関係を支えとする援助構造によって、課題解決にともなう子ども理解が深化すると考えられた。今後は、プログラムの対象者数を増やしたり、学年層を限定したりしたうえで、他の介入方法と比較しながら、本実践の効果の検証を進めていく。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	1	1	30万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

発達支援における親の会のセラピストの成長プロセスに関する質的検討／2022年11月／リハビリテイション心理学研究／35頁~49頁／共著／研究論文

自閉スペクトラム症のある思春期の子どもをもつ親の会の実践プロセス／2023年3月／九州大学総合臨床心理研究／○頁～○頁／共著／研究論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
長崎国際大学学長裁量経費「NIUピア・サポート活動によるSDGsの実現Ⅱ―目標4・10の実現（代表）	長崎国際大学	2022年6月～2023年3月	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員会	委員	キャンパスライフ・ヘルスセンター運営委員および学科内のピア・サポート担当教員として、関係教員や関係各所と綿密な連携・協働を図りながら合理的配慮を申請する学生や身体的、心理的障がいのある学生に対し、適切な修学環境を整備することができた。特に対面授業及び遠隔授業が併用される状況下において、ピア・サポートのシステムが円滑に運用できるよう尽力し、サポーターの学生と利用学生の関係調整を細やかにおこなった。
教育基盤センター運営委員会	委員	人間社会学部における学修支援部門の担当者を務めた。また、教育基盤センター紀要編集委員として、第6巻の編纂をおこなった。
社会福祉士国家試験合格支援委員会	委員	国家試験受験予定者に対し、合格支援プログラムを作成した。プログラム作成にあたっては、科目担当教員が効果的な学修に必要な情報や知識を提供したり、学修に伴う困り感や不安感の解決・解消を手助けしたりすることができるように配慮した。また、ゼミ担当教員が国家試験受験予定者に対し、円滑な個別面談が実施できるようガイドラインも作成した。
ソーシャルワークコース運営委員会	委員	社会福祉士実習ガイドラインの編集・作成にかかわった。また、新カリキュラムの導入に伴う実習日誌の電子化に向け、マニュアルの作成をおこなった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
専門基礎演習部会	部会長	新2年生のオリエンテーションの運営や専門基礎演習クラスの編成など、第2学年にかかわる全般的な業務を中心となっておこなった。
九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム担当	委員	本学を代表して子ども育成専門委員会の委員を務めた。
保育士講座	委員	保育士講座の保育の心理学を担当した。全学から募集した講座受講希望者に対し、オンデマンド型遠隔授業を実施した。
学部教授会担当	委員	学部教授会開催に際し、議題および関連資料をとりまとめ、円滑な会議の運営に尽力した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにて学科の活動や特色、魅力などを参加学生および保護者と交流するなかで積極的に発信し、本学の広報活動へ貢献した。／2022年7月～8月／場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
子どもの育ちのニーズをみたすソーシャルワーク―アセスメントから支援計画へ	8月26日	県北振興局天満庁舎	長崎県福祉保健部こども家庭課
発達障がいの理解と支援―包括的な支援体制の構築に向けて	2月21日	佐世保市教育センター	佐世保市教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2022年4月～2023年3月「発達障がい凸凹応援隊にじいろサロン」アドバイザーとして定期的に参加、主催：自閉症児の子育て親育ちの会にじいろサロン

2022年4月～2023年2月「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」スーパーバイザーとして定期的に参加、主催：長崎県立佐世保特別支援学校

2022年4月～2023年3月「運動障がい児・者に対する心理リハビリテイション活動」スーパーバイザーとして定期的に参加、主催：佐賀県有田市

2022年4月～2023年1月（月1回程度）「九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター」研究員として、相談員の臨床指導、主催：九州大学大学院人間環境学府

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

「NICEキャンパス長崎」における児童心理学の授業科目を担当した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、十分な教材研究を行った上で受講学生からのフィードバックをもとに授業内容及び方法の改善を図ることができたと考える。その結果、2022年度の授業アンケートでは、4.5～4.9の満足度を回答結果として得ることができた。また、担当学生とは継続的な面談の中で綿密にコミュニケーションを図ることで、離学・怠学を予防できたと考える。

研究活動においては、査読制度のある学術雑誌に計2報の学術論文が採択され、今後も精力的に研究成果を蓄積していきたいと考える。一方で、科学研究費助成事業（基盤研究C）へ応募したものの、不採択の結果（審査区分A：不採択者の上位20％に位置する）であったことが課題として挙げられる。今後も専門領域に関する研究を進め、科学研究費の獲得を目標としたい。

大学運営活動においては、キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター運営委員として、関係教員や関係各所と綿密な連携・協働を図りながら配慮学生に対し、適切な修学環境を整備することができたと考える。円滑なピア・サポートシステムの運用のために、配慮学生とサポート学生の関係調整を細やかに行えたと考える。

社会貢献活動においては、佐世保市自閉症児の親の会や、佐世保市特別支援学校の心理リハビリテイション活動に専門家として定期的に参画したり、長崎県こども家庭課をはじめとする様々な機関の依頼の応じて研修会を実施したりすることができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　社会福祉　　職名 助教　　氏名 向　晃佑

１．教育理念

私の教育理念は、学生の主体的な学びを支え、現実的な課題解決ができるよう支援することです。
大学では、各分野に特化した知識や技術など専門性だけでなく、物事を多角的に捉えていく視野の広さや、今まで学んだ知識を組み合わせて物事を考える思考力、自らの考えを言語化し他者に伝える表現力などを身につけた人材を育成することが求められていると考えています。そして、学生がこのような視野の広さや思考力、表現力を身につけるためには、学生自身が主体的に大学の学習に臨むことが必要不可欠であり、学生が主体的に学ぶきっかけや環境を提供することは大学教員の役割の１つであると考えます。そのため、学生が身近に感じるテーマや話題を積極的に取り入れたり、学生からのフィードバックを積極的に取り上げたりすることで、学生の知的好奇心を引き出し、主体的な学びのきっかけとなるような講義を展開します。
また、心理学を学ぶことは、一般教養として人のこころの仕組みや働きなどについての知識を身につけるだけでなく、ストレスマネジメント教育としての役割も含んでいると考えています。私はこれまで精神科クリニックや発達相談機関のカウンセラーとして様々な悩みや障害を抱える方やその家族のカウンセリングを担当してきました。また、障害学生支援コーディネーターとして、学生の修学上の合理的配慮にかかるコーディネートや相談対応業務、保護者や教職員の学生対応に関する相談・調整業務を行ってきました。これらの実践経験に基づいて、大学生が抱えることの多い悩みやストレスを題材として取り上げ、グループワークやディスカッションなど体験的な学びの時間を設けることで、学生が大学生活を送る上で、現実的な課題解決ができるよう支援したいと考えています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
心理学	2/15(後期)	2	72	②⑤⑦
心理学	2/15(前期)	2	103	②⑤⑦

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に対する理解度や満足度、授業の内容や方法については、昨年度に引き続き、概ね高い評価を得ることができた。今後も工夫を重ね、今回の結果と同程度かそれ以上の評価が得られるよう取り組みたい。また、受講態度に関する項目に関しては、昨年度よりも高くなっていたものの、他の項目と比して低い評価となっていたため、予習復習の明示等の工夫を重ねたい。また、今年度は新型コロナウィルス感染拡大防止に留意しながら、グループワークやペアワークなど受講生同士の相互コミュニケーションが求められるアクティブラーニングを取り入れることができた。また、昨年度に引き続きポートフォリオ（manaba）を活用し、学生同士の意見交換ができる場を設けた。このように学生同士の相互交流を促すようなアクティブラーニングとポートフォリオを並行して取り入れ、両者のメリットを活かした授業展開を心掛けた結果、一定の評価を得ることができたため、今後も引き続き工夫を重ねていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・イップスを訴える大学生アスリートに対する心理的援助に関する研究

・大学における要支援学生の早期発見・早期介入プログラムに関する研究
・障害学生支援の体制整備に関する研究
・アスリート学生の心理支援に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	30万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

中小規模私立大学における障害学生支援の組織・体制の現状　WEBページの掲載情報に基づく分析／2022年9月17日／日本特殊教育学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学生相談機関のカウンセラーと部活動指導者との連携・協働に関する現状と課題	日本心理臨床学会	2022年11月～2023年10月	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
キャンパスライフ・ヘルスサポートセンター委員会	委員	社会福祉学科教員および学生相談担当の専任カウンセラーとして参加し、学生支援・学生相談活動について協議した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

硬式野球部　副部長

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席

2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州大学大学院人間環境学府附属 総合臨床心理センター	センター研究員	2019年4月～現在に至る	九州大学大学院人間環境学府附属 総合臨床心理センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

2年目を迎え、昨年以上に学内教職員や非常勤カウンセラーと積極的に連携・協働を図り、滞りなく学生相談業務を行うことができた。しかし、支援を必要としながらも相談にいくことに抵抗感を抱いているような学生に対するアプローチには課題が残った。次年度以降は、これまで以上に教職員との連携・協働を図り、離学防止に貢献したい。

また、今年度は学生相談に関連する新たな研究に着手し、科研費の申請を行うとともに、学会からの助成金を獲得することができた。しかし、研究は遂行段階であり、研究成果の公表は学会発表に留まり、論文執筆はできなかった。次年度は、今年度着手した研究を論文として公表できるよう論文執筆にも精力的に取り組んでいきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　社会福祉　　職名 助手　　氏名 金子　麻美

１．教育理念

私の教育理念は、①「いつも、人から。そして、心から。」の本学のモットーに基づいた、人の心に寄り添える社会福祉人材の育成、文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究、②福祉の専門力・情報収集・分析力・コミュニケーション力・協同・課題解決力・多様性理解力を身に着けることができる教育・研究ということである。

学生には、自己覚知や1人ひとりの様々な価値観を理解し受容しながら支援に結び付けていくスキルを学んでほしいと考えており、そのために、自分自身の理解と相手の価値をソーシャルワークの価値観として理解できるような支援を行いたいと考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

なし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

障がい者福祉・地域福祉・バリアフリー・SSW等

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

新カリキュラムにおけるソーシャルワーク実習教育のあり方に関する研究 ー実習指導者の実習教育の体制整備及び実習教育への期待や思いに関するアンケート調査結果からー／2023年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要 第18号・第19号（合併号）／10頁～21頁／共著／論文

コロナ禍における長崎国際大学社会福祉士養成課程の相談援助実習に関する実施報告／2023年3月／長崎国際大学社会福祉学会研究紀要 第18号・第19号（合併号）／67頁～78頁／共著／実践報告

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
社会福祉学科運営委員会	委員	学科運営に関わる資料準備、学科会議・専攻会議資料準備、議事録管理、連絡調整等
コース長会議	委員	各コース運営に関わる会議。
SWコース会議・CWコース会議・MHコース会議	委員	各コース委員として属し、実習関連における連絡調整及び書類発送業務他そのた事務業務。学内の催事の際の準備・運営等。
国家試験合格支援委員会	委員	国家試験に取り組む4年生に向けた模擬試験の資料準備等。書籍や物品購入他、学生相談対応。 問題の印刷業務及びその他事務業務（一部）。
学内学会委員会	委員	学内学会でのニュースレターのデータアップや紀要の発送。総会及び研究会の実行委員として資料準備及び運営補助。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市通学区域審議会	委員	令和4年11月～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、特に夏の実習については、施設側及び学生側に随時感染者が出る状況であり、実習調整・PCR検査対応追われる年であった。各資格担当の先生方と協力のもと、無事に実習を終了することができた。新カリキュラムが始まり2年目を迎え、各科目の整合性や実習教育について、いくつかの課題も散見されたため、来年度については、より良い実習・教育活動を行うべく、地域の実習施設・機関、先生方と連携して業務を行っていきたいと考える。

全体の実習業務の把握に努めるべく、各コース会議に所属し、それぞれのコースの合わせたサポートを行うよう努めた。新しく始める実習関連の事業が多い年であり、各業務に翻弄されるところもあった。各事業についてPDCAサイクルのもと、助手研究室として反省すべき点・改善および発展させる点などを整理し、業務の効率化と向上を考えながら取り組みたい。

来年度も自身の役割をしっかりと理解し、本学科の実習及び教育活動が常に発展するよう行動していきたい。また、コース長・学科長と協議・確認しなければならないことについては、細かい内容であってもしっかりと確認し、間違いを起こすことがないよう気を引き締めていきたい。

研究面については、外部資金獲得に向けた講習会へ参加し共同研究として加えていただいた先生が資金を獲得された。来年度より、学科業務と両立する方法を検討し、活動を開始できるよう計画的に取り組みたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 野村　秀一

1．教育理念

私の教育理念は、主体的に学び、考え、行動できる人材（管理栄養士）の育成を教育の柱として、学生の専門力と課題解決力およびホスピタリティーの伸長を支援することである。

よって、管理栄養士の国家試験の合格と将来就くであろう職業の現場で使える知識と技能を修得できる内容を構成し、講義と実習において、意欲喚起を図る手段を組み込み、主体的な学びを誘引して高い専門力の育成を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1/15(通年)	1	66	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	1/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/15(通年)	1	69	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	68	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	1/15(通年)	2	4	⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	34	①②④⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②④⑪⑫
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	0	①②④⑪⑫
微生物学	15/15(前期)	2	30	①⑩
食品衛生学実習	15/15(前期)	1	24	①⑩
微生物学実習	15/15(後期)	1	34	①⑩
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	38	①②④⑪⑫
健康栄養入門	2/15(前期)	2	72	②③⑤⑥
食品衛生学	15/15(後期)	2	31	①⑩
卒業研究	60/60(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
微生物学	15/15(前期)	2	33	①⑩
食品衛生学	15/15(後期)	2	29	①⑩
食品衛生学実習	15/15(前期)	1	26	①⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
微生物学実習	15/15(後期)	1	38	①⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②④⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
食環境学特論	15/15(前期)	2	3
共生微生物学特論	15/15(前期)	2	1
健康科学演習	60/60(通年)	4	－
食品衛生学特論	15/15(後期)	2	1
特別研究	120/120(通年)	8	－

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2021年度の評価より、前期の微生物学、後期の食品衛生学ともに、高い評価を得た。パワーポイントを使用して時間をかけてゆっくりしたペースで授業を実施したことが高い評価に繋がったと考える。次年度も同様に、学生の学力に沿って授業を実施したいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
聖マリア学院大学	感染・生体防御学Ⅰ	6/8(前期)	1	100
聖マリア学院大学	感染・生体防御学Ⅱ	6/8(後期)	1	100

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①市販食品の食品衛生学的研究

②　ヒト及び食品由来の薬剤耐性菌

③　栄養素（アミノ酸）の機能性

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

セルロースアセテート膜電気泳動法を用いた大豆油と中鎖脂肪酸油の吸収、輸送経路に関する実習条件の検討／令和4年6月／日本食生活学会誌　第80巻　第3号／192～200／共著／原著論文

手洗い方法の違いによる衛生手袋装着後の手袋内での細菌の消長／令和4年3月／長崎国際大学論叢　第22巻／153～159／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ロイシンとグルタミンの同時摂取は、mTORC1と相乗的に活性化する／2022年11月／日本アミノ酸学会　第16回学術大会

大量調理時に使用する衛生手袋装着後の手指の細菌汚染状況～黄色ブドウ球菌保菌者について～／2022年11月／第17回日本給食管理学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学共通教育	委員	学部長として学部の教育内容についての説明等を行った。
教員資格審査	委員	学部長として教員の資格について審議し決定した。
防火・防炎	委員	学部長として学部及び全学の防火防炎対策に参画した。
危機管理	委員	大学全体における危機管理に対して学部長として参画した。
人事	委員	全学の各学部の教員人事、採用、昇格に関して審議・決定を行った。
輸出管理	委員	全学における状況、研究技術の国外への持ち出し等に関する審議に参画した。
グローバル推進協議会	委員	全学の国際化における審議に参画した。
全学教育会議	委員	全学における教育における審議に参画した。

情報セキュリティ	委員	全学における情報の管理システムにおける真んぎに参画した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

エイサーサークルの部員の活動の支援と管理指導を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オ＾分キャンパスでの業務のを遂行した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍で、十分に活動ができなかった。コロナ収束後は、活発に活動を行いたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 熊井　まどか

1．教育理念

私の教育理念は、本学の建学の理念である「人間尊重」を軸に、管理栄養士として必要な知識・技能を身に付けそれを活かせる力、良好な人間関係を築くことができるコミュニケーション力や他者を受け入れる柔軟な姿勢を持ち合わせた人材の育成を支援することである。

そのため、次のような授業方法を行う。

・基礎科目担当として、栄養学的・医学的な専門科目を学ぶ土台作りを行うために、事前・事後の学習を課して反復学習を習慣付け、知識の定着を図る。

・レポートを課し、データをまとめ、適切な情報を収集して考察する能力を育成する。

・実習を通して、生体試料や実験器具の取り扱いを修得させる。

・グループで実習を行うことで、自分の役割を見つけ、協働して作業することの重要性を学ぶ。

・リフレクションカードを活用し、学生から発信する力を引き出すとともに、学生とコミュニケーションをとる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
解剖生理学実習	30/30(前期)	1	24	①⑩⑪
管理栄養士演習	1/30(後期)	2	38	①②③⑧⑨
解剖生理学実習	30/30(前期)	1	27	①⑩⑪
解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	32	①②⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
解剖生理学Ⅱ	13/15(後期)	2	31	①②⑨
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	34	①②⑨
生活支援技術ⅠB	1/15(後期)	1	15	④⑤⑦
栄養生理学実習	14/30(後期)	1	22	①⑩⑪
解剖生理学Ⅰ	13/15(前期)	2	31	①②⑨
栄養生理学実習	14/30(後期)	1	27	①⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
形態機能学特論	15/15(前期)	2	2
健康科学演習	30/30(通年)	4	－
代謝栄養学特論	15/15(後期)	2	2
特別研究	30/30(通年)	8	－

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・授業アンケート

〔前期〕

解剖生理学Ⅰの評価において、Aクラスでは受講態度平均4.5、授業内容平均4.7、授業方法平均4.8、授業の理解度・満足度平均4.5、Bクラスでは受講態度平均4.3、授業内容平均4.7、授業方法平均4.7、授業の理解度・満足度平均4.6であった。

〔後期〕

栄養生理学実習の評価において、Aクラスでは受講態度平均4.4、授業内容平均4.9、授業方法平均4.9、授業の理解度・満足度

平均4.8、Bクラスでは受講態度平均4.5、授業内容平均5.0、授業方法平均5.0、授業の理解度・満足度平均4.9であった。

・授業改善と教育効果

前期の「解剖生理学Ⅰ」において、授業動画の配信や授業後の復習問題の出題とその解説を行ったことは高い評価が得られているため、今後も継続していきたいと考えている。

後期の「栄養生理学実習」では、「人体の構造と機能」の領域に興味・関心を持ってもらえる内容を組込み、実施した。また、実習前に1年次の復習と実習の説明を丁寧に行っている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	解剖生理学Ⅰ	15/15(前期)	2	40
長崎短期大学	解剖生理学Ⅱ	14/15(後期)	2	39

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

妊娠期の栄養が胎児･子に及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠　第2巻　栄養学の基本　人体の理解と栄養学の基礎／共著・編著／2022年9月／医歯薬出版株式会社／共著:51頁～58頁，111頁～118頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

栄養学実習におけるラット反転小腸を用いたグルコース重合体の膜消化・吸収実験の実験条件に関する研究／2022年3月／食生活学会誌／225頁～229頁／共著／資料

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Effect of elemental diets on intestinal permeability and immunoglobulin production in indomethacin-induced intestinal injury rats.／2022年12月／22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	教務事項の審議等
自己点検・評価委員会	委員	大学評価に係る事項の審議等
動物実験委員会	委員	動物実験関連事項の連絡、審議等
発明等審査委員会	委員	発明届等の審議等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に係る事項の審議等
産学連携・研究支援センター委員会	委員	産学連携・研究支援に係る事項の審議等
全学教育会議	構成員	大学・大学院の教育活動の総合的実施に係る事項の審議等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
（NPO）日本栄養改善学会	評議員	2022年11月～2024年10月	（NPO）日本栄養改善学会
（NPO）日本栄養改善学会九州・沖縄支部	幹事	2019年8月～2023年7月	（NPO）日本栄養改善学会九州・沖縄支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

年々、学生の学力が低下してきていることから、今年度は講義資料の見直しを図ったところ、学生からは高評価が得られた。単位を修得できない学生が急激に増えたため、講義資料の見直しだけなく、授業内容や授業展開についても改めて検討する必要があると考える。

研究面では、卒業研究の指導にとどまり十分な活動ができなかった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 岡本　美紀

1．教育理念

人々の健康の維持・増進のための取り組みを食からアプローチし保健・医療・福祉などの場で尊厳と責任を持って科学的根拠に基づいた高度な技術をもって「栄養の指導」を実践できる、社会に貢献する人材の育成を目指すものとする。そのような人材となるために、人間や食などについて基本的な知識を身につけた上で、居住地域の居住形態やその環境、ひいては生態系について、広い視野をもって対応できる知識及び技能を伝えていくことで、専門力と課題解決力を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	70	①
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1/30(通年)	1	69	②⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	34	①
公衆栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	24	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
公衆栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	0	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	25	①③⑩
公衆栄養学実習	30/30(前期)	1	33	②③④⑥⑩⑪⑫
公衆栄養学実習	30/30(前期)	1	39	②③④⑥⑩⑪⑫
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	24	①③⑩
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	38	①
健康栄養入門	5/15(前期)	2	72	②③⑧⑪
栄養情報処理	5/15(後期)	2	51	②③④⑥⑧⑨⑪
卒業研究	30/30(通年)	4	5	④⑩⑪
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①⑧⑨
公衆栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	25	①②④⑨⑪
公衆栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	24	①②④⑨⑪
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
公衆栄養学特論	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

公衆栄養学実習では、例年通りまたはそれよりも少し良い評価をいただけた。実習では、将来管理栄養士として身につけるスキルの実習をしていることから、実習をする意義を見いだしているのではないかと感じられた。しかし、学生のモチベーションを高く保つための努力は必要であると考えられたため、今後も学生の状況やモチベーションの状態をよく観察し、柔軟に対応する必要があると考えられる。

公衆栄養学Ⅱでは、授業アンケートを行ったクラスで評価が異なっていた。同じ内容での授業を行っていたのでこの評価は、学生の授業への取り組み状況やその環境による者と考えられた。授業アンケートの自由記述で「身近なことに置き換えて説明したことから理解が深まった」や「小テストとその解説で理解が深まった」との記述があったことから、これらのことは今後も続けていこうと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 食意識・食行動が及ぼす影響について
2. 集団の健康・栄養状況に関する研究
3. 集団の嗜好等の特性に関する研究
4. 地域産物を用いた新規活用に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

県民健康・栄養調査の実施手法に関する一考察／2022年9月／第69回日本栄養改善学会学術総会

環境問題に対する意識と食生活における使い捨てプラスチック消費状況／2022年10月／第81回日本公衆衛生学会

管理栄養士養成施設に在籍する学生における食物アレルギーに関する認知の状況／2023年2月／第21回長崎栄養改善学会

長崎県における野菜摂取状況の実態と食意識・行動との関連／2023年2月／第21回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	学術的観点から、研究費の不正使用防止のための活動（具体的な研究費不正防止の計画策定・実施、不正発生要因に対する改善策策定・実施、適正なチェック体制の構築やルールの統一提言、本学の取り組みの浸透を図るための方策の推進、公的研究費に関する内部監査計画の策定と実施）を行う。
CHサポートセンター運営委員会	委員	「保健室」・「学生相談室」・「学生生活サポート室」の３つの相談窓口で、学生の「からだ・こころの健康、修学・大学生活など」のサポート業務を行うためのセンター運営の基本方針やセンターにかかる企画立案や実施、規程規則、他の期間にかかる相互協力等の審議を行う。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
健康管理学部健康栄養学科　教務委員会	委員	学科での授業や教務に関する学科運営について取組を行う。特に栄養士申請および管理栄養士国家試験受験に関する手続きを担当した。
健康管理学部健康栄養学科　学生委員会	委員長	学科での学生の活動に関する取組を行う
健康管理学部健康栄養学科　入試・募集委員会	委員	学科でのオープンキャンパスや学生募集活動の取り組みを行う

(3) 課外活動の指導等

時間割とは関係なく健康栄養学科4年生の国家試験対策授業を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	欠席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	欠席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
壱岐市のBDHQによる栄養調査結果について	2022年9月12日	壱岐市（Web 講師）	壱岐市

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
健康ながさき２１栄養・食生活部会	部会長	令和4年9月～現在に至る	長崎県福祉保健部　国保・健康増進課
教育研修評価委員会	委員	令和3年2月～現在に至る	長崎県福祉保健部　国保・健康増進課
健康ながさき21推進会議総括部会	委員	令和4年9月～現在に至る	長崎県福祉保健部　国保・健康増進課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

令和4年5月27～29日に実施された一般社団法人日本家政学会第74回大会で実行委員として記録を担当した（記録担当代表者）。

７．受賞等

令和4年度教員顕彰（一般社団法人全国栄養士養成施設協会）

８．活動全般についての自己点検・評価

2022年度、担当した公衆栄養学実習では、新型コロナウイルス感染症対策の一環で実習室での試食をさせないが実習したものを持ち帰ってまとめる方式としたことで、実習内容を更に広げることが出来、充実を図ることができた。しかし、調査した結果から自ら対象集団の課題を抽出し、問題解決を図るための方法を考える実習内容では、学生によって考えるのをやめてしまいがちになる者がいたため、学生のフォローが更に必要であると感じた。講義で担当した公衆栄養学Ⅱでは、単元毎にポートフォリオ上で小テストを課したが、この問題を従来の過去の国家試験の問題ではなく、それを基に授業の内容を踏まえた問題に作り替えた。それにより、従来の問題では小テストを課す度に図書館やネット上で過去の国家試験問題を探し、良く考えずに解答する者がいたが、自ら考えないと解答できないようになった。そのことが影響しているのか定期試験の合格割合が例年よりも高くなっていたことから効果的であったと考える。

個人活動については、2021年度中に実施した長崎県健康・栄養調査の結果を基に、壱岐市からの依頼を受けて壱岐市と長崎県の結果を比較し、壱岐市の住民の栄養的な問題点を抽出して報告し、それに対する対策について壱岐市の管理栄養士、県立壱岐保健所の管理栄養士などと意見交換を行った。このようにより住民の生活に即した調査とその結果から見える課題を提示することが大学で研究する者の使命のひとつであるとも感じた。さらに、全国栄養士養成施設協会から一定年齢以上、一定期間の教育期間を持つ者に与えられる顕彰を受けた。

今後は自分にできる最大限の努力をして、管理栄養士を目指す学生教育と研究に尽力していきたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 古賀　貴子

1．教育理念

私の教育理念は、学生との対話を重視し、主体的に諸能力を伸ばすことが出来る教育を展開するものである。また、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、専門力の向上を図り、管理栄養士の国家試験に合格できる力を育て、課題解決力を育成することと考えている。

本学科では、卒業生のほとんどが管理栄養士の国家資格取得を目指しており、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与する管理栄養士として、「健康管理」および「栄養の指導」ができるための専門的知識・技能を身につけること、また、ホスピタリティ能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを身につけてほしいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	30/2(通年)	1	70	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	30/2(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	15/1(後期)	1	65	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	15/1(後期)	1	0	①②③⑧⑨
調理科学（食品加工学を含む）	15/15(前期)	2	26	⑩⑪
調理学	15/15(前期)	2	61	⑩⑪
管理栄養士演習	30/2(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
調理科学（食品加工学を含む）	15/15(前期)	2	27	⑩⑪
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	30/2(後期)	2	61	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅰ	15/15(前期)	1	34	②⑩⑪
調理学実習Ⅱ	15/15(後期)	1	36	②⑩⑪⑫
調理学実習Ⅰ	15/15(前期)	1	37	②⑩⑪
調理学実習Ⅱ	15/15(後期)	1	34	②⑩⑪⑫
総合演習Ⅱ	15/1(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
調理科学特論	15/15(後期)	2	1
栄養科学演習	30/30(通年)	4	1
特別研究	30/30(通年)	8	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義科目については、2020年度よりパワポの資料を多く使用して授業をしている。今年度資料を見直し、より分かりやすい内容とするように努めたところ、資料に関する肯定的な意見が多く書かれていた。

実習科目については、様々な調理の基礎技術を身につけること、関連講義科目（主に調理学）の理論が実習で体得できるようにすること、この点を目標に今後も実践的でわかりやすい実習を心がけていこうと思っている。示範がとても分かりやすくて良いなど肯定的な意見が多く書かれていた。後期の実習科目（調理学実習Ⅱ）では、昨年度、コロナ禍以前の対面授業の際には行っていなかった課題の提出（1年次の履修科目である講義：調理学、食品学の範囲の調べ学習）も取り入れたところ、授業についてのアンケート自由記述に、授業に関連した課題があり復習が出来たので良かったとの意見があり、Q1（自学自習：なんらかの準備学習をしましたか）の評価も上昇していたことから、今年度も継続して実施した。遠隔の調理学実習において取り入れた調べ学習を、昨年度からの対面授業でも取り入れたことは良かったと感じた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策講座（前期）	3	73	2022年5月から7月までの間
国家試験対策講座（後期）	12	73	2022年9月から2023年2月までの間
卒業生向けのリカレント教育「調理学・食品加工学の分野担当」	1	8	2023年1月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究

大量調理における食品の調理特性（調理科学的変化）に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

介護食における食べる機能の段階に応じたテクスチャーの検討／令和4年3月／長崎国際大学論叢　第22巻／145～151頁／共著／研究ノート

大量調理機器を用いた加熱法および水冷時間がほうれん草の品質に及ぼす影響／令和5年3月／長崎国際大学論叢　第23巻／83～89頁／共著／研究ノート

「発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食分類2018」に則した形態調整の工夫とそのテクスチャー評価／令和5年3月／長崎国際大学論叢　第23巻／101～109頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

大量調理機器を用いた炊飯が米飯の性状に与える影響／令和4年3月／第9回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会（オンライン開催）

植物プロテアーゼを含む食品の浸漬液が食肉の軟化に及ぼす影響／令和4年12月／日本食生活学会第65回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員	特になし
大学評価・IRセンター	副センター長	特になし
教育基盤センター	委員（部門長）	長崎国際大学教育基盤センター紀要に評価IR・研修部門報告を執筆した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教育基盤センター委員会　紀要編集委員会	委員長	長崎国際大学教育基盤センター紀要の編集委員長として紀要の発行に従事した。
教育基盤センター委員会　初年次教育のワーキング・グループ	ワーキング・グループ委員	初年次教育（全学の教養セミナーA）のシラバス作成・見直し、各学科への実施内容の連絡等、教養セミナーAの授業が円滑に進むように活動した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・夢ナビライブ2022 in Autumn／10月16日／研究室よりZoom

・佐賀県 私立 龍谷高等学校ガイダンス出張講義／令和5年2月21日／佐賀県 私立 龍谷高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	出席
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
27	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和4年度諫早市保育会食育部会研修会「誤嚥しにくいような調理方法、食べさせ方、子ども自身の食べ方、離乳食の作り方についてなど」	6月9日	小野ふれあい会館（諫早市）	諫早市保育会
令和4年度乳幼児食育アドバイザー養成講座および乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講座「乳幼児の食の大切さについて」	9月9日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度乳幼児食育アドバイザーフォローアップ講座「食物アレルギーについて」	10月25日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度　佐世保市調理従事者等研修会	10月18日	アルカス佐世保	佐世保市保健所
令和4年度　調理講習会「幼児食」	10月18日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	6月27日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和4年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	9月12日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター

令和4年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	12月12日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和4年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	令和5年3月13日	佐世保市東部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和4年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	5月23日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和4年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	8月22日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和4年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	11月21日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和4年度佐世保市子育て支援センター「育児相談会たんぽぽ」における栄養士講話	令和5年2月20日	佐世保市北部子育て支援センター	佐世保市子育て支援センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	5月19日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	5月26日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	7月12日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	7月14日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	8月23日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	9月22日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	9月29日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	11月24日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	11月29日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	12月20日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	令和5年1月17日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	令和5年1月24日	佐世保市中央保健福祉センター	佐世保市幼児教育センター
令和4年度食育推進事業「離乳食講座と実習」	令和5年3月9日	佐世保市幼児教育センター	佐世保市幼児教育センター
第69回宮崎県保育事業研究大会	令和5年3月2日	宮崎観光ホテル	宮崎県保育連盟連合会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本調理科学会九州支部	幹事	平成30年7月～現在	日本調理科学会九州支部

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①10月29日「地域介護食教室（講話および調理実習）」企画・運営、令和4年度学長裁量経費

②7月15日　公益社団法人日本栄養士会「栄養ワンダー2022」に申込　学生を対象に講座を開催「サスティナブルに食べるー栄養と環境に配慮した調理を考えるー」をテーマに講話を実施

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、学生による授業評価の結果から、学生の理解度と満足度は良好であったことがうかがえた。また、大学院生1名の修士論文の作成指導を行い、修了させることができた。研究面においては、長崎国際大学論叢へ論文を投稿し、掲載実績があった。また、学会発表を2件行った。社会貢献については、学外の委員を務め、また講演会や講習会の講師の依頼は、対面での実施に加えて、コロナ禍でZoomを使用したリアルタイムの遠隔での実施のものも含め年間合計25回以上行った。大学運営面においては、自己点検・評価委員会の委員、IRセンター委員会の副センター長として、教育基盤センターではIR・研修部門長、初年次教育（教養セミナーA)のワーキンググループのメンバーとして円滑に業務を行うようにつとめた。教育基盤センターの紀要委員長として紀要の発行に従事し、IR部門からの部門報告の執筆も行った。長崎国際大学学長裁量経費に1件応募・採択され、企画・実行した。

当初の目標はほぼ達成されたと考えている。学外の講師依頼も令和5年度分についてすでにあっており、社会貢献の一つになると考えるため、参加者からの高い満足度が得られるように務める。また、日本調理科学会の特別研究にも携わることにしており責務を果たすように努める。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 廣田　昌彦

1．教育理念

毎回の授業の中で、「ひとつでも二つでも、頭か心に残る内容があればよいな」ということを心がけて授業の準備をしています。また、わかりやすい、かみくだいた表現を心がけています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	30/1(通年)	1	70	①②④⑪⑫
管理栄養士演習	15/1(前期)	2	34	①②③⑧⑨
栄養学応用演習Ⅱ	15/15(後期)	1	15	①②③⑨
臨床医学入門Ⅰ	15/15(前期)	2	25	①②③⑨
臨床医学入門Ⅱ	15/15(後期)	2	25	②③⑨
管理栄養士演習	15/0(後期)	2	38	①②③⑧⑨
スポーツ医学	15/5(前期)	2	34	②⑩⑪⑫
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
解剖生理学Ⅱ	15/2(後期)	2	32	①②⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
臨床医学入門Ⅰ	15/15(前期)	2	29	①②③⑨
解剖生理学Ⅱ	15/2(後期)	2	31	①②⑨
栄養学専門演習	15/1(後期)	2	61	①②③⑧⑨
解剖生理学Ⅰ	15/2(前期)	2	34	①②⑨
臨床医学入門Ⅱ	15/15(後期)	2	27	②③⑨
栄養と薬	15/15(後期)	2	63	①②③
解剖生理学Ⅰ	15/2(前期)	2	31	①②⑨
学際連携研究	15/1(前期)	2	218	⑩
総合演習Ⅱ	15/1(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康科学特論	15/15(前期)	2	2
地域保健学特論	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

毎回、授業の終わりにアンケートを行い、要改善点を募り、ひとつひとつ改善への努力を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

なし

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
2	2	0	2	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

「病院」の教科書第２版　人材確保と人材活用／単著／2022年／医学書院／63-68

「病院」の教科書第２版　栄養管理・給食部門／単著／2022年／医学書院／167-172

「病院」の教科書第２版　病院長の役割／共著・編著／2022年／医学書院／14-19

救急・集中治療ガイドライン2022-'23　急性膵炎の診断と治療指針／共著・編著／2022年／総合医学社／356-358

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Preoperative serum CA19-9 predicts postoperative pancreatic fistula in PDAC patients: retrospective analysis at a single institution／2022年／BMC Surgery／https://doi.org/10.1186/s12893-022-01825-3／共著／原著論文

Cancer-associated fibroblast senescence and its relation with tumour-infiltrating lymphocytes and PD-L1 expressions in intrahepatic cholangiocarcinoma／2022年／Britich Journal of Cancer／219-227／共著／原著論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
合理的配慮の提供内容検討会議	議長	特になし
CHサポートセンター運営委員会	委員	特になし
長崎国際大学論叢編集委員会	委員	特になし
安全衛生委員会	委員	特になし
研究センター委員会	委員	特になし
健康栄養学科倫理委員会	委員長	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	出席

2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	欠席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	出席
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
産業医講話「がんの小話」	2022年 9月28日	長崎短期大学	長崎短期大学衛生委員会
産業医講話「食べ物の小話」	2023年 2月 8日	長崎短期大学	長崎短期大学衛生委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
厚生労働省医政局看護課「看護業務効率化先進事例収集・周知事業実施団体の公募に係る評価委員会」	委員長	2021年度より	厚生労働省医政局看護課長
佐世保市立急病診療所運営委員会	委員	2022年度より	佐世保市保健福祉部急病診療所

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

就任１年目で状況がよくわからず苦労した面も多かった。特に、合理的配慮の提供内容検討会議の運営に関しては、困ることが多かった。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 教授　　氏名 水江　文香

1．教育理念

学生に教育を通じて、将来さまざまな困難、失敗などへの対応を自己で解決、対処できる能力を修得してほしいと考える。そこで授業では、現状を認識できる知識、これに「気づき」と「振り返り」を繰り返すことを重視し、学生が基礎学力、応用力の重要性を学びとり、そのために全講義へ出席することで学習し続ける習慣として「気づき」「振り返り」のできる授業方法を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	2/15(通年)	1	66	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	2/15(通年)	1	55	⑪⑫
給食経営管理論Ⅰ	15/15(前期)	2	24	①③⑨⑩
給食経営管理論Ⅱ	15/15(後期)	2	28	①③⑨⑩
給食経営管理論Ⅰ	15/15(前期)	2	26	①③⑨⑩
管理栄養士演習	1/30(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
給食経営管理論Ⅱ	15/15(後期)	2	25	①③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	15/15(後期)	1	25	①③⑩
調理学実習Ⅲ	15/15(後期)	1	24	①③⑩
管理栄養士演習	15/1(後期)	2	38	①②③⑧⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑩⑫
給食経営管理実習（学内）	30/30(前期)	1	34	①②④⑥
給食経営管理実習（学内）	30/30(前期)	1	32	①②④⑥
栄養学専門演習	1/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

2022年度の授業評価の結果は、アンケートを実施した科目では4以上の評価を得ており、評価は向上している。ただ、複数項目の評価が低いことから、さらに評価を上げるために「質問事項」や「補足内容」については講義中での再説明やポートフォリオに掲示する等で対応していき、また、更なる検討事項も挙がっており、小テストや定期試験の平均点が低下していることから、理解できない学生への対応も含め、集中して興味深く聴講できるような授業にしていきたい。

対面式に戻り、さらに好評価や不評内容の見直しや改善を重ね学生の満足度を向上させ、学生に合わせた内容、幅広い知識を習得させられる内容とし、他の専門科目などと関連づけられるようにし、学生の興味や関心が増すような内容を心掛けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・給食経営管理業務における新調理システムの利用について（主に真空調理）
・大量調理施設業務に必要な帳票類の検討及び様式について
・六次産業化における商品･メニュー開発について
・調理学実習における加工品の改良に関する研究
・地域食材を利用した商品開発、レシピ提供について
・食品ロス（大量調理）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（全学）	委員	大学及び学科の教務事項の審議・決定他（学科専任教員担当科目のシラバス作成・成績処理・履修者名簿管理、試験監督案作成､再試実施計画、卒業・進級判定に伴う資料作成、原級留置学生・3年次編入学生指導等）。
研究倫理委員会（全学）	副委員長	学科審議内容の報告他。
教務委員会（学科）	委員長	学科内教務事項審議、連絡、諸資料の作成他。
倫理委員会（学科）	委員	申請された研究の審査他。
4年生演習係（学科）	係	試験問題作成･編集､履修者出席管理、成績処理等。
3年生編入係（学科）	係	試験問題編集等。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・夢ナビライブ　2022　Web Week　福岡会場：進学イベント　進路ガイダンス（栄養分野）（Zoom）

・令和4年度保護者懇談会　4年次生説明担当：本学（動画作成）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市学校給食検討委員会	委員	2021年度～現在に至る	佐世保市教育委員会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては学生支援･指導の時間が増え、特に後期は、「管理栄養士国家試験受験対策」の指導や担当教科等の活動に

時間を費やしている。授業アンケート結果をもとに次年度に向けた講義資料の変更や演習内容の変更を進めてきた。また、全学教務委員会や学科係として教務全般のとりまとめ、履修、再試験調整などの活動等で、本来講義準備や研究に充てる時間を学科教務に費やさざるを得ない状況が続いている。ただ、余裕がない状態で様々な業務をしているが、少しずつ改善しいい教材が配布できるようになり、その結果、授業アンケートもよい評価を継続できるようになった。

今年度から実施している健康管理学部健康栄養学科既卒者へのリカレント教育として、管理栄養士国家試験受験来策講座を立ち上げ、受講の申込みがあった。これを継続し、既卒者の合格を増やし、卒後教育の柱としていきたい。

研究活動は、卒業研究で近年商品・メニュー開発に関わる機会がふえ、卒業研究テーマとして学科内の複数の教員と学生で様々な活動を進めている。実習レシピを再考するための研究も同時に進め、担当している実習の加工品として活用できるよう卒業研究での活動に加えている。現在、食品ロス（廃棄部分の活用）も視野に入れ学生と研究を進めている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 林　俊介

1．教育理念

私の教育理念は、将来、様々な現場において活躍することのできる管理栄養士になるための実践的教育を通して、学修者が自ら学ぶ姿勢を高めて行く積極性と主体的な学修活動へつながる一歩を踏み出す活力を育むことである。

学生には、管理栄養士として将来働くために求められる知識と技能を修得し、確実に国家試験合格を目指すという高い目的意識を高めることを期待している。よって、授業の展開としては、種々のアクティブラーニングの手法を用いて、学修者がこれまでの学修を土台に、それを実践的に活用していくための知識と技能の向上が図れるようなスタイルで進めて行く。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	3/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	2/15(通年)	1	68	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	2/15(通年)	2	4	⑪⑫
治療食実習	15/15(前期)	1	33	①②③④⑧⑩⑪
管理栄養士演習	1/15(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
在宅医療概論	1/15(前期)	2	264	①②⑤⑩⑪
治療食実習	15/15(前期)	1	33	①②③④⑧⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15/15(前期)	2	37	②③⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅲ	15/15(前期)	2	31	②③⑩⑪
管理栄養士演習	1/15(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑨⑩⑫
栄養学専門演習	1/15(後期)	2	61	①②③⑧⑨
生活支援技術ＩＢ	1/15(後期)	1	15	④⑤⑦
栄養教育論Ⅲ	15/15(前期)	2	36	②③④⑤⑦⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅱ	15/15(後期)	2	24	②③⑩⑪
栄養教育論Ⅲ	15/15(前期)	2	33	①②③④⑤⑦⑩⑪
臨床栄養管理学Ⅱ	15/15(後期)	2	24	②③⑩⑪
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養管理学特論	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響がある中、対面授業での実施ができた。感染者及び濃厚接触者となり、登校できない履修者に対しては、可能な限り、Zoomを活用し、遠隔授業の形式で出席させて、学修活動が中断しないように努めた。治療食実習では、感染予防のため、調理作業後の試食は行わず、持ち帰りをさせて試食とレポート作成に取り組ませた。本年度の同科目の授業アンケートでも評価は、ほぼ変わらなかった。今回は、対面授業の形式に戻ったが、授業の満足度は担当するいずれの科目でも高いレベルで維持されている。

学生が授業に集中し、飽きがこないようにアクティブラーニングの手法を用いた学修展開を行っている。授業の始めに出席カード(リフレクションカード)を使用し、本時の授業内容に関する基礎科目での学修、前時の復習、事前の予習の確認をするよ

うにしている。学生の授業への参加度を高めるため、発問と考察と短いディスカッションを取り入れるような授業展開を意識して行っている。また授業で紹介した栄養剤や減塩食品、アレルギー対応食品などの様々な製品を手に取らせ、実物を体感できるようにしている。

履修者の臨床栄養系科目への興味関心を高め、実践的授業になるように様々な工夫をした授業展開を行っている。授業教材(プリント、映像など)は、毎年出来るだけ新しいトピックス(話題、ニュース)と入れ替え、改善している。

本年度も、感染予防のため定期試験(筆記試験)を実施せず、課題による評価を行うことにした。そのため、課題レポートも例年のものよりも「調べ学修」に繋がるように、自身の出身地での疾病状況や生活習慣や食習慣を調べることが必要な内容を設定し、より学生の学修が深まり、興味関心が高まるようにした。授業時間内では時間を掛けて出来なかった内容などを後から自分で調べ、考えることが出来、更にこの科目の学修を深めることに繋がったと考えている。

本年度より社会福祉学科の「生活支援技術ＩB」(2年生)の授業をオムニバスで担当することになった。出席者数に対してレポート提出数が少なく、授業内容と合わせて対応を検討したい。

来年度以降、更により良い授業・実習が出来るように取り組みたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
歯科衛生士学院	栄養指導Ⅱ	8/8(後期)	2	27
歯科衛生士学院	国家試験対策演習	2/2(後期)	－	－

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. フェニルケトン尿症患者(患児)と家族を対象とした栄養教育と食事療養の実践に関する研究
2. 腎移植患者の移植前後での食事摂取とQOLの変化及び腎移植医療における栄養管理と栄養士の関わりについて
3. 血液透析患者の生活の質(QOL) と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
4. 血液透析患者における口腔環境と生活の質(QOL) と栄養摂取状況、栄養状態に関する研究
5. 血液透析患者における食事療法と栄養教育に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

シンポジウム「腎臓リハビリテーションの心理面への効果を検証する」 管理栄養士からみた透析患者における食事と栄養、口腔状態が生活の質(QOL)、心理面に与える影響について／令和5年3月19日／第13回 日本腎臓リハビリテーション学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	副委員長	教務に関わる様々な事項の全学的な取りまとめを委員長及び事務局と取り組み、各学部との調整を行った。
広報委員会	委員	大学公式ホームページのコンテンツ作成・教員情報の更新、公式サイト、Instagram、Facebookへのトピックス投稿、広報催事事業の実施、マスメディアの取材対応
私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」	委員(高等教育の質向上専門委員会・教務系WG)	九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)の中で、高等教育の質向上専門委員会及び教務系WG(本学が責任校)の担当者として、本事業の事業推進に務める。 ・QSP参画校での教学(IR)に関する共同IRデータ収集と公開 ・情報教育科目(共通授業)の開発と導入 ・共同FD・SDの企画と実施 ・留学生支援事業　日本語学修支援システムの開発と導入 ・QSP人材バンクの構築と運用 ・高大接続事業　理系女子(リケジョ)育成プログラムの実施 ・委員会・WGの合同会議の開催 ・申請書類の作成
在宅医療・福祉コンソーシアム長崎	運営委員	運営委員 「在宅医療概論」の科目担当。※NICEキャンパス長崎の登録科目

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
大学コンソーシアム長崎	ワーキンググループメンバー	NICEキャンパス長崎の活性化のために本年度新設された県内大学・短期大学での共同実施科目「長崎学Ⅰ・Ⅱ」について、学内外の担当者と連携して授業プログラム構築と実施。
SPARC タスクフォース	メンバー	長崎大学が主体となる地域活性化人材育成事業[SPARC](文部科学省)への応募のための検討会に参加し、事業計画の提案等を行う。

(3) 課外活動の指導等

令和２年度(2020)より、柴田先生の後、ボランティアサークル「絆」の顧問を務めている。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① オープンキャンパス 第3回 模擬授業(模擬実習)／8月21日／「食べる楽しみをいつまでも わかる摂食嚥下のメカニズム」

② 夢ナビライブ2023 「まなびステーション」／10月16日／オンライン

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

長崎県栄養士会　研究教育協議会の運営委員(代表)を本年度(令和4年度)より務めている。研究教育協議会の代表及び長崎県栄養士会の理事を務めている。

合わせて、長崎県栄養士会の中で、学術研修部(部長)、長崎栄養改善学会委員会(委員長)、ホームページ・IT化委員会(委員)、長崎県栄養士会あり方検討委員会(委員)、「栄養士会創立75周年・公益法人認定10周年」記念事業委員会(委員)などを担当している。

長崎栄養改善学会委員会の委員長として、2月11日(土)に本学を会場に、令和4年度 第2回栄養学術研修会・第21回栄養改善学会を開催した。栄養士会の活動などを通して、地域の栄養士に学びの機会を提供し、また大学としての社会貢献、地域貢献に大きく寄与している。これらについて、大学の公式サイト、SNS等を通じて情報発信を行い、大学広報、認知度アップにも尽力している。

研究教育協議会の代表として、県内の栄養士養成校(5校)と連携し、協議会運営に取り組んだ。本年2月17日(金)に総会・研修会を開催した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

担当学生について

本年度、教養セミナーは1年生5名を担当。5名とも1年間学修を継続させることができた。

2年生は、2名の休学中の学生を担当している。1名は、進路変更のため後期で退学。もう1名は、進路検討のため、4月以降休学延長となる予定である。面談等を重ね本人の希望を確認し、サポートして行きたい。

3年生は、7名のゼミ生を担当し、卒業研究の活動を行っている。新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、学外での患者等と直接接するような調査活動等にはまだ制限があるが、腎移植患者の訪問調査などを実施することができた。4年生の活動に合流する形で、フェニルケトン尿症のレシピ集製作、オンライン形式による調理教室の開催に取り組んで、患者、家族を対象としたアンケート調査を実施する予定である。充実したゼミ活動に取り組むことができている。

4年生4名は、フェニルケトン尿症と腎移植のテーマで卒業研究の活動に取り組んだ。困難な状況の中、卒業研究の活動も無事終わり、卒論発表、論文提出する事が出来た。卒業試験には合格し、4名とも卒業する事が出来、国家試験を受験し合格した。本

年度の就職状況は、卒業までに4名とも内定を得て、それぞれ就職先が決定することができた。

卒業延期となっていた1名は、本年度も指導を継続し、秋期卒業をすることができた。

私立大学等改革総合支援事業　タイプ3

私立大学等改革総合支援事業タイプ3「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)」の学内の担当者として、高等教育の質向上専門委員会・教務系WGの事業推進の実務を担っている。本委員会・WGは、本学が責任校である。プラットフォーム事業に参画する長崎県・佐賀県の私立大学・短期大学の全14校の連絡調整の窓口となり、事業推進協議会、事務責任者会議等の全体会議の資料作成や会議での報告を行っている。タイプ5の応募案作成時から担当し7年目である。本年度で6年間の事業期間は終了(第1期QSP)。

本年度は、これまで取り組んできた留学生支援や大学間共同の情報教育科目の導入、人材派遣事業(データベスの構築)などを進めた。その他に連携校との共同FD・SDを実施(オンライン形式)した。高大接続事業の一つとして理系女子(リケジョ)育成プログラムにも取り組んだ。大学の質保証の取組として、教学(IR)に関する連携校の情報収集を行い、情報公開を行った。様々な取組はQSP公式サイトでも情報発信を積極的に行った。次年度以降の次期QSPのための応募案作成に取り組んだ。

本年度も新型コロナウイルス感染症への対応のため、様々な事業計画の事業推進が困難な状況であったがQSPが始まって事業最終年度の6年目となり様々な事業が進められた。かなりの事務作業等に追われる形になった。授業や研究活動と上手くメリハリを付けて取り組んでいきたい。

教務委員会

教務委員会の副委員長を務めている。教務に関わる様々な事項の全学的な取りまとめを委員長及び事務局と取り組み、各学部との調整を行った。

NICEキャンパス長崎で開講される「長崎学Ⅰ・Ⅱ」のワーキンググループメンバーとして、運営に携わった。

広報委員会

広報委員会担当となって4年目である。総合改革支援事業で求められる情報公開に沿った形でのresearchmapの改定を行った。大学公式ホームページに掲載する「教員データベース」の更新を行った。広報催事は企画(科学教室、食物アレルギー、災害食講座等)を行った。

大学公式ホームページへのトピックス及び学科のInstagram、Facebookへの記事掲載を積極的に行った。本年度、学科のSNSの運用の指針を策定し、教員が自由に投稿できるようにした。学科に関する投稿を39件、大学院に関する投稿を6件行った。Facebook 62件、Instagram 136件の投稿が行われた。学外に向けた情報発信が盛んに行われるように導いた。本年度のトピックス年間掲載目標(学部20本、大学院5本)をおおよそ達成する情報発信を行った。

新聞・テレビ等への露出件数(2件)およびニュースリリースの件数(5件)は、年間目標には届かなかったため、次年度の課題となる。情報発信の工夫をして、露出を増やしていきたい。

本年度の取組としては、「卒業生と連携した広報活動の推進」が求められているため学部卒業生(井上朋奈さん)の協力を得て、大学院生を紹介するコンテンツ作成を行った。

また、取組として3年次編入学に関する情報、各学年での学修のイメージが得やすいように時間割を掲載する形にし、その情報を更新した。

入試･募集委員会と連携した形での広報活動が求められているため、入試･募集委員とも協力した形での展開を行っていきたい。

研究活動

研究活動では、本年度は、これまで取り組んでいた透析患者に関する研究について、日本腎臓リハビリテーション学会でのシンポジウムでシンポジストとして発表を行った。シンポジウム「腎臓リハビリテーションの心理面への効果を検証する」　タイトル「管理栄養士からみた透析患者における食事と栄養、口腔状態が生活の質(QOL)、心理面に与える影響について」。

これまで研究活動をさせて頂いていた病院での調査活動は感染予防のため見合わせている。まだ活動再開は当面難しそうである。

腎移植患者を対象とする調査活動を行っている。ご了承を得て、腎移植前後での食事と栄養、QOLについて長期的な調査を継続させて頂いている。本年度は、感染予防に取り組みつつ、見合わせていた訪問調査をゼミ学生と実施させて頂いた。

現在は、フェニルケトン尿症(PKU)に関する研究活動がメインの研究テーマとなっている。移植医療と同様に、PKUの様な稀少疾患と関われる機会は大変貴重なので、自身だけでなく、学生や一緒に研究活動を行っている助手の先生らの学びとなるものと考えている。

本年度は、食事療法のためのレシピ集製作に取り組み、全国のご家族へ配布することができ、合わせてアンケート調査を実施することが出来た。次の3年生には、これを発展させた内容で研究活動に取り組んでいる。これらのテーマで論文作成、学会発表へとつなげ、今後、研究の質を高めていきたい。

卒業研究での研究・学修活動を通して、学んだことが自身の進路決定へ強く影響しているものと考えられる。多くの卒業生が病院や施設など現場に就職し、様々な業務に従事している。

今後も将来臨床の分野を目指す学生が研究活動を通して、学内での講義・実習、臨地実習に対して、さらに学習意欲と効果が向上するように、また希望する就職に繋がるように支援していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 松尾　嘉代子

１．教育理念

私の教育理念は、「食べることを通して人を幸せにできる管理栄養士」を育てることです。

人が「食べること」を楽むことは、QOLを高めるために重要なことです。

食を楽しみながら生涯を通じて健全な心身を作り上げていくには、全ライフステージにおける食育体制の整備、その中でも特に乳幼児期からの食育の必要性を強く感じております。その体制整備のため、発育・発達に応じた栄養教育を実施できる管理栄養士の育成は必要不可欠です。

本学科ディプロマ・ポリシーに基づき、食と健康に関連する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」ができ実践的に活動できる人材育成を目指しております。そのために、私自身が現場の管理栄養士として働く中で特に必要性を感じた、他者とのコミュニケーション能力や自分の考えを分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につけられるような授業展開を意識しております。

講義では、授業の内容を理解しながら自分の考えをまとめていけるような工夫、実習では、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れて、実際の場面を想定し活用できる知識や技術を学んでほしいと考えています。

いずれの教育場面でも学生の考えを尊重し、私自身も常に学ぶ姿勢を持ちながら、学生と共に成長していけるような教育を行っていきます。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	4/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	66	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	69	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	15/15(通年)	1	68	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	30/30(通年)	2	4	⑪⑫
応用栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	25	①②③⑨⑩
応用栄養学Ⅰ	15/15(前期)	2	24	①②③⑨⑩
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
応用栄養学Ⅲ	15/15(前期)	2	38	①②③⑨⑩
応用栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	23	①②③⑨⑩
応用栄養学Ⅱ	15/15(後期)	2	27	①②③⑨⑩
応用栄養学Ⅲ	15/15(前期)	2	33	①②③⑨⑩
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	38	①②③⑧⑨
健康栄養入門	5/15(前期)	2	72	②③⑤⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教職実践演習(栄養教諭)	3/15(後期)	2	5	⑤⑦⑩⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
応用栄養学実習	15/15(後期)	1	34	①④⑥⑦⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
応用栄養学実習	15/15(後期)	1	33	①④⑥⑦⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
栄養教育学特論	15/15(前期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

例年、おおむね高評価を得ているが、今回実施した科目では参加した全員が5点満点の満足との回答を得た。学生にとってはおおむね満足の得られる授業運営ができていると考える。また、全体の平均点よりも高い結果であったことから、今後も、このような評価を得られる授業運営を心掛けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
臨地実習ⅢⅣⅤの自己課題・施設課題指導（前期毎週水曜日2限）	11	69	2022年5月11日～7月20日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期の栄養教育に関する研究

食物アレルギー児の支援に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

管理栄養士養成課程臨地実習における事前事後指導での自己学習ノートの導入に関する報告／2023年3月／長崎国際大学論叢第23巻／91頁～100頁／共著／研究レポート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

県民健康・栄養調査の実施手法に関する一考察／2022年9月17日／第69回日本栄養改善学会学術研修会

管理栄養士養成施設に在籍する学生における食物アレルギーに関する認知の状況／2023年2月11日／第21回長崎栄養改善学会学術研修会

長崎県における野菜摂取状況の実態と食意識・行動との関連／2023年2月11日／第21回長崎栄養改善学会学術研修会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会	委員長	ハラスメント相談案件(1件)への対応や、ハラスメント対策小冊子の内容について、活用しやすい資料となるように改訂を行った。 また、教職員のハラスメントに対する意識の普及啓発を目的としたFD/SDを動画配信で実施し、ハラスメント防止対策を行った。
教職課程委員会	委員	教職課程の在り方や、教育実習の実習先の検討、学生の指導等について検討した。
教育基盤センター運営委員会	委員	教職課程や資格取得に向けた教育内容の改善・充実、教員等への就職支援プログラムの企画・運営を検討した。
臨地実習委員会（学部内）	委員長	臨地実習に関する必要事項について検討し、円滑な実習に向けて実習の在り方などを検討した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①夢ナビライブ2022「まなびステーション」/令和4年7月9日/WEB開催

②学科広報催事（公開講座）実施／令和4年8月20日／場所：本学科調理実習室／「家族で考える災害食～学童期編～」／参加者：親子7組16名

③学科広報催事（公開講座）実施／令和4年9月23日／場所：本学科調理実習室／「家族で考える災害食～食物アレルギー編～」／参加者：親子6組10名

④佐賀県立唐津南高等学校進路ガイダンス／令和5年3月17日／1，2年生24名参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	5

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和4年度　生月地区介護ボランティア講習会	令和5年3月13日	生月中央公民館	社会福祉法人平戸市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
(公社)佐世保市学校給食会	評議員	2014年6月1日～現在に至る	(公社)佐世保市学校給食会長
佐世保市食育推進会議	会長	2019年7月1日～現在に至る	佐世保市長
大村市食育推進市民会議	委員	2019年7月1日～現在に至る	大村市長
健康ながさき21栄養・食生活部会	アドバイザー	2020年3月1日～現在に至る	長崎県福祉保健部国保・健康増進課長
けんこうシップさせぼ21推進会議	会長	2020年7月15日～現在に至る	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度もコロナ禍が続く状況であったが、学科広報催事が対面で実施できたことや、臨地実習において全員を学外での実習に送り出すことができたことは、評価できる内容であったと考える。

学生の授業評価でも、後期の座学で初めて満足度満点の評価を得ることができ、授業運営も学生にとって好ましい内容になっていると考える。

全学委員会活動では、ハラスメント案件の発生にも迅速な対応ができ、被害を最小限度に抑えることができたと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 准教授　　氏名 山口　留美

1．教育理念

私の教育理念は、管理栄養士として必要な知識および技能を修得し、医療や福祉等の現場において、相手の立場を尊重し思いやり、そして貢献できる人材の育成を支援することと考えている。

臨床栄養学の基礎知識を学んだ後に、アクティブラーニングを用いて様々な角度から物事を観察・提案ができるよう授業を構成している。その時点で自らの不足した知識や技能を振り返り、主体的に学び知識獲得を目指すものとする。また、アクティブラーニングを通し、自ら発言するだけではなく、相手の立場を十分に理解し尊重し合うコミュニケーション力を身に着けさせ、食の専門家として「チーム医療」の中での管理栄養士の役割を学ぶこととする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	70	④⑤⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	1/15(通年)	1	68	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	2/30(通年)	2	4	⑪⑫
管理栄養士演習	1/15(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
給食栄養管理実習（学内）	15/15(後期)	1	27	④⑥⑦⑧⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	0	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	1/15(後期)	2	38	①②③⑧⑨
健康栄養入門	1/15(前期)	2	72	②③⑤⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
給食栄養管理実習（学内）	15/15(後期)	1	32	④⑥⑦⑧
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
臨床栄養管理学Ⅰ	15/15(後期)	2	25	②③⑩
臨床栄養管理学Ⅰ	15/15(後期)	2	24	②③⑩
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
臨床栄養管理学Ⅳ	15/15(前期)	2	34	②③⑤⑩
臨床栄養管理実習	15/15(後期)	1	37	④⑥⑦⑧⑩
臨床栄養管理学Ⅳ	15/15(前期)	2	37	②③⑤⑩
臨床栄養管理実習	15/15(後期)	1	33	④⑥⑦⑧⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業に対する評価は概ね良好であったが、学生の自己学習評価点数が低い。復習に関しては、授業の最初に前回の内容および学生からの質問を解説しているが、予習は学生の知識を深めるためにも大変重要な項目であるため、さらなる工夫が必要であると感じる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

高齢者における栄養管理に関する研究

妊娠糖尿病患者の食生活に関する研究

緩和ケアチームにおける管理栄養士の関りに関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	2	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

新臨床栄養学　栄養ケアマネジメント　第5版／共著・編著／2023年3月／医歯薬出版株式会社／共著：405頁～418頁

新版　臨床栄養学　栄養ケアプロセス演習―傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方―／共著・編著／2022年4月／同文書院／共著：197頁～209頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

フェニールケトン尿症患者（患児）・家族を栄養の力で支援する取組～栄養教育と食事療法の実践のためのレシピ集の作成～／2022/2/12／第20回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	特待生や奨学金対象学生関係の検討やクリーンキャンパス実施等に関わった。また、フレッシュマンセミナーでは新入生や教員の交流ができる内容を検討、立案をした。
臨地実習委員会（学科）	委員	学生が有意義な臨地実習が行えるよう、検討及び指導を行った
倫理委員会（学科）	委員	公平な立場で研究内容を理解し、意見等を述べた

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①夢ナビライブ　10月15日　オンライン

②九州文化学園「内部進学ガイダンス」　3月6日　九州文化学園高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
5	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
静脈栄養（TNT-D）管理栄養士研修	6月18日	オンライン	日本栄養士会
静脈栄養（TNT-D）管理栄養士スキルアップ研修	5月29日	オンライン	日本栄養士会
静脈栄養（TNT-D）管理栄養士スキルアップ研修	10月23日	オンライン	日本栄養士会
リスクマネジメントについて	7月9日	長崎県栄養士会事務局、オンライン	長崎県栄養士会
シニア世代への食生活アドバイス	2月24日	アルカス佐世保	佐世保市社会福祉協議会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

授業アンケートにおいては概ね良好な結果ではあったが、学生への修学意欲をもっと引き出す方法はなかったかと反省し、今後の課題とした。

また、今年度も臨地実習Ⅳが学外で行えなかった学生に対し、実際の医療現場と同じような内容で学内実習を行うために、他の先生方とともにカンファレンス等を取り入れた内容で実施し充実したものであったと思われる。

今後も研究活動を行いながらも、より学生に寄り添った活動を行っていきたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 小田　和人

1．教育理念

私の教育理念は、専門的知識と技術に加えて、知性や感性の備わった人間力のある人材の育成を教育の柱とし、国家試験に合格できる力を育むとともに、社会人として考え、行動できる力の育成を行う。そのためにも自ら課題を見つけ、自主的・積極的に勉学する態度や習慣、考える力を身に付けてもらいたいと考えている。また感動を覚える素直で広い心、人を思いやり、人に尽くすためにもその立場に立って物事を考え、行動することを学んでほしい。そのために講義では意欲喚起を図る手段を取り入れ、主体的な学びから専門力を高め、実習ではグループ活動を中心にコミュニケーション力や課題解決力の向上を図る。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	9/15(通年)	1	70	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	3/53(前期)	2	34	①②④⑪⑫
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	14	①②⑨
総合演習Ⅱ	5/78(後期)	1	65	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	5/78(後期)	1	0	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	3/53(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティとSDGs	15/15(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	7	①②④⑥⑨⑩⑫
地域栄養論	15/15(後期)	2	2	②④⑤⑩
スポーツ栄養学実習	30/30(前期)	1	13	⑥⑩⑪
栄養学専門演習	10/156(後期)	2	61	①②③⑧⑨
スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	55	①②⑩
運動生理学	15/15(前期)	2	21	①②⑩
地域の理解と連携	6/15(後期)	2	124	②④⑥
学際連携研究	3/15(前期)	2	218	⑩
総合演習Ⅱ	5/78(前期)	1	9	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・前期　運動生理学

質問12：4.4、質問13：4.7と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。昨年度よりもポイントが高かったが、今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・前期　スポーツ栄養学実習

学外実習や就職活動による欠席者が多いグループの進捗度を考慮し、授業の進行の調整を行った。また、グループ毎に作業することが多いため、グループによって理解に差が生じないよう、班構成にも考慮した。質問12：4.8、質問13：5.0と昨年度と同等の評価であった。今後、学生からの質問や意見に応える時間をさらに増やしていきたい。

・後期　スポーツ栄養学（健康栄養学科）

質問12：4.4、質問13：4.7と過半数の学生が満足していたが、より理解しやすく興味の持てる授業を行う必要があると感じた。

今年度からの開講科目であったことから、今後より興味・関心を持てるように実際の体験談等交えながら授業を行いたいと思う。

・後期　スポーツ栄養学（国際観光学科）
昨年度と大きく変わらない評価（質問12：4.5、質問13：4.7）であり、過半数が理解でき、満足できたという結果であった。談話している学生がいた場合は声をかけていたが、余計な話をしたりすることがないように注意していく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州看護福祉大学	スポーツ栄養学Ⅱ	15/15(前期)	2	9
長崎短期大学	スポーツ栄養学	15/15(後期)	2	5
長崎短期大学	スポーツ栄養学実習	30/30(集中)	1	5
長崎短期大学	運動生理学	15/15(後期)	2	21
こころ医療福祉専門学校	スポーツ健康学Ⅲ（栄養学）	15/15(前期)	2	9

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	15	80	4/1
リメディカル教育	15	10	10/20

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 競技選手の身体組成、栄養素等摂取量および血液性状における貧血、血中脂質、糖代謝、骨代謝マーカーとの関係
2. 学生アスリート寮における食環境整備

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	1	1	95万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和4年度 学長裁量経費	長崎国際大学	令和4年6月1日～令和5年2月29日	95万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究倫理委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告
ボランティアセンター運営委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告
教育基盤センター委員会 初年次・共通教育部門	委員	共通教育・初年次教育・リメディアル教育・入学前教育の企画及び運営
安全衛生委員会	委員	委員会への出席、学科審議内容の報告

学生委員会（学科）	委員	本学保護者会の運営
倫理委員会（学科）	委員	委員会への出席
国家試験対策委員（学科）	委員	栄養士実力認定試験の実施責任者および模擬試験の運営
入試募集委員（学科）	委員	オープンキャンパス学科責任者

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
4年生演習試験担当	係	定期試験問題の編集および採点、結果表作成
卒業研究担当	係	説明会及び発表会の運営、希望調査の集計、 論文集の作成
教育基盤センター委員会 ホスピタリティ概論ワーキンググループ	係	次年度に向けて、授業の運営について協議し、シラバスの修正、授業担当者の選出、SAの募集・選出、講師の依頼を行っている。

(3) 課外活動の指導等

① 長崎国際大学空手道部　男女空手道部顧問およびコーチ（栄養部門）

顧問として学生指導および大会時の申し込み、引率、会計管理等を行った。

令和4年度の成績は、第71回全九州大学空手道選手権大会において、男子団体組手　準優勝、女子団体組手　第3位、女子団体形　優勝であった。

② NIUスポーツ栄養サポートチーム：

本学強化クラブに対してスポーツ栄養学的サポートを行う。主な業務は栄養調査や体力測定の結果に基づいた栄養指導や調理実習等を行う。今年度は主に本陸上競技部、駅伝部、空手道部、九州文化学園高校サッカー部、佐賀県空手道国体候補選手に対して栄養調査、定期的な身体測定から指導を行った。来年度は現調査の継続的な状況分析に努めていきたい。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①スポーツ栄養サポートチームの活動記事を定期的に公式HP上およびSNSに掲載。

②本学空手道部の活動記事を定期的に公式HP上およびSNSに掲載。

③各種空手道大会での次年度入学生の募集活動を実施（2023年度5名が入部予定）

④夢ナビライブ2022「まなびステーション」令和4年10月15日 オンラインにて1 コマ 30 分2コマ担当

⑤高校内進路ガイダンス

⑴令和5年1月27日 長崎県立国見高等学校　テーマ：アスリートの食事管理～スポーツ栄養士とは～

⑵令和5年2月16日 長崎県立平戸高等学校　テーマ：食や栄養に関わる仕事～管理栄養士・栄養士～

⑶令和5年3月4日　大和青藍高等学校　テーマ：正しい栄養学の基本～食のリテラシーを高めるために～

⑶令和5年3月14日 九州文化学園高等学校　令和4年度九州文化学園内部進学ガイダンス

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
8	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
運動部に所属する大学生のための食事と栄養（テニス選手のためのスポーツ栄養学）	令和4年6月1日	長崎国際大学	テニス部指導者
アスリートのための食事	令和4年7月17日	福岡県	なでしこリーグ参加チーム所属女子サッカー選手指導者
スポーツ栄養の基本とアスリートの食事と郷土食	令和4年11月3日	大村市ミライon図書館	長崎県県民生活環境部食品安全・消費生活課主催の食育後援会
スポーツ栄養士と学ぶ人生100年時代の“子供の食とスポーツ”	令和4年11月27日	武雄市白岩体育館	武雄市スポーツ課SAGA武雄温泉ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｯｼｮﾝ
子どものからだづくりと食育～運動・スポーツを行う子どもに必要な栄養素とは～	令和4年12月9日	雲仙市千々石町公民館	雲仙市学校給食研究会
運動・スポーツにおける食事の重要性～ジュニアアスリートの栄養上の課題	令和5年1月28日	佐世保市中部地区 コミュニティセンター	佐世保市スポーツ少年団
ジュニア競技選手のためのスポーツ栄養学	令和5年2月26日	佐世保市南風崎MGレヂデンス	長崎県中学校体育連盟
人生100年時代のゴールデンエイジ世代の食とスポーツ	令和5年3月11日	武雄市 ASTro Sport Field TAKEO BASE	武雄市スポーツ課SAGA武雄温泉ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｯｼｮﾝ

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
武雄市スポーツ課SAGA武雄温泉ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｯｼｮﾝ主催『食スポプロジェクト』	委員	2022年度～現在に至る	佐賀県武雄市スポーツ課
長崎県空手道連盟理事会	学連理事	2019年度～現在に至る	長崎県空手道連盟

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①令和4年11月27日 三世代セミナー「人生１００年時代の“子どもの食とスポーツ”」にて栄養ブースの展示等（武雄市スポーツ課SAGA武雄温泉ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｯｼｮﾝ主催）

②令和5年3月11日 ジュニア選手へのスポーツ栄養教育・体組成測定等（武雄市スポーツ課SAGA武雄温泉ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｯｼｮﾝ主催）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

朝日新聞『大学力』において、スポーツ栄養サポート実施に関する記事掲載（令和4年7月17日）

７．受賞等

令和4年度NIU賞　女子空手道部

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は概ね目標を達成できたと思いますが、論文掲載に至りませんでした。次年度の掲載に向けて現在執筆しております。昨年度のアンケート結果より内容を改善し、授業に対する理解度や満足度の更なる向上を目指しました。法人内外の非常勤講師としての業務、進路ガイダンス等においても不備のないよう務めることができました。スポーツ栄養サポートチームとして、本学

強化クラブ所属選手等への食事指導を実施するとともに、地域におけるアスリートへの食育活動も実施致しました。顧問でもある空手道部においては試合や遠征の際の引率および試合期間中の食事サポートも積極的に行えました。新聞記事2件の掲載、本学ホームページやSNSにも関連記事を掲載し、地域のスポーツ指導者や食育関係者などに対する講演を複数回実施しました。次年度も継続して活動するとともに、学会発表および論文として形に残していきたいと思います。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 川内　美樹

１．教育理念

本学科は管理栄養士国家試験全員合格という教育目標のもと教員が一丸になって頑張っている。その中において私の教育理念は、４年間で管理栄養士になるための基礎力を身につけさせることである。
私は基礎科目である化学系の科目を担当しており、本学に入学してくる学生のほとんどが高校時代に化学を苦手としているのが現状である。高校までの化学や生物につまずくと、４年間で管理栄養士になれるどころか、進級さえも危ぶまれる。そこで、中学高校までさかのぼり化学を基礎からしっかりと勉強してもらいたいと考える。そのために、放課後には化学のリメディアルも実施しており、少人数制で一人一人がしっかり理解できるまでサポートすることを心がけている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	30/2(通年)	1	70	①②④⑪⑫
栄養代謝学	15/15(前期)	2	27	①③⑨
生化学	15/15(後期)	2	27	①③⑨
管理栄養士演習	15/2(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	15/2(後期)	1	65	①②③⑧⑨
基礎化学実習	30/30(後期)	1	28	⑨⑪
生化学実習	30/30(後期)	1	28	①⑪
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	37	①⑧⑨
管理栄養士演習	15/2(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑪⑫
生化学	15/15(後期)	2	32	①③⑨
卒業研究	30/30(通年)	4	5	①②④⑥⑩⑫
栄養学専門演習	15/2(後期)	2	61	①②③⑧⑨
生化学実習	30/30(後期)	1	25	①⑪
栄養代謝学	15/15(前期)	2	31	①③⑨
基礎化学実習	30/30(後期)	1	24	⑨⑪
総合演習Ⅱ	15/2(前期)	1	9	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床生化学特論	15/15(後期)	2	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前年度から学生に評判のよかった予習プリントの配布やノート作成を引き続き導入した方法で実施できた。しかし、質問1の予習の項目が相変わらず低いままで、予習プリントを家でして授業はノートをしっかり作成する学生と家で全くしてこないため授業内容についてこれない学生に分かれ、やはりしてこない学生が試験の成績も悪いように思われる。生化学の授業内容は高校生物の延長のような科目で、また食品学や解剖生理学といった科目でも何度も耳にしている内容にも関わらずやはりまだ理解できていない学生が一定数いることがわかる。来年度の栄養代謝学は、さらに内容が難しくなり理解する内容も増えるので、より良い予習のあり方を検討して確実に勉強できるように指導していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園高等学校衛生看護専攻科	栄養学	8/8(前期)	2	35

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	6	8	後期水曜4限目

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①「酒粕が食餌性肥満モデルマウスのメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響」

我々は今まで糖尿病モデルマウスにおける酒粕の効果について検証し、そこで熱乾燥酒粕投与によってマウスの著しい体重減少とインスリン抵抗性の改善効果を確認することできた。

糖尿病発症の基盤には内臓脂肪蓄積型肥満があり、肥満はインスリン抵抗性・糖代謝異常・脂質代謝異常・高血圧が重複して発症するいわゆるメタボリックシンドロームとなり、糖尿病以外にも非アルコール性脂肪肝や腎臓病といったリスクを抱えている。つまり、基盤病態である内臓脂肪蓄積型肥満を予防・抑制することが重要である。

そこで、本研究では、肥満から引き起こされるメタボリックシンドロームの発症抑制を目的として食餌性肥満モデルを用いて酒粕の効果の検証を行っている。

②「長崎県産オリーブの葉の効能に関する基礎研究」

オリーブ摂取量の多い地中海地方では平均寿命が長く、心疾患や動脈硬化、大腸がんの発生率が低いことから、世界的にオリーブの効能が注目されている。特にオリーブオイルについはこれまで多数の基礎研究や介入研究が実施され、オリーブオイルに含まれるオレイン酸やビタミンE、ポリフェノール類の健康増進効果や疾患予防効果が報告されており、またオリーブに含まれるポリフェノール類には抗高血圧作用やコレステロール低下作用、血糖降下作用、骨代謝改善作用などがあると確認されている。

また非可食部である葉部にもオレウロペインをはじめとしたポリフェノールやカルシウム、鉄が豊富に含まれており果実同様の健康効果が期待でき、オリーブ葉エキスとしてヒトへの介入試験も行われ効果が確認されている。本研究では、企業の協力のもと長崎県佐世保市で栽培されているオリーブの葉を用いて、まずは in vitro でのオリーブの葉やその抽出エキスの効能について調べることを目的とする。さらに食の観点から、機能性関与成分を高効率に摂取可能なオリーブ葉を用いた商品開発を実施する。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

第37回国試対策　管理栄養士国家試験全国統一模擬試験かんもし第3回　解説集／共著・編著／2022年12月／インターメディカル／22-28

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

栄養学実習におけるラット反転小腸を用いたグルコース重合体の膜消化･吸収実験の実験条件に関する研究／2022年2月／日本食生活学会誌／225-229／共著／資料

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

熱乾燥酒粕は高血糖状態マウスの体重を減少させ糖尿病様症状を抑制させる／2023年2月／第10回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IR委員会	委員	卒業生アンケート、在学生アンケートの集計分析
ハラスメント対策委員会	委員	ハラスメント案件の対応
図書館委員会	委員	学科図書選書

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
国試対策委員会（学科内）	副委員長	模擬試験の実施、朝テストの実施、演習の実施
学生委員会（学科内）	委員	保護者会資料の作成

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①　清峰高校大学訪問模擬授業担当／6月14日／長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
理系進路支援プログラムSTEAMガールズinSAGA・SASEBO	8/22	壱岐市石田中学校	長崎国際大学QSP事務局
理系進路支援プログラムSTEAMガールズinSAGA・SASEBO	11/3	九州文化学園小・中学校	長崎国際大学QSP事務局

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は教育面では、担当の講義実習を滞りなく実施することができた。授業評価は高い評価であり安心した。今年度の卒業研究は新たな研究も加わり、卒論提出まで指導することができた。国試対策では、国家試験対策委員として、担当の分担を行い、模擬試験の成績管理をはじめ、保護者への成績送付など滞りなく進めることが出来ている。研究面では、昨年度に引き続き論文作成に向けて研究を進めており、それなりの結果を得ることが出来ている。授業の合間での作業であるが、機器も揃ってきており、また助手の先生と一緒に行うことで例年よりは動きやすくなってきた。論文として査読まで進んでおり今年度中には投稿できればいいと思う。また科研費の申請も行なった。大学運営に関しては、所属する委員会（図書館委員、ハラスメント委員、IR委員会）の仕事において与えられた任務を精一杯頑張ることができた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 川野　香織

1．教育理念

私の教育理念は、対象者に寄り添った支援によって、よりよい食生活の実現に貢献できる管理栄養士の育成を行うことである。

私が担当している栄養教育論は、健康の維持・増進、QOLの向上に寄与する健康的な食行動の形成や行動変容のために、対象者をいかに支援すべきかを見出す学問である。それは、単に知識を伝えるだけでなく、行動科学や教育的な幅広い視点を踏まえ、一人ひとりに応じた栄養教育を行う必要がある。そして、その一歩は、対象者の考えや価値観を理解し、尊重することから始まると考える。

よって、学生には、人々の価値観や社会的背景の特徴等の多様性の理解と尊重ができる豊かな人間性や広い視野、コミュニケーション能力を身につけてほしいと考えている。その点を踏まえながら、講義中心の授業では、実践の場をイメージできるよう、かつ、意欲喚起を図る手段を取り入れ、知識やスキルを伝え、実習では、グループ討議や発表等を通して、コミュニケーション能力、協働・課題解決力を育成に努める 。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	70	①②④⑪
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	66	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	69	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	15/15(通年)	1	68	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	30/30(通年)	2	4	⑪⑫
栄養教育論実習Ⅰ	15/15(前期)	1	34	①②③④⑥⑪
栄養教育論Ⅰ	15/15(後期)	2	24	①②③⑩
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
栄養教育論実習Ⅰ	15/15(前期)	1	33	①②③④⑥⑪
栄養教育論Ⅰ	15/15(後期)	2	25	①②③⑩
栄養教育論Ⅱ	15/15(前期)	2	31	①②③⑩
栄養教育論実習Ⅱ	15/15(後期)	1	35	①②③④⑥⑪
栄養教育論Ⅱ	15/15(前期)	2	33	①②③⑩
栄養教育論実習Ⅱ	15/15(後期)	1	35	②③④⑥⑪
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	38	①②③⑧⑨
健康栄養入門	3/15(前期)	2	72	②③⑤⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	4	④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	6	⑪⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本科目においては、理解度・満足度ともに年々評価が上がってきている。その要因として、授業の進め方ついて学生の要望を可能な範囲で取り入れて実施していることや配布資料を改善したことが挙げられる。これらのことを引き続き行っていくことに加えて、今後、「学生の授業参加を促すような工夫」について、学生同士のディスカッションを入れるなど発言する機会を検討し、さらなる改善を図っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

乳幼児期における効果的な栄養教育に関する研究

災害時における食生活支援に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

管理栄養士養成課程臨地実習における事前事後指導での自己学習ノートの導入に関する報告／2023年3月／長崎国際大学論叢第23巻／91-100頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

県民健康・栄養調査の実施手法に関する一考察／2022年9月／第69回日本栄養改善学会（オンライン）

管理栄養士養成施設に在籍する学生における食物アレルギーに関する認知の状況／2023年2月／第21回長崎栄養改善学会

長崎県における野菜摂取状況の実態と食意識・行動との関連／2023年2月／第21回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職に関する事項の協議および学科の就職ガイダンス等の企画・実施を担当した。
地域連携センター	委員	地域連携に関する事項の協議を行った。
臨地実習委員会（学部内）	副委員長	臨地実習に関する事項の協議を行った。
入試募集委員会（学部内）	委員	入試募集およびオープンキャンパスに関する事項の協議を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

長崎県食育向上委員会の大学生委員（5名）の活動のサポート

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①夢ナビライブ参加/10月15日/オンライン
②進学ガイダンス参加/12月9日/創成館高校
③学科広報催事（公開講座）「家族で考える災害食（学童期編）」/2022年8月
④学科広報催事（公開講座）「家族で考える災害食（食物アレルギー編）」/2022年9月

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県食育向上委員会	アドバイザー	2021年4月1日～現在に至る	長崎県食品安全・消費生活課
佐世保市食育推進会議	委員	2017年4月1日～現在に至る	佐世保市
長崎県栄養改善学会	役員	2022年4月1日～現在に至る	公益社団法人長崎県栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響を多少受けたが、少しずつ通常の活動ができる体制になり、昨年度以上の諸活動が実施できたと考える。

教育活動では、担当する授業において、特に栄養教育論は昨年度から資料作成の工夫や学生の意見を取り入れる等により、ブラッシュアップすることができた。研究においては、科研費申請を行ったが、採択には至らなかったため、次年度も引き続き挑戦していきたい。同じく論文執筆や学会発表においても次年度は、主体的に取り組んでいき、学術的な研究により力を入れていきたいと考える。大学運営においては、委員会活動は今年度取り組んだことをもとに、来年度、就職委員としては早い時期から就職活動を意識して取り組み、地域連携センターでは地域貢献活動（キッズキャンパス等）を行っていきたいと考えている。社会貢献活動においては、3年ぶりに学科広報催事が開催できたことは昨年度と大きく違う点である。参加人数は少なかったが、一定の評価を得ることができたため、次年度は広報活動を検討し、多くの方に参加してもらえる催事を開催したい。

これらのことを踏まえ、次年度も引き続き本学の一員として、諸活動に積極的に取り組みたいと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 髙江洲　有沙

1．教育理念

私の教育理念として、対象者の個性や特性を尊重した行動を実践し、主体的に考えて行動する力ならびに社会で柔軟に生きぬく力を身につけ、地域・国際社会に貢献できる人材の育成を支援することである。相手を尊重し行動することは社会生活において人間関係をよりよくするための基本的なことで、そのうえに管理栄養士の専門的な知識と技能を生かして人々の健康の維持増進に貢献することができると考えている。

また、管理栄養士は様々な社会的背景を持った対象者の「食」に関わる職業であることを自覚し、「誰ひとり取り残さない世界」の実現に向けて、個々に寄り添った支援をしていくためには、基礎・基幹科目がどのように実践で生きるのか、各科目を関連付けて講義を進め、グループディスカッションなどのアクティブラーニングの手法を用い、専門力だけでなく、多様性理解力や課題解決力を育成したいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	15/15(通年)	1	66	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	15/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	15/15(通年)	1	69	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	15/15(通年)	1	68	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	15/15(通年)	2	4	⑪⑫
事前・事後指導(栄養)	4/8(通年)	1	5	④⑦
国際栄養論	15/15(後期)	2	9	②③④⑤⑦⑩
栄養教育論実習Ⅰ	15/15(前期)	1	34	②③④⑥⑪
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
栄養教育論実習Ⅰ	15/15(前期)	1	33	②③④⑥⑪
総合演習Ⅱ	0/15(後期)	1	0	①②③⑧⑨
栄養教育論実習Ⅱ	15/15(後期)	1	35	②③④⑥⑪
栄養教育論実習Ⅱ	15/15(後期)	1	35	②③④⑥⑪
管理栄養士演習	1/30(後期)	2	38	①②③⑧⑨
健康栄養入門	1/15(前期)	2	72	②③⑤⑥
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教職実践演習(栄養教諭)	8/15(後期)	2	5	⑤⑦⑩⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	60/60(通年)	4	5	①②④⑥⑨⑩⑫
食教育論	15/15(前期)	2	19	①②③⑤⑥
栄養学専門演習	2/15(後期)	2	61	①②③⑧⑨
学校栄養教育論	15/15(後期)	2	4	①②③⑤⑥⑦
総合演習Ⅱ	1/17(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度に比べて、学生の授業態度や満足度、理解度はやや改善傾向が見られた。今年度は配布する資料を見直し、重要な部分の記述と学生自身が必要と思うことを書けるような工夫をした。

授業の進行は、なるべく学生の理解度に合わせて自身の学校給食や海外での体験談、さらには現状についても最新の情報を取り入れながら講義を行ったことが改善につながったのではないかと考えられる。

栄養教諭の専門科目で初めて単独科目を受け持ったが、教職科目においては授業進行と配布物については、学生の理解度を高めるような工夫を検討していきたいと感じている。そのため、今後も学生の積極的な学習につながるように様々な工夫をしていきたいと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
学際連携研究　ゲストスピーカー（動画配信）	1	100	2022/7/22
管理栄養士国家試験対策	10	61	2022/10/3,17,24、11/10,14,28、12/16、2023/1/20,23、2/14

３．研究活動

(1) 研究テーマ

教育（学校）現場における食育に関する指導方法の研究

栄養教諭の栄養専門科目についての研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

管理栄養士臨地実習前後のインタビュー調査による学生の感情および自己評価／令和4年2月／第20回長崎栄養改善学会（オンライン開催）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国際交流委員会	委員	なし
男女共同参画推進委員会	委員	長崎県男女参画・女性活躍推進室からの依頼で「ライフデザイン＆キャリア形成セミナー」を開催するにあたり、総務課と連携して実施した。
教職課程委員会	委員	なし

臨地実習委員会（学科内）	委員	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①進学ガイダンス/7月22日/場所：佐賀県龍谷高等学校

②夢ナビライブ2022/10月15日/オンライン開催

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県栄養士会　災害支援対策委員会	委員	令和4年度～現在に至る	長崎県栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①第6期「女性プロジェクトチーム」のメンバーとして優良事業所選定会議に参加 / 10月13日、10月27日、11月4日　/　主催：佐世保市人権男女共同参画課

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

昨年度に比べ、学生の主体性を意識した授業展開ができるようになったと感じている。実務家教員としての実体験を講義の中で伝えながら根拠のある説明をすることを心掛け、また、多様性を理解した栄養教育ができる人材を育てたいとの思いから、身近な「食」から世界の「食」を最新の情報を交えながら授業展開を意識して行った。次年度も学生の積極的な授業参加につながる講義をしていきたいと考えている。

大学運営活動においては、教職員の方々から助言をいただきながら広報活動や地域の活動にも少しずつ貢献することができたのではないかと感じている。今後は、私の研究テーマである学校現場での活動も積極的に行い、地域貢献につながる活動も増やしていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 藤井　俊輔

1．教育理念

【教育理念】

私の第一の教育理念は、学生自身の「知識欲を高めること」である。私が主に担当する食品学Ⅰ・Ⅱという科目は、専門基礎科目に該当し、これらの科目の多くは暗記科目であると捉えられることも多い。確かに単純に覚えなければならない内容も多いが、学修のスタートは何よりも覚える事から始まるのではないかと考えている。しかし、食品という身近なものが引き起こす様々な現象に対して興味を持てば、単純な暗記作業であったものが理解へと繋がるのではないかと考えている。また、学修した多くの知識と共に、それらの背景への学修を深めることで記憶の定着はより強固なものになり、そしてこの学びが他分野の知識と有機的に結びつくことによって、より実践的でエビデンスに基づく思考力を持った管理栄養士として活躍してくれると信じている。

第二の教育理念は、学生自身の「疑問を持ち続ける感覚を養うこと」である。すなわち、様々な化学現象に対して興味を抱き、「なぜ？」、「どのように？」その現象が生じているのかに目を向け、学生自ら能動的に調べ、学修する姿勢を培って欲しいと考えている。種々の現象に対して「なぜ？」と疑問を持ち続ける探求力の獲得は、大学を卒業し「栄養と食のプロフェッショナル」である管理栄養士として社会で実践的に活躍する上で極めて重要な能力となる。

これら2つの教育理念のもと、講義、実習を展開することで、本学科が掲げるディプロマ・ポリシーに叶う人材の育成に繋がると考えている。

【授業方針】

授業の基本的な方針としては、管理栄養士国家試験の合格および、管理栄養士として必要な専門的知識の基盤構築を念頭に置き授業内容を構成しているが、上記の教育理念を達成するために、授業の際には知識の説明だけに留まらず、それらの背景を併せて解説するよう心がけている。また、授業の中だけの知識に留まることがないよう、他分野と関連する内容に関しては、スライド等の視覚的な資料を示し具体的に解説を行うことで、一つひとつの知識が有機的に繋がるよう授業を展開する。講義中心の授業となるが、学生の学修意欲喚起を図る手段として、難解な化学現象をできるだけ身近な現象へ置き換えて解説を加えたり、社会的なトピックスを織り交ぜるなどして授業を構成し、他分野への関心と専門力を育成する。さらに、ある化学現象に対して、「なぜか？」と問いかけを行い、学生との対話の中で学生自身に考えさせ、正解を導き出すようなやり取りも実施している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	15/4(通年)	1	70	①②④⑪⑫
食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	25	①⑨
食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	24	①⑨
管理栄養士演習	30/2(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	15/2(後期)	1	65	①②③⑧⑨
食品学実習	30/30(前期)	1	27	①⑩
基礎化学実習	30/10(後期)	1	28	⑨⑪
総合演習Ⅱ	15/2(後期)	1	0	①②③⑧⑨
食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	24	①⑨
栄養の化学演習	15/15(前期)	1	32	①⑧⑨
管理栄養士演習	30/2(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティとSDGs	15/2(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑨⑩⑫
食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	29	①⑨
栄養学専門演習	30/2(後期)	2	61	①②③⑧⑨
食品学実習	30/30(前期)	1	29	①⑩

基礎化学実習	30/10(後期)	1	24	⑨⑪
総合演習Ⅱ	15/2(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度の授業の満足度は、ほぼ例年通りの結果であった。今年度は、基本的に対面式で授業をおこなったが、過去三年間のオンライン形式の授業と、さらにそれ以前の対面式の授業とで、授業アンケートの結果が変わらなかった事は、授業方法としてどのような形式であったとしても問題なく実施できているのではないかと感じている。

しかし、年々、学生の学力の低下が著しく再履修者が非常に多い結果となってしまった。この点に関しては、授業内容の質を保ちながら、以下に理解してもらうかにより一層重きをおいて授業の構成を考えなけらばならないと感じた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品学Ⅰ	15/15(前期)	2	40
長崎短期大学	食品学Ⅱ	15/15(後期)	2	39
長崎短期大学	食品学実習	30/30(後期)	1	20
東松浦医師会唐津看護専門学校	代謝栄養学	15/15(前期)	2	32

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1.天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製と免疫化学的分析手法の開発

本研究では、生薬や食品に含まれる薬理作用または、三次機能が見いだされている天然化合物に対するモノクローナル抗体の作製を実施し、作成したモノクローナル抗体を研究ツールとして、種々の免疫化学的分析手法の開発を行い、生薬の品質管理や標準化への応用、また、食品の安全性評価法へと応用している。

2.骨粗鬆症の予防に着目した機能性成分に関する研究

骨粗鬆症は骨の病的老化であり、骨形成と骨吸収を司る骨芽細胞と破骨細胞のアンバランスが生じた結果引き起こされる骨代謝疾患である。骨粗鬆症の予防には、ライフステージの初期段階から生涯をかけて取り組むことが重要である。本研究では、骨芽細胞の増殖、分化に影響をを与える食品成分の探索を実施し、その作用機序の解明を目的としている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	2	2	2	676万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Development of an indirect competitive enzyme-linked immunosorbent assay for formononetin and its application in a cell-based assay using MC3T3-E1 cells.／2022／Food chemistry／https://doi.org/10.1016/j.foodchem.2022.134339／共著／論文

Bioimprinting as a receptor for detection of kwakhurin.／2022／Biomolecules／10.3390/biom12081064.／共著／論文

Development of highly sensitive chemiluminescence enzyme immunostaining assay to determine glycyrrhizin content using anti-glycyrrhizin monoclonal antibody.／2022／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／694-698／共著／論文

Saffron (Crocus sativus L.) as a valuable spice and food product: a narrative review.／2022／Longhua Chinese Medicine／10.21037/lcm-22-1／共著／総説

大量調理機器を用いた加熱法および水冷時間がほうれん草の品質に及ぼす影響／2023／長崎国際大学論叢／印刷中／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

骨芽細胞への分化を促す食品成分の探索／2022年12月／日本食生活学会　第65回大会

アルクチゲニンおよびアルクチインに対するモノクローナル抗体を用いた 間接競合ELISAの確立／2023年3月／日本薬学会　第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
未病ケアを志向した薬膳素材のオートファージー制御機能の解明	科学研究費補助金（基盤C）	2022～2025年度	416万円
免疫化学的測定法を基盤とした生薬及び漢方製剤の品質評価法の開発及び標準化に関する研究	AMED 医薬品等規制調和・評価研究事業	2021～2023年度	260万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員	ガイダンス担当者の振り分けや、調整などをおこなった。また、広報媒体の作成を担当した。
CHサポートセンター運営委員会	委員	就学上の配慮が必要な学生の面談や、学生相談室の室員を努めた。
入試・募集委員会（学科）	委員	オープンキャンパスの取りまとめや、学科独自の入学動機の調査等を行い、より積極的な募集活動に努めた。
教務委員会（学科）	委員	新年度オリエンテーションのプログラム作成を主に担当した。
国試対策委員会	委員	国試対策の実施方法の検討や、朝テストの実施、運営を主に担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
食物分野に関する連携協議会	委員	各部門との連携などができないか検討し、入学者増、特に内部進学者の増加に寄与するような取組について検討した。

(3) 課外活動の指導等

バレーボールサークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①夢ナビ：栄養分野のガイダンスを実施した。
②夢ナビ　模擬講義：高校生を対象に模擬講義を実施し、その後の質問対応をおこなった。
③島原高校：高大連携の取組の一環として島原高校の2年生を対象に、出前講義を実施した。
④大和青藍高等学校：栄養学分野に関する模擬講義と、進路ガイダンスをおこなった。
⑤学科広報催事：「食べ物の科学にふれてみよう！」というタイトルで、学科広報催事を実施した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席

2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
食べ物のホントの機能とは？	10月16日	オンライン	夢ナビ
「食品の機能性」 ホントに知ってますか!?	10月7日	島原高校	島原高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

「食べ物の科学にふれてみよう」：企画主催者として実施（2022年8月20日）SDGs目標：「質の高い教育をみんなに（ターゲット4.1）」

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育面】

今年度は基本的に対面での講義形式となったが、授業アンケートの結果を見ても、コロナ対応の前後で大きな変化はなく、問題なく授業の遂行ができていると感じている。また、オンライン対応時に活用していた、マナバの機能を引き続き活用することで、質問しやすい環境を構築したことは、講義の満足度の維持に寄与したと考えられる。

一方で、学生の学力の著しい低下が懸念されることから、徐々に授業内容や形式について精査をしなければいけない時期に来ていると感じている。

【研究面】

今年度は、論文4編（筆頭著者3編、共著者1編）、学会発表2報、獲得中の外部研究費1件（分担）に加えて、科研費（基盤C：代表）を獲得した。また、不採択ではあったが1件の外部資金の申請を行った。今年度は、比較的充実したアウトプット活動をおこなうことができたと感じている。引き続き、コンスタントなアウトプット活動ができるよう、研究活動に邁進したい。

【運営面】

各種委員会における活動や、募集活動、社会貢献に関して幅広く積極的に行うことができ、微々たる成果であるかもしれない

が、本学の知名度を高めることができたのではないかととらえている。来年度以降も教育面、研究面と併せて積極的に取り組んでいきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 宮原　恵子

１．教育理念

私の教育理念は、学生の主体的な態度の形成を引き出した上で、体系的に整理された知識・技能を伝え、管理栄養士の国家試験に合格する学力、さらに社会で管理栄養士として働く際の基礎力を育成することです。

私が担当する講義は生活に関する内容であり、学生には、自身の現在や過去、将来の生活に結び付けながら知識を深めてほしいと考え、そのために、一つの項目をいくつもの視点から説明する授業方法ですすめます。

また、実習系の授業では、講義で得た知識を実践に結びつける展開を重視しています。学生には、応用する意識や力を身に付けてほしいと考えており、そのために、講義の内容も振り返りながら、実習に取り組む、レポートやプレゼンテーションなどでまとめる・発表することを取り入れた授業方法ですすめます。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	4/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
臨地実習Ⅰ（給食の運営）	0/15(通年)	1	66	⑪⑫
臨地実習Ⅱ（給食経営管理論）	0/15(通年)	1	55	⑪⑫
臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	0/15(通年)	1	69	⑪⑫
臨地実習Ⅳ（臨床栄養学Ａ）	0/15(通年)	1	68	⑪⑫
臨地実習Ⅴ（臨床栄養学Ｂ）	0/30(通年)	2	4	⑪⑫
健康管理論	15/15(前期)	2	35	①②④⑩
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	0	①②③⑧⑨
公衆衛生学Ⅰ	15/15(後期)	2	26	①②⑨
公衆衛生学Ⅱ	15/15(前期)	2	24	①②⑨
公衆衛生学Ⅱ	15/15(前期)	2	26	①②⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
公衆衛生学Ⅰ	15/15(後期)	2	35	①②⑨
卒業研究	60/60(通年)	4	4	①②④⑥⑨⑩⑫
健康科学実習	30/30(後期)	1	27	①④⑥⑩
健康科学実習	30/30(後期)	1	27	①④⑥⑩
栄養学専門演習	30/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
健康管理論	15/15(前期)	2	34	①②④⑩
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度より授業の方法を一部変更したが、授業アンケートを実施した講義科目の理解度や満足度は、クラスによっては昨年度までに比べ低くなった。授業アンケートの自由記述の回答からは、授業の方法に対する批判は少数であり、多くの学生は授業の進め方への不満はないが、自分自身の理解度に満足していない状況がうかがえた。そのため、授業で学生が目指す到達点や、方法や課題の意図などの説明を充実させ、理解度を確認できる機会を増やす必要がある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	健康と運動	15/15(後期)	1	16

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・食生活と環境問題に関する研究：今年度は水道水の摂取状況と官能評価の関連の研究について、調査準備を行った。

・大学生の健康管理に関する研究：今年度は、水分摂取状況と排便の関連と、本学部活生の身体組成の変化に対する栄養サポートについて調査を行った。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

環境問題に対する意識と食生活における使い捨てプラスチック消費状況／2022年10月9日／第81回日本公衆衛生学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	特になし
教育基盤センター委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①九州文化学園高校3年生対象ガイダンス／6月16日／九州文化学園高校

②夢ナビライブ　まなびステーション／7月10日／オンライン

③夢ナビライブ　まなびステーション／10月16日／オンライン

④瓊浦高校2年生対象ガイダンス／12月13日／瓊浦高校

⑤西彼農業高校1・2年生対象ガイダンス／3月17日／西彼農業高校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
けんこうシップさせぼ21推進会議計画策定専門部会	委員	令和4年11月21日～令和6年11月20日	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動としては、担当科目の授業の進め方を見直し、スライドや資料の作成や配布方法を変更した。その結果、学生が資料へ記入する時間を削減でき、授業内容の理解につながった。しかし、学生間の理解度の差は広がっているため、理解度の低い学生へのサポートが必要である。次に、研究活動としては、論文投稿や研究費獲得に至らなかった。教育活動や大学運営活動同様

に、時間をかける必要がある。そして、大学運営活動としては、全学および学科入試募集委員として、オープンキャンパスや広報活動にて様々なアイデアを検討し、実践につなげることができた。残念ながら、定員数充足につながらなかったため、現状把握を行い、次の新規活動を検討したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 講師　　氏名 吉村　亮二

1．教育理念

【教育理念】

私は、本学健康管理学部健康栄養学科において管理栄養士を目指す学生には、食と健康に関する領域の専門的知識・技能を修得し、「健康管理」および「栄養の指導」を科学的根拠に基づいて行え、実践的に活動できる人材になってほしいと思っています。そのために、学生との対話を重視し、学生が疑問に思うことを科学的根拠に基づいて理解できるように日々の教育に努めています。

【授業方針】

本学健康管理学部健康栄養学科では、ディプロマ・ポリシーとして「栄養士・管理栄養士として必要な基礎と専門的知識・技能のみならず、ホスピタリティを構成する次の諸能力（専門力、情報収集・分析力、コミュニケーション力、協働・課題解決力、多様性理解力）を身につけ活用することができる人物」を挙げています。そのため、ディプロマ・ポリシーと上記の教育理念から講義科目、実習・演習科目では次のような点を重要視しています。

（講義科目）

講義科目では科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」を行うための専門的知識を修得することを重要視しています。そのために修得すべき専門的知識は何かを明確に伝え、さらに教科書に沿って講義を進めることにより教科書等に記載されている情報を収集・分析できる能力を養えるよう心掛けています。また、学生との対話を通して理解度を把握し、不十分な項目に関しては基本的な事項から説明するように努めています。

（実習・演習科目）

実習科目においては、学生が講義科目で学修した専門的知識を活用し、実験により得られた結果を分析・考察することで科学的根拠に基づいて考える能力を会得できるように心がけています。そのため、実習レポートとともに実習項目の理解の促進となるような課題を課すようにしています。また、目的から結果考察までをレポートとして報告できることも重要視しています。そして、講義・実習科目で身につけた専門的知識・技能を大いに活用し、その集大成として、与えられたテーマの卒業研究・卒業論文執筆を行えるよう日々の教育に取り組んでいます。

上記の教育理念と授業方針により本学健康管理学部健康栄養学科の大きな目標となっている管理栄養士国家試験合格はもとより本学を卒業し、科学的根拠に基づいた「健康管理」および「栄養の指導」が行える管理栄養士を育成できると考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
基礎栄養学	15/15(後期)	2	25	①⑨
管理栄養士演習	3/15(前期)	2	34	①②③⑧⑨
基礎栄養学	15/15(後期)	2	33	①⑨
総合演習Ⅱ	3/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	3/15(後期)	1	0	①②③⑧⑨
管理栄養士演習	3/15(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
卒業研究	30/30(通年)	4	4	①②④⑥⑨⑩⑫
基礎栄養学実習	30/30(前期)	1	26	①⑩⑪
栄養学専門演習	3/15(後期)	2	61	①②③⑧⑨
生活支援技術ⅠB	1/15(後期)	1	15	④⑤⑦⑪⑫
栄養生理学実習	16/30(後期)	1	22	①⑩⑪
基礎栄養学実習	30/30(前期)	1	35	①⑩⑪
栄養生理学実習	16/30(後期)	1	27	①⑩⑪
総合演習Ⅱ	3/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
健康免疫科学特論	15/15(後期)	2	2

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本学で勤務した7年で最も良い評価を最後に得られることができ、これまでの努力が実ったようで嬉しく思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校看護科	環境論	15/15(前期)	2	16
九州文化学園歯科衛生士学院	栄養学	15/15(前期)	2	35

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

分岐鎖アミノ酸の生理作用に関する研究

人体の約60％は水分でできており、約24％は脂質、糖質、ミネラルなどからできています。そして、残りの約16％の部分はタンパク質からできており、このタンパク質は20種類のアミノ酸から構成されています。つまり我々が食品から摂るタンパク質やアミノ酸の最も重要な役割は人体の構成成分としての役割です。一方、アミノ酸はタンパク質の構成成分以外にも、生体機能を調節する役割があることが明らかになっています。特に分岐鎖アミノ酸にはタンパク質合成促進、分解抑制作用や摂食調節作用などが報告されています。そのタンパク質合成・分解を調節しているものはmTORC1と呼ばれるリン酸化酵素であることが分かっています。しかし、どのようにmTORC1が分岐鎖アミノ酸により活性化されているかなどその全貌は明らかにされていません。そこで、管理栄養士としての立場から分岐鎖アミノ酸とmTORC1の研究を行っています。その他、分岐鎖アミノ酸の生理作用をはじめとするタンパク質・アミノ酸栄養の研究を行っています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	4	1	1	455万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

栄養学実習におけるラット反転小腸を用いたグルコース重合体の膜消化・吸収実験の実験条件に関する研究／2022年3月／日本食生活学会誌32巻／225-229／共著／論文（資料）

セルロースアセテート膜電気泳動法を用いた大豆油（長鎖脂肪酸油）と中鎖脂肪酸油の吸収，輸送経路に関する実習条件の検討／2022年6月／栄養学雑誌80巻／194-200／共著／論文（資料）

Co-ingestion of glutamine and leucine synergistically promotes mTORC1 activation／2022年9月／scientific reports／https://doi.org/10.1038/s41598-022-20251-2／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ロイシンとグルタミンの同時摂取は、mTORC1を相乗的に活性化する／令和4年11月／日本アミノ酸学会第16回学術大会

骨格筋における PGC1αの増加がアミノ酸関連の代謝に与える影響／令和4年11月／日本アミノ酸学会第16回学術大会

ロイシンとグルタミンの同時摂取は、タンパク質代謝調節因子を相乗的に正に制御する／令和4年11月／2022年度 日本食品科学工学会西日本支部 日本栄養･食糧学会九州･沖縄支部合同大会

栄養学実習におけるセルロースアセテート膜電気泳動法を用いた血漿リポたんぱく質の機能解析実験／令和5年2月／第21回長崎栄養改善学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
サルコペニア原因候補のミトコンドリア機能異常と筋タンパク質同化抵抗性の因果関係	日本学術振興会	令和3年～5年度	455万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	開国祭実行委員長を務めた。
動物実験委員会	委員	特になし。
国試対策員会	委員	学科独自の小テストの作成、採点を行った。
長崎国際大学健康管理学部研究等倫理委員会	委員	特になし。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

フットサルサークル顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

夢ナビライブまなびステーション参加/10月15日/オンライン

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
けんこうシップさせぼ21推進会議	委員	2021年8月～2023年3月	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

・教育

本学で勤務した7年で最も良い評価を最後に得られることができ、これまでの努力が実ったようで嬉しく思います。

・研究

国際学術誌において査読付き論文1編、国内学術誌において査読付き論文2編が掲載されました。

・大学運営

学生委員会の委員として開国祭の実行委員長を勤め、また保護者会実施にも大きく貢献しました。さらに、国試対策委員会の委員として国家試験合格率100%を目標に講義スケジュール調整補助や朝テスト作成、採点に積極的に取り組みました。他の全学委員会、学科内委員会の運営にも協力しました。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 助教　　氏名 射場　仁美

1．教育理念

学生に学ぶことの楽しさを教え、学生が自ら考え、学び、行動できる力を育てる

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	70	①②④⑪⑫
栄養の生物学	15/15(前期)	2	29	①②⑨
管理栄養士演習	1/30(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	0/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	0/15(後期)	1	0	①②③⑧⑨
食品衛生学実習	30/30(前期)	1	24	①⑩
微生物学実習	30/30(後期)	1	34	①⑩
管理栄養士演習	1/30(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	4	①④⑤⑥⑦⑪⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
食品衛生学実習	30/30(前期)	1	26	①⑩
栄養学専門演習	0/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
微生物学実習	30/30(後期)	1	38	①⑩
総合演習Ⅱ	0/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「栄養の生物学」の満足度が低かったので、改善が必要である。学生の理解度を向上させるため、授業内容を見直し、重要な点をより明確に示すなどして学生がわかりやすい授業になるよう改善したい。

「教養セミナー」「食品衛生学実習」「微生物学実習」の満足度は高かった。これまで通り、実習中には学生に積極的に関わることや、レポートの採点時にコメントを残すなどして、丁寧な指導をしていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	食品衛生学	15/15(前期)	2	21
長崎短期大学	食品衛生学実習	30/30(後期)	1	21
九州文化学園調理師専門学校	食品の安全と衛生（実習）	15/15(後期)	1	11

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策	15	65	通年

3．研究活動

(1) 研究テーマ

腸炎ビブリオの病原因子に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	1	1	442万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

栄養学実習におけるラット反転小腸を用いたグルコース重合体の膜消化・吸収実験の実験条件に関する研究／2022年３月／日本食生活学会誌／10.2740/jisdh.32.4_225／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Vibrio parahaemolyticusの病原因子T3SS1遺伝子発現は宿主細胞接着によって誘導される／2022年5月／第76回日本栄養・食糧学会大会

菌体外NaCl濃度変化に応答する、腸炎ビブリオの病原性解析／2022年5月／第76回日本栄養・食糧学会大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
腸炎ビブリオの病原因子T3SS1の遺伝子発現誘導条件の検討	科研費（若手）	2021年4月～2024年3月	442万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
栄養学科臨地実習委員会	委員	学生が実習先に持参する資料の作成・印刷
栄養学科国家試験対策委員会	委員	後期の国家試験対策演習の時間割作成

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

ゆめなびライブ担当／7月10日／オンライン

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席

2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

新型コロナのPCR検査検体採取業務

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

夏休み科学体験教室／8月20日／長崎国際大学

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、今年度から教養セミナー、4年生の国家試験対策の担当となった。学生生活や国家試験合格のためのサポートができるよう努めた。また、長崎短期大学・調理師専門学校での食品衛生分野の非常勤の担当となった。非常勤で得た経験を大学内での実習・講義にも活かしていきたい。

研究面では、担当授業が増えたこともあり、前期・後期中の研究があまり進まなかったが、夏休み・春休み期間中に研究を行い、学会での研究発表も行った。来年度が科研費の研究機関の最終年度になるので、研究成果をまとめ、論文投稿できるよう努力したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 助教　　氏名 菊地　優子

１．教育理念

探究心をもち、自ら学ぶことのできる学生を育成する。

私は生物や化学といった専門科目の土台となる科目を担当しているが、これらは高校までの学習状況が大きく反映され、スタート時から理解度の差が大きく、苦手意識をもっている学生が多い。1年次のこれらの科目を通して、不足する能力に対して避けることなく前向きに、積極的に学ぶことのできる学生を育成したい。そのためには、なぜ生物や化学の知識が必要なのかを説明し、管理栄養士の専門科目と結び付けた授業展開を行う。また、実習では一人ひとりの理解度や意欲を把握しながら学生と接するよう心がける。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
栄養の生物学	15/15(前期)	2	40	①②⑨
栄養英語	15/15(後期)	2	3	①⑥⑧
管理栄養士演習	2/30(前期)	2	34	①⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①③⑧⑨
基礎化学実習	30/30(後期)	1	28	①⑨⑩
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	0	①③⑧⑨
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	38	①⑥⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	5	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	5	①⑤⑥⑦⑩⑪⑫
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②⑤⑥⑨
基礎化学実習	30/30(後期)	1	24	①⑨⑩
栄養学応用演習Ⅰ	15/15(前期)	1	32	①②⑤⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①③⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「栄養の生物学」の満足度は4.6であり、前年度4.4と比べてやや上昇した。「基礎化学実習」は4.5と4.2と昨年度よりやや低下したがおおむね良好であった。しかし基礎化学実習の理解度で4.0以下のクラスがあったため、実習中に個別に声をかけるなどその年度やクラスに応じて柔軟に対応していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園　歯科衛生士学院	生化学	15/15(後期)	―	31
九州文化学園　歯科衛生士学院	国家試験対策（生化学）	2/74(後期)	―	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

食物アレルギーや炎症性腸疾患における腸管透過性の変動に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	1	1	1	200万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第2巻 栄養学の基本 人体の理解と栄養学の基礎／共著・編著／2022年9月／医歯薬出版株式会社／51～57頁、111～118頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Effect of elemental diets on intestinal permeability and immunoglobulin production in indomethacin-induced intestinal injury rats.／2022年12月／22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費（若手研究）	日本学術振興会	2022年4月～2025年3月	200万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
実験動物委員会	委員	なし
健康栄養学科　倫理委員会	委員	なし
健康栄養学科　国家試験対策委員会	委員	模擬試験担当

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 科学体験教室／8月20日／長崎国際大学

② 夢ナビライブ 2021 Web in Autumn まなびステーション／10月15日／Web開催

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外

2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
特定非営利活動法人　日本栄養改善学会	評議員	2022年11月～現在に至る	日本栄養改善学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

助教3年目となり、講義や実習を担当することや対面授業にもだいぶ慣れ、教材の使い方や授業の進め方は確立できてきた。しかし、同じ内容でもその年度やクラスによって理解度や意欲に差が感じられたため、今後は学生の状況に応じて方法を変えたり、新しい知見や最新のトピックスを取り入れたりするなど、より興味を持ってもらえるような授業にしていきたい。

研究面においては、本年度初めて科研費を獲得することができ、また、他大学との共同研究を始めることができて研究の幅が広められたように思える。目標としていた論文を投稿することができなかったが、国際学会で発表することができ、研究成果の最低限のアウトプットはできた。

その他の業務に関しては、本年度は広報催事である科学体験教室を久しぶりに開催することができた。来年度は学外での活動機会も増えると思うので、高校生を対象とした募集活動や地域住民を対象にした社会貢献事業や広報活動にも積極的に参加したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 助教　　氏名 吉永　奈津希

1．教育理念

自ら学ぶことで十分な知識・技能を修得し、問題に対して自ら課題策を模索し、柔軟に対応できる学生を育成する。そのために、学生の「知りたい」「やってみたい」を引き出し、能動的に学ぶことに対して支援する。また、様々な意見を傾聴することができ、自分の考えを明確にした上で意見交換し、相互理解を図るといったコミュニケーション力を培うため、学生同士での意見交換の場をつくる等の支援を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	70	①②④⑫
管理栄養士演習	1/30(前期)	2	34	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	65	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(後期)	1	0	①②③⑧⑨
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	25	①③⑩
調理学実習Ⅲ	30/30(後期)	1	24	①③⑩
管理栄養士演習	2/30(後期)	2	38	①②③⑧⑨
教養セミナーB	15/15(後期)	1	4	①②③④⑤⑥⑧⑩⑫
教養セミナーA	15/15(前期)	1	4	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
給食経営管理実習（学内）	30/30(前期)	1	34	①②④⑥
給食経営管理実習（学内）	30/30(前期)	1	32	①②④⑥
栄養学専門演習	2/30(後期)	2	61	①②③⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(前期)	1	9	①②③⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの結果、教養セミナーA、給食経営管理実習、調理学実習Ⅲの満足度は4.4～5.0で概ね良かった。教養セミナーでは、次年度はディスカッションの時間を十分に確保できるよう説明の仕方を工夫したい。実習では、予習・復習を行っている学生の割合が低下していたため、改めて予習・復習の重要性を説明し、実施を促す必要がある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園調理師専門学校	食品の特性	14/14(前期)	2	13

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
国家試験対策（給食経営管理論）	6	72	10/5、10/12、11/21、12/14、12/21、1/12

3．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 摂食・嚥下機能に対応した食事のテクスチャーに関する研究

2. 大量調理における各種浸漬液が食肉の軟化に及ぼす影響
3. 大量調理時に使用する手袋等の細菌汚染状況調査に基づく危害分析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	3	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

大量調理機器を用いた加熱法および水冷時間がほうれん草の品質に及ぼす影響／2023年3月31日／長崎国際大学論叢　第23巻／83頁～89頁／共著／研究ノート

「発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食分類2018」に則した形態調整の工夫とそのテクスチャー評価／2023年3月31日／長崎国際大学論叢　第23巻／101頁～109頁／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

大量調理機器を用いた炊飯が米飯の性状に与える影響／2022年3月／第9回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会

大量調理時に使用する衛生手袋装着後の手指の細菌汚染状況～鼻腔内黄色ブドウ球菌保菌者について～／2022年11月／第17回日本給食経営管理学会学術総会

植物プロテアーゼを含む食品の浸漬液が食肉の軟化に及ぼす影響／2022年12月／日本食生活学会第65回大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（学科内）	委員	オリエンテーション、学科内単位修得状況の管理
臨地実習委員会（学科内）	委員	事前指導、臨地実習Ⅰ・Ⅱに関する業務

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①夢ナビライブ　2022 in Autumn まなびステーション/10月15日/オンライン

②オープンキャンパス　模擬実習「科学の視点で調理をみてみよう」/8月7日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席

2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
令和4年度調理従事者等研修会「施設における摂食・嚥下機能に配慮した食事の取り組みについて」」	10月19日	アルカスSASEBO	佐世保市保健所　健康づくり課

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎栄養改善学会委員会	委員	令和4年6月～現在に至る	長崎県栄養士会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

令和4年度長崎国際大学学長裁量経費に応募・採択され、本学学生および一般の方を対象とした介護食教室と「病院における食事面での多職種連携～管理栄養士と介護福祉士との連携～」についての講話を開催した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学生と積極的にコミュニケーションをとることができ、授業アンケートでも質問しやすかったなど良好なコメントが多かった。教養セミナーについては、今年度より担当し、授業の流れをつかむことができたが、準備不足の部分もあったため、次年度は改善したい。実習では、授業アンケート結果より、予習・復習を促すことや教員間で指示内容が異なることがないようにするなど改善したい。

研究面では、給食経営管理学会にて学会発表を行い、長崎国際大学論叢への投稿を行った。今後は、学会誌への投稿を目指す。また、科研費に申請したが採択には至らなかった。

社会貢献としては、学長裁量経費の取組として、介護食の調理実演および多職種連携に関する講話を開催した。アンケートの結果、概ね良い評価であった。今後も積極的に取り組んでいきたいと考える。

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 井上　朋奈

1．教育理念

学生が自ら楽しみながら学び、管理栄養士として必要な専門的知識・技能だけでなく、ホスピタリティ精神も身につける支援をする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
健康栄養学科　化学リメディアル	6	1	2022/10/5, 2022/10/12, 2022/11/2, 2022/11/9, 2022/12/7, 2022/12/14

3．研究活動

(1) 研究テーマ

酒粕が食餌性肥満モデルマウスのメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

熱乾燥酒粕は高血糖状態マウスの体重を減少させ糖尿病様症状を抑制させる／2023年2月19日／第10回日本栄養改善学会九州・沖縄支部学術総会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス開催補助/7月24日、8月7日、8月21日、3月19日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・健康栄養学科広報催事「家族で考える災害食～食物アレルギー編～」開催補助/2022年9月23日/長崎国際大学

・リケジョ「ようこそサイエンスの世界へ～ダイバーシティ入門講座付き実験体験会～」開催補助/2022年8月27日/壱岐市立石田中学校

・リケジョ「リケジョ集まれ！メイクと野菜でサイエンス！」開催補助/2022年11月3日/九州文化学園小・中学校

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

1年生に対する化学リメディアルでは、一対一で行ったため学生が学びたい内容・苦手意識がある内容を重点的に行った。1回目は何も分からない・解けない状態であったが、最後の講義では解ける問題が増えていたため、一定の効果はあったのではないかと考える。今後も対象の学生自身が学びたい内容に関して時間を割いて指導を行い、分かりやすい配布資料・練習問題の作成に努めていきたい。各実習の補助は、実習が円滑に進むよう必要な予習や準備を行い、実習後は次につながるよう復習を行うことを心掛けた。

学科広報催事の開催補助やオープンキャンパスの準備など積極的に行った。研究面では、熱乾燥酒粕による高血糖状態マウスの体重減少や糖尿病様症状の抑制効果に関する学会発表を行った。また、大学院2年目になるため修士が取れるよう、今後より一層、研究活動を積極的に行っていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 嘉数　圭祐

1．教育理念

私の教育理念は思いやりのある人、社会で活躍できる人を育てることであり、そのために出来る範囲で学生のサポートをしていきたいと考えています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
調理師専門学校	食品の特性	17/17(後期)	2	12

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	4	2	2022年10月12日、11月2日、9日、12月7日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

ロイシン誘導性筋タンパク質合成作用への運動効果に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
なし	なし	なし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究活動を含め、学内の活動が多く、学外での発表などを行うことができなかったたため、来年度は行うようにする。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 谷脇　海里

1．教育理念

私が重視している教育理念は、「一人ひとりに合った教育」である。

よって、授業や実習では学生と密にコミュニケーションをとり、その学生の理解の程度や性格に合わせた教育を重視している。

学生には、どの分野でも主体的に興味を持って学んで欲しいと考えており、そのために、予習をしてきてもらい実習始めの先生の説明・講義を聞き、必要なことはノートに書き取ること、実習始めの説明・講義を踏まえてまずは自分でやってみること、実習後は復習することを実践してもらう。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学生はそれぞれの実習において、管理栄養士の業務上での意味などを理解しながら取り組んでいた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 長崎県健康・栄養調査および特定市町でのBDHQ実施による健康施策の推進への有用
2. 管理栄養士臨地実習における心理的な学生サポートの検討

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
臨地実習委員会	委員	学生の臨地実習での充実した学修のために、事前指導の準備・運営、臨地実習学生の対応を行い、学生の学修に貢献した。
国家試験対策委員会	委員	学生の管理栄養士国家試験合格のために、模擬試験の準備・運営、朝テストの準備・運営を行い、学生の成績向上に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①家族で考える災害食～学童期編～参加/2022年8月20日/場所：長崎国際大学

②家族で考える災害食～食物アレルギー編～参加/2022年9月23日/場所：長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	出席
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、実習の補助、臨地実習の準備・学生対応、広報催事の準備・運営などを行った。

実習の補助では、食材や器具の発注、実習の準備、実習補助、片付け、事務業務を行い、学生の技能習得に寄与した。

臨地実習の準備・学生対応では、事前指導の準備・運営、実習前・実習中・実習後の学生対応などを行い、学生の充実した学修に寄与した。

広報催事の準備・運営では、家族で考える災害食～学童期編～、家族で考える災害食～食物アレルギー編～の準備・運営に携わり、対象者の学修に寄与した。

今後は、より対象者一人一人に合ったやり方を模索していく。

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 古田　美咲

1．教育理念

自ら積極的に学び、問題に対して自力で解決策を模索でき、社会に貢献できる学生を育成する。そのために、学生が主体的に取り組める環境づくりを心掛ける。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

助手のためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生化学	30/30(前期)	1	67

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	3	1	10月12日、11月2日、11月9日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

母体の鉄制限が仔の糖代謝に及ぼす影響

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

栄養学実習におけるラット反転小腸を用いたグルコース重合体の膜消化・吸収実験の実験条件に関する研究／2022年3月／日本食生活学会誌32巻4号／225頁～229頁／共著／資料

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

フェニルケトン尿症患者(患児)・家族を栄養の力で支援する取組～栄養教育と食事療法の実践のためのレシピ集の作製～／2022年2月／第20回長崎栄養改善学会(オンライン開催)

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会（学科）	委員	保護者会の事前準備や当日の運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①リケジョ事業/8月22日/壱岐市立石田中学校

②リケジョ事業/11月3日/九文小・中学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面において、担当している学生実習については昨年度よりも効率よく実習が進むよう準備段階で改善することができ、実習も問題なく円滑に進めることが出来たのは良かった点である。しかし、今年度より非常勤講師を兼務し資料準備等に思いのほか時間がかかり、昨年度よりも研究面に時間が割けなかったことが反省点である。今年度の反省点を活かし、来年度は日々の業務と研究面の両立が図れるよう、さらに計画性をもって取り組みたい。

また、大学運営・社会貢献ではリケジョ事業に参加し、小～高校生が理系に興味が湧くような体験実習を実施することが出来た。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　健康栄養　　職名 助手　　氏名 山下　千尋

1．教育理念

学生の学びのサポートだけでなく、学生からの相談に対して真摯に受け止め、より良い学生生活を送ってもらえるように、業務を行うことを理念としている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業を行っていないためなし

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学リメディアル	6	1	2023年10月5,12日、11月2,9日、12月7,14日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

保育所給食における食物アレルギーのリスクマネジメントに関する研究

管理栄養士臨地実習における心理的な学生サポートの検討

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
臨地実習委員会	委員	臨地実習に関する資料準備等
国家試験対策委員会	委員	模擬試験、栄養士実力認定試験の準備等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

家族で考える災害食～学童期編～参加/8月20日/長崎国際大学

家族で考える災害食～食物アレルギー編～参加/9月23日/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2022年4月～2023年3月/PCR検査

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は大学院(修士課程)に進学し、保育所給食における食物アレルギーの事態調査を行い、9割以上の施設より回答が得られた。今後、得られた結果の集計分析を行い、保育所に向けてフィードバックし、リスクマネジメントを行う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 安東　由喜雄

１．教育理念

佐世保を愛し、compassion, そしてhospitalityを持つ学生を育てる。絶えず世界を意識し、佐世保から世界を目指し情報発信できるような人材を育成する。3S: speed, service, scienceを意識し、絶えずhospitality (service)の心を持ち、合理的・科学的見地からスピーディーに物事に対処できる人材を育成する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
卒業研究（５年）	1/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑩⑪
卒業研究（６年）	1/30(通年)	4	3	④⑤⑥⑩⑪
臨床医学概論	2/15(前期)	1.5	1	②⑪
臨床医学概論	2/15(前期)	1.5	112	②⑪
ホスピタリティとSDGs	1/15(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教育効果の改善に努める

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
熊本大学	神経病学各論	1/18(2)	2.5	130

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①アミロイドーシスの病態解析と治療

②健康長寿を目指した加齢性疾患の病態解析と治療

アミロイドーシスは生体内に可溶性のタンパク質がアミロイドと呼ばれる難溶性の塊となり臓器障害がおこる難病ですが、様々な疾患があります。最も多いアミロイドーシスは、アルツハイマー病ですが、この疾患はやがて世界で1億人以上が罹患すると考えられている、いわば21世紀の病気です。そのほか、栄養アセスメントタンパク質としても有用なトランスサイレチンと呼ばれるタンパク質はアミノ酸が変異すると、遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスと呼ばれる難病を引き起こします。トランスサイレチンの様々な変異型を持つ患者が九州各地に発見されています。一方野生型のトランスサイレチンも高齢になると、心臓、肺、腱や靭帯にアミロイドを形成し、重篤な病気を引き起こし、老人性アミロイドーシスと呼ばれる21世紀に克服しなければならない大きな疾患と考えられています。我々の教室では、１．何故年齢と共にアミロイドが作られるようになるのか、２．何故特定の臓器にのみアミロイがたまるのか、３．アルツハイマー病やトランスサイレチンアミロイドーシスの治療にはどのような薬剤が有効かなどを明らかにする、まさに21世紀の研究を展開しています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	13	0	22	4	12	12	5127万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

Shall we ダンス？ー自分だけの世界ー メディカルクオール4月号／共著・編著／2022年4月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

ひまわりーウクライナのひまわり畑ー メディカルクオール5月号／共著・編著／2022年5月1日／メディカルクオール株式会社／pp72-73

コロナ禍と進化 メディカルクオール6月号／共著・編著／2022年6月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

Codaー遺伝性難聴ー メディカルクオール7月号／共著・編著／2022年7月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

安東学長のシネマ時々、医学, 長崎, (2022)／単著／2022年7月9日／ 株式会社長崎新聞社／pp235

余命10年ー肺高血圧症ー メディカルクオール8月号／共著・編著／2022年8月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

危険なメソッドーフロイトの夢判断ー メディカルクオール9月号, , 東京,／共著・編著／2022年9月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

ATTRvアミロイドーシス 家族性アミロイドポリニューロパチー, ケアマニュアル／共著・編著／2022年9月1日／ファイザー株式会社／pp1-51

夫婦善哉ー母性本能ー メディカルクオール10月号／共著・編著／2022年10月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

フィールド オブ ドリームスー夢ー メディカルクオール11月号／共著・編著／2022年11月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

誓いの休暇ー戦争ー メディカルクオール12月号／共著・編著／2022年12月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

嘆きの天使ー人間のキャパシティー メディカルクオール1月号／共著・編著／2023年1月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

美女と野獣ー少年の心ー メディカルクオール2月号／共著・編著／2023年2月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

愛する人に伝える言葉ー死ー メディカルクオール3月号／共著・編著／2022年3月1日／メディカルクオール株式会社／pp70-71

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy／2023/3/1／J Nucl Cardiol／ 10.1007/s12350-022-03137-8. ／共著／Original Paper

Ingestion of Soybean Sprouts Containing a HASPIN Inhibitor Improves Condition in a Mouse Model of Alzheimer's Disease／2023/2/25／Biology (Basel)／10.3390/biology12020320.／共著／article

Steep increase in the number of transthyretin-positive cardiac biopsy cases in Japan: evidence obtained by the nation-wide pathology consultation for the typing diagnosis of amyloidosis／2023/2/16／Amyloid／10.1080/13506129.2023.2180334／共著／Article

Gut microbiota of Parkinson's disease in an appendectomy cohort: a preliminary study／2023/2/7／Sci Rep／10.1038/s41598-023-29219-2.／共著／article

Effect of phosphatidic acid on antiganglioside antibody reactivity in the isolated facial diplegia variant of Guillain-Barré syndrome: a case report／2023/2/1／Acta Neurol Belg／ 10.1007/s13760-020-01592-z. ／共著／Case Reports

Characteristics of Patients with Hereditary Transthyretin Amyloidosis-Polyneuropathy (ATTRv-PN) in NEURO-TTRansform, an Open-label Phase 3 Study of Eplontersen／2023/2/1／Neurol Ther／10.1007/s40120-022-00414-／共著／Original Paper

[Importance of the Genetic Diagnosis of Young Onset Alzheimer's Disease: Presenilin Presented in Still Alice]／2022/12/12／Brain Nerve／10.11477/mf.1416202243.／共著／Journal Article

Carpal tunnel syndrome as an early red-flag sign of ATTRwt amyloidosis／2022/12/1／J Nucl Cardiol／ 10.1007/s12350-021-02584-／共著／Journal Article

A novel murine model of autoimmune dysautonomia by α3 nicotinic acetylcholine receptor immunization／2022/11/23／Front Neurosci／10.3389/fnins.2022.1006923. eCollection 2022／共著／Article

Macroglossia in rapidly progressive inclusion body myositis／2022/11/9／Neuropathology／ 10.1111/neup.12879.／共著／Case Reports

Feasibility Study of Dendrimer-Based TTR-CRISPR pDNA Polyplex for Ocular Amyloidosis in Vitro／2022/11/3／Biol Pharm Bull／ 10.1248/bpb.b22-00452.／共著／

Impact of baseline polyneuropathy severity on patisiran treatment outcomes in the APOLLO trial／2022/9/19／Amyloid／10.1080/13506129.2022.2118043／共著／Periodical

Multifunctional Therapeutic Cyclodextrin-Appended Dendrimer Complex for Treatment of Systemic and Localized Amyloidosis／2022/9/2／ACS Appl Mater Interfaces／ 10.1021/acsami.2c09913. Epub 2022 Sep 2.／共著／Article

SIRT7 Deficiency Protects against Aβ(42)-Induced Apoptosis through the Regulation of NOX4-Derived Reactive Oxygen Species Production in SH-SY5Y Cells／2022/8/26／Int J Mol Sci／ 10.3390/ijms23169027.／共著／Journal Article

α-Enolase reduces cerebrovascular Aβ deposits by protecting Aβ amyloid formation／2022/8/2／Cell Mol Life Sci／10.1007/s00018-022-04493-x.／共著／Journal Article

Urinary Transthyretin as a Biomarker in ATTRv Val50Met Amyloidosis／2022/7/27／Pathophysiology／10.3390/pathophysiology29030025.／共著／Article

Early transverse tubule involvement in cardiomyocytes in hereditary transthyretin amyloidosis: a possible cause of cardiac events／2022/7/25／Cardiovasc Pathol／ 10.1016/j.carpath.2022.107458. Epub 2022 Jul 22.／共著／Article

Addendum to ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI Expert Consensus Recommendations for Multimodality Imaging in Cardiac Amyloidosis: Part 1 of 2-Evidence Base and Standardized Methods of Imaging／2022/7/1／J Card Fail／10.1016/j.cardfail.2021.06.012. Epub 2021 Jul 1.／共著／Periodical

Imaging Characteristics for Predicting Cognitive Impairment in Patients With Cerebral Autosomal Dominant Arteriopathy With Subcortical Infarcts and Leukoencephalopathy／2022/6/27／Front Aging Neurosci／10.3389/fnagi.2022.876437. eCollection 2022.／共著／Article

Asymptomatic deep venous thrombosis identified on routine screening in patients with hospitalized neurological diseases／2022/6/10／J Clin Neurosci／10.1016/j.jocn.2022.06.002／共著／Article

Inhibitory Effect of the HASPIN Inhibitor CHR-6494 on BxPC-3-Luc, A Luciferase-Expressing Pancreatic Cancer Cell Line／2022/6/8／Cell J／10.22074/cellj.2022.7796／共著／Journal Article.

Guidelines and new directions in the therapy and monitoring of ATTRv amyloidosis／2022/6/2／Amyloid／10.1080/13506129.2022.2052838／共著／Article

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

21世紀の病気：検査医学のアミロイドーシスの診断・病態解析・治療への貢献 (2022) ／2022年11月19日／日本臨床検査医学会学術集会, 栃木

FAPといわれた時代からATTRｖにいたる研究・診療の変遷 (2022)／2022年9月23日／AMED講演会, web

ATTRvアミロイドーシス診断と治療の最前線 (2022)／2022年9月11日／Alnylam ATTRアミロイドーシスWeb セミナー関西, 大阪

Guidelines and new directions in the therapy and monitoring of ATTRv amyloidosis.／2022年9月4日／ Webinar of International Amyloidosis Society, Heidelberg, Germany, web

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科研費（代表基盤C, 1世紀の疾患、ATTRアミロイドーシスの病態から迫る新規治療の開発）	文部科学省	2022年4月～2025年3月	403万円
科研費（厚労アミロイドーシス研究班）	厚生労働省	2022年4月～2023年3月	20万円
受託事業（熊本大学共同研究）	熊本大学	2025年3月まで	1257万円
受託事業（Prothena研究委託）	Prothena	期間設定無し	105万円
受託事業（AMED受託研究熊本大学植田教授）	AMED	2022年4月～2023年3月	98万円
預り金（世界ｱﾐﾛｲﾄﾞｰｼｽ学会, アミロイドーシスに関する研究）	世界アミロイドーシス学会	期間設定無し	2514万円
助成金（杉村病院）アミロイドーシスに関する研究	杉村病院	期間設定無し	121万円
助成金（株式会社シノテスト）アミロイドーシスに関する研究	株式会社シノテスト	期間設定無し	108万円
助成金（株式会社カネカ）アミロイドーシスに関する研究	株式会社カネカ	期間設定無し	126万円
助成金（正晃株式会社）アミロイドーシスに関する研究	正晃株式会社	期間設定無し	45万円
助成金（Alnylam Japan）アミロイドーシスに関する研究	Alnylam Japan	期間設定無し	320万円
助成金（熊本大学 柊中智恵子准教授）ATTRvアミロイドーシス 家族性アミロイドポリニューロパチーに関する研究	熊本大学	2023年8月まで	10万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
自己点検・評価委員会	委員長	運営統括
研究費不正使用防止委員会	委員長	運営統括
教員資格審査委員会	委員長	運営統括
防火・防災委員会	委員長	運営統括
危機管理委員会	委員長	運営統括
グローバル推進協議会	委員長	運営統括

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
佐世保スーパーシティ構想策定プロジェクト　事務局：佐世保市IR推進室、デロイトトーマツ	リードアーキテクト	・構想全体にかかる統括・企画・調整 ・佐世保市が取り扱う複数の領域における助言 ・スーパーシティ応募後の国によるヒアリング対応 佐世保市スマートシティ構想策定プロジェクトにおいて、佐世保市（デロイトトーマツ含む）、IR協力企業、リードアーキテクトと一緒にデザインサロンを開き、意見交換、アイディア出しを行い、スマートシティ申請準備に備える。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

新聞各社掲載

NBCラジオ出演，24回，2022年3月～2023年3月.

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	欠席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	欠席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①10月29日「開国際」　安東学長のピーナッツバター企画製造販売　100個　50,000円のウクライナ支援金寄付活動

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
Guidelines and new directions in the therapy and monitoring of ATTRv amyloidosis.	講演	2022年9月4日	Webinar of International Amyloidosis Society, Heidelberg, Germany, web	International Amyloidosis Society

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ化の中ではあったが、絶えず前を向いてベストを尽くした。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 藤田　英明

1．教育理念

私の教育理念は、「自ら学ぶことができる人材を育成する」である。
そのため、担当する授業では、専門性が高い内容であっても興味が持てるような導入を工夫している。
国家試験の合格を念頭に置いて、必要な基礎知識を提供しつつ、学生が主体的に学ぶことの重要性を強調して、専門力を高める教育を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①⑨
機能形態学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	1	①②⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	40/40(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	80/80(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	①⑨⑩
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
機能形態・生化学演習	6/15(後期)	0.5	1	①②⑨⑪
ホスピタリティ演習Ⅰ	8/8(後期)	0.5	112	②⑦
機能形態学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	98	①②⑨
機能形態・生化学演習	6/15(後期)	0.5	81	①②⑨⑪
機能形態・生化学演習	6/15(後期)	0.5	23	①②⑨⑪
専門基礎学習Ⅰ	8/8(通年)	0.5	109	②④⑨⑩
薬学入門	1/15(前期)	1.5	100	②③⑩⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	114	①②⑥⑦⑩
基礎の数学	15/15(前期)	2	24	②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	2/15(後期)	2	3
特別研究	80/80(通年)	12	－

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

1年生ということでできる限り平易な授業を心がけているが、それでも難しいと感じる学生と、もの足らない学生が混在しているようだ。現状、入学生の学力に幅がありすぎるため改善は難しいと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
機能形態学Ⅰの補習	13	32	2022年前期
基礎の物理学の補習	12	27	2022年前期
機能形態Ⅱの補習	6	24	2022年後期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

１）細胞内の小器官（オルガネラ）が正常に機能するためには、合成されたタンパク質が目的のオルガネラへと適切に運ばれることが重要です。エンドソーム・リソソームへのタンパク質選別輸送メカニズムの解明を目指して研究を行っています。

２）メラニン合成酵素チロシナーゼを選択的に分解へと導く美白剤の作用機構を詳細に明らかにすることで、これまでに無い新しい美白剤の開発を目指します。

３）膜結合型ユビキチンリガーゼMARCH8がHIVなどのウイルスに対する感染防御に関与することを明らかにしました。MARCH8が関与する様々な生命現象解明を目指します。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	416万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

膜結合型ユビキチンリガーゼRNF152によるメラニン産生調節機構／2022年11月／第31回日本色素細胞学会

膜結合型ユビキチンリガーゼRNF152によるチロシナーゼのユビキチン化分子機構解明に関する研究／2022年11月／第31回日本色素細胞学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究（C）（代表）	日本学術振興会	2021-2023年度	416万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
危機管理委員会	構成員	なし
教員資格審査	構成員	なし
グローバル推進協議会	構成員	なし
全学教育会議	構成員	なし
全学共通教育	構成員	なし
発明等審査委員会	委員長	なし
防火・防災委員会	構成員	なし
輸出管理委員会	副委員長	なし
利益相反マネージメント委員会	委員長	なし
安全衛生委員会	構成員	なし
薬学部自己点検・評価委員会	委員長	なし
薬学部教育支援センター運営	委員長	なし

長崎薬学コンソーシアム	委員長	第18回長崎薬学コンソーシアム会議議を本学がホスト校となり遠隔にて開催した。
薬学部安全管理委員会	委員長	なし
薬学研究センター運営委員会	委員長	令和５年度に向けて10名の訪問研究員の受け入れを検討した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部バスケットボール同好会顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

佐世保南高校　高大連携訪問授業/10月20日/佐世保南高校

海星高校　エランコース・フロンティアコース講座高大連携訪問授業/8月29日～9月6日/海星高校（一部台風のため中止）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本生化学会　各種受賞等選考委員会	委員	2021年度～現在に至る	日本生化学会
日本色素細胞学会	評議員	2020年度～現在に至る	日本色素細胞学会
日本生物学オリンピック	委員	2020年度～現在に至る	日本生物学オリンピック運営委員会
日本薬学教育評価機構	評価委員	2022年度	日本薬学教育評価機構

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

１年生の初年次教育に注力したが、十分な結果が得られていない。
学生募集のための取り組みを行ったが、十分な結果が得られていない。
大学院生の指導は概ね順調である。
研究面で進展があったので、今後論文作成、研究費獲得、特許取得を目指す。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 椛島　力

1．教育理念

「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」という長崎国際大学の建学の理念のもと、強い倫理観と薬学関連分野で幅広い知識を持ち、国民の健康・福祉に貢献する優秀な薬剤師を養成することを教育理念としています。

薬学部の重大な社会的責務の一つとして、優秀な薬剤師を養成し、国民の健康・福祉に貢献することだと考えています。また、薬学部に6年制課程が導入されて以降、高度な知識・技能を有する薬剤師が求められています。そのためにも、薬学部の学生にとって第一に薬剤師国家試験への合格が必須となってきます。

薬剤師国家試験に合格させるためには、低学年の基礎科目や専門科目からの薬剤師国家試験に対する意識付けが重要と考え、講義内容について国家試験との関連性や薬剤師業務における重要性を示し、自発的な学習を促進させるよう心がけています。また、薬剤師として活躍するイメージを常に意識させるようにしています。

また、薬学は化学・物理・生物・医療と幅広い分野にわたる学問であり、薬学に対して興味を持たせることは、学生の能動的な学習を促し、知識を得られるだけでなく、その知識を活かせる人材を育成できると考えています。したがって、講義内容に興味を持たせるには、どのような工夫や準備をすべきか、何に気をつけるべきかを常に検討しています。

薬学教育で大切なことは、基礎知識や観察力に加え、科学的根拠に基づいた思考能力を修得させることだと考えています。これにより、論理的思考能力を有する、いわゆる質の高い薬剤師が養成できると考えています。現在の薬剤師は、チーム医療の一員として、医師、看護師、栄養士などとともに、医療現場で活躍することが求められています。このような他分野の医療従事者と治療方針などを協議するためには、この論理的思考能力が必要不可欠です。また同時に、コミュニケーション能力も必要とされます。コミュニケーション能力は、チーム医療だけでなく、患者対応時にも必要とされます。そのため、話す相手や状況によってコミュニケーションの取り方を変えなければなりません。このような論理的思考能力やコミュニケーション能力は、座学だけでは修得できないため、基礎実習や卒業論文の指導を通して教育しています。

現在の学生は様々な不安や悩みを持っていることが多いので、学生ひとりひとりの性格や考え方、個性に応じた適切な教育指導ができるように心がけています。また、学習だけでなく、就職活動の相談や、大学院への進路相談など話を聞く姿勢を大切にし、学生の不安を少しでも軽減するためにも、積極的に声をかけています。近年、様々な場面で倫理が問われていますので、医療人としての倫理を持つことの重要性も身につけさせるように努めています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	2/30(後期)	2	71	①⑨
臨床薬物代謝学	8/15(後期)	1.5	81	①⑧⑨
物理・生物薬剤学演習	8/15(前期)	1	101	①②④⑨
薬剤学	15/15(後期)	1.5	102	②④⑨
生物物理化学	7/15(後期)	1.5	15	①④⑧⑩
薬剤学実習	8/8(後期)	1	95	④⑩⑪
基礎の数学	15/15(前期)	2	51	②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	2/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

7コマ以上担当した5科目の授業満足度は4.3～4.6、理解度は4.2～4.4て゛あり、一定の評価を受けたと考える。今年度は、授業画を定期試験終了後までアップしたままにし、いつでも復習できるようにした。次年度は、全て対面授業となることから、復習できる方法を検討し、この値を維持・向上て゛きるように努める。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	6	96	2022年4月12日～5月31日
総合演習Ⅱ	2	97	2022年12月9日,16日
基礎の物理学の補習	12	27	2022年4月18日～7月25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・新規機能性分子の開発
・エピゲノム解析に関する研究
・生体内高分子の新規解析法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	1	1	1	320万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

A Facile Method to Determine Prolidase Activity Using a Peptide-Specific Fluorometric Reaction／2023年1月／Chem. Pharm. Bull.／10.1248/cpb.c22-00467／共著／論文

Extremely Simple and Rapid HPLC Analysis of Tocilizumab in Human Serum with Selective Precipitation Using Alkylamine／2023年1月／Chem. Pharm. Bull.／10.1248/cpb.c22-00475／共著／論文

A Facile Fluorometric Assay of Orotate Phosphoribosyltransferase Activity Using a Selective Fluorogenic Reaction for Orotic Acid／2023年2月／Sensors／10.3390/s23052507／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

選択的沈殿法によるヒト血清中インフリキシマブの迅速・簡便なHPLC分析法の開発／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費 基盤研究C	日本学術振興会	2021年4月～2024年3月	320万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	学部教授会で教務関係の報告や説明を行った。薬剤系の講義の取り纏めを行った。卒業研究に関する取り纏めを行った。
自己点検・評価委員会	委員	授業アンケートをもとにした個別面談を担当し、改善策等を提案した。
発明等審査委員会	委員	本学の知的財産について審議した。
全学教育会議	構成員	会議用の学部資料を作成した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学コンソーシアム	メンバー	長崎大学および県内の薬剤師会関係者と実務実習や共用試験に関する情報交換を行った。
カリキュラム検討委員会	委員長	薬学教育モデルコアカリキュラム改訂に対応するカリキュラム編成について検討している。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにおいて保護者へ説明を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
長崎県高等学校理科教育研究会「化学部会」・「実験実習部会」研究集会での実験紹介	9月16日	長崎国際大学	長崎県高等学校理科教育研究会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州山口支部	幹事	平成28年度～現在に至る	日本薬学会九州山口支部
日本分析化学会九州支部	幹事	平成24年度～現在に至る	日本分析化学会九州支部
日本薬学会	代議員	2019年度～現在に至る	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

本学での職域接種において、ワクチン管理等の業務を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、すべての担当科目の満足度は4.3以上、理解度は4.2以上であり、一定の評価を得られたと考える。コロナ禍以降、授業形態が、遠隔、ハイブリッド、対面と変化しているが、授業アンケート等を参考に、授業内容などを検討し、満足度や理解度を向上できるように努める。

研究に関しては、現在の科研費の課題が次年度で終了するため、新たに獲得できるように研究を進める。発表論文は3報であり、引き続き努力する。

大学運営に関しては、学部長をはじめ教職員の協力もあり、学科長として最低限の仕事はできたのではないかと考える。次年度は、入学定員の確保や進級率の向上等、さらに貢献できるように努力する。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 市川　和洋

１．教育理念

担当している物理化学分野は、薬の天然物からの抽出、全合成、あるいは製剤の特性や安定性など、薬学に必須の基礎的概念や原理を理解する学問領域です。従って、化学系薬学あるいは生物系薬学など幅広い薬学領域の基礎をなしており、それを理解する能力を育てる役割を果たしています。
物理化学的な見方ができるようになることで、体系的な薬学学習が可能になると考えています。そのため、初年次教育から専門教育の段階まで、物理化学的視点で薬学分野を見る習慣を身に着け、理解が深まること、またその楽しさを伝えることを教育方針としています。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/15(前期)	1.5	91	①⑨
薬品物理化学Ⅰ	8/15(前期)	1.5	1	①④⑧⑩
総合演習Ⅰ	2/30(通年)	1	93	①④⑥⑩
総合演習Ⅰ	2/15(通年)	1	2	①④⑥⑩
総合演習Ⅱ	1/30(通年)	1	97	①④⑥⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
物理学演習	12/12(後期)	0.5	5	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	8/15(後期)	1.5	3	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	8/15(後期)	1.5	102	①④⑧⑩
物理学演習	12/12(後期)	0.5	30	①④⑧⑩
基礎の物理学	15/15(前期)	2	24	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅰ	8/15(前期)	1.5	105	①④⑧⑩
生物物理化学	8/15(後期)	1.5	15	①④⑧⑩
薬品物理化学演習	12/12(後期)	0.5	69	①⑧⑩
物理化学実習	7/7(前期)	1	92	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本学部での高校時の物理未履修者割合は20～30%程度であり、初期の学習状況が大きく二分化されています。担当科目の授業アンケートの評価は入学時の物理成績とほぼ一致し、2年次の講義において、非常に良いとのコメントの一方で、全く分からないとのコメントもあるなど2分化していることと一致します。

薬剤師国家試験の要求水準を満たすために、講義水準や速度を著しく緩めることは困難ですから、専門科目に入る前の、入学時、初年度教育の改善を図ることが教育効果の向上に結び付きます。これら物理化学系科目の全体的な改善が、教育効果や学生の理解度向上に寄与すると考えています。
アンケートや小テスト等を拡充し、理解度に合わせた講義を進めていきたいと考えています。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

疾患で変化する代謝機能を対象とし、物理化学的な手法に基づいてin vivoおよびin vitroで計測可能な計測法を新たに開発することで、疾患メカニズム解明や医薬品の薬効評価の新しいアプローチを実現することを目的として研究を行っています。主な研究内容は次の通りです。

（１）生体酸素代謝動態の画像診断装置開発、反応選択的化合物（分子プローブ）の開発
（２）生体の様々な酵素代謝をリアルタイム計測する分子プローブ開発
（３）抗酸化活性とストレス・疾患動態の簡易計測法開発と薬効評価
（４）がんモデルにおける酸素代謝動態、TCAサイクル変動と薬効評価

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	1760万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Research and development of pre-clinical OMRI／2022年6月／Antioxidants and Redox Signaling／https://doi.org/10.1089/ars.2022.0038／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

生体代謝のリアルタイムイメージング技術開発と疾患分析への応用（招待講演）／2022年9月6日／第3回広帯域極限電磁波生命理工連携研究会「イメージングとその周辺技術の生命医科学への応用」

in vivo OMRI 計測のための空洞共振器の開発と最適化／2022年12月4日／第61回電子スピンサイエンス学会年会

OMRI法を用いた早期糖尿病性網膜症評価の実現可能性の検証／2022年11月20日／第39回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　基盤研究（B）	日本学術振興会	2021-2023	1760万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試・募集委員会	委員長	オープンキャンパス、入試募集
全学教育会議	構成員	各種議題検討
作問委員会	副委員長	入試作問の方針策定

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、アンケート結果も踏まえ、物理化学複数科目全体のコマ運用で理解度アップをはかりました。主に担当する１、2年次の学生について、フォローアップに努めました。研究面では、論文掲載、外部資金取得は、ほぼ計画通り進捗しました。また、学会評議員、学会誌編集委員など、社会・学会貢献に努めました。

薬学部では近隣に薬学部が新設され、受験者数の維持・増加と定員充足へ向けた改善実施が喫緊の課題です。入試・募集委員長として高校生へのアウトリーチに努め、受験者数確保を目指しました。また、薬学部入試募集委員として、広報活動の一環として薬学リーフレットを引き続き作成し、九州圏の薬局等に配布しました。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 大磯　茂

1．教育理念

私の教育理念は、医療における種々の課題に適切に取り組むことのできる医療人を輩出するために、自ら学び、自ら考える能力を有し、さらに薬剤師としての実践能力を有する学生を育成することです。
一般的な学修事項のみならず自らの実務経験に基づいた知識と技能を含む実践的能力をつけてもらうための授業を展開します。
学生には自己研鑽する習慣をつけて欲しいと考えており、予習または復習課題を課した授業を多く取り入れます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	なし
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	なし
総合演習ⅢＢ	0/23(前期)	2	16	なし
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	93	なし
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	なし
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑪
実務実習（病院・薬局）	0/548(通年)	20	95	なし
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	⑥⑩⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	⑥⑩⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	なし
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑪
医薬品情報論	9/15(後期)	1.5	3	①⑥⑧⑨
病院	0/274(通年)	10	3	なし
薬局	0/274(通年)	10	3	なし
医薬品情報論	9/15(後期)	1.5	91	①⑥⑧⑨
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	8	②⑦
在宅医療概論	1/15(前期)	2	264	②⑪
物理・生物薬剤学演習	7/15(前期)	1	101	①②④⑨
生物薬剤	25/28(後期)	3	106	⑪
医薬品安全性学	8/15(前期)	1.5	101	①②④
処方箋解析	18/28(後期)	3	106	⑪
総合実習	18/18(後期)	1	106	①⑪
治験コーディネート論	7/15(前期)	1.5	6	①⑥⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	①④⑤⑥⑦⑪⑫
調剤Ⅰ	33/33(前期)	2	105	①⑤⑥⑨⑪
調剤Ⅱ	33/33(前期)	2	105	①⑤⑥⑨⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
処方設計学特論	3/15(前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今年度は、一部の履修者が多い授業を除き、対面形式の授業とほぼ正常化に近い状態で授業を行うことができた。今年度の医薬品安全性学および医薬品情報論の授業アンケートの満足度は前回と同じまたはより高いポイントを得た。履修者から寄せられた

改善要望に対しては次年度において改善に努めたい。実務実習事前学習も、前年度と同様な内容で講義・実習を行った。卒業研究の指導においても研究成果をまとめさせ、卒業研究論文を提出させることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	7	2022年4月11日
総合演習Ⅰ	1	7	2022年6月20日
総合演習ⅢA	1	102	2022年5月25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

モノクローナル抗体を活用した薬物濃度測定法の開発
がん細胞の抗がん剤に対する感受性増強に関する研究
脳由来神経栄養因子産生促進作用を有する抗うつ薬の探索研究
医薬品副作用データベースを用いた副作用のリスク解析
摂食調節ペプチドホルモンを介した肥満制御に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	6	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Increasing Effect of Citrus natsudaidai on Brain-Derived Neurotrophic Factor.／2023年2月／Journal of oleo science／10.5650/jos.ess22324／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

沖縄在来カンキツのBDNF産生促進効果／2022年11月19日／第39回第39回日本薬学会九州山口支部大会

ビオチン標識抗レボフロキサシン抗体を用いたレボフロキサシン濃度測定法の開発／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

牛蒡子の主要成分アルクチゲニン長時間処理によるシスプラチン耐性ヒト咽頭がん細胞KCP-4のシスプラチン感受性増強効果／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

木香（Saussurea lappa）の主要成分コスツノリドの抗がん効果／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

シークヮーサー果皮のBDNF産生促進作用／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

甘夏ならびに甘夏近縁品種カンキツを基原とする和漢薬のBDNF産生促進効果／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
OSCE実施委員会	委員長	OSCE統括
実務実習運営委員会	委員長	実務実習統括

事前学習運営委員会	委員長	事前学習統括
薬学部教務委員会	委員	研究室配属など
長崎薬学コンソーシアム	委員	長崎国際大学実務実習およびOSCE活動報告など

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
教養セミナー内容検討ワーキンググループ（薬学部）	担当者	教養セミナーBにおける薬局および病院の早期体験学習の統括など

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス／2022年7月、8月、2023年3月

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
九州山口地区調整機構	大学委員	令和4年4月1日～令和5年3月31日	九州山口地区調整機構
九州山口薬学会	委員	令和4年4月1日～令和5年3月31日	九州山口薬学会
長崎県薬剤師会実務実習委員会	委員	令和4年4月1日～令和5年3月31日	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、一部の履修者数が多い科目を除き、対面形式の授業が基本となった。対面形式に戻り、履修生も緊張感をもって授業に参加できる状態だったものと考えられる。一部の科目ではあるが、授業アンケートでは問題となるような評価点ではなかったと思うが、一部の改善要望については次年度対応できるように努めたい。研究においては、6演題の学会発表に関わることができたものの、原著論文1報を出すに留まってしまった。今後も継続して研究活動進め、より多くの成果を出せるよう努めたい。大学運営活動や社会活動では、大学内の5の委員会等および大学外の3つの委員会等で活動を行った。今年度も実務実習運営委員長およびOSCE実施委員長として実務実習およびOSCEの運営に深く関わった。新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けてしまった部分もあったが、特段大きな問題等なく運営できた。次年度も自分に割り当てられた委員活動をしっかりと行い、引き続き大学運営等に貢献したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 大庭　義史

1．教育理念

薬学における分析化学分野に関する専門的知識・技能の教授を教育・研究を通して行い、高い倫理観と豊かな人間性を有し、医療薬学分野で実践的に活躍できる薬剤師を育成することを目的とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
構造解析学	5/15(前期)	1.5	1	①②③④⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
分析化学Ⅰ	13/15(後期)	1.5	2	①②③④
機器分析学	4/15(後期)	1.5	1	①②③④
日本薬局方概論	8/15(後期)	1.5	105	①②③④
構造解析学	4/15(前期)	1.5	90	①②③④⑨
分析化学演習	6/12(前期)	0.5	117	①②③④⑨
機器分析学	4/15(後期)	1.5	109	①②③④
分析化学Ⅱ	13/15(前期)	1.5	111	①②③④
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	7/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
分析化学Ⅰ	13/15(後期)	1.5	97	①②③④
薬学入門	1/15(前期)	1.5	100	②③⑩⑪
分析化学・放射線化学実習	3/9(前期)	1	114	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「分析化学II」（2年前期必修）の満足度は4.8(昨年度4.5）であった。なお、本科目は公開授業対象科目であった。

「分析化学I」（1年後期必修）の満足度は4.5（昨年度4.8）であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
指定科目特別補習（分析化学I）	9	22	10/3,17,24、11/7,21,28、12/5,12,19
総合演習I	4	5	5/9他

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① ASAP-MS法による化粧品成分、農薬の分析

② 重粒子線照射マウス脳及び腸管中のアミノ酸分析（放射線薬学研究室との共同研究）。

③ サンゴに含まれるタンパク質の特性調査に関する研究（加藤祐子（訪問研究員）と共同研究）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	2	2	1	1	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

よくわかる薬学機器分析（第3版）／共著・編著／2022年4月／廣川書店／編集、共著：252～266、273～294

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Different properties of two types of red fluorescent proteins in octocoral, Scleronephthya spp. as Akane families／2022年12月／Luminescence／https://doi.org/10.1002/bio.4394／共著／論文

Extremely Simple and Rapid HPLC Analysis of Tocilizumab in Human Serum with Selective Precipitation Using Alkylamine／2023年1月／ Chemical and Pharmaceutical Bulletin／https://doi.org/10.1248/cpb.c22-00475／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

サンゴ由来蛍光タンパク質とサンゴアレルギーの発症の関係解明／2023年2月11日／第５回日本アレルギー学会九州・沖縄支部地方会

選択的沈殿法によるヒト血清中インフリキシマブの迅速・簡便な HPLC 分析法の開発／2023年3月26日／日本薬学会第143年会（札幌）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金「サンゴアレル 長崎国際大学 2020-2023年 70万円 ギー発症とサンゴ由来蛍光蛋白質の関係解明とアレルギー診断技術への展開」基盤研究（C）（一般）（研究分担者）	長崎国際大学	2020-2023年	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
男女共同参画推進委員会	委員長	2回開催
薬学部入試・募集委員会	委員長	高校訪問スケジュール調整、パンフ作成、OC企画など
図書選定委員会	委員	図書の選定
薬学研究センター運営委員会	委員	訪問研究員の審査など
生涯教育・学習委員会	委員	生涯教育セミナー開催に向けてのメール会議
共同機器管理委員会	委員	質量分析装置管理責任者

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
4年生学年主任	学年主任	4年生全体への各種案内、指導

(3) 課外活動の指導等

美術部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスへの参加（7/24、8/7、3/19）

佐賀学園高等学校ガイダンス／10月18日／場所：佐賀学園高等学校

佐世保西高等学校2年理系課題研究／11月17日／場所：長崎国際大学薬学部

壱岐高等学校ガイダンス／12月16日／場所：壱岐高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
りけフェス2022	11月13日	佐賀大学本庄キャンパス	主催：佐賀大学、西九州大学、長崎国際大学、佐世保工業高等専門学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
下村脩ジュニア科学賞審査委員	委員長	平成24年～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市少年科学館運営委員会	委員長	令和元年～現在に至る	佐世保市教育委員会
佐世保市男女共同参画審議会	会長	令和元年～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

4月8日、5月13日「新型コロナワクチン集団接種会場薬剤師業務」薬液充填作業（レオプラザホテル佐世保）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育面：授業アンケートの結果では理解度、満足度共に概ね良好な結果が得られた。講義後に動画を公開、レスポンなどからの質問については、マナバ、メール等誠実に対応した。

対外模試等における担当領域の正答率については概ね全国平均以上であった。

研究面：共同研究者としての論文、発表等はあったが、自身の研究については発表できなかった。

広報面：「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に参加。リケフェスにて模擬実験を行った。また、薬学部・入試募集委員長として、薬学部リーフレット作成、オープンキャンパスの企画、高校での模擬授業を実施した。

その他：男女共同参画委員会の委員長となったが、佐世保市男女共同参画審議会においても会長となった。また、佐世保市少年科学館関連では、従来の下村賞の審査（委員長）に加え、運営委員会（委員長）にも継続し関わっている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 小川　由起子

１．教育理念

建学の精神、基本理念に則り、薬学の理論と応用とを研究教授し、医療･創薬に関わる分野で求められる学識と能力を培うことを目的とする。科学の基盤をもち、医療人としての自覚のもと、高い臨床能力を発揮できる、人に優しい薬剤師の育成を目的とする。AI化が進む中、薬剤師として何ができるか、何を求められているかを瞬時に判断し、地域社会の中で求められる薬剤師になるための人材育成をする。

薬剤師国家試験に合格させるためには低学年の基礎科目の理解、それに紐づけられた専門科目を通じて薬剤師国家試験に対する意識づけが常に必要であると考える。そのため、低学年から薬剤師国家試験問題に触れることも重要であると考え、担当科目では小テストや課題で問題を解答させるようにしている。また、受動的な学習ではなく、能動的、自発的な学習ができるように指導を心がけている。5年生の配属学生には、勉強だけではなく研究の面白さを伝え、研究を通して薬をはじめとした医療を見る目を養わせるように指導している。

チーム医療の中で、薬剤師の立場として発言するためには化学に裏打ちされた知識が必要になってくるが、同時にコミュニケーション能力も不可欠である。傾聴、承認をし、自分の意見を簡潔に述べることができるような人材を育てていくように心がけている。

今般、社会の中で不安や悩みをもっている学生が多いので、それぞれにあった指導を心がけ、相談しやすい環境を整えるように心がける。学生生活6年の中で経験することは、社会に出てからも大きな影響力を与えるので、自己研鑽しながら社会に貢献できる人材育成に心がけていく。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	3/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年)	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年)	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
微生物薬品学	15/15(後期)	1.5	0	②③⑨
公衆衛生学Ⅱ	4/15(後期)	2	110	①⑨
感染防御学	3/15(前期)	1.5	78	⑧⑨
微生物薬品学	15/15(後期)	1.5	21	②③⑨
薬物治療学Ⅲ	6/15(後期)	1.5	110	①②③⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
病原微生物学	7/15(後期)	1.5	104	①⑨⑪
微生物学・免疫学実習	18/27(前期)	1	93	①④⑤⑩
臨床生理学実習	21/21(後期)	1	95	①②③⑦⑩
微生物・免疫学演習	3/15(前期)	1	106	⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床病態検査学特論	2/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

① 授業改善

授業アンケートは概ね良好であった。授業アンケートの結果を参考に、改善した点は次の点である。

イ）国家試験が科目の垣根を越えての出題になったために、広い視野を持って問題が解けるように、関連科目についても講義内容に追加した。

ロ）コロナ渦で対面での双方向型授業が難しいので、「スグキク」やresponを取り入れての双方向授業をすることで、学生の考える力、理解力を高めるようにした。

ハ）講義後に課題を出し、自主学習することで記憶力の定着を試みた。

② 教育効果

年々新薬が増え、副作用の問題も大きいこと、さらに科目の垣根を越えて広い視野をもって患者への服薬指導ができるように、社会に出てから役立つように、できるだけ臨床でよく使用される医薬品を例に挙げて講義をした。また、Zっ州で実施した内容も国家試験に出題されていたために、実習内容の吟味は重要であると考える。今年度は昨年度に引き続き、コロナ渦で、どのように理解していただくか、理解を深めさせるかを考えるのに苦労したが、途中に試験を入れることで理解度を確認した。また、responを活用し、双方向授業をすることで、受け身の授業にとどまらず、自分で考え理解するようにした。ゲーム感覚で問題演習ができ、リアルタイムで解答の正誤がわかるため、学生の評判も良く学生にとってはかなり効果的な教材であったと考えられる。昨年度まで使用していた「スグキク」の方が使い勝手はよく感じられる。また、視聴覚教材の活用やトピックを取り入れることにより、より学生が興味を持ち、理解度の向上がはかれるものと考えられた。またその日の講義内容の課題をmanabaで出し、提出してもらうことで理解力を深めるようにした。さら
に授業終了後、毎回独自でアンケートを取ることで学生の意見を吸い上げ改善を試みた。話す速度が速いとの指摘があったため、話す速度に注意し、かつプリント、プロジェクターを適宜
使用することにより、単元ごとに重要ポイントを示した。また、CBT、国家試験の過去問題もmanabaにて課題として出し、単元での重要問題を理解させることができ、共用試験、国家試験に対する意識が高まったものと考えられる。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
福岡ビューティアート専門学校	衛生管理Ⅰ	30/30(通年)	2	130
福岡ビューティアート専門学校	衛生管理Ⅱ	90/90(通年)	6	90

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	2	6	4/28,5/18
総合演習Ⅰ	6	4	5/10,12,13,19,7/14,9/29

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 日本冬虫夏草由来新規生理活性物質の探索
② 日本冬虫夏草の抗肥満作用
③ 日本冬虫夏草のメラニン生成抑制作用
④ ウシガエル卵由来シアル酸結合レクチン（SBL）の生理活性
⑤ 凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	3	8	1	1	8万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Syntheses of novel pyridine-based low-molecular-weight luminogens possessing aggregation-induced emission enhancement (AIEE) properties／2022年5月／Beilstein J Org Chem.／10.3762/bjoc.18.60／共著／論文

Methyl β-D-galactopyranoside esters as potential inhibitors for SARS-CoV-2 protease enzyme: synthesis, antimicrobial, PASS, molecular docking, molecular dynamics simulations and quantum computations／2022年4月／Glycoconj J.／10.1007/s10719-021-10039-3／共著／論文

Assignment of H1-C1 cross peaks on the Two-dimensional NMR map corresponding to mannose residues of pathogenic yeast Candida tropicalis cell wall mannan／2022年3月／長崎国際大学論叢／10.51075/ronso.00000459／共著／研究ノート

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒトがん細胞に対するカイコ冬虫夏草の細胞増殖抑制効果／2022年12月4日／日本女性科学者の会第14回学術大会

凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法／2022年12月4日／日本女性科学者の会第14回学術大会

神経芽腫に対するCorcyceps militarisの抗腫瘍効果／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

日本冬虫夏草二次代謝産物の薬剤耐性ヒトがん細胞に対する抗腫瘍効果／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

人工培養した国産冬虫夏草のアンギオテンシンⅠ変換酵素阻害活性について／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

凝集誘起発光性化合物を用いた神経芽腫に対する光線力学療法／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

分子動力学計算を用いたウシガエル卵由来レクチンcSBLの糖鎖結合メカニズムの解析／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

高発光性示す凝集誘起型有機蛍光分子の開発／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
学長裁量経費	長崎国際大学	2022年5月から2023年2月	8万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学学生委員会	委員長	委員会議長、開国祭、卒業パーティ補助 ｸﾘｰﾝｷｬﾝﾊﾟｽ運動
薬学部学生委員会	委員	特待関連、委員長の補助
薬学部国家試験・CBT対策委員会	委員	予備校とのパイプ役、学生相談、国家試験、CBT対策講習会の企画
薬学部入試募集委員会	委員	薬学部オープンキャンパス運営、出張講義
薬学部図書選定委員会	委員	図書選定

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO	女子中高生理系進路支援プログラム	女子中高生理系進路支援のために、先端企業訪問企画、離島中学校での実験体験会、佐世保市中高生向け実験体験会、オープンキャンパスでの展示、リケフェス企画

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① SSH未来デザインスクール／10月28日／長崎南高校

② 進路ガイダンス／3月7日／佐賀清和高校

③ オープンキャンパスにて継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBOのリケジョプログラムの紹介

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席

2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
夏休み子ども科学教室	7月31日	佐世保市少年科学館	佐世保市少年科学館
野菜からDNAを抽出してみよう	8月22日	壱岐市立石田中学校	継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO
生き物の設計図DNAを取り出してみよう	11月3日	九州文化学園小・中学校	継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO
オリジナルハーバリウムを作ってみよう	11月12日	長崎国際大学／NIUキッズキャンパス	継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
独立行政法人国立病院機構長崎川棚医療センター地域医療支援病院運営委員会	委員	令和4年4月1日から現在に至る	独立行政法人国立病院機構長崎川棚医療センター院長藤岡ひかる様
一般社団法人日本女性科学者の会	理事・九州ブロック長	2015年5月～現在に至る	一般社団法人日本女性科学者の会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①　12月11日　地域の期待に応える実践活動　運営、SGD時の学生サポート

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBOの一環行事

①　HTB環境施設見学　中高生／10月15日

②　リケフェス2022　佐賀、佐世保地区高校生／佐賀大学、西九州大学、長崎国際大学、佐世保高専　4校合同フェス／11月22日

③　第45回日本分子生物学会　学生フォーラム　補助、配属学生を登壇

日本の未来を担う若手研究者におけるジェンダーダイバーシティ実現に向けて

～学生による理系学部内での男女比格差の議論と提案～

７．受賞等

研究室学生受賞

女性科学者の会第14回学術大会にて配属学生が発表し優秀発表賞を受賞

「凝集誘起発光性化合物による癌の光線力学療法」

８．活動全般についての自己点検・評価

今年度は、

①継続・育成型STEAMガールズ in SAGA・SASEBO　リケジョプログラム4企画を実施、その中でも4校合同でのリケフェス2022では現役大学生に登壇していただき、高校生とのシンポジウムを企画し大盛況であった。また私たちのチームでは、鑑識の目線から犯人を見いびき出す検査を体験していただき、大盛況であった。次年度が最終年度になるので、中高生へ理系の楽しさを伝えるべく様々な企画をしていきたいと考えている。

②研究面では、学生に学会で発表させるべく研究指導をし、第14回女性科学者の会第14回学術大会にて5年の鈴木美裕さんに優秀発表賞を受賞察せることができた、また女性科学者の会会長、理事と共同で第45回分子生物学会学生フォーラムで登壇者4名のうち国公立大大学院生3名である中で一人学部生として5年生の千綿沙英さんを登壇させ、発表させることができた。また日本薬学会143年会でも5年生全員に発表する機会を作ることができた。次年度は科研費も取得できたので、引き続き研究に邁進したいと考えている。

③広報、社会活動面では、小中生向けに夏休み科学教室を開催し、近隣の小中学生へ理科への興味を抱かせるような取り組みをした。またキッズキャンパスにも企画を出し、広報活動に力を入れた。また高校2校で進学ガイダンス等を実施し、大学の魅力を伝達した。次年度も大学の魅力、理系の魅力をどんどん次世代に伝えていきたいと思う。

④教育面では、授業アンケートもよい結果を得ることができた。コロナも収束することから、学生への対応も次年度変化がみられると思うので、学生の意見を傾聴し、よりよい授業を組み立てていこうと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 岸原　健二

１．教育理念

私の教育理念は、「患者さんに正しい情報を提供し説明できる薬剤師を育てる」ことである。本学の卒業生の多くは、調剤薬局や病院で地域医療を担う薬剤師となる。私の専門である免疫学は、近年大きく発展してきた分野であり、感染症、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全症など多くの疾患の理解に免疫学の基礎知識は必須である。また、抗腫瘍免疫療法の発展と抗体医薬品の開発は、医療においてますます重要になっている。したがって、本学薬学部の卒業生は、薬剤師として病態、治療法、医薬品を説明する上で必要な免疫学の専門知識を修得する必要がある。とくに病院におけるチーム医療や在宅医療では、多職種協働により医療を進めて行くことが重要になっている。したがって、薬剤師は単に薬の知識だけでなく、薬学に関連する周辺領域を広く学ぶことやコミュニケーション能力を高めることも重要である。

免疫学は日進月歩であり、最新の知識を維持するには、生涯学び続ける努力は不可欠である。学生の時期に学修習慣を身につけることは、将来の薬剤師としてのさらなる成長に礎となるであろう。また、高度な知識や技能を有する薬剤師を必要とする専門・認定薬剤師の中には、免疫学の最新の知識を必要とするものもある。将来、そのような臨床薬剤師を目指してほしいと考えている。また、常に学ぶ姿勢を持続し、リサーチ・マインドをもつ薬剤師の育成にも尽力したい。

本学のモットーは、「いつも、人から。そして、心から。」であり、建学の理念として「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究」が謳われている。したがって、本学薬学部の卒業生は、患者さんの立場で考え、患者さんに正しい情報を提供し、患者さんに安心感を与え、信頼される薬剤師として地域医療に貢献してほしいと考えている。また、持続可能な社会の実現にSDGsが国際社会共通の目標として国連のサミットで採択されている。この精神を理解し、どのように社会貢献ができるのかを考え、実践できる能力を兼ね備えた薬剤師の育成にも努めていきたい。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①⑧
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①⑧
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑧
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①⑧
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①⑧
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	なし
卒業研究（５年)	1/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年)	1/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①⑧
総合演習ⅢＢ	1/23(後期)	2	71	①⑧
感染防御学	4/15(前期)	1.5	78	⑦
薬学英語	5/15(前期)	1	94	②③⑩⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
薬学入門	1/15(前期)	1.5	100	②⑩
微生物学・免疫学実習	6/27(前期)	1	93	①④⑤⑩
微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	106	②④⑨
免疫学	15/15(後期)	1.5	113	⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
処方設計学特論	3/15(前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・「教養セミナーA」評価（満足度：4.6 ）

コロナ禍で、研究室ではなく講義室での実施となった。司会は教員主導で、用意されたテキスト・資料に沿った授業となった。テキストはよく編集してあり、問題なく授業を進行できた。今年度の学生は、全般的にまじめに取り組んでおり、とくに問題は感じなかった。

・「薬学英語」評価（理解度：4.2／満足度：4.4）

アンケート結果から、現行の授業の質が、以前よりも特に悪くなっていないことが分かった。授業動画の配信やテキストの英訳を配布するなどの復習を促す方策が、学生に評判がよかったようだ。今後も、このような点を継続していきたい。授業形式に関しては、今回の結果も踏まえて、他の担当教員を協議していきたい。コロナ禍で１クラス編成となったことにより、双方向授業が十分に実施できていないことをアンケート結果からも感じた。SGDを実施しにくいことから、他の方法でアクティブラーニングを実践することを考える必要があることが分かった。一方、授業形式の変更に伴い、学生から評価される部分もあり、その点（授業動画の配信やテキストの英訳を配布など）は今後も継続していきたい。

・「免疫学」評価（理解度：4.2／満足度：4.5）

コロナ禍ということもあり、講義動画の配信を毎回行ったことが、学生の復習にも役立ったことで、評価されたと推察される。また、毎回授業後にmanabaの小テストにおいて課題を出題したことで、復習を促した。学生のコメントからも学生の復習に役立ったと思われる。留年生や再履修者における合格率が低いことから、そのような学生に対する補習など対策を検討する必要をある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①加齢に伴う免疫老化の分子メカニズムの解明および細胞老化関連遺伝子に関する研究

若年者と比較して高齢者より株化したB細胞ではストレス・炎症性シグナル因子が活性化に依存し抗原提示に重要なHLA-DR分子の発現が低下することを明らかとした。さらに、これらの細胞において細胞老化を規定することが知られているテロメラーゼ触媒サブユニット遺伝子発現はストレス性因子の活性化に依存して抑制されていることが明らかとなった。加齢に伴う免疫力の低下は様々なストレスの蓄積による免疫細胞の老化によると考えられ、その詳細なメカニズムについて免疫細胞におけるテロメラーゼ制御の分子基盤をはじめ若年者と高齢者における解析により得られた細胞老化関連遺伝子群における網羅的機能解析および細胞老化マーカーを用いた免疫細胞老化評価系の構築を行っている。

②ヒト正常線維芽細胞TIG-1における細胞老化特異的転写制御機構の解明に関する研究

細胞分裂に伴って細胞老化（cellular senescence）表現型を呈するヒト正常線維芽細胞株であるTIG-1を用いて、細胞分裂回数が異なる細胞間における分裂老化（replicative senescence）および過酸化水素処理による酸化ストレスから惹起される早期老化（premature senescence）での遺伝子発現の変化を転写産物RNA 5’キャップ構造を認識して網羅的シークエンスによる精度の高い遺伝子発現解析が可能となるCAGE（Cap Analysis of Gene Expression）法によって、新しい細胞老化の指標となる発現遺伝子、特異的転写産物やプロモーターの同定を試みている。さらに、IPA（Ingenuity Pathway Analysis）シグナルネットワーク解析より抽出した老化関連候補因子について分裂老化に伴う遺伝子発現量および活性変化について解析を試みている。特に、重要な役割を担う可能性のあるキナーゼおよびシグナル因子（Akt、Jnk、p38、NF-kB、ERK1/2など）の機能変化と細胞老化との関わりについて検討を行っている。

③ポリフェノールによる制御性T細胞活性化を介した免疫増強効果に関する研究

CD4陽性およびCD25陽性のT細胞である制御性T細胞（Treg）は、過剰な免疫反応の抑制、免疫機能の恒常性維持、口腔内寛容に重要な役割を果たしている。本研究では、マクロファージ様細胞であるTHP-1細胞を用いて、食品成分によるTregの誘導効果を評価することを試みた。33種のポリフェノールのうち2種はともにTreg誘導に関わる内因性レチノイン酸関連遺伝子を活性化した。また、腸管リンパ球のTregによる抗慢性炎症活性を解析するために、2種のポリフェノールをBalb/cマウスへ経口投与したところ、マウス腸内でmIgA産生が増加したことから、これらはTregを誘導し、腸管における免疫増強効果に貢献している可能性が示唆された。本研究は現在投稿中である。

①加齢に伴う免疫老化の分子メカニズムの解明および細胞老化関連遺伝子に関する研究

若年者と比較して高齢者より株化したB細胞ではストレス・炎症性シグナル因子が活性化に依存し抗原提示に重要なHLA-DR分子の発現が低下することを明らかとした。さらに、これらの細胞において細胞老化を規定することが知られているテロメラーゼ触媒サブユニット遺伝子発現はストレス性因子の活性化に依存して抑制されていることが明らかとなった。加齢に伴う免疫力の低下

は様々なストレスの蓄積による免疫細胞の老化によると考えられ、その詳細なメカニズムについて免疫細胞におけるテロメラーゼ制御の分子基盤をはじめ若年者と高齢者における解析により得られた細胞老化関連遺伝子群における網羅的機能解析および細胞老化マーカーを用いた免疫細胞老化評価系の構築を行っている。

②ヒト正常線維芽細胞TIG-1における細胞老化特異的転写制御機構の解明に関する研究

細胞分裂に伴って細胞老化（cellular senescence）表現型を呈するヒト正常線維芽細胞株であるTIG-1を用いて、細胞分裂回数が異なる細胞間における分裂老化（replicative senescence）および過酸化水素処理による酸化ストレスから惹起される早期老化（premature senescence）での遺伝子発現の変化を転写産物RNA 5’キャップ構造を認識して網羅的シークエンスによる精度の高い遺伝子発現解析が可能となるCAGE（Cap Analysis of Gene Expression）法によって、新しい細胞老化の指標となる発現遺伝子、特異的転写産物やプロモーターの同定を試みている。さらに、IPA（Ingenuity Pathway Analysis）シグナルネットワーク解析より抽出した老化関連候補因子について分裂老化に伴う遺伝子発現量および活性変化について解析を試みている。特に、重要な役割を担う可能性のあるキナーゼおよびシグナル因子（Akt、Jnk、p38、NF-kB、ERK1/2など）の機能変化と細胞老化との関わりについて検討を行っている。

③ポリフェノールによる制御性T細胞活性化を介した免疫増強効果に関する研究

CD4陽性およびCD25陽性のT細胞である制御性T細胞（Treg）は、過剰な免疫反応の抑制、免疫機能の恒常性維持、口腔内寛容に重要な役割を果たしている。本研究では、マクロファージ様細胞であるTHP-1細胞を用いて、食品成分によるTregの誘導効果を評価することを試みた。33種のポリフェノールのうち2種はともにTreg誘導に関わる内因性レチノイン酸関連遺伝子を活性化した。また、腸管リンパ球のTregによる抗慢性炎症活性を解析するために、2種のポリフェノールをBalb/cマウスへ経口投与したところ、マウス腸内でmIgA産生が増加したことから、これらはTregを誘導し、腸管における免疫増強効果に貢献している可能性が示唆された。本研究は現在投稿中である。（九州大学大学院農学研究院との共同研究）

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Age-retead functional decline of human B cells／2022年4月／Cytotechnology／319 - 327／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト線維芽細胞TIG-1におけるCAGE（Cap Analysisi of Gene Expression）法による細胞老化特異的転写開始モチーフの解析／2022年12月／日本分子生物学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館員会（全学）	委員長	委員長（図書館長）として、ライブラリーサポーター（ＬＳ）制を開始した。また、コロナ禍で3回のビブリオバトル開催を実施した。
自己点検・評価委員（全学）	委員	各種アンケートの実施をサポートした。授業アンケート結果に基づく面談を実施し、教育研究の向上に努めた。
入試募集委員（薬学）	委員	オープン・キャンパス、留学生対応、SKY語学院関連の説明会等をサポートした。
教務委員会（薬学）	委員	薬学研究発表会(11/9)を開催した。また、学生の研究室配属を担当した。
自己点検・評価委員（薬学）	委員	授業公開を実施し、アンケートの集計を行い、フィードバックを実施した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】前期において、「薬学英語」の学生満足度は4.4で、「教養セミナーA」も学生満足度は4.6で、とくに問題はなかった。後期において、「免疫学」の学生満足度は4.6で、とくに問題はなかった。講義動画の配信や授業後の課題（manabaの小テスト）が学生の復習に役立ち評価されたようだ。これからも、さらに継続して改善していきたい。

【研究】今年度は、学外との共同研究で査読付き英文論文1編が掲載された。学会発表は１題であった。来年度は、あらに研究室独自の研究を発展させていきたい。

【大学運営】(1) 図書館長として、ライブラリーサポーター（ＬＳ）制を開始した。また、コロナ禍で3回のビブリオバトル開催を実施した。(2) 自己点検・評価委員として、後期授業アンケートや面談を実施し、教育研究の向上に努めた。(3) 薬学部入試募集委員として、オープン・キャンパス、留学生対応、SKY語学院関連の説明会等をサポートした。(4)薬学部教務委員会の一員として、薬学研究発表会(11/9)を開催した。

これからも、担当する全学・学部委員会において尽力していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 隈　博幸

1．教育理念

「知恵と知識」をモットーに、「知識を持つ薬剤師」ではなく、「知識に裏打ちされた知恵の出せる医療人」の養成を目指す。そのための基礎となる薬学専門知識の習得はもちろんのこと、常に研究心を持ち、論理性に優れたサイエンティストとしての薬剤師を育成するとともに、本学の建学理念「人間尊重」「ホスピタリティの追求」に基づき、病気と向き合う薬剤師ではなく、患者と向き合う人間力豊富な医療人の育成に貢献する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
疾病学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	109	①②③⑨
医療生命倫理	1/15(後期)	1.5	101	⑤⑥⑩
臨床生理学演習	15/15(前期)	1	57	①③④⑤⑪
臨床生理学実習	30/30(後期)	1	95	①②③⑦⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床病態検査学特論	9/15(後期)	2	4
特別研究	45/45(通年)	12	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度の主要2科目の授業アンケート結果は、4.7（疾病学Ⅰ）と4.7（臨床生理学演習）であった。例年同様、平均以上の評価で安堵している。基本的には復習を重視し、学生の興味を引く時事的内容を中心に講義を行っており、それが一定の範囲で受け入れられたものと捉えている。

今年度は対面とzoomの併用を実施しており、それが功を奏したものとも考えられる。来年度以降もこの授業スタイルを継続し、改善できる点は改善し、学生の講義内容理解の一助としたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	臨床検査学	15/15(前期)	2	27

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ（5年）病態・薬物治療	1	97	11/17
総合演習Ⅰ（4年・4留）病態・薬物治療	3	96	5/31，7/12

国試対策補習（九州文化学園歯科衛生士学院）臨床検査学	3	30	12/20

３．研究活動

(1) 研究テーマ

1. 磁気マーカーを用いた超高感度免疫検査システムの開発
2. 赤血球膜蛋白質バンド３の構造と機能相関の解明
3. プロテインS凝固制御系の異常による血栓性素因の解明と治療対策の構築
4. 凝固制御因子プロテインCの定量的活性測定法の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	5	1	1	100万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

The role of epidermal growth factor-like domain-related abnormalities, protein S Tokushima, and anti-protein S autoantibodies in pregnancy loss／2022年5月／J Repro Immunol／10.1016/j.jri.2022.103476／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓症発症のリスク解析／2023年3月／日本薬学会第143年会

ヒト赤血球膜タンパク質Band 3における Anion交換ドメインのLCP法を用いた結晶化と構造解析／2023年3月／日本薬学会第143年会

プロテインC蛋白質変異体の作製と活性に関する検討／2023年3月／日本薬学会第143年会

ペプチド基質を用いた血中ダビガトラの抗凝固能評価法／2023年3月／日本薬学会第143年会

血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定法の開発／2023年3月／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
受託共同研究費	株式会社シノテスト	2022年4月～2023年3月	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員長	ボランティアセンター長としてセンター及び委員会の円滑な運営に尽力した。結果として今年度は、新型コロナの影響によりボランティア活動は実施しなかった。
国家試験・CBT対策委員会（学部）	委員長	薬学部6年～4年次生に対する国家試験とCBT対策他に尽力した。
入試・作問委員会	委員	今年度は健康栄養学科の化学入試問題の校閲を実施した。
研究等倫理委員会（学部）	委員	研究倫理審査、規定・申合せ作成等を実施した。
NIU疾患検査センター	センター長	学内（CHサポートセンター・利休庵診療所）および市内医療機関のPCR検査

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

・学園祭実行委員会

・卒業パーティ実行委員会

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（2022年7月・8月）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
科学研究費委員会	委員	2016年4月～現在に至る	日本学術振興会
日本臨床化学会	評議員	2019年4月～現在に至る	日本臨床化学会
災害ボランティアネットワーク連絡協議会	委員	2019年4月～現在に至る	佐世保市社会福祉協議会
創発的研究支援事業審査委員会	委員	2020年4月～現在に至る	科学技術振興機構（JST）

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・長崎国際大学薬学研究センター血栓性素因部門による医療臨床検査

（検査委託元：佐世保共済病院、株式会社シノテスト、杉ウイメンズクリニック、村上病院他）

・新型コロナウイルスPCR（LAMP）検査

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

コロナ禍での活動も3年目となり、社会的にも一定の基準が出来たと思う中での大学活動となったが、対面授業も開始され、教育面では十分な取り組みができたと考えている。
また研究活動、委員会活動、国試対策、PCR検査を通じた社会貢献等、一定の成果を上げたものと思われる。
来年度も引き続きこれらの活動に取り組み、より一層充実した成果を上げるよう努力したい

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 黒川　健児

1．教育理念

大学や大学院での教育の魅力は、薬学科としての薬剤師等の資格取得に向けて必要な知識や技能を習得するという範囲を超えて、あるいは社会で独り立ちし、あるいは困難な課題に立ち向かい解決できたりするような、プラスアルファの力を身に付けるチャンスがあることだと思います。大学院生の場合には、難しい研究開発に挑戦し成し遂げる基礎力かもしれません。但し、それらは講義室に座って講義を聴いているだけで身に付くとは限りません。学生さんが、それらの力を身に付け、大学教育の奥深さを享受し、そしてその力を社会で発揮できるよう、サポートしてきます。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	23/0(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	23/0(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	30/0(前期)	2	16	①⑨
生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	1	①②⑩
総合演習Ⅰ	45/1(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	45/1(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	23/1(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	45/1(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	30/1(後期)	2	71	①⑨
機能形態・生化学演習	12/3(後期)	0.5	1	①②⑨⑪
ホスピタリティ演習Ⅱ	10/7(前期)	0.5	80	①④⑥⑪⑫
生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	111	①②⑩
細胞生物学	15/9(後期)	1.5	103	①②⑨
分子細胞生化学演習	12/3(後期)	0.5	70	②④⑨
薬学英語	15/2(前期)	1	94	①⑤⑩
機能形態・生化学演習	12/3(後期)	0.5	81	①②⑨⑪
機能形態・生化学演習	12/3(後期)	0.5	23	①②⑨⑪
専門基礎学習Ⅱ	9/9(通年)	0.5	95	②④⑨⑩
生化学実習	4/10(後期)	1	112	①②④⑪⑫

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	15/2(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

生化学IIでは毎回の確認試験をmanaba上で行い、また隔週で計6回の小テスト、そして中間試験を実施した。細胞生物学でも担当回について毎回の確認試験をmanaba上で行い、隔週で計3回の小テストを実施後、中間試験を実施するなどして学生による復習と反復学習を誘導した。授業アンケートでも勉強になったと概ね好評であった。授業の満足度は両科目とも4.5を超えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
生化学 Ⅰ 補習	2	25	2022年11月2日、2022年11月9日
分子細胞生化学演習	1	78	2022年12月6日
機能形態・生化学演習	1	83	2022年12月21日
機能形態・生化学演習	1	44	2022年11月30日
機能形態・生化学演習	1	1	2022年11月30日
専門基礎学習Ⅱプラス(CAI補習)	15	97	2022年4月27日から12月21日
総合演習 Ⅰ	4	110	2022年度前期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

（１）細菌感染症の予防と治療に関する研究

（２）細菌感染に対する生体防御機構に関する研究

（３）微生物の細胞表層と細胞膜の生理に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Heterogeneous IgE reactivities to Staphylococcus pseudintermedius strains in dogs with atopic dermatitis, and the identification of DM13-domain-containing protein as a bacterial IgE-reactive molecule.／2022年2月／FEMS Microbiol Lett.／10.1093/femsle/fnac019／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員長	研究センター委員会の所轄事項である長崎国際大学論叢の発行、学術研究報告会の実施を委員長として遂行した。
薬学部･教務委員会	副委員長	編入学試験の受験希望者の単位読み替えの精査を行った。
薬学部･研究等倫理委員会	委員	研究等倫理委員会が所轄する通常業務に1年を通じて従事した。
薬学部･カリキュラム検討委員会	副委員長	コアカリ改訂に伴う5次カリ作成の情報収集を進めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

剣道サークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

4回のオープンキャンパスに参加し、参加者と交流し情報提供に努めた。昨年に引き続き、学生の協力を得て薬学部を紹介するYouTube動画を作成し、高校生にメッセージを発信した。福岡県の高校教員と交流し、進学情報を交換した。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本学術振興会内委員会	専門委員	令和3年度～現在に至る	日本学術振興会
生化学分野教科担当教員会	委員	平成29年度～現在に至る	薬学教育協議会
薬剤師国家試験問題検討委員会	「物理・化学・生物」部会委員	平成26年度～現在に至る	日本私立薬科大学協会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

リサイクル活動への参加

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部運営に関する各種の提言を、学部長、入試・募集センター委員長、大学本部の各部署に適宜行った。

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度も研究センター委員会委員長を含めて各種委員会の活動は、通常業務を大過なく行った。学部講義においては、生化学Ⅱや細胞生物学の授業アンケートでの満足度評価で自己最高点を得るなど一定の評価を得た。AMEDに研究分担者として申請した。科研費は応募したが採択されていない。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 小林　秀光

1．教育理念

薬学科の教育目的は、薬学領域の確かな知識・技能と共に、生命の尊さを理解する豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた薬剤師を養成することにより、人々の健康と福祉の向上についての社会貢献をすることである。この目的を達するためには、より早い時期（低学年次）から薬学専門領域に対する真の覚醒を促すことと考えている。

小生が主に担当している科目は「微生物学」、「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」である。2年次科目の「微生物学」は生物学や生化学を踏まえた薬学専門基礎科目に位置づけられる。この科目をしっかり修得することは、「病原微生物・ウイルス学」や「衛生化学」のみならず、上位学年に配当されている多くの応用科目を真に理解するために極めて重要なことである。従って、「微生物学」の教授内容は薬剤師国家試験における直接の出題数としては決して多くはないが、小生が担当する科目のうちでは、この授業が本丸となるものと捉えている。

より多くの学生に薬学専門領域の基礎科目「微生物学」をしっかりと修得させるためには、何といってもその内容に興味を持たせることが重要となる。これを可能にするためには、最新のトピックス（特に、微生物学分野における最近の研究等）を分かり易く解説することが、臨場感を与え最大限の効果をもたらす。話し方等の講義テクニックも大切と思うが、視覚に訴える分かり易い資料の投影または配布により提供することに力を入れている。そして、これらを題材として学生に深く考えさせる機会、すなわち、意見や感想の提出や討論を実施すること（アクティブラーンイング）で双方向の授業を展開することを心がけている。

薬学専門領域の応用科目「病原微生物・ウイルス学」及び「衛生化学」の内容は、薬剤師業務と大きく関わる内容が大部分を占める。従って、国家試験合格という目標を持つ学生にとって、これらの科目に対する興味は益々大きいものとなっている筈である。「微生物学」で培った基礎力を持ってすれば、これらの科目を理解することは容易であろうと考えるが、敢えて「微生物学」や関連科目の内容のふり返りを口頭試問等で行っている。双方向アクティブラーンイングは、研究の最新トピックス等でなく薬剤師の業務に係わる課題を与えている。

以上のように、小生が担当する全ての科目（学内実習を含む）では、幅広く知識と技術を伝授することに加えて、専門領域における「考える力」の醸成にも力を入れている。これらの科目の単位修得には試験（随時、定期）を課しているが、考える要素を取り入れた複数の論述問題を必ず出題することとしている。これにより、思考・判断力及び文章構成力も評価できる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
衛生化学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	4	①②③⑩
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	40/40(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	40/80(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
ホスピタリティ演習Ⅰ	8/8(後期)	0.5	112	②⑦
微生物学	15/15(後期)	2	1	①②③
感染防御学	4/15(前期)	1.5	78	⑧⑨
医療生命倫理	2/15(後期)	1.5	101	⑤⑥⑪
専門基礎学習Ⅰ	7/7(通年)	0.5	109	②④⑦⑨⑩
衛生化学Ⅱ	8/15(前期)	1.5	88	①②③⑩
病原微生物学	15/15(後期)	1.5	104	①②③⑨⑪
微生物学・免疫学実習	5/20(前期)	1	93	①④⑤⑩

微生物・免疫学演習	4/15(前期)	1	106	⑧⑨
微生物学	15/15(後期)	2	110	①②③

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床病態検査学特論	2/15(後期)	2	4
特別研究	180/180(通年)	12	-

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年より1～3ポイント上昇した。これらの項目の評価が上昇するようALを工夫したい。また、受講生よりまとめのプリントに十分なメモ欄を設けることを望んでいるが、まとめプリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成して欲しいと思っている。受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したいまた、受講生よりまとめのプリントに十分なメモ欄を設けることを望んでいるが、まとめプリントがあまりに枚数が増えるのもおかしいので、学生自身がノートを作成して欲しいと思っている。受講生がプリントに頼りすぎると教科書やその他の専門書を軽視することが懸念されるので注意したい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保医師会看護学校	微生物学	15/15(集中)	2	25
博多メディカル専門学校	生化学	15/15(前期)	2	55
博多メディカル専門学校	生化学演習	3/3(後期)	0	45

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

真菌の構造と生理活性物質に関する研究

①新興カンジダ症の原因酵母の生化学及び免疫化学的研究

②抗真菌剤を利用した酵母細胞壁マンナンの構造化学的研究

③国産冬虫夏草より得られる生理活性物質に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Assignment of H1-C1 cross peaks on the two-dimensional NMR map corresponding to mannose residues of pathogenic yeast Candida tropicalis cell wall mannan／2022年3月／Nagasaki Int. Univ. Rev.／20, 187-191／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

人工培養した国産冬虫夏草のアンギオテンシンⅠ変換酵素阻害活性について／2023年3月／日本薬学会第143回年会

日本冬虫夏草二次代謝産物の薬剤耐性ヒトがん細胞に対する抗腫瘍効果／2023年3月／日本薬学会第143回年会

神経芽腫に対するサナギタケの抗腫瘍効果について／2023年3月／日本薬学会第143回年会

高病原性Candida auris酵母の細胞壁マンナンのO結合型糖鎖について／2023年3月／日本薬学会第143回年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
入試募集委員会	委員	①アドミッションオフィサー：入学試験における書類選考、面接業務 ②入試小論文出題者として採点業務 ③高校出張講義：鎮西学園高等学校 ④その他、通常業務
産学連携委員会	委員	「産学連携推進事業費補助金」を踏まえて活動した。
薬学部共通機器管理委員会	委員長	会計システム入力時のミスを減らすように、申請方法を大幅に改善した。
薬学部教務委員会	委員	①2年生学年主任 ②地域の期待に応える実践活動
薬学部地域連携委員会	委員	①地域の期待に応える実践活動 ②九文理科啓蒙事業（学長裁量経費）

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

サークル「きのこ倶楽部」顧問（2023年3月時点で部員30名）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

大学ホームページ「トピックス」への記載

①新サークル「きのこ倶楽部」の設立と活動案内

②薬学部活動「地域の期待に応える実践活動」の実施報告（学長裁量経費）

③薬学部活動 九文化中学校における理科教育啓蒙活動「くすりのお仕事」の実施報告（学長裁量経費）

④薬学部活動 九文化高校における理科教育啓蒙活動「薬剤師の仕事」の実施報告（学長裁量経費）

⑤薬学部活動 九文化高校における理科教育啓蒙活動「おもしろ理科実験」の実施報告（学長裁量経費）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	欠席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
4	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬剤師体験教室及び薬学部施設見学	22年8月22・23日	本学及び九州文化学園中学校	学長裁量経費
講義「6年制薬学部」ってどんな勉強？「薬剤師」ってどんな職業？（職業理解：薬剤師の職業）	22年10月31日	鎮西学園高等学校（諫早市）	入試・募集センター
講義「変わりゆく薬剤師の仕事」	22年12月20日	九州文化学園高等学校	学長裁量経費
実験「味覚の不思議 ～だまされる脳～」	22年12月20日	九州文化学園高等学校	学長裁量経費

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

新型コロナ職域接種（本学内）において、薬剤師としてワクチン調製に従事した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】前期科目「衛生化学Ⅱ（3年次）」のフィードバックアンケートでの学生満足度は4.5であり、目標を大きく上回った（留学生は4.6）。後期科目「微生物学（2年次）」については未通知。

【研究】今年度の論文業績は学内報の1報及び学会発表4件に止まった。大学院生2名（社会人1人を含む）を受け入れた。【社会貢献】4～5年後を見据え、佐世保地域の理系大学への進学率と医療産業への就職率アップを目標として、同地域の初等・中等教育における「理科啓蒙」と「高大接続」をテーマに活動を継続した（R4年度：学長裁量経費）。ワクチン職域接種に薬剤師として貢献した。

【大学運営】全学入試募集委員会ではアドミッション・オフィサーに就任した。産学連携委員会の委員として活動した。

【学部運営】共通機器管理委員会委員長及びとしての職務を全うした。教務委員会及び地域連携委員会の活動（地域の期待に応える実践活動など）を積極的に行った。

【反省】外部研究資金を企業と連携して託研究費や経産省の資金を獲得してきた経緯があり、文科省科研費の獲得には積極的でなかった、しかし、次年度は新たな科研費獲得に力を入れたい。また、公表論文数も少なかったことから、もっとIFの高い雑誌に投稿できるよう頑張りたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 佐々木　茂貴

1．教育理念

1．身近で、親しみやすい、街の中の科学者・化学者として、地域の健康と福祉に貢献する薬剤師を育成する。
1）科学的思考力を養うため、物事を分析的に解釈し、総合して理解する知識と能力を習得させる。
2）物質の変化を説明するために化学的な思考力を育成する。
3）話す相手に適切な態度と言葉で安心感を与えつつ科学・化学を伝える技術を習得させる。
4）医療従事者としての自覚と責任感を育成する。
2．病気の治療薬開発に向けた新進気鋭の気概をもつ研究者を育成する。
1）既存薬の記憶にとどまらず、その創成過程に関心をもつ気風を育てる。
2）確立した概念に満足せず、さらなる真理への探求心を奨励する。
3）治療現場の課題や疑問点を基礎科学にフィードバックする能力を育てる。
4）自発性・積極性を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	③⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	③⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	③⑨
構造解析学	2/15(前期)	1.5	1	③⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	③⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	2	③⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	③⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	⑥⑪
卒業研究（６年）	30/30(通年)	4	2	⑥⑪
総合演習Ⅰ	2/45(後期)	1	1	③⑪
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	③⑪
生物有機化学	2/15(後期)	2	1	③⑪
構造解析学	2/15(前期)	1.5	90	③⑪
創薬化学	2/15(前期)	1.5	99	③⑪
生物有機化学	2/15(後期)	2	106	③⑪
有機薬化学Ⅱ	2/15(前期)	1.5	109	③⑪
有機薬化学実習	12/12(後期)	1	112	③⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	2/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

有機薬化学IIと生物有機化学について授業アンケートを行った結果、4.4~4.6の評価であり、学生は概ね満足する結果であった。しかし、一部、内容が多すぎるなどのコメントがあったため次年度以降は、内容を精査するとともに、個別の質問を受けられるように授業を工夫する。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州大学大学院薬学研究院	大学院有機化学	2/15(前期)	2	なし
久留米大学医学部	薬理学講義	1/15(後期)	2	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

今世紀初頭に非コードRNAが関与する新たな遺伝子発現制御機構が明らかになり、診断や創薬に大きなインパクトを与えている。などの疾患に関係する遺伝子には１塩基異常が最も多く含まれており、ゲノムDNAや長大なRNA中の１塩基をピンポイント的に正確に識別する手法の開発が望まれている。私は遺伝子発現機構を標的とする研究領域において極めてユニークなアプローチを提案し、「ゲノム標的化学」として展し、革新的な診断や治療法への発展可能性をもつ多数のユニークな機能性ゲノム標的分子を創成している。2022年度は以下の二つテーマについて研究を実施した。

(1) RNA配列および塩基選択的反応： DNA中のシトシン5位メチル化はエピゲノム制御機構として広範な研究が展開されている。近年は、これまで化学修飾がないと考えられいたmRNAにおいても塩基修飾による発現制御がエピゲノム制御として注目されている。そこで、標的RNAに機能性分子を転移させ選択的に化学修飾する手法を開発した。この方法では、標的RNAに相補的な人工核酸を用いて、標的位置のグアニン、アデニンおよびシトシンを配列および塩基特異的に化学修飾する技術を確立した。2022年度は、本RNA修飾技術を活用し、mRNAの化学修飾と翻訳への影響について調査した。また、RNAの2’－水酸基の選択的なアセチル化のための新規ヌクレオシド誘導体合成を検討した。

(2) 繰り返しＤＮＡ配列に自己集積する分子：脆弱X症候群(FXS)に関連するFMR1遺伝子にはCGGリピート領域があり、このリピート数が55以下では正常であるのに対し、200以上では遺伝子が転写されず、発症する。近年、CGGリピート領域のシトシン５位メチル化の阻害が、FMR1遺伝子転写を活性化し、症状を軽減させることがわかり、新しい創薬戦略として注目されている。2020年度には、CGGリピート配列に自己集積する低分子が、細胞内で高リピートを含む疾患モデル細胞のFMR1遺伝子の転写を活性化させることを見出した。共同研究によって、この活性化機構について検討した。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	9	2	2	13541万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Application of the Functionality Transfer Oligodeoxynucleotide for the Site-Selective Modification of RNA with a Divers Molecule／2022年7月1日／Chem. Pharm. Bull.／10.1248/cpb.c22-00288／共著／論文

Development of a selective ligand for G-G mismatches of CGG repeat RNA inducing the RNA structural conversion from the G-quadruplex into a hairpin-like structure／2022年4月28日／Organic & Biomolecular Chemistry／10.1039/d2ob00279e／共著／論文

163. Multiple-turnover single nucleotide primer extension reactions to detect 8-oxo-2'- deoxyguanosine in DNA／2022年4月8日／CHEMICAL COMMUNICATIONS／10.1039/D2CC01372J／共著／論文

Site-Specific Tritium Labeling at the Predefined Internal Position of the Chemically-Modified RNA／2023年1月1日／Chem. Pharm. Bull.／10.1248/cpb.c22-00738／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

天然及び人工核酸の部位特異的化学修飾とその応用／2022年8月2日／日本核酸医薬学会第7回年会

核酸医薬を通して薬学の将来像を考える／2022年9月12日／日本薬剤学会　第3回超分子薬剤学FGシンポジウム

Development of artificial nucleic acids that enable to form triplex DNA for DNA sequences containing 5mCG base pair／2022年11月2日／日本核酸化学会第6回年会

Development of a small-molecule inducer that converts the G-quadruplex structure of CGG repetitive RNA to a hairpin form／2022年11月2日／日本核酸化学会第6回年会

Simple and Efficient Method for Site-selective Internal Tritium Labeling of Chemically Modified Oligonucleotides／2022年11月3日／日本核酸化学会第6回年会

三本鎖DNA形成配列の拡張を可能とする合成を簡略化した新規人工核酸の開発／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

部位特異的化学修飾法を基盤としたRNAの分子修飾とラベル化／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

RNA糖部2'-OHアセチル化のためのアミノピリジン結合プリン塩基の合成／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

遺伝子を制御するメチル化DNAに対して三本鎖DNAを形成可能にする人工核酸の開発とその応用研究／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
CGGリピートに協奏的に集積する分子を基盤とする脆弱X症候群に対する低分子創薬	日本学術振興会	2021-04-01 - 2025-03-31	1716万円
分子組織化に立脚した革新的医薬品の分子設計	日本学術振興会	2019-04-23 - 2024-03-31	11825万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
危機管理委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
グローバル推進協議会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
全学教育会議	構成員	委員会に出席し、議論に参加した。
情報セキュリティ委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
学務協議会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
運営会議	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
奨学金変換免除にかかる候補者選考委員会	委員	委員会に出席し、議論に参加した。
教員資格審査委員	委員	委員会に出席し、議論に参加した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
令和3年度私立大学等改革総合支援事業対策会議及びワーキンググループ	委員	活動内容のとりまとめに参加した。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	欠席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席

2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	9

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
核酸医薬を通して薬学の将来像を考える	2022年9月2日	長崎市	日本薬剤学会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会	会頭	2022年3月25日ー2023年3月25日	日本薬学会
6年制薬学教育制度調査検討委員会	委員	2022年４月１日ー2023年3月31日	日本私立薬科大学協会
薬学実務実習に関する連絡会議	委員	2022年４月１日ー2023年3月31日	文部科学省高等教育局医学教育課
薬学教育協議会	理事	2022年４月１日ー2023年3月31日	薬学教育協議会
薬学教育評価機構	理事	2022年４月１日ー2023年3月31日	薬学教育評価機構
薬学系人材養成の在り方に関する検討会	委員	2022年４月１日ー2023年3月31日	文部科学省高等教育局医学教育課
薬学研究奨励財団　運営助言委員会	委員	2022年４月１日ー2023年3月31日	薬学研究奨励財団
薬剤師認定制度認証機構社員	特別委員	2022年４月１日ー2023年3月31日	薬剤師認定制度認証機構
薬剤師生涯学習達成度確認試験　運営協議会	委員	2022年４月１日ー2023年3月31日	日本薬剤師研修センター

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

学長特別表彰　研究種目：基盤研究（B）

８．活動全般についての自己点検・評価

１．教育活動については、講義、演習の一部を分担し、各種試験問題作成を行い、目的を概ね達成した。

２．研究活動については、英文論文の発表（4報）や学会発表を行った。様々な実験を行い、さらに共同研究を展開し、当初の予想どおりに実施できている。

３．大学運営活動には、全学委員会委員として活動に参加した。

４．社会活動では、日本薬学会次期会頭候補会頭として、種々の活動を行い、また種々の委員会に参加して活動した。

５．コロナ感染拡大のため国際的な活動はリモート会議に限定されたが、薬学会の国際交流活動を通して、アジア諸国、アメリ

カ、カナダおよびドイツと交流した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 佐藤　博

1．教育理念

私の学問的バックグラウンドである環境科学では、「持続可能な」という言葉が一つのキーワードとなっている。これは社会のなかにおいて、色々な考えをもつ学生がそれぞれのもっている個性を大事にして地道に目標に向かっていくことに対して、真摯に継続して係っていくことが重要であると考えている。そこで、次の3つを教育理念として挙げる。

〇学生との対話を重視し、彼らが主体的に諸能力を伸ばすことができる教育を展開する。

〇個を認め、その主体性を育むことによって、ホスピリティを獲得する教育を行う。

〇心が豊かになる教育を目指して、国家試験に対して乗り越えられるように育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	2/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
ホスピタリティ演習Ⅱ	2/10(前期)	0.5	80	①④⑥⑪⑫
公衆衛生	15/15(前期)	2	24	②⑪
地球環境論	15/15(後期)	2	132	②⑨⑩
環境科学	15/15(前期)	1.5	97	②
香粧品学	12/15(後期)	1.5	78	②⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
地球環境と倫理	15/15(前期)	1.5	115	②⑩
薬学入門	1/15(前期)	1.5	100	①②③⑩
衛生薬学実習	12/21(前期)	1	92	①②④⑤⑦⑪⑫
毒性学	6/15(後期)	1.5	95	②③
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	124	②④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	15/15(通年)	12	－

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

分かりやすい講義との一定の評価がり、全ての項目で評価は上昇した。

しかし、早口で話をしてしまうために、この点は改善する必要がある。また、声が聞き取りにくいという指摘もあり、滑舌をよくする必要がある。

資料に日付けや番号を付与するなど、更にわかりやすい資料作成に努めたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 細菌･ウイルス除去を目的とした水酸化カルシウム製剤に関する研究
② 光触媒を利用した脱臭に関する研究
③ 長崎県産アロマ精油の抗菌試験とガスクロマトグラフィー分析
④ 微生物を用いた芽胞状態での真菌抑制及び消臭作用の検討
⑤ 除菌・脱臭フィルターのウイルス除去性能評価
⑥ アロマ精油によるウイルス抑制効果の検討

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	3	5	5	210万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

焼成ホタテ貝殻粉末水溶液による脱臭及びウイルス抑制効果の検討／2023/3/10／室内環境学会九州支部第16回研究発表会

空気浄化機用フィルターの微粒子捕集率と抗ウイルス効果の評価／2023/3/10／室内環境学会九州支部第16回研究発表会

焼成ホタテ貝殻粉末水溶液のpHがウイルス抑制効果にもたらす影響の検討／2023/3/27／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
ウイルス除去空気清浄機のウイルス除去性能・耐久性能評価(R3年度とR5年度)	吸着技術工業株式会社	2021年1月1日～2023年3月31日	100万円
イノシシ雌成獣の誘引剤利用による効率的捕獲方法の確立	佐世保市	2022年6月9日～2023年3月31日	60万円
生活環境を阻害する微生物の活動抑制に役立つ『バイオ衛生器具』の評価に関する研究	有限会社ホテイ産業研究所	2022年11月1日～2023年3月31日	10万円
除菌、消臭機能を備えた光触媒除菌清浄機エアフレシャーの除菌、脱臭評価に関する研究	株式会社イナヅマ電気工事	2022年5月1日～2022年12月31日	10万円
光触媒を用いた小型脱臭器の脱臭性能向上検討（R5年度）	株式会社日本理工医学研究所	2022年12月1日～2023年6月30日	30万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携センター(全学)	センター長	全学地域連携センター会議開催（月1回）、全学教授会報告（月1回）地域連携行事の円滑な遂行と大学でのSDGs活動推進に貢献した。
就職委員会	委員長	合同就職説明会、就職ガイダンス、卒業後の進路を考えるセミナーを企画実施して、学生のキャリア教育に貢献した。
地域連携委員会	委員長	高校生夏休み薬学研究体験等の講師選定、寄付講座（回生薬局、東七）を円滑に運営した。 【高校生体験学習】 ・第11回夏休み薬学研究体験 実施日：令和4年8月10日(水)、11日(木) 参加者：高校生33 名（長崎県、佐賀県の高校12 校） ・第15回 猶興館高等学校体験学習（高大連携事業） 実施日：令和4年8月25日(木)、26日(金) 参加者：猶興館高等学校2年生10名 ・第4回 長崎県立佐世保西高等学校 2年生理系課題研究 実施日：令和4年11月17日(木) 参加者：佐世保西高等学校2年生14名
安全管理委員会	委員	毒物劇物管理の各研究室の点検（年1回）、早岐警察署の薬学部内の爆発物現地調査（2月28日）に協力した。
図書選定委員会	委員	適切な図書の選定に貢献した。
教務委員会	委員	教務の円滑な運営に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
令和4年度 私立大学等改革総合支援事業対策会議・WG	タイプ2・副ワーキンググループ長	タイプ２の改善点の抽出と対策 グループ員の協力のもと、本年度の審査に合格できた。
薬学部自己点検・評価委員会	評価委員メンバー	自己点検報告書に対する提言や意見

(3) 課外活動の指導等

薬学野球サークル顧問　部員とのコミュニケーンに努めた。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・合同就職説明会

実施日：令和5年3月5日

対象：薬学部5年生。他学年も参加可。

対面での実施

九州を主とした事業所100社の参加

・卒業後の進路を考えるセミナー

実施日：令和5年3月5日

対象：薬学部1～4年生

対面での実施

内容：薬学生向け就職活動WEBサイト運営企業による、薬学生の就職までのスケジュール等についてのセミナー、合同就職説明会への参加

・就職ガイダンス

対象：薬学部5年生

日程：第1回：令和4年5月10日（遠隔　1期が実習中のため、1期終了～2期開始の間の時期に実施）

第2回：令和4年11月11日（対面　実習等で出席できない場合はZoom or YouTube視聴）

第3回～5回：令和5年1月10、11、12日（3日とも対面。実習等で出席できない場合はZoom or YouTube視聴）

内容：

第1回開催内容(講師：マイナビ)

・就職活動スタート講座（就職活動の基礎知識、最新の採用動向とスケジュール、Webセミナーについて 等）

第2回開催内容（講師：マイナビ）
・Web上での就職活動の方法について
・自分に合った就職先を選ぶための自己分析
・キャリアプランの作成方法
・業界別選考スケジュール

第3～5回開催内容（講師：マイナビ、エムスリー、ユニヴ）
・就活準備…就活への心構え、社会情勢等、一般的な就活に関すること
・就活対策…薬学生のための履歴書の書き方・面接(Web含む)対策講座
・業界研究…奨学金返済プランを利用した就職活動と、職種全般の動向と推移

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	15

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
におい・香りについての特集　スポットイン佐世保	2022年12月20日(火)19：00～	薬学部　環境毒性学研究室	テレビ佐世保
「めざせ水の薬学博士」	2022年10月29日(土)	ハウステンボス、針尾下水処理場、長崎国際大学薬学棟	本学広報部
臭気苦情対応の実際と最近の消脱臭技術	2022年9月14日（水）	大阪公立大学中百舌鳥キャンパス	大気環境学会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県環境審議会委員	委員	2022年11月1日～2024年10月31日	長崎県知事
長崎県環境審議会環境基本計画策定部会	委員	2020年11月～2022年10月	長崎県知事
長崎県環境審議会環境計画部会	委員	2020年11月～2022年10月	長崎県知事
長崎県環境審議会環境監視部会	委員	2020年11月～2022年10月	長崎県知事
佐世保市上下水道事業経営検討委員会	副委員長	2021年10月1日～2023年9月30日	谷本薫治（佐世保市水道事業及び下水道事業管理者）
佐世保市環境政策審議会	副委員長	2021年6月21日～2023年6月20日	佐世保市長
佐世保市環境教育等推進協議会	副委員長	2021年7月1日～2023年6月30日	佐世保市長

佐世保市地球温暖化防止活動推進センター「させぼエコステ―ション」運営業務業者選定審議委員会	委員	2022年3月1日～2022年7月1日	佐世保市長
九州文化学園高等学校 学校薬剤師	学校薬剤師	2022年4月1日～2023年3月31日	九州文化学園高等学校 校長 横田正俊
（一社）室内環境学会九州支部会	支部長	2012年4月～	（一社）室内環境学会
（一社）室内環境学会	評議員	2012年4月～2022年12月	（一社）室内環境学会
（公社）大気環境学会九州支部	支部役員	2012年4月～	（公社）大気環境学会
（公社）大気環境学会臭気環境分科会	世話人代表	2022年4月～	（公社）大気環境学会
（公社）日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会	委員長	2018年3月	（公社）日本分析化学会
（公社）日本分析化学会九州支部	幹事	2020年4月～	（公社）日本分析化学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2022年3月2日（木）保健委員会： 九州文化学園高等学校 学校医薬剤師として高校へのアドバイスと高校の報告会に参加
2022年3月10日（金）室内環境学会九州支部長として、研究発表会等を開催。（九州大学春日キャンパス）
日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会委員長として、以下の様に、4回の講演会（ハイブリッド開催）、キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会（オンライン）、（地独）東京都立産業技術研究センター見学会を通して、社会に対して情報発信を行うことができた。

・第377回ガスクロマトグラフィー研究会講演会
2022年6月24日（金） 北とぴあとオンライン開催を併用

・第378回「日本分析化学会第71年会」一講演会、講演題目：ガスクロマトグラフィーを用いて食の過去を探る：近年の成果から、演者（奈良文化財研究所・ヨーク大学）庄田慎矢 2022年9月16日（金）10時15分～45分 岡山大学 H会場

・第379回ガスクロマトグラフィー研究会講演会 ・見学会 2022年10月28日（金）
（地独）東京都立産業 技術研究センター

・第27回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会12月23日（金）午後 オンライン開催、

・「第380回 ガスクロマトグラフィー研究会」 ー特別講演会ー 講演主題「持続可能な社会に役立つガスクロマトグラフィー第2回」2022年11月18日(金) 10時～17時 北とぴあとオンライン開催を併用

・「第381回ガスクロマトグラフィー研究懇談会研究会」講演主題「持続可能な社会に役立つガスクロマトグラフィー第3回」2023年2月17日（金）午後オンライン開催

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
日中韓（CJK)シンポジウム	前分析化学会長を偲ぶシンポジウム発表	2022年5月14日	茨城大学	日本分析化学会

(3) その他特記すべき活動

日中韓（CJK)分析化学シンポジウムを通して3国間の研究者の交流を深めることを事務局（長崎国際大学薬学部環境毒性学研究室）として推進している

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

室内環境学会と分析化学会GC研究懇談会の九州支部事務局として学会活動に力を入れている。学内で

は、コロナ禍で3年間かなわなかった第12回薬学部合同就職説明会を実施することができ、38名のOBOGが施設から参加するなどして教員との交流もできた。
参加施設は午前午後あわせて100施設であり、施設プロフィール集をキャリアセンターと作成して５年生全員に配布できた。
　昨年に引き続き4年生を対象とした第8回地域の期待に応える実践活動を倉岡先生を代表として実施できた。この活動により、学生が地域で働くことへの魅力を認識し、しいては地元への就職率の向上へ繋がると期待している。
　現在、企業からの外部資金を運用して研究面を特に推進している。その成果として、これまで共同研究
をしていたイナヅマ電気工事（長崎市）から光触媒空気清浄機が開発され、前回に続き令和４年度長崎市製品・技術「優れモノ」に認証された。
　また、T.Mエンタープライズ（長崎市）と共同研究した、浴室やリビングのカビを抑制するバイオ製剤が、関東の生協で販売されている。今後は九州内での生協販売を期待したい。
　さらには、これまで行ってきた月桃に関する研究は、共同研究先のIBCコーポレーション（長崎市）と
月桃茶飲用による嗅覚障害回復の特許を出願することができ、次の展開に期待がもてる。
　佐世保市とイノシシ対策をこの1年間行い、10回ほどの箱わなを設置した現場でのカメラの点検、えさ、イノシシ誘引剤の状況観察等を行い、成果を得ることができた。報告書を作成したので佐世保市に提出予定である。これも次年度の継続が期待できる。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 高井　伸彦

１．教育理念

目まぐるしく変化する社会環境に対応し、地域の医療に貢献できる学生を育成することを目標とする。その基盤となる科学力を、放射線化学、放射線医療学、分析化学、機器分析学を通して熟成させ、専門力、情報収集分析力、コミュニケーション能力、協働課題を解決する力を持った学生を育てることを、教育理念とする。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	2/23(通年)	1	97	①④⑥⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	①⑨
分析化学Ⅰ	2/15(後期)	1.5	2	①②③④
機器分析学	4/15(後期)	1.5	1	①②③④
放射線化学	9/15(後期)	1.5	1	①②③④⑨
日本薬局方概論	5/15(後期)	1.5	105	①②③④
放射線医療学	14/15(前期)	1.5	112	①②③④
分析化学演習	4/12(前期)	0.5	117	①②③④⑨
機器分析学	4/15(後期)	1.5	109	①②③④⑨
放射線化学	9/15(後期)	1.5	97	①②③④⑨
分析化学Ⅱ	2/15(前期)	1.5	111	①②③④
分析化学Ⅰ	2/15(後期)	1.5	97	①②③④
分析化学・放射線化学実習	9/9(前期)	1	114	①②③④⑤⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	2/15(前期)	2	5
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

留学生を含む107名の評価として、4.7の評価があり昨年度と同様に高い評価を得ている。また満足度は4.7であり、全体の88.5%が満足と評価されており、この評価が継続できるようにしたいと考えています。

2018年度、2019年度よりも満足度は増加しており、2018年度からこの講義を受け継いだが、学生が満足し理解につながる講義が実施できていると考えられる。

放射線化学が不安だったのですが先生の教え方が上手く理解する事ができました。との評価コメントがあり、暗記よりも理解を深める講義を実施している。

絶えず時事ニュースや学生が勘違いしている項目を見つけては、その正誤について理解できるように講義を心がけており、講義を受講することにより将来のCBT試験や国家試験問題も簡単に解けることの満足感を与えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
放射線化学	3	27	11/21、12/12、1/19
分析化学I	1	22	1/19

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①　物理学的画像分析法を利用した重粒子線脳腫瘍治療モデルの解析

粒子線治療による脳腫瘍治療の効果的利用を目的とし、脳のRBE（生物学的効果比）指標を早期に見いだすことのできる新たな物理的画像分析法（新規RBE指標）を創出する。それらの結果にもとづき、中枢組織障害ならびに脳機能（認知・記憶・注意力）障害を軽減するQOLの向上に向けた研究を実施し、重粒子線がん治療装置等共同利用研究課題として「重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析」が採択され実施している。これらの研究を発展させ、基盤研究(C)「脳腫瘍の集学的治療時に生じる認知機能障害と脳内毛細血管密度の解析」の獲得に至る。

②　重粒子線感受性に影響を与える末梢性NMDA受容体の解析

放射線照射後に生じる腸管障害と末梢性NMDA受容体の関連性を明らかにし、組織障害の早期診断技術および有効な放射線防護剤の開発を行う。これまでの研究成果から、グルタミン酸受容体阻害剤の１つであるＮＭＤＡ受容体阻害剤が、腸管障害を軽減することを明らかにしてきた。また脳局所照射実験では、記憶に重要な海馬の特定部位の毛細血管密度が早期から影響を受けることを明らかにしてきた。本研究計画を通して、数種類のグルタミン酸受容体阻害剤を用い、その防護効果をマウス腹部・頭部照射モデルを応用して解析を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
1	0	0	1	2	1	1	416万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

産学官連携ジャーナルの8月号「放射線教育の道しるべ」Vol.18 No8 2022／単著／2023/09／国立研究開発法人・科学技術振興機構／25-26

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Persistent elevation of lysophosphatidylcholine promotes radiation brain necrosis with microglial recruitment by P2RX4 activation.／2022/5／Scientific Reports／1-14／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

炭素線脳局所照射による認知機能障害と遅発性脳壊死との関連性について／2022/12/9-10／日本量子医科学会第2回学術大会シンポジスト（招待講演）

アミノ酸受容体の活性化機序の解析／2022/10/15／第59回放射線影響懇話会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
「脳腫瘍の集学的治療時に生じる認知機能障害と脳内毛細血管密度の解析」	基盤研究(C)　科研費	2021-04-01 - 2024-03-31	416万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学広報委員会	委員長	薬学広報催事 近隣の小学生と保護者を対象とした「めざせ水の薬学博士」を企画運営し、すべての参加者から大変満足したとのアンケート結果を得た。また参加した小学生が、実験を継続して実施し、Title: 身近な海から　極地の生物と海を守ろう！を発表し、日本極地研究振興会の特別賞:　日本極地研究振興会賞に繋がった。 https://kyokuchi.or.jp/contest/2022_top/result
放射線障害予防委員会	委員	RI実験室を利用する方々に、放射線取扱の教育講演を実施した。
教育基盤センター運営委員会	委員	教育基盤センター紀要の編集・査読業務を実施
CBT実施委員会	委員長	委員長として、CBT体験受験、本試験を滞りなく実施し、長崎大学のCBTモニター員を兼務した。
就職委員会	副委員長	副委員長として、地域連携などの業務に関わった。
長崎薬学コンソーシアム	委員	CBTの実施状況などの説明や今後について協議を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

一般社団法人日本量子医科学会　評議員（役員）就任

放射線影響懇話会　世話人（理事）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

薬学広報催事として、近隣の小学生と保護者を対象とした「めざせ水の薬学博士」を企画運営し、すべての参加者から大変満足したとのアンケート結果を得た。また参加した小学生が、その後、実験を継続して実施し、Title: 身近な海から　極地の生物と海を守ろう！を発表し、日本極地研究振興会の特別賞: 日本極地研究振興会賞に繋がった。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	欠席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
めざせ水の薬学博士　広報催事	2022/10/29	長崎国際大学・ハウステンボス	全学広報委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
一般社団法人日本量子医科学会	評議員（役員）	2021/12～	一般社団法人日本量子医科学会
放射線影響懇話会	世話人（理事）	2017/10～	放射線影響懇話会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
日本量子医科学会第2回学術大会	シンポジスト	2022/12/9-10	筑波	日本量子医科学会

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

１）令和4年ベストティーチャー賞

２）学長特別表彰研究種目：基盤研究（C）研究奨励

８．活動全般についての自己点検・評価

全学・薬学委員会の２つの委員長業務、４つの委員としての業務を滞りなく実施し、科研費の獲得、学生の指導をおこなっているが、研究推進においては、研究所のころの1/100程度にしかなっておらず、教員1名の研究室では限界に感じる。教員の業務を増やすばかりの委員会のあり方や、同じ内容の書類の提出や入力など多くの疑問があり、良い大学として活動するためにも、無駄ない委員会業務の削減や効率化を望む。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 長岡　寛明

1．教育理念

私の教育の理念は，学生が国家試験に合格するために必要な衛生薬学分野等の知識の教育のみではなく，公衆衛生学・衛生化学，環境科学，毒性・代謝学，レギュラトリーサイエンス等の視点をもって考えることができる広い視野を持った良い医療人を育てるというものである．良い医療人とは，医学，薬学，社会学の知識及び技術並びに実践能力を有し，更に，協調性に富み，幅広い視野と豊かな教養を持ち，高い人間性及び倫理観を持ち合わせ，自ら学び続けることができる人材であると考える．

本学の卒業生のほとんどは，病院又は調剤薬局の薬剤師として活躍し，一般社会に接した医療現場で働き，多忙な業務をこなすことになる．学生には，将来，疾病を見るだけでなく，疾病に罹っている患者本人及びその家族，患者が生活する地域，属する組織や社会に対し，目を向けて考えること，自ら行う医療行為について評価することができるようになること，加えて，疾病異常をどのようにしたら防げるかという予防薬学の発想を持ち合わせてほしいと考えている．

以上のことより，患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり，生涯にわたって，やりがいと誇りをもって薬剤師としての仕事ができる医療人なれると考えている．

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	23/0(前期)	1.5	91	①⑨
総合演習ⅢＡ	23/1(前期)	1.5	5	①⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	93	①⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
ホスピタリティ演習Ⅱ	10/10(前期)	0.5	80	①
公衆衛生学Ⅰ	15/15(前期)	2	114	④⑥⑪⑫
健康薬学	15/15(前期)	1.5	2	①⑨
公衆衛生学Ⅱ	11/15(後期)	2	110	①⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
専門基礎学習Ⅱ	10/10(通年)	0.5	95	②④⑨⑩
薬学入門	1/15(前期)	1.5	100	①⑨
衛生薬学実習	18/21(前期)	1	92	①②④⑤⑥⑦⑧⑩⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

・授業アンケート

授業アンケートはおおむね良い結果であった．

・授業改善と教育効果

授業方法の改善として，

昨年度資料を冊子体の状態で配布したが，情報量が多くなったため，冊子体による配布を諦め，A4用紙をステープラで留め，さらに2穴パンチ穴を空けたものを配布したところ，学生からは好評だった．

Zoomによる遠隔授業の併用及び講義の映像をYouTubeで配信したため，学生から好評であった．

教育効果として
manabaを用いて，小テストを実施し，学生の理解を深めることに努めた．今年度は，穴埋め式の問題にしたところ，成績の向上がみられた．
manabaにおいて質問やコメントを求めたところ，多くの質問やコメントが寄せられた．これらに対しては，真摯に回答した．

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護学校	公衆衛生学	15/15(前期)	2	76
佐世保市医師会看護専門学校　看護科	公衆衛生学	15/15(後期)	2	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	1	5	4/8
総合演習Ⅰ	1	5	6/24

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・医療用医薬品の承認審査に関する研究
・カテキン類の高速液体クロマトグラフィー蛍光検出法を用いた微量測定法の開発
・茶抽出液中のテアニンの溶出挙動に関する研究
・食品中の腐敗アミンの分布及び挙動に関する研究
・大村湾の海洋調査に関する研究
・環境汚染物質の分析およびそれらの生体への影響評価に関する研究
・COVID-19に関する疫学研究
・長崎県の人口動態統計に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Assessment of genotoxicity of 2-[2-(acetylamino)-4- [bis(2-hydroxyethyl)amino]-5-methoxyphenyl]-5-amino-7-bromo-4-chloro-2H-benzotriazole (PBTA-6) in zebrafish (Danio rerio) using the comet assay and micronucleus test／2022/09／Fundam. Toxicol. Sci.／173～178／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
図書館委員会	委員	図書館の運営及び図書館の充実に関する業務を行った．
薬学部共同機器管理委員会	委員	薬学部にある共同機器に関して管理運営を行った．

薬学部生涯教育委員会	委員長	薬学部生涯教育委員会として，第11回の卒後教育セミナーの開催を予定（3月18日）である．その他に同委員会の運営に関する業務を行った．
薬学部教務委員会	委員	薬学部教務委員会委員として，教養セミナーにおける長崎県環境保健研究センターの見学を計画し，実施した．

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

令和4年7月　日　オープンキャンパス参加
令和4年8月7日　オープンキャンパス参加
令和4年8月21日　オープンキャンパス参加
令和5年3月18日　第11回長崎国際大学薬学部生涯教育セミナー　開催予定

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	7

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
めざせ水の薬学博士	10/29	長崎国際大学	長崎国際大学広報委員会
コロナウイルスについて	11/13	佐世保ワシントンホテル	東京理科大学長崎支部

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
ながさききまなびネット	講師	平成17年2月～現在に至る	長崎県教育庁生涯学習課
独立行政法人医薬品医療機器総合機構	専門員	平成18年5月～現在に至る	独立行政法人医薬品医療機器総合機構
佐世保市廃棄物処理施設専門委員会	委員	平成18年10月～現在に至る	佐世保市
日本食品化学学会	評議員	平成23年1月～現在に至る	日本食品化学学会
長崎県薬剤師会　生涯学習委員会	委員	令和元年7月～現在に至る	長崎県薬剤師会
佐世保市立看護専門学校運営委員会	委員	令和2年10月～現在に至る	佐世保市
佐世保市開発審査会	委員	令和3年4月～現在に至る	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は，講義，実習及び演習の準備等で瞬く間にすぎてしまった1年であった．このため，活動全般では，他の教職員の方々の理解と協力を得て，果たすことができたと考えている．

教育活動においては，自分なりに精一杯努めたつもりではあるが，まだまだ反省し，改善すべき点があると考えている．

研究活動においては、今年度は論文1報，学会発表0回であった．来年度は更なる研究に情熱を燃やしたい．

委員会活動においては図書館委員として，図書館の蔵書の充実に寄与した．また，薬学部生涯教育委員会委員長をとして，委員の先生方に助けられて年間に1回の講演会を開催できた．来年度も講演会を開催し，本学が知の拠点となる一助としたいと考えている．

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 西奥　剛

1．教育理念

私の教育理念は、学生を国家試験に合格するための知識の教育だけでなく、多角的な視点を有し、人間性のある良い医療人を育てたいというものである。良い医療人とは、薬学の知識・技術を有するのみでなく、倫理観を持ち、幅広い視野と豊かな教養と人間性、協調性に富み、自ら学び続けることができる人材であると考えている。 本学では、卒業生のほとんどが薬剤師となり、患者を疾患の側面でしかとらえない場合や、独りよがりの医療に陥る恐れがある。学生には、疾患だけを診るのではなく、病気を患っている人、その家族や、患者が暮らす地域に対し、目を向けて考えることや、自身が行う医療について評価することができるようになること期待している。 それにより、患者のみならず社会全体への貢献ができるようになり、誇りとやりがいをもって仕事ができるような医療人になれると考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	23/1(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	23/1(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	30/1(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	45/1(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	45/1(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	23/0(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	15/15(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	15/15(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	45/1(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	30/1(後期)	2	71	①⑨
薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）	15/15(後期)	1.5	14	①②③
薬理学Ⅱ（末梢-1・前臨床）	15/15(後期)	1.5	99	①②③
薬理学実習	15/15(後期)	1	96	①②③④⑥⑩⑪
薬理学Ⅰ（総論）	15/15(前期)	1.5	113	①②③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
処方設計学特論	15/3(前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは、薬理学Ⅰ、焼かう理学Ⅱともに概ね高評価であった。今年度は、中間試験50%、定期試験50%にして、試験範囲を分配し学生の勉強意欲を向上させた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市看護専門学校	治療論Ⅰ	15/15(通年)	2	70

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	97	2023年1月21日
総合演習Ⅰ	2	3	2022年４月21日,6月9日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

破骨細胞における骨吸収機構と好気的解糖

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	6	1	1	50万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

破骨細胞におけるモノカルボン酸トランスポーター４の発現増加と乳酸の細胞外排出／2022年8月／次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022

破骨細胞の骨吸収における乳酸脱水素酵素Aの発現増加／2022年8月／次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける血清オキシトシンの低値と自閉スペクトラム症様行動の発現／2022年11月／第96回　日本薬理学会年会

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスの 自閉スペクトラム症モデル動物としての妥当性／2022年11月／第39回　日本薬学会九州山口支部大会

破骨細胞によるMCT4を介した乳酸の細胞外分泌／2023年3月／日本薬学会　第143年会

破骨細胞における乳酸脱水素酵素 A (LDHA)を介した骨吸収制御／2023年3月／日本薬学会　第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
認知機能に寄与する食品・成分に関する調査研究	医療経済研究・社会保険福祉協会	2022年4月～2023年3月	50万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
学生委員会	委員	薬学部から全学の学生委員会に選出され、毎月開催される会議に参加した。保護者会、卒後式、卒業パーティーの運営に携わり、また、薬学部の入学特待の継続審査に携わった。さらに、開国祭の開催に関して、実行委員の補助ならびに相談役として携わった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパスにおいて、積極的に参加者と交流を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外

2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	3

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
第107回薬剤師国家試験問題検討委員会薬理部会	委員長	令和4年	日本私立薬科大学協会
薬理学関連教科担当教員会議	委員	平成30年～現在	薬学教育協議会
日本薬理学会学術評議員会	学術評議員	平成25年～現在	日本薬理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

令和4年度は、第107回薬剤師国家試験問題薬理部会検討委員会の委員長を拝命し、5月にWebによる全国の薬学部の薬理系教員が参集する検討委員会を開催した。また、6月に令和4年度薬剤師国家試験問題検討委員会に出席し、第107回薬剤師国家試験問題薬理部会の検討報告書を提出した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

反省点として、科研費不採択は研究維持が困難であり、研究費の一部を自費で支払いすることになってしまった。今年度もA評価であり来年度は必ず科研費に採択されるよう申請書類の作製に昨年以上にエネルギーを注ぎ取り組んだ。また来年度は科研費以外の外部資金にも申請すること必須をする。薬理学実習の心臓機能の実験において、Zoomを有効に利用した実習を展開した。Zoomを利用してデータの共有を行い、また実験ごとに学生を入れ替えることにより、学生全員がこれまで以上に十分な実習がで

きるようになった。第107回薬剤師国家試験問題薬理部会検討委員会の委員長を拝命し、5月にWebによる全国の薬学部の薬理系教員が参集する検討委員会を開催した。また、6月に令和4年度薬剤師国家試験問題検討委員会に出席し、第107回薬剤師国家試験問題薬理部会の検討報告書を提出した。また、静岡市で開催された2022年度薬理学関連教科担当教員会議において検討員会での報告を口頭で行った。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 早川　正信

1．教育理念

臨床の薬剤師としての確かな知識、技能を習得し、医療に貢献できる、豊かな人間性と倫理観をもつ人材を養成し、社会の健康と福祉の向上に貢献できる薬剤師の育成を行います。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/3(前期)	1.5	91	なし
総合演習ⅢＡ	0/3(前期)	1.5	5	なし
総合演習ⅢＢ	0/3(前期)	2	16	なし
総合演習Ⅰ	0/3(通年)	1	93	なし
総合演習Ⅰ	0/3(通年)	1	2	なし
総合演習Ⅱ	0/3(通年)	1	97	なし
実務実習（病院・薬局）	15/15(通年)	20	95	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（５年）	15/15(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	15/15(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/3(後期)	1	1	なし
総合演習ⅢＢ	0/3(後期)	2	71	なし
ホスピタリティ演習Ⅱ	15/3(前期)	0.5	80	①④⑥⑪⑫
病院	15/15(通年)	10	3	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	15/15(通年)	10	3	①④⑥⑦⑪⑫
生物薬剤	15/15(後期)	3	106	①②④⑥⑦⑨
処方箋解析	15/15(後期)	3	106	①②④⑥⑦
総合実習	15/15(後期)	1	106	①②⑪
調剤学	15/10(前期)	1.5	109	①②⑨
医療統計学	15/15(後期)	1.5	96	②④⑩⑪
教養セミナーＡ	0/15(前期)	1	6	なし
教養セミナーＢ	0/15(後期)	1	6	なし
調剤Ⅰ	15/15(前期)	2	105	①②④⑪
調剤Ⅱ	15/15(前期)	2	105	①②④⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	15/3(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

アンケートなどを参考に講義に役立てていきたいと思います。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

医療統計学

臨床研究のデザイン

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
就職委員会	委員	就職の委員会活動を行っている。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外

2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐賀県薬剤師会研究倫理委員会	委員	2010～現在に至る	佐賀県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究等に力を入れていきたいと考えております。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 深澤　昌史

１．教育理念

長崎国際大学の建学の理念は、「人間尊重を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教育・研究。」である。薬学部薬学科では、本学建学の基本理念「人間尊重」を理解し、薬学に関する専門的知識・技能を備え、医療薬学の分野で実践的に活躍できる医療人（薬剤師）を養成するため、学生の「ホスピタリティ」獲得を目的とした教育の実践を目指している。このホスピタリティを構成する５つの能力のうち、私の担当教科で最も重視されるのは「専門力」である。特に生命科学の主流である遺伝子関連の講義では、日々進歩する研究内容から薬剤師として必要な情報を読み取り、また生涯に亘って生命に関心を抱き、学び続ける態度を養うように導きたいと考えている。また、教育支援センターの専任教員として、学生を如何に進級・卒業に向かってモチベーションを保たせるかという命題に対峙し、学修効果を得るためにホスピタリティに根ざしたきめ細やかな指導を行いたいと考えており、実際に低学年に対する補習や積極的な面談などを実施している。。さらに近年は韓国人留学生に対する学修支援も活動に加わり、国際理解力を含めたコミュニケーション能力の向上を教育理念に加えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①⑨
生化学Ⅲ	8/15(前期)	1.5	2	①⑨⑩⑪
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	①⑨
機能形態・生化学演習	3/11(後期)	0.5	1	①②⑨⑪
生化学Ⅲ	8/15(前期)	1.5	109	①⑨⑩⑪
分子細胞生化学演習	3/11(後期)	0.5	70	②④⑨
機能形態・生化学演習	3/11(後期)	0.5	81	①②⑨⑪
機能形態・生化学演習	3/11(後期)	0.5	23	①②⑨⑪
ホスピタリティとSDGs	4/15(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫
生化学実習	15/21(後期)	1	112	①②④⑪⑫
ゲノム創薬学	7/15(前期)	1.5	99	②④⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期：生化学Ⅲ　満足度4.5

少しずつ改善策が実りつつあると思う。但し、例年は留学生の方が留学生以外よりも高い評価を付けていたが、今年度は逆になっている。この学年の留学生は入国が大幅に遅れ、日本語理解力にややハンディキャップがあるので、理解がやや難しかったのだと思う。今年度は例年に比べて自由記述が多く、大変参考になったので、次年度以降に活かしていきたい。

後期：機能形態・生化学演習（B）満足度4.6

丁寧でわかりやすかったという感想が多かったので安心した。説明が早かったという部分を改善できれば、さらに理想的な授業に近づくと思われる。しかし回答率が60％を切っており、この演習の最終回まで出席した人数自体が減ってしまっている（おそ

らく選択科目であるから）。従って母集団が比較的「やる気」がある学生に限定されており、受講者全体の評価ではないことには留意すべきと考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	生物学	15/15(前期)	2	65

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
生化学Ⅰ補習	3	25	2022年12月7,14,21日
4年留年生　総合演習Ⅰ	1	6	2022年5月19日
5年　総合演習Ⅱ	1	97	2022年12月8日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①学修支援におけるICTの活用

②乳酸菌代謝生産物質の肝細胞保護作用および抗腫瘍作用を有する物質の精製と同定

③天然物由来物質の抗ウイルス作用の評価

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

空気浄化機用フィルターの微粒子捕集率と抗ウイルス効果の評価／2023年3月10日／室内環境学会九州支部 第16回研究発表会

焼成ホタテ貝殻粉末水溶液のpHがウイルス抑制効果にもたらす影響の検討／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
（全学）教育基盤センター運営委員会	学修支援部門長	ラーニングコモンズ閉鎖中のため、今年度は特記すべき活動はなし。次年度に向けての準備のため会議を開催。
（全学）教育基盤センター運営委員会	薬学分室長	薬学部教育支援センターの長として薬学部生の学修支援策の立案、実施。留年生保護者会の開催など。
（学部）教育支援センター運営委員会	議長	委員会会議の開催。その他活動は薬学分室長の活動と同じ。
（学部）入学前・所年次教育委員会	委員長	入学前教育の実施及び入学前オリエンテーション（オンラインスクーリングの実施。
（学部）国試・CBT対策委員会	委員	6年生勉強合宿の引率を夏、冬の2回担当した。
（学部）図書選考委員会	委員	図書館で購入する図書の1選定を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

NIU天文サークル　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①第1回オープンキャンパス参加/2022年7月24日/本学
②第2回オープンキャンパス参加/2022年8月7日/本学
③第3回オープンキャンパス参加/2022年8月21日/本学
④第4回オープンキャンパス参加/2023年3月19日/本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
第11回高校生夏休み薬学研究体験	8月10,11日	本学	本学
第15回猶興館高校体験学習	8月25,26日	本学	猶興館高校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

ウクライナ留学生に対し寄付等の支援を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

①第39回日本薬学会九州山口支部大会優秀発表賞審査員

②佐世保市からの委託研究「イノシシ駆除を目的とした誘引剤の評価」（代表：環境毒性学佐藤先生）のメンバーとして参画

③榊原隆三特任教授と共著として「乳酸菌発酵食品の基礎・応用とバイオジェニックス（乳酸菌生産物質PS-B1）の有用性について」を執筆、これまでの研究成果をまとめたものとして自費出版し、関係者に配布した。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、これまでのコロナ禍におけるオンライン主体でかなり学力の低下した学生（特に低学年）が目立ったことから、補習や個別指導に時間を割くようになった。しかしながら成績の向上が顕著には認められず留年生数も2年生で増加したため、入学直後からのリメディアル教育の重要性をより感じられることとなり、次年度は一層の強化策を打ち出している。

研究に関しては、肝臓の脂質代謝改善を目的とした乳酸菌代謝産物の研究において、執筆した学術論文を投稿中である。また、乳酸菌生産物質中の活性物質の精製、同定においても進展があった。

さらに、受託研究のための抗インフルエンザウイルス作用検証実験系を確立しているため、今後他との共同研究や受託の機会を増やしたい。

イノシシ対策プロジェクトは2022年度佐世保市の事業として採択され、実際にフィールドでの試験を行った。これは次年度も継続される見込みであり、ホタテ貝殻の利用も含めて地域貢献やSDGsに関する取組みを今後も進めたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 室　高広

1．教育理念

薬学部での教育は、6年制カリキュラム導入を機に「臨床」上必要な知識と技能態度を習得させるためのカリキュラムのウエイトが増した。私は、病院薬剤師として長年臨床現場で勤務してきた経験を活かし、本学の教育理念である①専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成②地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成③異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成を行い、これらを基盤とした「臨床現場で必要とされる薬剤師」になるための教育を実践する。実習や講義のみならず、研究においても、臨床現場で研究を行うために必要な研究マインドの育成と、研究手法の指導を行い、「臨床現場で研究できる薬剤師」を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①②⑧⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①②⑧⑨
総合演習ⅢＢ	3/30(前期)	2	16	①②⑧⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	93	①②
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	①②
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①②
実務実習（病院・薬局）	1/274(通年)	20	95	①④⑥⑦⑪⑫
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	30/30(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	①②
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①②⑧⑨
医薬品情報論	7/15(後期)	1.5	3	①②④⑨⑪
病院	1/274(通年)	10	3	①④⑥⑦⑪⑫
薬局	1/274(通年)	10	3	①④⑥⑦⑪⑫
薬事関係法規演習	8/15(前期)	0.5	59	①⑧
医薬品情報論	7/15(後期)	1.5	91	①②④⑨⑪
生物薬剤	10/11(後期)	3	106	①⑪
処方箋解析	11/11(後期)	3	106	①②③⑤⑥⑨⑩⑪
総合実習	7/7(後期)	1	106	①②③⑪
治験コーディネート論	7/15(前期)	1.5	6	①②③⑨⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	①④⑤⑥⑦⑩⑪⑫
薬事関係法規	8/15(前期)	1.5	105	①②③⑨
病院薬学	5/15(後期)	1.5	95	①②③⑨
調剤Ⅰ	9/13(前期)	2	105	①②⑪
調剤Ⅱ	9/12(前期)	2	105	①②⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	2/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期薬事関係法規、後期医薬品情報論とも前年度より学生評価が向上していた（Q1-13の平均：4.4，4.5）。

薬事関係法規は記憶中心の科目であり、授業内容の抜本的な改善は困難であるが、引き続き学生にとってわかりやすい表現で臨床での必要性を交えて講義することを心がける。
医薬品情報論では特に学生の学習意欲に関する点数が前年度より上昇していたことをうれしく思う。
臨床で必要な知識を習得するための教科である点を実例を交え具体的に説明したためだと考える。引き続き、臨床での重要性と学習の意義を具体的に交えた講義を行っていく。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	3	95	通年
総合演習Ⅱ	1	97	通年
総合演習ⅢB	1	87	前期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

ナショナルデータベースを用いた市中肺炎における血液培養検査が抗菌薬使用方法と入院期間に与える影響に関する調査
ケミカルハザードドラッグによる職業曝露を軽減するための研究
セルフメディケーションにおける医薬品等の使用実態に関する疫学研究
アスリートのドーピング防止に関する研究
若年者への薬の適正使用に関する薬教育の効果に関する研究
新型コロナワクチンの有害事象と抗体価に関する研究
お薬手帳カバーの有無によるお薬手帳持参率への影響に関する調査研究
外来での化学療法施行患者における適正な体重測定日に関する後ろ向き観察研究
処方箋の一元管理の有益性に関する全国実態調査
メディカルサポートセンター術前検査・持参薬確認業務の運用と評価

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	5	1	1	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Utility of Blood Culture in Patients with Community-Acquired Pneumonia: A Propensity Score-Matched Analysis Based on a Japanese National Health Insurance Database／2023年2月／Biological and Pharmaceutical Bulletin／https://doi.org/10.1248/bpb.b22-00609／共著／論文

メディカルサポートセンター術前検査・持参薬確認業務の運用と評価／2022年12月／日本医療マネジメント学会雑誌／176-180／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

モデルナ製新型コロナウイルスワクチン接種後の有害事象調査／2022年6月／第70回日本化学療法学会総会

お薬手帳カバーの配布がお薬手帳持参率に与える影響／2022年9月／第55回日本薬剤師学術大会

スパイスバックスTM筋注3回目接種後の有害事象の実態とリスク因子／2022年9月／第81回九州山口薬学大会

大学生のドーピングに関する意識と知識の実態とドーピング教育の効果／2022年11月／第4回長崎県薬剤師学術大会

外来がん化学療法施行患者における体重測定日と処方変更に関する実態調査／2023年3月／日本臨床腫瘍薬学会学術大会JASPO2023

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
日本薬剤師会共同研究受託	公益社団法人日本薬剤師会	2022年4月～2026年3月	60万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学学生委員会	委員	学生生活支援に関する企画立案及び実務として学籍移動、各種奨励制度、離学防止対策検討等、審議検討した。
薬学部CAI活用委員会	委員	CAI活用に関する実務として問題の評価修正、学生質問対応等行った。
薬学部OSCE実施委員会	委員	OSCE実施に関する準備検討及び実務を行った。
薬学部学生委員会	委員長	学生生活支援に関する企画立案として、特待生制度等に係る審査、クリーンキャンパス運動、各種奨励賞該当者の選定等行った。
薬学部在宅医療福祉コンソーシアム長崎運営委員会	委員	特になし
薬学部事前学習運営委員会	委員	事前学習に関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部実務実習運営委員会	副委員長	実務実習支援として学生と実習施設のマッチング作業の確認、コロナ対策の検討、実習時の交通手段の審議等行った。また、地域薬剤師会に対するの実習説明会に参加した。
薬学部図書選定委員会	委員	特になし
薬学部生涯学習教育委員会	副委員長	2023年3月18日開催の研修会の企画立案、研修単位申請業務に携わった。当日は司会・座長を務めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加（4回）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	6

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本病院薬剤師会編集委員	委員	令和2年6月から令和4年5月まで	日本病院薬剤師会
長崎県薬事審議会	委員	令和3年5月から現在	長崎県知事
第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会総会	実行委員	令和3年6月から令和4年10月まで	第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会総会大会兆
第82回九州山口薬学大会実行委員会	実行委員学会部会総括責任者	令和4年12月から現在	第82回九州山口薬学大会実行委員会委員長
日本医療薬学会代議員	代議員	令和4年3月から令和7年3月まで	日本医療薬学会
認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップin九州	タスクフォース	第79回、第80回	薬学教育協議会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

中断されていた長崎医療センター、佐世保市総合医療センターでの本学職員研鑽制度の再開に努め地域の薬剤師との連携の強化と地域医療へ貢献し、自身も令和4年上半期、佐世保市総合医療センターでの研修に従事した。また、日本薬剤師会、長崎県薬剤師会、佐世保市相互医療センター、有限会社さわせ薬局、有限会社あい調剤薬局と共同研究を行い、地域薬剤師に対する研究指導を行った。

本学主体で行ったワクチン職域接種に主体的にかかわった。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

令和4年度長崎国際大学学長裁量経費「SDGs推進奨励制度」ESD賞受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

本年度は授業アンケートでも昨年度よりもさらに高評価を得ることが出来た。引き続き質の高い講義を行っていく。地域貢献としてコロナワクチン関連の各種業務ではこれまでの臨床経験やマネジメント経験を発揮し、業務に大きく貢献できたと考えている。研究分野では、研究室助教の研究体制基盤の構築と論文執筆に関して実績をあげ講師への昇進させることができた。佐世保市総合医療センターと、先方の職員を研究指導するだけでなく、当研究室学生が臨床データを利用した研究を実施できるような研究連携体制を確立し多くの共同研究を実施した。この成果は当薬学部の地域貢献や学生研究対象の拡充をもたらす大きな成果であると考える。また、日本薬剤師会と共同でレセプトデータベースを用いた薬剤師業務の評価を行うこととなった。これにより本学の研究成果が本邦の薬剤師の診療報酬の適正化に貢献できることとなり、疫学研究者として非常に喜ばしく感じている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 山口　拓

１．教育理念

・最新の薬理学・薬物治療学に関する情報を提供する。また、自身の専門分野である薬理学・薬物治療学のみならず疾患に対する知識（疾病学、病態生理学、病理学）、薬物に関する知識(製剤学、薬物動態学)に関する知識、基礎的な生物学的知識（生化学、生理学、解剖学など）を総合的に理解すること常に意識した講義を構築する。

・卒後の実臨床を念頭において、薬剤師国家試験に対応できる薬学的情報のみならず、病院および薬局での実務実習においても適正な医薬品使用のために十分に対応できる臨床的な基本的知識を修得することができる。

以上の教育理念に基づいて、教育および研究指導を実施する。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	②③⑧
総合演習Ⅰ	5/45(通年)	1	2	②③⑧
総合演習Ⅱ	3/23(通年)	1	97	②③⑧
卒業研究（５年)	30/30(通年)	2	3	①②③④⑥⑦⑩⑪
卒業研究（６年)	30/30(通年)	4	3	①②③④⑥⑦⑩⑪
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	②③⑧
薬物治療学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	105	①②③⑨
薬物治療学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	88	①②③⑨
薬物治療学Ⅲ	9/15(後期)	1.5	110	①②③⑨
教養セミナーA	15/15(前期)	1	6	①②③④⑤⑥⑧⑩⑪
教養セミナーB	11/15(後期)	1	5	①②③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫
薬学入門	1/15(前期)	1.5	100	②③⑨
薬理学実習	8/8(後期)	1	96	①②③④⑥⑦⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
処方設計学特論	4/15(前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

講義は薬物治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを担当し、薬物治療学Ⅲは小川由起子教授とのオムニバスとなっている。演習は薬物治療学のみならず薬理学も担当し、昨今の薬学教育新コアカリキュラムに準じた薬理学と薬物治療学の融合領域も視野に入れて講義を実施している。薬理学実習では薬剤師を題材にした漫画「アンサングシンデレラ　病院薬剤師葵みどり（荒井ママレ著）」を題材に、実際に一部のストーリーを読ませて、その中に登場する疾患（高血圧症、アナフィラキシー）や救急医療と薬剤（アドレナリン、βブロッカーおよびグルカゴン）に関わる内容について学生によるアクティブラーニングを実施した。

前年度までの経験ならびに授業アンケート結果を踏まえて、講義方法、パワーポイントおよび配布プリントなど、さらなる向上に努めたいと思う。また、例年のように可能な限りイラストや図表を多く取り入れたパワーポイントおよび配布プリントを作製し、飽きのこない教材作製に注力したつもりである。可能な限り情報収集した講義内容に関連する最新の新薬情報を積極的に紹

介した。しかし、昨年と同様にオンライン講義後の動画配信の義務による著作権の都合から、理解度を深めるための講義関連項目に関する動画による解説を取り入れることができなかった。また、単元終了後に内容確認のための問題を提示し、Manabaシステムを活用した解答情報の提供を行い、事後（自宅）学習への動機付けを促した。さらにこの方策は、事後（自宅）学習および講義内容の反復学習にも繋がっていること、また可能な限り次回の講義に使用する講義プリントを事前に配布し、そのプリントを読んでおくことや既に学習(履修)履修済みの関連項目･分野の事前学習（予習）を促したことから、学習理解や学習意欲等の向上に貢献していたと考える。また、講義内にて取り扱う各種疾患における「診断･治療ガイドライン」や重要と考えられる医薬品や新薬の添付文書についてManabaシステムを活用して提供し、薬物療法の理解を深めるとともに講義時間の効率化を図った。今

年度も成績評価の10%に相当する課題として10回の小テストを実施した。録画した講講義動画を配信する義務があったが、結果として全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供することができ、復習としての事後（自宅）学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えている。

一方で、本講義に関わる学生に伝えなければならない情報量が年々肥大化していることに苦慮している部分がある。学生に今後の実務実習で必要な情報を身につけさせること、将来の薬剤師国家試験受験を見据えて見落としが無きよう新規情報を含めた本講義内容について伝えねばならないことを考慮すると、年々増加する一方の講義内容を取捨選択することは非常に困難で、講義時間も切迫している実状がある（講義時間が足りない）。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・幼若期ストレスによる成長後の抑うつ様行動に関する神経行動薬理学的研
・注意欠如･多動性障害の発症機序の解明とADHD治療薬の作用機序に関する神経行動薬理学的研
・覚醒剤依存症における退薬症状の発症機序に関する神経行動薬理学研究
・大麻の薬理作用ならびに脳内カンナビノイドの病態生理学的役割に関する研究
・抗不安薬および抗うつ薬の候補物質探索に関する神経行動薬理学研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	3	0	8	2	2	4654万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

新しい疾患薬理学・改訂第2版（岩﨑克典、徳山尚吾 編集）／共著・編著／2022年12月／南江堂／ページ数: 656

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

談話室：漫画と薬理学実習／2022年4月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.58.4_370_1／単著／コラム

治療抵抗性うつ病における幻覚誘発物質シロシビンの改善効果／2022年7月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.58.7_665／単著／コラム

化合物仮想ライブラリーとタンパク質構造モデルを組み合わせた新薬候補の検索／2022年12月／ファルマシア／https://doi.org/10.14894/faruawpsj.58.12_1103／単著／コラム

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

拘束ストレスによる不安様行動と脳内カンナビノイドの量的変化／2022年8月／生体機能と創薬シンポジウム2022

メタンフェタミン反復投与後の退薬時に発現する行動異常とエンドカンナビノイドの脳内変化／2022年10月／第75回 日本薬理学会西南部会

内因性カンナビノイド分解酵素阻害薬による拘束ストレス後の不安様行動に対する抗不安作用／2022年11月／BPCNPNPPP4学会合同年会（第44回日本生物学的精神医学会年会、第32回日本臨床精神神経薬理学会年会、第52回日本神経精神薬理学会年会および第6回日本精神薬学会総会学術集会・合同年会

拘束ストレス負荷によるマウスの不安様行動とエンドカンナビノイド分解酵素阻害薬の効果／2022年11月／第39回日本薬学会九州･山口支部大会

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける自閉スペクトラム症モデル動物としての妥当性／2022年11月／第39回日本薬学会九州･山口支部大会

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける血清オキシトシンの低値と自閉スペクトラム症様行動の発現／2022年12月／第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会 合同年会

拘束ストレス負荷マウスにおける不安様行動に対する内因性カンナビノイド分解酵素阻害薬の抗不安作用／2022年12月／第96回日本薬理学会年会 / 第43回日本臨床薬理学会学術総会 合同年会

拘束ストレス誘発不安様行動の発現における脳内カンナビノイドの量的低下／2023年3月／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金基盤研究(C)，（代表）幼若期ストレスによる精神機能発達障害と養育行動の機序解明からの薬物治療戦略	日本学術振興会	2019年度～2022年度	403万円
科学研究費補助金基盤研究(A)，（分担）ゲーム依存の社会浸透を防げるか？統合的科学評価と早期依存対策に向けた基盤研究	日本学術振興会	2021年度～2024年度	4251万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	委員長	本学の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した
動物室管理担当者（薬学科）	管理担当責任者	本学・薬学部の動物実験および実験動物室の管理・運営の円滑な遂行に貢献した。
研究等倫理委員会（薬学科）	委員	薬学部における研究申請業務等の円滑な遂行に貢献した。
図書選定委員会（薬学科）	委員	本学の薬学系における有用な図書を選定し、最新の医療系情報提供に貢献した。
共同機器管理委員会（薬学科）	委員	薬学部における共同実験機器の運用および機器購入に関わる円滑な遂行に貢献した。
学生実習委員会（薬学科）	委員	薬学部における学内学生実習の実施計画および運用に関わる円滑な遂行に貢献した。
教務委員会（薬学科）	委員	2022年度薬禹学部薬学科1年生の学年主任に関わる業務に貢献した。
2022年度薬禹学部薬学科1年生・学年主任	学年主任（代表）	2022年度薬禹学部薬学科1年生の学力向上を中心とした教務に関わる業務に貢献した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学・看護学連合コンソーシアム運営委員会	運営委員	活動期間：2011.4～現在

(3) 課外活動の指導等

・実務実習（病院・薬局）

・教養セミナーにおける早期体験学習の引率（長崎県環境保健研究センター）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

・オープンキャンパス参加、特に学生との交流

・オープンキャンパスにおける体験学習

体験講義【第２回オープンキャンパス】

ドラマで薬学「アドレナリンが効かなかったワケ」

～アンサング・シンデレラ 病院薬剤師の処方箋」から～

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外

2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	欠席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	13

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等	外部委員	2021年～現在	長崎川棚神医療センター
薬剤師国家試験委員会	委員	2022年～現在	厚生労働省
日本薬理学会学術評議員会	学術評議員	2004年～現在	日本薬理学会
日本薬理学会代議員会	代議員	2022年～現在	日本薬理学会
神経行動薬理若手研究者の集い世話人会	世話人・顧問	2012年～現在	神経行動薬理若手研究者の集い
日本アルコール・アディクション医学会評議員会	評議員	2012年～現在	日本アルコール・アディクション医学会
日本神経精神薬理学会評議員会	評議員	2012年～現在	日本神経精神薬理学会
日本薬学会ファルマシア委員会	ファルマシア委員	2021年～現在	日本薬学会
薬理学関連教科担当教員会議	委員	2017年～現在	薬学教育協議会
病態・薬物治教科担当教員会議	委員	2022年～現在	薬学教育協議会
日本薬学会薬理系薬学部会・常任世話人会	常任世話人	2022年～現在	日本薬学会薬理系薬学部会
日本薬理学会企画教育委員会	常任委員	2022年～現在	日本薬理学会
日本薬理学会賞等選考委員会	常任委員	2022年～現在	日本薬理学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等において
外部委員として治験薬などの治験審査、倫理審査を担当した。
・厚生労働省（医薬・生活衛生局）から移植された第108回薬剤師国家試験委員会
の委員として第108回薬剤師国家試験の問題を作問した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究面においては、科研費採択継続中の研究課題を遂行し、参加↓全ての学会で現地開催の対面による学術発表となり、一般発表を実施することができた。今後、これまで継続している研究課題および科研費採択継続中の研究課題を勢力的に遂行すること、研究成果の論文執筆に注力したいと考えている。また、昨年度からの長崎大学病院精神科、長崎大学大学院歯学研究科歯科薬理学および長崎大学病院薬剤部（分担研究者として採択継続中の科研費研究課題）との共同研究は現在も継続中である。しかし、学内運営業務および講義・演習の準備に費やす時間が大半を占め、さらに講義等においてはオンライン講義のための準備やフォローアップに非常に時間を要したため、研究面に費やす時間を適切にとれていないことが課題として残っている。分担協力者として参画している厚生科研課題の「大麻・マリファナに関する調査研究」では、年次報告書ならびに課題総括報告書を作成した。この厚生科研課題は、次年度以降も継続される予定である。学会活動として、評議員、代議員ならびに常任委員に就任している学術学会での学術発表、学会優秀賞の審査、およびそれぞれの学会運営の評議員会・代議員会、常設委員会に参画した。今後も学会活動および研究活動は、それぞれ連動して精力的に進めていきたいと思う。

大学運営面においては、特に全学動物実験委員会委員長および薬学部動物室管理担当責任者として、本学の研究活動申請業務等における円滑な審査体制と動物実験施設運営の改善に貢献した。また、今年度から2022年度1年生の学年主任（代表）として薬学部教務委員会において活動し、薬学部1年生の学力向上のために期末定期試験前の学習準備や学生生活に対する注意喚起（ホームルーム）、成績不振者への面談等を実施した。

教育面においては、担当専門科目の授業方法として講義プリントを事前に必ず配布して予習を促し、Manabaによる追加情報を提供したことは、講義中の学生の反応も良く、学生の理解度を向上させることができたと考えている。今年度も成績評価の10%に相当する課題として5回の小テストを実施した。この小テストは、定期試験の結果から本講義の予習復習に貢献していると考えられる。また、全ての講義について録画した講義動画を見逃し配信として学生に提供することができ、復習としての事後学習および講義内容の反復学習に寄与できたと考えられるので、次年度以降も見逃し配信の情報提供スタイルは継続したい。さらに、本年度での講義の単元毎のボリュームや進行度、学生アンケートでの結果を真摯に受け止め、次年度では講義の質的向上に向けて研鑽したいと思う。一昨年から取得している(公社)日本薬理学会が認定する「薬理学エデュケーター」の資格継続のためのポイント取得も完了した。この「薬理学エデュケーター」の資格は、研究面および教育面に活かしていきたいと考えている。

社会貢献では、本年度は第108回薬剤師国家試験委員として薬剤師国家試験の作問に参画した。今年度も継続中の日本薬学会学術誌編集委員（ファルマシア委員）として日本薬学会機関誌「ファルマシア」の編纂に貢献した。また、国立病院機構長崎川棚神医療センター治験審査委員会等においても外部評価委員として治験薬などの治験審査、倫理審査を担当した。これらの本件においては地域貢献の一環として積極的に参画したいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 山口　泰史

1．教育理念

本学の学生に以下の問いかけを行う。「医療の現場で、医師、看護師、その他のスタッフと差別化できる薬剤師の知識・能力はなんですか？」

私が期待する答えは、「化学に裏打ちされた知識とそれを使いこなす能力」である。流行りの医療コミュニケーションや医療系の科目も大事だろうが、それらは医師や看護師の専門領域である。しかし、化学は違う。薬剤師の主たる領域である。自らの専門を理解することなく、薬剤師として活躍できるだろうか。化学の知識なくして、医療の現場でほかの職種の方から尊敬（respect）は得られるだろうか。したがって、有機化学は、今も昔も薬学の根幹をなす学問である。

英語には、薬剤師を意味する言葉が二つある。ひとつはPharmacist、もうひとつは「Chemist」である。学生を医療の現場に薬剤師として送り出すために、有機化学教育は必要不可欠である。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
薬化学総論	15/15(前期)	1.5	3	②⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
有機薬化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	3	②⑨
有機薬化学演習	15/15(後期)	0.5	6	②⑨
有機薬化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	100	②⑨
創薬化学	7/15(前期)	1.5	99	②
有機薬化学演習	15/15(後期)	0.5	90	②⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
薬化学総論	15/15(前期)	1.5	103	②⑨
有機薬化学実習	21/21(後期)	1	112	①②④

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

【総評】

- 前期2科目（薬化学総論）と後期1科目（有機薬化学Ⅰ）のアンケートを実施した。
- 授業に対する満足度の評価結果は、上記すべての科目で、5点満点中、4.5と4.3点であった。
- 上記結果は、平均点以上であり、学生からは、それなりの評価を得られた、と理解している。
- その他の項目も、4.4-4.7位であり、おおむね良好であった。

【具体的な事例】
・　授業のはじめに、前回の重要点と今日のKeywordを示し、終わりに再確認した。
・　学生がぼんやり眺めるパワーポイントをいっさい使用せず、学生の理解を確かめながら（低学年の学生に有効と判明している）板書のみで授業を行った。
・　90分授業の途中に、1ー2分の休憩を挟んだ。（授業後半に対する集中力が増した）
・　厳格に出席をとることで、欠席者を若干減らした。
・　MIT化学科で推奨されている勉強方法を昨年に引き続き推奨した。
・　有機化学に対するMotivationを考慮し、医薬品との関連事例を各章で示した。
・　科学史上重要な発見が行われた欧米の有名大学の話をした。

【問題点】
・　アンケートの点だけを見ると、問題ないように思うが、成績とアンケートの評点に乖離があるように思う。
・　薬学部に課せられたSBOを考慮すると、有機化学の内容・範囲と授業のスピードをこれ以上遅くすることはできない。
・　前期後期合わせて20コマ以上の補習授業を行った。学習支援としては、ある程度役に立ったようだが、学生の自立を促していない。２年次以降、学生の自発的な学習態度に期待している。
・　1年次を終わった段階で、6割以上の学生がA以上の成績である。基礎を理解している学生は、応用分野にも対応できるようになっている。
・　しかし、一方で、有機化学の基礎を全く理解していない学生もいる。
・　1年次の学習態度・習慣が、有機化学のみならず、全ての科目の理解度を決定する、と言われている。この問題に対して、学部で取り組んでいるが、万能の解決策は見つからない。一人でも多くの学生を薬剤師へと、育てていくのみである。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科	創薬プロセス特論2	1/8(後期)	1	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ｉ４年生補習	9	96	前期
有機化学前期補習	13	35	木曜日３時間目
有機化学後期補習	11	37	火曜日５時間目

３．研究活動

(1) 研究テーマ
・　アデノシン三リン酸（ATP）をキーワード とする医薬品化学および生物有機化学
・　抗感染症薬を目指す創薬研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	2	2	60万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
イノシシ誘引剤の研究	佐世保市	令和4年締結日から令和5年3月31日まで	60万円

新しい作用機序をもつ抗ウイルス剤創製への基本戦略　科学研究費　挑戦的研究（開拓）	日本学術振興会	令和5(2023)年度	0万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
利益相反マネジメント委員会	委員	利益相反に関する申請を審議した。
薬学部図書選定委員会	委員	購入図書の推薦。
実習（学内）委員会	委員	学内の学生実習における予算等のコーディネータ等。
日本薬学会九州山口支部大会準備委員会	委員長	2022年11月19・20日に本学で実施した「日本薬学会九州山口支部大会」の準備等を行った。
薬学研究科・大講座医療基盤薬学	講座責任者	・　出講科目の日程と担当者の管理

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第107回薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会	委員	・　本学の物理・化学・生物の分野のアンケート結果を集計した。 ・　遠隔（Zoom）で行われた会議に本学代表として参加した。（2022年5月7日）
第17回有機化学系教科検討委員会	委員	・　アンケートの集計を行い、今年度の委員長へ提出した。 ・　遠隔（Zoom）で行われた会議に本学代表として参加した。（2022年11月12日）

(3) 課外活動の指導等

・　実務実習（5年生）における事前訪問・中期訪問を行い、と実習を円滑に行うため、受け入れ施設情報交換および個人面談を行った。

（訪問先：　3月30日佐世保市総合医療センター、3月30日かわかみ薬局・佐世保市、4月8日アルナ薬局、5月31日佐世保市総合医療センター、6月24日かわかみ薬局、6月27日アルナ薬局、8月12日嬉野医療センター、10月31日嬉野医療センター）

・　フレッシュマンセミナー（1年生）の引率を行った。（見学先：ハウステンボス4月16日）

・　共用試験OSCEで評価を担当した。無菌調剤（12月18日）

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

募集活動：

7月、8月に実施された3回のオープンキャンパスにおいて、高校生とその保護者と会話を行った。

薬学部受験案内のリーフレットの新しい配布先を開拓した。（長崎県歯科医師会会員800名、長崎県及び佐賀県の予備校等）

就職活動：

6年生の学生に対し、企業病院における医薬品開発業務等について、説明を行った。（

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外

2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	4

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
CBT問題管理委員会	一般委員	2022年度	特定非営利活動法人　薬学共用試験センター
日本薬学会教習山口支部	支部長	2022年度	公益社団法人　日本薬学会
令和４年度長崎県科学技術賞選考委員会	委員	令和４年度	長崎県　産業労働部　新産業創造課
2022年度日本薬学会九州山口支部学術奨励賞選考委員会	選考委員長	2022年度	公益社団法人　日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育と研究が本職における最重要項目である。今年度は、新型コロナウイルスから以前の状況への移行期間として、遠隔授業から対面授業へが課題であった。この難しい状況下、教育の量と質どちらも、一定以上の成果を出せた、と思う。量については単位数に単位取得者数をかけて求めた数字の和が示す。また質については、学生アンケート等の数字である。量と質のどちらの視点からも一定以上の貢献ができた。1年生の有機化学関連科目3科目、および6年次の創薬化学等を担当した。全学生の学力をある一定レベルまで引き上げることを目標に、小テスト実施を含め努力した。1年生の学力不足の学生のため、前期13回と後期11回の補習授業を行った。また、今年度も正規授業科目である総合演習とその補習で、4年生、5年生および6年生の化学「演習」を担当した。本学大学院の講義を15回中1回担当した。学外の教育活動として、長崎大学大学院　医歯薬研究科において、「創薬プロセス特論」を1回担当した。（継続の依頼を受けて、講義を行った。）
研究活動も継続中である。成果発表できるよう、結果をまとめる。

第107回薬剤師国家試験問題検討委員会（物理・化学・生物分野）のアンケート結果と最終文章をまとめた。コロナウイルスのため、5月7日に遠隔で会議が行われ、本学代表として参加した。また、薬学教育協議会主催・第17回有機化学系教科担当教員会議のアンケート回答をまとめた。また、その遠隔会議（11月12日）に、本学代表として、参加した。その他、6年制薬学における実務実習担当教員（2名）として、毎週実習記録に目を通し、コメントを書いた。また、実習先訪問および電話での事情聴取を行った。更に、5年生および6年生に対して、卒業研究の指導を行った。

利益相反マネジメント委員会委員として、利益相反に関する申請を審議した。薬学部では、日本薬学会九州山口支部大会準備委員会の委員長として、支部大会に備えた。大学院教育では、大講座医療基盤薬学の責任者として、貢献した。オープンキャンパスへの貢献、薬学部リーフレットの新規配布先の開拓等、広報募集活動にも参加した。

学会および社会活動では、昨年度に引き続き「薬学共用試験センター　2020年度CBT問題管理委員会」の委員を拝命した。問題の精査、編集等の業務で貢献した。（このため、4年生への補習授業を減らした）また、日本薬学会九州山口支部支部長に就任し、3回の支部幹事会の開催、支部学術奨励賞の選考委員長を務め、および日本薬学会九州山口支部大会（11月19日・20日）を成功裏に開催した。加えて、令和4年度長崎県科学技術賞選考委員を拝命し、受賞者の選考を行った。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 教授　　氏名 淀　光昭

1．教育理念

物理系・化学系・生物系の基礎的専門知識を土台にして、衛生系・医療系・臨床系の薬学専門知識の確実な修得を図り、薬剤師国家試験に合格できる力を養成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
構造解析学	8/15(前期)	1.5	1	①②③④⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
放射線化学	6/15(後期)	1.5	1	①②③④⑨
医薬品化学Ⅱ	12/15(後期)	1.5	54	①②③⑨
構造解析学	8/15(前期)	1.5	90	①②③④⑨
創薬化学	6/15(前期)	1.5	99	②
放射線化学	6/15(後期)	1.5	97	①②③④⑨
有機薬化学実習	21/21(後期)	1	112	①②④
分析化学・放射線化学実習	14/27(前期)	1	114	①②③④⑤⑩
医薬品化学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	87	①②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

医薬品化学Ⅰ（前期）：授業アンケートの評価結果（Q1～Q13の平均評価）はR03年度4.27からR04年度4.35と全体的に評価ポイントは向上した。昨年度と同様、各授業の前半・後半の最後にmanaba小テストを実施し、授業動画をYouTubeで限定公開したが、今年度は配布資料を1ページ2スライドに変更し、大きく見やすい資料になったことが評価向上に寄与したと考える。

医薬品化学Ⅱ（後期）：授業アンケートの評価結果（Q1～Q13の平均評価）はR03年度4.29からR04年度4.34と全体的に評価ポイントは向上した。医薬品化学Ⅰの授業と同様、小テストの実施、配布資料の改善を行ったが、授業内容に関連する国試過去問を講義資料に取り入れて、薬剤師国家試験に向けた意識付けを行ったことも効果的だったと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢB補習	1	100	2022/10/21
総合演習Ⅱ補習	1	97	2022/12/06
総合演習Ⅰ補習	5	110	4/18，4/27，5/16，6/6，7/5

３．研究活動

(1) 研究テーマ

病気の早期診断や創薬研究に役立つ放射性分子プローブの開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	薬学科の教務委員として、定例・臨時の教務委員会参加、編入学者の修得単位読替え、定期試験監督者割り振りなどを行った。
就職委員会	委員長	就職委員会を開催し、キャリアセンターと連携して学生の就職・進学に係る企画立案などに関する事項を審議した。
放射線障害予防委員会	委員長	委員会会議を開催（6/21，12/19）し、放射線管理状況報告書の提出と、放射線業務従事者の被ばく状況と健康診断結果の確認を行った。
地域連携センター	アドバイザー	地域連携センター会議に出席し、アドバイザーとして同センターの運営と活動に助言を行った。
薬学部教務委員会	委員長	薬学科の時間割・履修の手引・シラバス冊子体の編成、編入学志願者の受験資格判定（単位読替え）、オープンキャンパス保護者懇談会での教育体制の説明、教務部長会への参加などを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：担当した全ての講義科目の各授業において、途中と最後にmanaba小テストを2回実施し、確認問題を提供したことは、履修者に復習を促すうえで効果的であったと思われる。配布資料を1ページ2スライドに変更し、大きく見やすい資料になったこ

ともあってか、授業アンケートでは理解度・満足度が向上した。
研究活動：教務委員長業務、講義・演習の準備、各種作問に時間を取られ、研究活動に殆ど時間が割けず、研究面での成果が出せなかった。
委員会活動：薬学部教務委員長として、定期試験成績管理、薬学科時間割・履修の手引・シラバス冊子体の編成、定期試験成績管理、編入学志願者の受験資格判定（単位読替え）などを行い、薬学部の教務活動に貢献した。
その他：本学における新型コロナウイルスワクチンの職域接種において、薬剤師免許を有する教員としてワクチン調製と解熱鎮痛剤の投薬を担当し、円滑な接種実施に貢献した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 宇都　拓洋

1．教育理念

薬の専門家としての専門的知識、特に生薬や漢方薬の科学的エビデンスおよび研究・情報収集する技能の備わった人材を育成する。
薬の専門家もしくは研究者としてのコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を備わった人材を育成する。
地域貢献を目標とし、習得した知識や技能を地域社会に還元できる人材を育成する。
異文化を理解し、国際社会に貢献できる人材の育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数(開講時期等)	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑫
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑫
和漢薬概論	15/15(前期)	1.5	92	①②⑩
生薬学Ⅰ	15/15(前期)	1.5	119	①②⑩
生薬学Ⅱ	12/15(後期)	1.5	99	①②⑩
生薬学実習	19/19(後期)	1	113	①②③④⑩

[大学院]

科目名	コマ数(開講時期等)	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

通常の対面授業に復帰し、おおむね学生は満足したと思われる。今年度も、予習・復習を実施しやすいように工夫した。授業アンケートはアンケートを実施したすべての科目において満足度は学内平均を上回る。その他の質問項目もほとんどが平均値以上である。自由コメント欄もポジティブコメントがほとんどであった。各種演習は、過去の国家試験を分析したデータを公開し、得点力アップに直結するような内容にした結果、模擬試験等では生薬分野は全国平均より高い得点率である。ここ数年、下位の学生の学力低下が目立つ。これらの学生の学習効果が高まるように今後工夫に取り組みたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数(開講時期等)	単位数等	単位授与学生数
早稲田大学人間科学研究科	食薬融合研究からの新しいヘルスケアサイエンス	3/7(夏期集中)	1	15

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	91	2022/05/06

３．研究活動

(1) 研究テーマ

① 天然由来白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進物質の探索と作用機序解析

尋常性白斑は、治療抵抗性かつ再発頻度も高い難治療性の色素異常症で、特に露出部位に生じた場合、患者のQOLを著しく低下させる。本研究は我々が見出したメラニン合成促進化合物およびエキスをパイロットサンプルとして、薬用植物エキスおよび天然化合物ライブラリーのスクリーニングにより白斑改善効果が期待できる活性成分を同定し、皮膚モデル・モデル動物を用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解析や標的分子同定を行い、白斑治療薬創出および治療標的分子発見に貢献することを目指す。

② オートファジー制御能を有する天然化合物の探索とその作用機序解明

我々は、国内外で用いられている伝統医薬からオートファジー制御能を持つ天然物を同定し、その作用機序解析を目的として研究を行っている。これまで数種の生薬エキスががん細胞においてオートファジーを制御することを見出し、活性本体の単離同定および作用機序解析を行ってきた。現在、メラノサイトやケラチノサイトなどの皮膚細胞において、生薬エキスライブラリーのスクリーニングからオートファジー制御能を持つ天然物の探索研究を行っている。

③ 薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究

薬用植物は、漢方薬や医薬品の原料として用いられているが、近年の世界的な健康志向の高まりから、その需要が増大している。限られた薬用植物資源の有効活用が強く求められているが、これを解決するための１つの取り組みとして、これまで薬用として利用されなかった部位（非薬用部位）の有効利用が注目されている。我々はこれまでサイコ地上部からがん細胞増殖抑制成分の単離同定を行い、またトウキ地上部が根と同様に強い抗炎症作用があることを見出した。そこで本研究は、薬用植物の非薬用部位の網羅的な成分解析と活性評価により有用な非薬用部位の更なる発掘を行い、非薬用部位の有効利用を活性化および推進するための科学的エビデンス提供を目指す。現在、ジオウの地上部に種々の活性を見出しており、成分解析を行っている。

④ 生薬成分に対するモノクローナル抗体を機軸とした分析法の開発と応用

我々はこれまで生薬成分に特異的に結合するモノクローナル抗体を数多く作製し、これらのモノクローナル抗体をツールとしたユニークな分析法や応用・活用法を開発し世界に発信してきた。本年度はカンゾウのグリチルリチンとリクイリチゲニンに対するモノクローナル抗体を用いたダブルイースタンブロッテイングに成功した。カンゾウには500種以上の成分が含まれるが、その中から2成分のみを色分けして検出出来るのは本法のみで画期的な手法と言える。

⑤ 出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた生薬エキス成分の真の作用機序と標的分子解明

生薬エキスは多種多様な成分からなる多成分系薬物であり、生薬エキスとしての薬理作用と、個々の含有成分の作用機序や成分間の相乗効果との因果関係は解明されていない部分が多い。我々は、ケミカルジェネティクス的手法により約4000株の遺伝子破壊出芽酵母株を用いてカンゾウエキス高感受性株の網羅的解析を行ったところ、カンゾウエキスは既知の薬剤とは違う経路を標的としていること、さらに制御する遺伝子の機能は多岐にわたり、特異的な細胞内局在はないことを明らかにした。本研究では、他の生薬エキスでも感受性株の変動パターンを解析し比較することで、エキス中に混合物として存在する条件において、個々の生薬成分が標的分子群にどのように作用するのかを明確にする。さらに、エキス高感受性株の解析により、混合物条件下での生薬成分の真の標的分子および成分間の相乗効果の解明を行い、生薬・漢方製剤の新たな科学的エビデンス提供に貢献することを目指す。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	12	6	3	3	2320万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

Advances in Health and Disease. Volume 63／共著・編著／2023年1月12日／Nova Science Publishers, Inc.／ISBN: 979-8-88697-544-4

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

(+)-Magnolin enhances melanogenesis in melanoma cells and three-dimensional human skin equivalent; Involvement of PKA- and p38 MAPK-signaling pathways.／2022年8月／Planta Medica／88(13):1199-1208. 2022.／共著／論文

In vitro fertilization using sperm activated by ML-2-3 isolated from Morinda lucida Bentham leaves.／2022年4月／Reproductive Medicine and Biology／21(1):e12455. doi: 10.1002/rmb2.12455. 2022.／共著／論文

Bioassay-guided fractionation of clove buds extract identifies eugenol as potent melanogenic inducer in melanoma cells.／2022年9月／Journal of Oleo Science／71(9): 1403-1412. 2022.／共著／論文

Hirsutanone isolated from the bark of Alnus japonica attenuates melanogenesis via dual inhibition of tyrosinase activity and expression of melanogenic proteins.／2022年11月／Plants (Basel)／11(14):1875. 2022.／共著／論文

Development of highly sensitive chemiluminescence enzyme immunostaining assay to determine glycyrrhizin content using anti-glycyrrhizin monoclonal antibody.／2022年10月／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／70(10): 694-698. 2022.／共著／論文

Development of an indirect competitive enzyme-linked immunosorbent assay for formononetin and its application in a cell-based assay using MC3T3-E1 cells.／2022年9月／Food Chemistry／403:134339. doi: 10.1016/j.foodchem.2022. 2023.／共著／論文

Angiotensin I-converting enzyme-inhibitory activity and phytochemical profile of constituents of the leaves of Rehmannia glutinosa forma hueichingensis.／ahead of print／Chemical and Pharmaceutical Bulletin／in press, 2023.／共著／論文

Iridoids from Morinda lucida, (Benth.) Rubiaceae, produced analgesic and anti-inflammatory activities via agonism at the kappa and delta opioid receptors, inhibition of COX-2 besides elevation of CAT and SOD activities.／ahead of print／Journal of Ethnopharmacology／doi: 10.1016/j.jep.2023. in press／共著／論文

Saffron (Crocus sativus L.) as a valuable spice and food product: A narrative review.／2022年5月／Longhua Chinese Medicine／doi: 10.21037/lcm-22-1. 2022.／共著／総説

Cognitive functions of saffron and its major constituent crocin, a narrative review.／2022年5月／Longhua Chinese Medicine／doi: 10.21037/lcm-22-5. 2022.／共著／総説

The effect of crocin on neuroprotective activity in vitro: a narrative review.／2022年5月／Longhua Chinese Medicine／doi: org/10.21037/lcm-22-4. 2022.／共著／総説

Bioassay-Guided Fractionation and Identification of Active Anti-inflammatory Constituents from Flower Extract of Jasminum sambac／ahead of print／長崎国際大学論叢／in press, 2023.／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

スペルミンとスペルミジンバランスによるオートファジー制御機構の解析と機能性食品の開発／2022年6月／第76回 日本栄養・食糧学会大会（神戸）

甘草の育種研究に向けた抗グリチルリチン小型化抗体（GC-scFV）遺伝子の特徴付け／2022年9月／日本生薬学会第68回年会（松山）

アルクチゲニンおよびアルクチインに対するモノクローナル抗体を用いた間接競合ELISAの確立／2023年3月／日本薬学会第143年会（札幌）

シャルコー・マリー・トゥース病治療薬を志向したベルベリン類縁化合物の構造活性相関研究／2023年3月／日本薬学会第143年会（札幌）

ジオウ葉中のACE阻害作用を中心とした活性成分の探索研究／2023年3月／日本薬学会第143年会（札幌）

クズ葉エキスのメラニン合成促進作用とそのメカニズムについて／2023年3月／日本薬学会第143年会（札幌）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
出芽酵母ケミカルジェネティクスを用いた生薬エキス成分の真の作用機序と標的分子解明	科学研究費助成事業・文部科学省	2019年4月1日～2023年3月31日	442万円
天然医薬資源を基盤とした希少難病の革新的治療法の開発	科学研究費助成事業・文部科学省	2020年4月1日～2024年3月31日	1768万円
共同研究	一丸ファルコス株式会社	2019年4月1日～2023年3月31日	110万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学ハラスメント委員会	副委員長	委員長、委員、事務局と連携して7回の委員会会議および案件対応を行った。
薬学部国試・CBT対策委員会	副委員長	副委員長として、国家試験およびCBTの合格率向上のために活動を行った。
薬学部薬用植物園運営委員会	園長	附属薬用植物園の管理運営を行った。
CBT実施委員会	委員	CBTの実施に・運営を他の委員と連携して行った。
図書選定委員会	委員	図書の選定を実施した。
日本薬学会九州山口支部会縦鼻委員会	委員	支部大会の準備・実施を主として行った。
入試作問	委員	入試問題作問を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

① ラグビーサークル／顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

① 夢ナビライブWeb WEEK（インターネット配信）講義ライブ・質問対応・研究室訪問／2022年10月15日

② 「教育人会議2023年号」での「10名の大学教授に聞くオンライン教育の可能性・夢ナビ講義 研究室訪問 大学教授インタビュー」掲載／2023年3月1日

③ テレビ佐世保「宿題お助け隊～薬になる植物～」／2022年8月1日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	10

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会九州山口支部	庶務幹事	2022年2月～現在	日本薬学会九州山口支部
日本薬学会	代議員	2021年4月～現在	日本薬学会
日本生薬学会関西支部	委員	2018年4月～現在	日本生薬学会関西支部
日本フードファクター学会（JSoFF）	評議員	2016年12月～現在	日本フードファクター学会（JSoFF）
日本生薬学会	代議員	2016年4月～現在	日本生薬学会
Journal of Natural Medicines（JONM）	Editorial Board Member	2021年4月～現在	日本生薬学会
生薬学雑誌	編集委員	2021年4月～現在	日本生薬学会
Biological and Pharmaceutical Bulletin（BPB）	Editorial Board Member	2021年4月～現在	日本薬学会
Chemical and Pharmaceutical Bulletin（CPB）	Editorial Board Member	2021年4月～現在	日本薬学会
薬学雑誌（YAKUGAKU ZASSHI）	編集委員	2021年4月～現在	日本薬学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

① 2022年7月29日／「夏休みおもしろ科学教室」自由研究テーマ探し・相談会／市内小中学生対象に実施

② 2022年8月1日／テレビ佐世保「宿題お助け隊～薬になる植物～」／小学生向けに自由研究のテーマを説明

③ 2022年8月18日／「夏休みおもしろ科学教室」植物を顕微鏡で観察して標本を作ろう！／市内小中学生対象に実施
④ 2022年8月18日／「夏休みおもしろ科学教室」薬草を組み合わせて漢方薬を作ろう！／市内小中学生対象に実施
⑤ 2022年8月19日／「夏休みおもしろ科学教室」薬草の成分を取り出してみよう／市内小中学生対象に実施

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

≪特許出願≫
① メラニン産生促進剤およびその製造方法／橋本雅和，小島弘之，宇都拓洋，太田智絵／一丸ファルコス株式会社，長崎国際大学／2023年2月21日／出願番号：特願2023-025264
≪特許売却≫
上記①の特許を30万円にて売却／2023年3月20日
≪学長裁量経費採択≫
① 地域研究及び地域社会活動「薬草を軸とした地域に根ざした学び場づくり」（代表者）
② 教育改革「国試本番を意識した模擬試験実施への取り組み」（分担者）

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

【教育】近年の学生の能力に合わせて、学生が自発的に振り返りや予習が出来る講義形式を目指した。学習効果は高く、学生アンケートの満足度のスコアも高い。
【研究】原著論文8報、総説3報で、ある程度の成果はあったが、これを継続できるように努力するべきである。研究全体としては、コロナによる影響もあり計画に遅れが生じている。
【大学運営等】昨年同様、高校生へ遠隔での講義や質問対応を行ったが、高校生の反応・アンケート結果も良かった。今後も高校生が薬学の学びに興味を持つように活動を続けたい。委員会活動は円滑な業務遂行を厳守した。
【全体】教育面は、例年と同等もしくはそれ以上の質を維持できたと思う。研究面は、前半は論文執筆に集中することができたが、後半は日本薬学会九州山口支部大会の運営やその他の業務に多く時間と労力を費やすこととなり、体力的に厳しく、研究を一時中断する状態であった。研究室所属学生や共同研究者にも迷惑をかけた場面が多々あり猛省している。これらを挽回するために、来年度は自己管理を徹底し、研究と教育をバランスよく出来るようにしたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 太田　一寿

1．教育理念

本学の建学の理念である「人間尊重」を念頭に教育活動を行うが、特に以下の4点を重視する。

・コミュニケーション能力、特にネットワーク形成・維持能力を備えた人材の育成
・社会に通用する能力、ありていに言えば「資格」、「稼ぐ力」を身に付けた人材の育成
・自尊心、愛校心に富んだ卒業生の輩出
・地域が本当に必要とする人材、地域行政に関わる人材の輩出

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	⑪
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	⑪
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	⑪
疾病学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	2	⑥
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	93	なし
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	なし
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	なし
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	⑥
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	⑥
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	⑪
在宅医療概論	1/15(前期)	2	264	⑩
疾病学Ⅱ	15/15(前期)	1.5	89	⑥
医療生命倫理	8/15(後期)	1.5	101	⑤⑦⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	⑤⑦
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	⑤⑥⑦
臨床生理学演習	15/15(前期)	1	49	④⑨⑪
臨床生理学実習	7/7(後期)	1	95	②④⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床病態検査学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

担当専門科目「疾病学Ⅱ」「臨床生理学演習A」に関しては平均的な評価をいただいた。医療生命倫理」においては携帯電話を用いた双方向講義を展開し、生徒の反応は良好であった。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱの補講	1	97	2022/11/29
総合演習Ⅰの補講	3	95	2022/04/26他

３．研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母などのモデル微生物を用いた病態モデルシステム、新規生命現象観測システムの構築

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
IR研究会	構成員	特になし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席

2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
国際生物学オリンピック日本委員会	委員	2022年4月1日より	国際生物学オリンピック日本委員会
長崎県高等学校総合文化祭	評価委員	2022年10月30日	長崎高等学校文化連盟

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究活動と学内委員会活動に注力した1年であった。来年度は視野を外に向け、社会活動にも参加したい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 神谷　誠太郎

１．教育理念

社会に貢献する薬剤師を指導し育て、輩出することこと。
研究をすることで思考力を磨き研究マインドを持つ薬剤師の輩出に心がける。
自信の研究を通して、社会の発展に貢献する。
教科書を教えるだけでなく、教科書の内容の発展にも貢献できる成果をあげる。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	3/15(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	3/15(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	2/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	3/30(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	3/30(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/15(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/30(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	2/15(後期)	2	71	①⑨
製剤学	15/15(後期)	1.5	3	③⑨
薬物動態学	8/15(前期)	1.5	1	①⑧⑨
薬物動態学	8/15(前期)	1.5	109	①⑧⑨
製剤学	15/15(後期)	1.5	97	③⑨
統計学	15/15(前期)	2	76	④⑨⑩
薬剤学実習	8/8(後期)	1	95	③⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	2/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

薬物動態４．４、統計学は４．４であった。製剤学は４．１であった。薬物動態は３．７から劇的に改善した。ただこれは前回も説明したが、薬物動態学（４年前期）の前の製剤学（３年後期）の授業がコロナ禍で動画で行っていた。その動画の画質が悪く、全く文字が見えないとのクレームを受けてしまった。その学年の学生からの評価なので低くなったと考えられる。今回は通常通り対面で行ったため、評価が戻ったと考えられた。統計学は今回は４，４と０．２ポイント評価を下げた。計算が苦手な文系学生も受講している中でこの評価には満足している。製剤学は例年通りの評価であった。本年度は過去問などを解説する時間を増やしたり、歴史的な背景も説明したがあまり評価が変わっておらず、残念に思っています。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

新規手法によるナノ粒子の調製。
ナノ粒子の保存方法。
新規投与ルートの開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ボランティアセンター運営委員会	委員	本年度はコロナなどもあり、委員全体として、ボランティア活動は行なっておりません。
安全衛生委員会	委員	安全や衛生に関することを通常通りに行なった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

サイエンス広場で遊ぼう／１月２９日／佐世保市立旧保立小学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席

2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬ができるまで	９月１１日	波佐見町歴史文化交流館	波佐見町歴史文化交流館

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育分野においては統計学と製剤学を担当しているが、製剤学の授業満足度を上げたい。
今回は国家試験の問題を多くして、解説などに時間を割いたが、結果に変化はあまりなかった。
来年度はマナバを利用したテスト形式なども導入してみたいと考えている。

研究分野分野に関しては３年ぐらい英語論文の執筆を行っておりません。理由は薬物動態の教員がおらず同じ分野である薬剤系の教員に授業の要請が来たからである。しかし来年度からはその授業の担当が外れるため、論文の執筆が可能になると考えられる。論文を作成することを目標に１年間を過ごしていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 神田　紘介

1．教育理念

私は、本学赴任まで、多くの臨床経験と教育経験も積んできた。どのような人材が現場や患者から求められているのか、理解してきたつもりである。薬剤師は、患者に寄り添う存在であり、また、医療人として、自己研鑽だけでなく、後進の育成も行う必要がある。そのため、ホスピタリティーの精神が必須であり、その模範となるべく、自ら実践する。また、現代医療は、エビデンスに基づいた医療が行われており、混合玉石の情報を科学的に正しく評価、取捨選択し、応用することで問題解決していくことが求められている。学生時代に十分にトレーニングしておくことが、今後の薬剤師人生において強い武器となる。卒業研究においては、医療現場に通じる実践的な課題を設定し、科学的問題解決のプロセスを経験させることで、問題解決能力をもち即戦力となりうる人材育成を目指す。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/15(前期)	1.5	5	①②⑧⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①②⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/15(通年)	1	97	①②⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	⑥⑩⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	⑥⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①②⑧
ホスピタリティ演習Ⅱ	4/10(前期)	0.5	80	②④⑤⑥⑩
ホスピタリティ演習Ⅰ	4/4(後期)	0.5	112	②④⑤⑥⑩
福祉と緩和ケア	4/15(前期)	1.5	8	②⑦
生物薬剤	11/11(後期)	3	106	①②③④⑤⑥⑦⑨⑩⑪⑫
医薬品安全性学	7/15(前期)	1.5	101	①②⑫
処方箋解析	7/11(後期)	3	106	①②⑪
総合実習	7/7(後期)	1	106	⑨⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	7	⑥⑦⑪
病院薬学	5/15(後期)	1.5	95	②⑨⑫
調剤Ⅰ	8/13(前期)	2	105	①②⑩
調剤Ⅱ	8/12(前期)	2	105	①②⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	2/15(前期)	2	5
処方設計学特論	2/15(前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期は医薬品安全性学、後期は病院薬学について授業アンケートを実施した。

前年度の授業アンケートを参考に授業改善を行った結果、満足度が医薬品安全性学が4.2→4.4、病院薬学が4.2→4.6と向上した。ポイントを明示し、わかりやすく丁寧に説明、問題を入れるなどして一方向ではなくなるべき双方向とすることを心掛け、今後も効果的な授業を目指していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
4年生 総合演習Ⅰ	4	3	2022/4/13,5/11,6/08,7/11
6年生総合演習ⅢA	1	91	2022/5/17
6年生総合演習ⅢB	1	71	2022/10/26

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・がん化学療法の副作用軽減に関する研究

悪心・嘔吐の動物評価系を使用し、本年度よりシスプラチン投与下悪心・嘔吐に対する制吐療法のステロイドスペアリングに関する基礎的研究を開始した。昨年度得られた結果を、第4回長崎県薬剤師学術大会にて発表を行った。本年度得られた結果は、日本薬学会第143回年会にて成果発表を行う。

・医療データベース等を活用した医療薬学研究

日本医療機能評価機構が収集しているヒヤリハット事例を使用し、持参薬に関連するヒヤリハット事例やその対策について、テキストマイニングの手法を用いて検討を行い、第32回日本医療薬学会にて成果発表を行った。新しく、手術室における薬剤関連医療事故の事例分析を開始した。

・薬剤師の実務教育に関する研究

DXに伴い、遠隔医療の普及が急がれるが、本邦においての普及は道半ばである。オンライン服薬指導の実施状況や普及が遅れている原因を明らかにし、その改善策、教育方法の検討を行っている。本年度得られた結果は、日本薬学会第143回年会にて発表を行う。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	4	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

テキストマイニングの手法を用いた 持参薬のヒヤリ・ハット事例 及び その対策に関する調査／2022/09/23／第32回日本医療薬学会

化学療法誘発性悪心・嘔吐の改善を目指した研究―動物評価系の確立―／2022/11/20／第4回長崎県薬剤師学術大会

ステロイドスペアリングに関する基礎的検討-ラット評価系におけるデキサメタゾン1日投与と3日投与がシスプラチン誘発悪心に及ぼす影響-／2023/03/26／日本薬学会第143回年会

薬局薬剤師のオンライン服薬指導に関する現状および教育ニーズに関する調査／2023/3/26／薬局薬剤師のオンライン服薬指導に関する現状および教育ニーズに関する調査

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部事前学習運営員会	委員	実務実習に関する企画立案及び実務に従事した。
薬学部OSCE実施委員会	委員	OSCE実施に関する準備検討及び実務を行った。
薬学部実務実習運営委員会	委員	実務実習に関する企画立案及び実務に従事した。
カリキュラム検討委員会	委員	次期薬学部コアカリキュラムに沿ったカリキュラムの検討を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
長崎薬学コンソーシアム	委員	特になし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
佐世保北中学校研究所訪問	7月14日	長崎国際大学	長崎国際大学主催 地域連携室
第11回長崎国際大学薬学部生涯教育セミナー	3月18日	Web開催	長崎国際大学生涯学習・教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県薬剤師会研修協議会	委員	2020年9月～	長崎県薬剤師会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学術雑誌の査読（臨床腫瘍薬学会誌：1件）

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

卒業研究：6年次2名、5年次2名の指導を指導責任者として実施した。6名の卒業研究の副査を担当した。

７．受賞等

学長裁量経費(SDGs奨励制度)　ＥＳＤ賞受賞

８．活動全般についての自己点検・評価

赴任2年目であり、年間の流れを把握を行った上で、業務を行うことができた。

昨年度の授業アンケートを参考に授業の改善を行い、満足度向上をさせることができた。本年度は、公開授業も行い、多くの有用なご意見を頂いたため、それらを参考に、来年度はさらなる向上を目指したい。

また、文部科学省「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」の補助金助成に採択され、フィジカルアセスメント教育に使用するシミュレータ、オンライン教材、オンライン服薬指導に使用する通信機器等の整備を行い、それらを活用した先進的な実習の実施を行い、テレビ放送されるなど大学の広報活動にも貢献できた。

卒業研究は、悪心・嘔吐の動物実験系の立ち上げやヒヤリハット事例報告の解析を教育指導し、それぞれ学会発表を経験させることができた。今年度は6年次2名、5年次2名の指導であったが、来年度は6年次2名、5年次5名の指導を行う予定であり、研究活動を通じて、学生たちの問題解決能力の獲得へとつなげていきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 田中　宏光

1．教育理念

一人一人の幸福に基づいた人類の持続的発展に貢献する教育活動

日本の教育制度の充実は、中等教育から高等教育にまで及んできた。社会は、科学技術の発展と相まって進展し、そこから発生する社会問題の解決には教育活動のさらなる発展が欠かせない。さらに教育活動の深化に支えられた社会の発展が科学技術の発展に寄与し、人類のより幸福な社会を切り開くものと期待される。

社会の発展は、特定の人の犠牲の上には成り立たない。一人一人の幸福の総和を最大にすることが人類の持続的発展に欠かせない。その一人一人の幸福の追求の需要な要素として教育環境があげられる。

最近まで大学は、インフラストラクチャー的に、教育を望む一部の学生しか入学できない状況にあった。現在では、下位の志望になってもそれを選択すれば学生全員が大学に入学できるほどに高等教育機関が完備されている。一方で中等教育とは異なり、国公立大学と比べ、私立大学への進学には経済的な障害が存在する。全員が高等教育を受けることができることへの障壁は、経済的側面だと考えられる。進学したい学生全員が高等教育を受けることができるために、経済的側面に関しての障壁を下げるべく、大学教育内容の充実とともに、大学で進められた研究成果を社会に還元し、大学が主体的に学生の経済的障壁を撤廃すべく、努力する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	2	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	①⑨
分子生物学	8/15(前期)	1.5	92	①⑨
基礎の生物学	15/15(前期)	2	28	②⑨
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	0.5	70	②④⑨
医療生命倫理	3/15(後期)	1.5	101	⑤⑥⑩
薬学英語	2/15(前期)	1	94	①⑤⑩
薬学入門	1/15(前期)	1.5	100	②③⑩⑪
微生物学・免疫学実習	5/15(前期)	1	93	⑧⑨
ゲノム創薬学	6/15(前期)	1.5	99	②④⑨
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	124	②④⑥

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

分子生物学：　講義の初めの質問によって、学生の理解度を調べ、生物学に関する基礎の部分に少し時間を割いたので、分子生物学後半に難解な部分に関しての説明に時間が不足した。初期のカリキュラムでは、遺伝子工学と分子生物学の2回の機会で、遺伝子に関する理解を深めることができたが、臨床での薬の種類の増加と、臨床用法の多様化などで、薬そのものに関する説明の

時間が増え、基礎の生物の理解に対する時間が減り、分子生物学で用いられる言葉を覚えることで精いっぱいになっている。他の講義との兼ね合いもあるが、講義外に宿題等を加えて、学生が日頃の生活の中で分子生物学の講義の理解に使う時間をいただくことで対応したい。

ゲノム創薬：　毎年遺伝子に関する新たな話題と倫理に関する規則の改正があり、それらを紹介しながら、国家試験に関する問題の解説を講義で行ってきた。毎年満足度の向上策を考えて校正しているつもりであるが、思うように値を上げることができない。来年は、さらに国試に関した問題の解説を講義を取り入れ、4年生以降学生が接することが少ない遺伝子に関する復習を取り入れたい。

基礎の生物学（観光　福祉）：　観光および福祉に関係した専門職等に就いて、役に立つと考える生物学に関する話題を講義し、講義の中で生物の話題について考えることを目指した。科学技術の進歩とともに毎年アップデートする生物に関する話題を、ともに勉強し伝えていきたい。

医療生命倫理:　薬剤師としての仕事に関わる社会問題の歴史を紹介した。毎年うまく伝わるか不安である。アンケートの書き込みを見る限り、薬剤師として社会での勤めに関して責任感が芽生えたように感じた。学生の感性も時代と共に変化する中、来年も工夫して身近な科学技術の問題を伝え、薬剤師としての社会的責任について伝えたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生殖細胞分化及び細胞のがん化の分子メカニズムの解析

① がん形成のしくみと予防および治療：がんは現在、病気による死亡原因のトップです。がんが発症するしくみを明らかにして、診断、治療、予防に役立てることが目的です。当研究室で初めてクローニングした、がん原遺伝子HASPINを中心に解析を進めています。
② アルツハイマー病の予防および治療：アルツハイマー病の有病率は上昇し、効果的な薬の開発が希求されています。当研究室では、もやしに含まれるクメストロールのアルツハイマー病への効果について解析を進めています。
③ 男性不妊症に関与する遺伝子多型の解析：現在、先進諸国では夫婦の７組に１組以上が不妊症であるといわれ、ヒト精子数の減少や野生動物の生殖力低下等生殖にまつわる問題も多くは原因不明です。遺伝子改変動物を作成し、不妊メカニズムの理解に立った遺伝子診断・生殖補助医療の開発をすすめています。また、生殖関連遺伝子の多型解析をとおしてオーダーメイド医療の実現を目指しています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	4	0	5	1	4	4	800万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

コンパス　分子生物学　第３版／共著・編著／2022年４月／南江堂／ISB978-4-524-40375-2

がんと慢性炎症　別冊BIO Clinica／共著・編著／2022年11月／北隆館／ISSN 0919-8237

免疫エフェクター細胞によるプレシジョンメディシン　(Precision Medicine)／共著・編著／2022年９月／北隆館／ISSN 2434-3625

消化管疾患update (Bio Clinica)／共著・編著／2023年1月／北隆館／ISSN 0919-8237

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Ingestion of Soybean Sprouts Containing a HASPIN Inhibitor Improves Condition in a Mouse Model of Alzheimer's Disease.／2023年2月／Biology (Basel)／DOI: 10.3390/biology12020320／共著／論文

Haspin promoter element induces tissue-specific methylation of a transcription region and the regulation of gene expression in mouse ova.／2022年9月／Cell Journal／DOI: 10.22074/cellj.2022.8444／共著／論文

Analysis of Ser/Thr Kinase HASPIN-Interacting Proteins in the Spermatids.／2022年8月／Int J Mol Sci／DOI: 10.3390/ijms23169060／共著／論文

In vitro fertilization using sperm activated by ML-2-3 isolated from Morinda lucida Bentham leaves.／2022年4月／Reprod Med Biol .／ DOI: 10.1002/rmb2.12455／共著／論文

Inhibitory Effect Of HASPIN Inhibitor CHR-6494 On Pancreatic Cancer Cell BxPC-3-Luc.／2022年4月／Cell Journal／DOI: 10.22074/cellj.2022.7796／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

HASPINに作用する低分子化合物のがん抑制効果の解析／2022年11月／第39回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
文部科学省 科学研究費補助金　基盤Ｃ　代表	文科省	2021-2023	400万円
文部科学省 科学研究費補助金　基盤Ｃ　分担	文科省	2022-2024	100万円
アルプス薬品工業からの委託研究	アルプス薬品工業	2022-2023	200万円
一般社団法人医療経済研究・社会保険福祉協会　受託研究　分担	一般社団法人医療経済研究・社会保険福祉協会	2021-2022	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
長崎国際大学動物実験委員会	副委員長	本年も滞りなく、長崎国際大学における動物実験に関して動物施設の運営を行い、大学からの研究の発信をサポートすることができた。
長崎国際大学薬学部共同機器委員会	委員	本年も滞りなく、薬学部内で大学の運営に関する消耗品及び機器の維持管理を調整することに貢献できた。
長崎国際大学倫理委員会	委員	薬学部で行われる実験に関して、倫理審査を滞りなく進めることができた。また、技術の発展と新しい世論に合わせて、ヒト実験に関する倫理指針の更新に協力した。
長崎国際大学薬学部倫理委員会	委員	大学で行われる実験に関して、倫理審査を滞りなく進めることができた。また、技術の発展と新しい世論に合わせて、ヒト実験に関する倫理指針の更新を提案する予定である。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

軽音学部　顧問

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス３回、平成４年度高校生夏休み薬学研究体験、平成４年度猶興館高校体験学習、リケフェス　女子中高生対象 に参加。

長崎新聞に長崎国際大学発の田中宏光主体の研究成果が記載され、その後ヤフーニュースにも取り上げられた。

長崎国際大学発ベンチャー　佐世保食品科学工房の製品「クメフル」は今年度もふるさと納税対象品となり、楽天等の商品として全国的に宣伝されている。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外

2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
平成４年度高校生夏休み薬学研究体験	8月	長崎国際大学	県教育委員会
平成４年度猶興館高校体験学習	8月	長崎国際大学	猶興館高校
リケフェス　女子中高生対象	11月	佐賀大学	佐賀大学

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市イノシシ駆除プロジェクト	実験担当	令和四年度	佐世保市

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

○ 2023年1月11日（出願日）

「薬剤及びアルツハイマー型認知症予防薬・治療薬」

○ 2023年 2月　「栄養素増やした豆モヤシ　アルツハイマー発症を抑制」 モヤシに関する論文が長崎新聞に紹介され、その後Yahoo Newsで紹介された （2023年1月20日）。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

本年も精力的に教育活動に努めることができた。また、大学の広報活動にも参加し、滞りなく高中校の生徒に大学をアピールすることができた。研究では長年の成果が実り、その成果は長崎新聞やヤフーニュースでも取り上げられた。私自身の目的の達成と共に、地域貢献を通し長崎国際大学のステータスの向上にも貢献できた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 藤井　佑樹

1．教育理念

人間性と専門性を修得した長崎国際大学ブランドの薬剤師を輩出させるため、薬剤に関する知識、自身で疑問を解決する習慣、人の気持ちを汲み取れる人材を作ることに努める。まず高い薬学知識を身につけさせるために、薬物が作用する人体や細胞の構造やはたらきに関する知識を教授する。さらにそれらが化学、物理などの他の科目、学問と関連していることを意識させ、学問を俯瞰出来る力を修得させる。

研究室の配属生に対し、海洋無脊椎動物レクチンや糖鎖生物学の卒業研究テーマを与え、タンパク質の精製や細胞増殖制御の実験方法やその原理を学習させる。この経験を元に薬剤師国家試験で出題される問題に対して対応できる力を養わせる。また卒業研究の成果を発表させることで、自身の研究を簡潔に人に説明できる力を身につけさせる。これは医療の現場で薬の効能・薬理作用について簡潔に説明する力をつけることに役立つことが期待される。

勉学以外にも生活や就職などのサポートも行うことを意識し学生と接する。将来、学生が自立した際に、後輩へアドバイスを送れるような人材作りを行い、ホスピタリティの精神を獲得した薬剤師を世に輩出し、大学のブランディングとともに社会貢献を行う。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/45(前期)	1.5	91	②⑨
総合演習ⅢＡ	1/45(前期)	1.5	5	②⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	②⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	93	②⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	2	②⑨
総合演習Ⅱ	0/30(通年)	1	97	②⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	5	①⑤⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	①⑤⑩
総合演習Ⅰ	0/30(後期)	1	1	②⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	②⑨
機能形態・生化学演習	2/15(後期)	0.5	1	②⑨
基礎の生物学	15/15(前期)	2	39	②⑨
機能形態学Ⅱ	15/15(後期)	1.5	103	②⑨
薬学英語	2/15(前期)	1	94	①⑤⑩
機能形態・生化学演習	2/15(後期)	0.5	81	②⑨
機能形態・生化学演習	2/15(後期)	0.5	23	②⑨
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＡ	15/15(前期)	1	101	②⑨
機能形態学実習	7/7(前期)	1	114	①⑩
薬剤学実習	7/7(後期)	1	95	①⑨⑩
地域の理解と連携	1/15(後期)	2	124	①⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

薬学部の専門科目である機能形態学IIでは人体の構造の機能についての講義を行った。講義後に毎回、小テストを促すと共に、中間試験を2回導入し、常に勉強を行う習慣を身につけさせた。講義資料には模式図や写真を多く取り入れ、人体の機能について

イメージしやすいような工夫をした。結果、授業アンケートでは授業満足度として4.6点の評価を得ることができた。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	形態機能学	15/15(前期)	2	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
機能形態学II（補習）	10	24	2022年10月~2023年1月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

糖鎖と糖鎖認識分子レクチンの相互作用により生じる生命現象を明らかにすることをテーマに以下の研究を行っている。①海洋無脊椎動物から、新規レクチンを探索し、構造や機能の研究。②海洋無脊椎動物レクチンの生理的機能の研究。なぜ新規レクチンがその生物に重要であるかを考えている。③海洋無脊椎動物レクチンの細胞制御能の解明。がん糖鎖などに結合するレクチンの抗腫瘍効果の作用機序の解明を行っている。④任意の糖鎖に結合する人工レクチンの構築法の確立。これまでに見つかった海洋無脊椎動物レクチンはがん糖鎖やシアル酸を含む糖脂質ガングリオシドに結合する稀有な特性を持つ。これらレクチンを出発物質とし、異なる構造を有した糖鎖を認識する人工レクチンの発現を計算科学者、構造生物学者と共に目指している。その達成は薬学だけでなく、基礎研究の発展への貢献も期待される。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	1	1	360万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Coming New Age of Marine Glycomics: The Fundamental, Medical, and Ecological Aspects／2022年9月28日／Mar Drugs／doi: 10.3390/md20100613／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Fundamental Study of beta-trefoil Lectins for Medical Application／2023年1月5日／第108回インド科学会議（英語による口頭発表）

Molecular tinkering and bricolage in mussel R-type lectins／2022年9月3日／The 24th Collegium for Comparative Glycomics（英語による口頭発表）

Ganglioside binding beta-trefoil lectin and its dual cellular function／2022年9月5-8日／Sialoglyco2022

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金　基盤研究C	日本学術振興会	2023年4月-2027年3月	360万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
地域連携委員（全学）	委員	寄付講座を担当。
地域連携委員（薬学）	副委員長	寄付講座を担当。
国家試験対策委員	委員	6年生の卒業に関与する単位認定試験の試験問題の編集や当日の対応者を担当し、試験が円滑に行われるように努めた。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
第108回インド科学会議	招待講演	2023年1月3~7日	インド共和国ナーグプル	インド政府

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞（学生による授業アンケート部門）（教育部門）

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度も教育、研究、大学運営の業務をバランス良く行えた。教育では薬学専門科目、全学共通科目、学外での人体解剖学に関する講義を行い、いずれも高評価を得た。特に薬学専門科目である機能形態学IIでは講義資料に写真や模式図を多数活用することで、学生のニーズに応えた講義を行うことができ、ベストティーチャー賞を受賞することができた。研究では異分野の研究者との交流を積極的に図り、新しい研究テーマを始めることを計画し、日本学術振興会より基盤研究Cの研究費が採択された。研究計画を実行するため、共同研究者と密に連絡を取り合う。大学運営では国家試験対策委員として、6年の単位認定試験の編集委員を、地域連携委員として、寄付講座や中高生対象の体験講座の窓口を担当し、貢献した。以上のことから、全ての業務で良い成果を出せたと考える。来年度より、薬学の地域連携委員では委員長を拝命したので、地域とのつながりの窓口であることを自覚し、本学の印象が上がるように業務を推進していく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 藤木　司

1．教育理念

本学学生の教育に対する貢献を考え、3ポリシーに則った講義、研究指導等を優先し実施することを理念とする。そのためには日頃より教育内容、研究に関する向上と精査を行いPDCAサイクルを実施し、質の高い医療従事者として活躍できる薬剤師を養成することを最終目標とする。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数(開講時期等)	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/30(前期)	1.5	91	②⑨
総合演習ⅢＡ	1/30(前期)	1.5	5	②⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	②⑨
総合演習Ⅰ	1/30(通年)	1	93	②⑨
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	2	②⑨
総合演習Ⅱ	0/30(通年)	1	97	②⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	①⑤⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	①⑤⑩
総合演習Ⅰ	0/30(後期)	1	1	②⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	②⑨
分子生物学	7/15(前期)	1.5	92	②⑨
基礎の生物学	15/15(前期)	2	37	②⑨
感染防御学	3/15(前期)	1.5	78	②⑧⑨
総合実習	12/17(後期)	1	106	②⑧⑨
薬学英語	2/15(前期)	1	94	①⑤⑩
食品機能学	5/15(前期)	1.5	92	②⑨
調剤Ⅰ	12/17(前期)	2	105	②⑧⑨
調剤Ⅱ	0/33(前期)	2	105	②⑧⑨
微生物学・免疫学実習	9/9(前期)	1	93	④⑨⑩
微生物・免疫学演習	3/15(前期)	1	106	②⑧⑨

［大学院］

科目名	コマ数(開講時期等)	単位数	単位授与学生数
処方設計学特論	2/15(前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

昨年度の講義と比較して本年度は対面講義が復活したこともあり、学習の理解度と満足度を意識した講義内容となる ように講義スライドおよび説明資料などのコンテンツにおける改善に努め、アクティブラーニングにも配慮した内容で講義を提供できるようresponの利用や小テストに関して理解を高めてもらえるように工夫を行った。昨年度から開始した新規講義や新規内容での講義に関する資料作成や講義内容に関して、改めて内容について精査し、授業アンケートにおいて指摘があったポイントについて改善を施した。 概ね例年通り学内平均を上回る評価を得ることができた。1年生の基礎の生物学につては理解度の低いクラスということもあり、 本年度も補習を実施し学習の補助を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数(開講時期等)	単位数等	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の生物学【B】	2	30	2022/7/13

３．研究活動

(1) 研究テーマ

細胞老化に関わる分子基盤の解明と抗老化シグナル機構の網羅的解析に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Identification and Functional Evaluation of Polyphenols That Induce Regulatory T cells.／Jul-22／Nutrients／Doi: 10.3390/nu14142862.／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト正常線維芽細胞TIG-1におけるCAGE（Cap Analysis of Gene Expression）法による細胞老化特異的転写開始モチーフの解析／2022/12/1／第45回 日本分子生物学会 年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
CHサポートセンター運営委員会	委員	CHサポートセンター運営に関するサポート及びNPSサポート業務
国試・CBT対策委員会(学科)	委員	渉外、学科内試験、演習、外部模試、遠隔講義実施運営・成績管理
入試・募集委員会(学科)	委員	入試・募集に関わる広報活動及び出張講義
安全管理委員会(学科)	委員	アルコール担当
CAI運用・活用委員会	委員	学内CAI試験設定・実施・運営・成績管理
教務委員会(学科)	委員	学科教務に関わる業務、運営
OSCE実施委員会(学科)	委員	OSCEに向けた準備、実施、運営に関するサポート業務
薬用植物園運営委員会(学科)	委員	薬用植物園運営、維持、管理に関するサポート業務

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

CHサポートセンター運営委員会帰属ピア・サポート組織NPS研修会の企画、参加、運営など。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①第1回オープンキャンパス/7月24日/長崎国際大学

②第2回オープンキャンパス/8月7日/長崎国際大学

③第3回オープンキャンパス/8月21日/長崎国際大学
④出張講義/5月25日/長崎県立佐世保東翔高等学校
⑤一般入試A日程/2月4日/本学会場

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本動物細胞工学会	評議委員	2022/4～2023/3	日本動物細胞工学会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）
クリーンキャンパス活動/11月26日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動
なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

2022年度は講義教育面において、授業の成果が評価され授業アンケートでは全体平均以上の評価を得ることができた。対面講義が復活したが遠隔講義との併用もあり、コンテンツや講義スタイルについてより一層の教育効果、満足度が得られるよう工夫し

て取り組んだ。研究面では学術研究論文を投稿できたので一定の成果はあったが、未発表データについて更なる業績を詰めるように努力したい。また外部資金獲 得についても改善や努力を行っていきたい。同時に各種委員会における活動においても教育の質や効果の向上を目指して精進したいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和４(2022)年度

学科　薬　　職名 准教授　　氏名 山田　耕平

１．教育理念

医療、化学技術、社会構造がダイナミックに変化する時代において、社会に貢献する薬剤師の育成には、資格取得に必要な知識・技能の伝達のみならず、取得後も学び続ける姿勢、すなわち成長を楽しむ心の育成と、医療人としての責任感、すなわち人間力の育成が必須である。私はこれらの育成を以下のように実践したい。

(1) 成長を楽しむ心の育成

成長を楽しむ心を醸成できれば、社会貢献の意志とその遂行能力の向上も伴うと考えられるため、重要な素養であると言える。成長を楽しむことができるようになるには、成長を実感し、やればできるという自信をつける必要がある。成長を実感できる教育には以下の３点が肝要であると考えているので実践したい。

① 基礎の涵養、② 応用事例を紹介し関心を持たせる事、③ 小さな達成感の積み重ね

授業前半：前回の内容の小テストを行い、継続的な努力と理解を促す（③）。授業中盤：基礎知識を繰り返し説明し、知識の定着を図る（①）。授業後半：創薬研究や医薬品に応用されている事例や、関連する薬剤師試験問題を紹介することで、今勉強している内容が将来に繋がっていることを認識させる（②）。

(2) 人間力の育成

よりよい社会を創造する人材には学力だけではない、以下の3点の人間力が求められるので、その向上を支援したい。

① チャレンジ精神と行動力、② 他者と協働するコミュニケーション力、③ 高い倫理観

授業内容に関連する医療・環境などの社会問題を提起し、学生間でディスカッションする時間を設け（②）、知識を整理し論理的に説明する経験をさせる（①）。そして、自らが社会に対して何ができるかを自問する契機を与える（③）。

私の教育理念は、本学の建学の理念「高い知性と豊かな教養」、「優れた徳性と品格」、「たくましい意志と健康な身体」と合致する。常に学生と向き合い信頼関係を築き、ポテンシャルを引き出す努力を続けたい。学生に対してホスピタリティを尽くすことで建学の理念を体現し、学生にその精神を伝えていく所存である。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	②③⑪
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	なし
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	なし
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	②③⑪
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	②③⑪
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	②③⑪
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	①②③④⑤⑦⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	①②③④⑤⑦⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	②③⑪
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	②③⑪
生物有機化学	13/15(後期)	2	1	②③⑨
医薬品化学Ⅱ	3/15(後期)	1.5	54	②③⑨
生物有機化学	13/15(後期)	2	106	②③⑨
有機薬化学Ⅱ	13/15(前期)	1.5	109	②③⑨
有機薬化学実習	12/12(後期)	1	112	①②③④⑤⑦⑩⑪

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期の有機薬化学Ⅱの授業アンケートの結果は前年度よりも良いものとなった。また後期の生物有機化学においても前年度よりもよく、平均よりも評価は高かった。授業の進め方や教え方一つ一つをファインチューニングした結果だと思われる。
有機薬化学実習では、化学構造の理解を促すために分子模型を用いた実習を前年度に引き続き行ったが、評判は上々であった。
今後もより良い講義を目指して研鑽を積みたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
有機化学前期補習	13	35	木曜日３時間目
有機化学後期補習	11	37	火曜日5時間目
総合演習ⅢA	1	5	指定日
総合演習ⅢA	1	91	指定日
総合演習Ⅰ	4	93	指定日
総合演習Ⅰ	4	2	指定日
総合演習Ⅰ	4	1	指定日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

光レドックス反応を用いたペプチド変換反応の開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	1	1	429万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

脱硫黄的ホウ素化を基盤とするシステイン変換反応の開発／2022年03月27日／日本薬学会第142年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤研究（C）	日本学術振興会	2022年4月～2025年3月	429万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究センター委員会	委員	長崎国際大学論叢の作成、第22回学術研究報告会の運営
安全管理委員会	委員	毒物劇物管理状況の調査、廃液処理等
共通機器委員会	委員	NMRの管理運営等
就職委員会	委員	薬学就職説明会の運営等

教務委員会	委員	1年生学年主任
CAI管理委員会	委員	CAIの設定、試験時の監督等
カリキュラム検討委員会	委員	5次カリに関する検討等
入試募集委員会	委員	オープンキャンパスの運営等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

長崎県高等学校理科教育研究会「化学部会」及び「実験実習部会」研究集会、実験助手/2022.09.16/長崎国際大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
3	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
高大連携事業　講義	2022.08.31	海星高校	海星高校
令和４年度長崎県高等学校総合文化祭、審査員	2022.10.30	平戸文化センター	長崎県高等学校文化連盟・長崎県教育委員会
薬草を軸とした地域に根ざした学び場づくり	2022.08.18, 19	長崎国際大学	宇都拓洋准教授

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

学術論文Molecules（MDPI）のguest editorとして半年editor業務に携わった。

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

全ての業務に関して大過なく遂行できたと思う。与えられた仕事、依頼された仕事が大半であることから、今後は自らが立案して積極的に大学運営に携わっていきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 石原　知明

1．教育理念

私は、AIやロボットで置き換わることのできない、次世代で活躍することのできる薬剤師を養成することを目指して教育活動に取り組んでいます。

これからの薬剤師には、医師などの医療スタッフと協力して治療に関わることのできる能力がこれまで以上に求められます。そのために、「高度な専門的知識」を持つことはもちろんのこと、それに加えて「問題・課題の発見能力」、「それらを解決するための情報調査能力・論理的思考力」、「それらを適切に伝えるプレゼンテーション力と内容を議論する力」が必要不可欠であると考えます。これらの能力はいわゆる通常の講義形式の授業だけでは習得することが難しいため、研究室での教育活動を通してこれらの能力が習得できるように、一対一での徹底的なトレーニングを行っています。これにより、将来的に活躍が期待される、真に患者さんの治療に貢献することのできる薬剤師の養成が可能になると考え、日々学生さんと向き合っています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	1/1(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	1/1(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	2/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	①⑨
ホスピタリティ演習Ⅰ	2/4(後期)	0.5	112	②⑦
細胞生物学	8/16(後期)	1.5	103	①②⑨
分子細胞生化学演習	3/15(後期)	0.5	70	②④⑨
基礎の生物学	16/16(前期)	2	59	②⑨
生物薬剤	5/11(後期)	3	106	①②④⑥⑦⑨
処方箋解析	0/11(後期)	3	106	①②④⑥⑦
総合実習	5/7(後期)	1	106	①④⑪
薬学英語	2/16(前期)	1	94	①⑤⑩
ホスピタリティとSDGs	3/15(前期)	2	395	④⑤⑥⑦⑫
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	6/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
専門基礎学習Ⅰ	6/7(通年)	0.5	109	②④⑨⑩
生化学実習	5/10(後期)	1	112	①②④⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

ほとんどの学生さんに関して、満足度が5または4という評価であったため、全体に対して質の高い授業を展開できたものと考えている。教科書の内容を理解してもらうのはもちろんのこと、生物の緻密さや面白さ・不思議さに感動してもらうことを目標に

していた。毎回のアンケートでは、「生物が興味深いものだと思った」・「苦手な生物が好きになった」などの感想もいただいており、この目標についても、ある程度は達成できたものと考えている。今後もさらに良い授業ができるように改善していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐賀清和高校	校内進路ガイダンス	1/1(後期)	なし	X
九州文化学園高校	内部進学ガイダンス	2/2(後期)	なし	X

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ補習	1	5	2022年6月23日
生化学Ⅰ	4	25	2022年11月16，30日、2023年1月11，18日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

生体内には極めて多様な脂質分子種が存在し、それらの質的・量的な制御は生体恒常性において重要な役割を果たしている。近年の質量分析器の技術革新により、生体内に存在する脂質分子種を包括的に捉えることが可能になっている。このような技術基盤を用いてこれまでに、老化に伴い現れる様々な脂質代謝変動が明らかになりつつある。しかしながら、そのような変動が加齢に伴う生体恒常性の破綻や老化に関連する疾患（認知症、心血管疾患、メタボリックシンドロームなど）においてどのような役割を果たすのか、その因果関係についてはほとんど明らかにされていない。そこで私は現在、加齢に伴う脂質代謝変化を包括的に解析し、その脂質代謝変化のキーとなる代謝酵素を同定することを通し、脂質代謝変化と老化に関連する表現型との因果関係を分子レベルで明らかにすることを目指して研究を進めている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	2	2	2	516万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Genetic deletion of Cyp4f18 disrupts the omega-3 epoxidation pathway and results in psoriasis-like dermatitis／December 2022／The FASEB Journal／e22648／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ω3 エポキシゲナーゼ Cyp4f18 欠損マウスで皮膚炎が自然発症するメカニズムの解析／2022/06/23／日本脂質生化学会

脂質代謝系による生体恒常性維持機構の解明／2022/11/09／薬学研究発表会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
老化に伴い発現する脂質代謝異常とその生理学的役割の解明	基盤研究(C)	2022-04-01 - 2025-03-31	416万円
脂肪性肝炎を制御する機能性脂質の探索とその作用メカニズムの解析	鈴木謙三記念医科学応用研究財団	2022-04-01 - 2023-03-31	100万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	２年生の学年主任として中心的な役割を果たした。

入試募集委員会	委員	オープンキャンパスの準備などの運営に関わった。 高校生を対象とした出張授業を行い、薬学部や薬剤師に関する情報提供を行った。高校生に薬に関する興味を持ってもらえるように配慮した。
学生委員会	委員	入学式・卒業式・表彰式・保護者会などのイベントの運営や特待の判定に関わった。
カリキュラム検討委員会	委員	５次カリキュラムの確立に向けた会議に参加し、積極的に議論した。
広報受付担当	委員	薬学部教員の教員紹介ページの更新、薬学部教員からのホームページトピックスのアップ作業を行なった。昨年度に比べてより多くのトピックスの掲載につなげた。
OSCE実施	委員	OSCEの運営、OSCEに関わる事前学習に参加した。
安全管理	委員	感染性廃棄物の処理、研究室の試薬管理のチェック、しおりの作成を行なった。
広報委員会（全学）	委員	大学のアピールのために、ホームページの更新、CMの作成、広告の作成などの提案をおこなった。 イベントごとに写真の撮影を行なった。
教育基盤センター運営委員会（全学）	委員	入学前教育の企画、運用、評価を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
第39回日本薬学会九州山口支部大会	グループ員	第39回日本薬学会九州山口支部大会の実施のため、会場設営、座長などを行った。

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

佐賀清和高校校内進路ガイダンス

九州文化学園高校学内進路ガイダンス

ホームページの更新（薬学部教員紹介・トピックス）

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
薬学への招待	10月14日	佐賀清和高校（Zoom）	入試募集委員会
薬学への招待	3月6日	九州文化学園高校	入試募集委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

１年生全学共通科目「ホスピタリティとSDGs」にてSDGsの目標３「すべての人に健康と福祉を」と目標８「働きがいも経済成長も」に関する講義を担当した。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動について、学生の満足度を調査した授業アンケートの結果では９割以上の学生さんが５または４の評価であったことから、一定の水準の授業が展開できていると考えている。「苦手な生物が好きになった」と回答してくれた学生がいたことも大きな喜びであった。次年度は理解度をさらに向上させるために、アクティブラーニングの取り組みや授業ごとに小テストを実施するなどの案を考えており、さらに理解度を向上させる手を考えたい。

研究活動について、論文が１報と研究費を２件獲得することができた。また、研究室所属学生との卒業研究も円滑に進めることができており、来年度は学会での口頭発表や論文の発表を目標としたい。また、理化学研究所や徳島文理大学との共同研究も成果の目処がたっており、今後もさらに発展させていきたいと考えている。学内でも５つの研究室間での交流などを深めることができたので、今後も大学として研究がますます盛り上がれるように取り組みたい。

大学運営活動では、所属している委員会において、積極的に活動することができたと評価している。特に、委員会活動での問題点やその改善策を話し合うために会議などでは積極的に発言、提案を行った。また、学年主任の中でも中心的な役割を果たすことができたと自負している。今後もこれまでと同様に、より良いものが作り上げられるように、全力で取り組んでいきたいと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 榎本　彩乃

1．教育理念

私の教育理念は、薬学専門科目を根本から理解できるような基礎力を確実に修得させることでいかなる状況でも論理的に考えることのできる力を養い、実践で活躍できるような「質の高い健康と福祉を人々に提供する」というSDG目標に大きく貢献できる薬剤師を育成することである。。

近年では、AI・機械化が進むことで、従来よりも医療スタッフの技量に依らず、質の高い医療を提供するのが容易になると予想される。それに伴い、薬剤師としての多くの単純業務がAIに代替され、人間として求められるのは直接患者や他の医療スタッフとの関係構築、また議論の中でより適切な薬学的知識を提案できる技量である。

そのようなスキルは、様々な事項を結び付けて考察できる論理的思考力が必要であり、すべての根本となる基礎知識が重要である。そのため、生涯にわたって活用できる確実な知識を実践と結びつけながら教示していきたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑥⑨
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①④⑥⑨
薬品物理化学Ⅰ	5/15(前期)	1.5	1	①④⑧⑩
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①④⑥⑨
卒業研究（５年）	15/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	30/60(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①④⑥⑨
薬品物理化学Ⅱ	5/15(後期)	1.5	3	①④⑧⑩
薬品物理化学演習	15/15(後期)	0.5	1	①④⑧⑩
薬品物理化学Ⅱ	5/15(後期)	1.5	102	①④⑧⑩
物理学演習	12/12(後期)	0.5	47	②③⑨
基礎の物理学	15/15(前期)	2	39	②③⑨
総合実習	18/45(後期)	1	106	①④⑪
薬品物理化学Ⅰ	5/15(前期)	1.5	105	①④⑧⑩
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑩
薬品物理化学演習	12/12(後期)	0.5	37	①④⑧⑩
物理化学実習	15/15(前期)	1	92	①④⑧⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
Basic and Advanced Sciences of Drug Discovery	1/15(後期)	2	3

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

本年度は昨年度に比べ、理解度の項目はあったように思う。特に基礎の物理学、物理学演習に関しては、基礎学力が著しく欠如している学生が多いことに鑑み、課題よりも易しい自習用穴埋めプリント等を自作して配布するなどした結果、理解しやすかったとの意見があった。また、物理化学演習等についても修得済みのはずが忘れていることの多い基礎知識について逐一提示しな

がら講義を行った。必要であれば数学的知識の再確認から入ることで、例年よりも理解度の向上には効果があったのではないかと考える。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習I	1	93	2022年7月11日
基礎の物理学	8	27	2022年5月~7月

３．研究活動

(1) 研究テーマ

臨床用OMRIのための要素技術開発、糖尿病性網膜症の早期診断のためのOMRI計測技術開発、生体内因性ラジカルを指標とした虚血性疾患の評価技術開発

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	1	3	2	2	2150万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Research and Development of Preclinical Overhauser-Enhanced Magnetic Resonance Imaging／2022年6月／Antioxid Redox Signal／10.1089/ars.2022.0038／共著／総説

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

in vivo OMRI計測のための空洞共振器の開発と最適化／2022年12月4日／第61回電子スピンサイエンス学会年会(SEST2022)

臨床用OMRIの技術基盤の構築と実証研究／2022年6月14日／ＪＳＴ創発的研究支援事業 融合の場

OMRI法を用いた早期糖尿病性網膜症評価の実現可能性の検証／2022年11月19日／日本薬学会九州支部会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
臨床用OMRIの技術基盤の構築と実証研究（代表）	国立研究開発法人科学技術振興機構	2021年４月～2024年3月	2000万円
磁場スイッチDNP-MRIによる臨床代謝計測装置の試作・実証研究（分担）	日本学術振興会	2021年4月～2024年3月	150万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
研究費不正使用防止委員会	委員	特になし
薬学部教務委員会	委員	4年学年主任としてCBT対策のための各種試験準備等、また試験当日の対応を行った。
薬学部国試・CBT対策委員愛	委員	CBT対策部会として、4年試験のCAI試験準備、単位認定試験準備、解析、及び国試ツアーの引率を行った。
薬学部CAI運用・活用委員会	委員	各種CAI利用の試験の準備、設定、解析、また試験当日のPC準備等を行った。

薬学部学生委員会	委員	保護者会、卒業式等のイベントにおいて受付業務や会場セッティング、また特待生警告判定の成績集計を行った。
学生サポート室室員	委員	特になし
OSCE実施委員会	委員	事前学習の補助業務を行い、学生への指導や、評価、また会場設営を行った。
薬学部動物室管理委員会	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
臨床使用を目指した生体内フリーラジカル検出機器の開発	2022年7月22日	zoom	電子スピンサイエンス学会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

学長特別表彰 長崎国際大学

8．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、前年度までの反省を活かし、過去に学修した項目が関連する場合にはその復習を含めるなどし、自習への取り組みやすさ向上に努めた。その結果、アンケート結果は向上したが、結局のところ成績向上には結びついてはおらず、本質的に理解度を向上させる取り組みを今後考える必要がある。

研究に関しては、複数のプロジェクトを同時進行しており、一人では時間が足りなくなりつつあること、また学生に対しては実験より国試勉強を優先させていることもあり、期待したほどの成果は出なかった。ただ、遅れはあるものの、プロジェクトは進行はしているため、今後は技術員などの雇用により加速化する必要がある。

学務に関しては、特記するほどのことは少ないが、いくつかの作業を短時間で終わらせられるようにエクセル等の機能を最大限に生かすなどし、効率化に取り組んだ。その結果間違いが生じやすい集計や、解析においてミスなくかつ短時間で作業を終わらせることを可能にした点で貢献できたと考える。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 太田　智絵

1．教育理念

私は講義や研究室での教育を通じて、学生に生薬・天然物化学に興味を持ってもらい、自ら進んで学習してもらいたいと思っている。生薬・天然物化学の知識をただ単に説明するのでなく、授業で学んだ知識が医療現場においてどのように活用できるかを重点に置き、学生が薬剤師となってからも役立つものにする。さらに、学生の卒業後の漢方薬・生薬認定薬剤師などの認定に興味を持つきっかけをつくれればと思う。

さらに私は1年生の化学も担当しており、本科目は学生にとって化学の基盤となるものと考える。

そのため、しっかりとした知識を出来るだけ詳細に、わかりやすく教授するように心がけている。学生には薬学の基礎となる化学の面白さを知ってもらい、有機化学や分析化学、天然物化学などの応用科目につなげていってもらいたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①⑨
化学演習	12/12(前期)	0.5	2	①⑧⑨
総合演習Ⅰ	3/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	3/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	①⑨
基礎の化学	15/15(前期)	2	16	①⑨
化学演習	12/12(前期)	0.5	16	①⑧⑨
生薬学Ⅱ	5/15(後期)	1.5	99	①②⑨
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	⑥⑦⑩
有機薬化学実習	7/7(後期)	1	112	①②④
生薬学実習	7/7(後期)	1	113	①②③④⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートを実施した科目は基礎の化学（前期）であり、すべての質問項目において、学内平均を上回ることができたことから、概ね授業満足度は高かったと考える。

基礎の化学は「化学演習」と学習内容をリンクさせ、学生の理解度向上を図った。書き込み式の資料を配布し、学生が重要なポイントを理解しやすいようにした。復習プリントも作成し、講義内容の復習を学生自ら取り組めるようにした。

自由記述の結果では理解度が上がったとのコメントが多く、安心したが、試験結果からコメントと見合った成果が得られていないようにも感じる。

理解させるだけでなく、問題が解けるような講義を模索していく必要がある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
1年生 化学リメディアル 補習	10	30	4/22、5/6、5/20、5/27、6/1、6/10、6/15、7/1、7/6、7/15
1年生 有機化学後期補習	11	37	火曜5講時（10/4、10/11、10/18、10/25、11/1、11/15、11/22、11/29、12/13、12/20、1/10）
4年生 総合演習Ⅰ 補習	3	93	7/4、7/13、11/22

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①天然由来白斑治療薬開発を目指したメラニン合成促進物質の探索と作用機序解析

尋常性白斑は、治療抵抗性かつ再発頻度も高い難治療性の色素異常症で、特に露出部位に生じた場合、患者のQOLを著しく低下させる。本研究は我々が見出したメラニン合成促進化合物およびエキスをパイロットサンプルとして、薬用植物エキスおよび天然化合物ライブラリーのスクリーニングにより白斑改善効果が期待できる活性成分を同定し、皮膚モデル・モデル動物を用いた確実な効果の立証、さらに活性成分の作用機序解析や標的分子同定を行い、白斑治療薬創出および治療標的分子発見に貢献することを目指す。

②オートファジー制御能を有する天然化合物の探索とその作用機序解明

国内外で用いられている伝統医薬からオートファジー制御能を持つ天然物を同定し、その作用機序解析を目的として研究を行っている。これまで数種の生薬エキスががん細胞においてオートファジーを制御することを見出し、活性本体の単離同定および作用機序解析を行ってきた。現在、メラノサイトやケラチノサイトなどの皮膚細胞において、生薬エキスライブラリーのスクリーニングからオートファジー制御能を持つ天然物の探索研究を行っている。

③薬用植物の非薬用部位の有効利用に向けた研究

これまで利用・研究されていなかった非薬用部位の有効利用を目的に含有成分の探索および活性評価を行っている。これまでに柴胡の地上部の含有成分が抗癌作用を持つことや、当帰の地上部が根と同様に強い抗炎症作用を持つことを見出し報告してきた。薬用植物の非薬用部位の網羅的な成分解析と活性評価により有用な非薬用部位の更なる発掘を行い、非薬用部位の有効利用を活性化および推進するための科学的エビデンス提供を目指す。

③不妊症に効果のある生薬成分の探索研究

現在社会的問題になっている不妊症に効果のある天然物を探索し、その作用機序解明を行っている。これまで甘草の成分が精子を活性化し、人工受精率を上昇させることを見出し報告してきた。現在甘草以外の天然物からの活性成分探索を行っている。

④ECDスペクトル計算を用いた化合物の絶対立体配置の決定

ECDスペクトルの実測値と量子化学計算により得られる同スペクトルの計算を比較することで、化合物の絶対立体配置の決定を行っている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	5	9	2	2	2249万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Silibinin promotes melanogenesis through the PKA and p38 MAPK signaling pathways in melanoma cells／2022年4月／Biomedical Research／43(2) 31-39／共著／論文

Saffron (Crocus sativus L.) as a valuable spice and food product: a narrative review／2022年6月／Longhua Chinese Medicine／5, 18／共著／総説

Azaphilones produced by Penicillium maximae with their cell death-inducing activity on Adriamycin-treated cancer cell／2023年1月／Genes and environment : the official journal of the Japanese Environmental Mutagen Society／45(1) 5／共著／論文

Development of an indirect competitive enzyme-linked immunosorbent assay for formononetin and its application in a cell-based assay using MC3T3-E1 cells／2023年3月／Food Chemistry／403, 134339-134339／共著／論文

(+)-Magnolin Enhances Melanogenesis in Melanoma Cells and Three-Dimensional Human Skin Equivalent; Involvement of PKA and p38 MAPK Signaling Pathways／2022年2月／Planta Medica／88(13):1199-1208／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

抗がん剤有害事象の回避を目指したPenicillium maximae由来HSP105阻害物質の探索／2022年9月／日本生薬学会第68回年会（松山）

オオツヅラフジ（Sinomenium acutum）含有アルカロイドのがん幹細胞増殖抑制活性評価／2022年8月／フォーラム2022衛生薬学・環境トキシコロジー（熊本）

Morinda lucida 葉部に含有する tetracyclic iridoid の精子活性化作用／2022年3月／日本薬学会第142年会（名古屋）

LC-MSによるジオウ葉部成分の一斉分析法／2022年3月／日本薬学会第142年会（名古屋）

チョウジに含まれるメラニン合成促進成分とその作用機序／2022年3月／日本薬学会第142年会（名古屋）

シャルコー・マリー・トゥース病治療薬を志向した生薬成分の探索／2022年3月／日本薬学会第142年会（名古屋）

ホルモノネチンに対する特異的モノクローナル抗体の作製および間接競合ELISAへの応用／2022年3月／日本薬学会第142年会（名古屋）

カノコソウ（Valeriana fauriei）より得られた新規化合物の化学構造およびがん幹細胞に与える影響／2022年3月／日本薬学会第142年会（名古屋）

抗がん剤抵抗性の改善を目指した新規プレニル化フロログルシノールのHsp105阻害活性評価／2022年3月／日本薬学会第142年会（名古屋）

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2020年度科学研究費補助金 基盤研究B（分担）	文部科学省および日本学術振興会	令和2年度～令和5年度	1768万円
2021年度科学研究費補助金 若手研究（代表）	文部科学省および日本学術振興会	令和3年度～令和6年度	481万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
全学男女共同参画推進委員会	委員	委員会に参加した
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	5年生単位認定試験や週間試験のとりまとめを行った
薬学部CAI活用委員会	委員	化学（1年生）の問題入力や、5年生の試験（単位認定試験・週間試験）および実習中課題のとりまとめを行った
薬学部入試募集委員会	委員	猶興館高校での出張講義やオープンキャンパスの運営を行った
薬学部カリキュラム検討委員会	委員	新カリキュラムの検討を行った
薬学部薬用植物園運営委員会	主任	薬用植物の栽培および管理を行った

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
共同機器管理	管理担当	・MS装置のメンテナンス・管理担当およびトラブル発生時の対応、渉外など ・分取HPLC導入のための書類作成、機種選定、説明会の実施など

(3) 課外活動の指導等

①1年次 教養セミナーB 長崎県環境保健研究保健センターの引率/10月12日

②4年次 地域の期待に答える実践活動サポート/12月11日

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンキャンパスへの参加/7月24日，8月7日，8月21日

②猶興館高校 進路ガイダンス/2月6日

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①学内クリーンキャンパス運動への参加/5月25日、11月28日
②夏休みおもしろ科学教室 運営補助/7月29日、8月18日、19日
③「化学部会」及び「実験実習部会」研究集会の補助/9月16日
③ワクチン調整業務/11月3日、5日
④第39回 日本薬学会九州山口支部大会 運営補助 11月19、20日
⑤論文審査4件

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

①長崎国際大学 学長特別表彰（研究種目：若手研究）/4月1日
②長崎国際大学 ベストティーチャー表彰（ベストプラクティス部門）/7月7日

８．活動全般についての自己点検・評価

教育：基礎の化学C、化学演習Ｃ、生薬学Ⅱ、生薬学実習を中心に、丁寧な指導を行うことができた。今後も学生一人一人にきめ細やかな指導を心掛ける。今年度は前期・後期ともに補習に力を入れて取り組んだ。

研究：原著論文5報でうち筆頭著者の論文は1報であり、成果は不十分である。来年度は自身の研究に集中し、筆頭論文を3報以上提出することを目標にする。また、共同研究も推進していく。

全体：今年度は授業の他、補習なども多く、講義の準備時に間を要してしまった。今年度の授業アンケート（前期）はこれまでで最も悪い結果だったので、自身の授業を振り返り、来年度は改善する必要がある。また研究面では成果が不十分であることから、来年度は自身の研究に尽力するとともに、共同研究も積極的に進めていく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 川嵜　達也

1．教育理念

私の教育理念のキーワードは，1）知の融合・活用 2）数学アレルギーの脱感作 3）学生と授業を作る，である。

1. 学生が薬剤師に成長する上で，科学的思考力の修得は必須である。科学的思考の根底にあるのは自然科学の知識である。学生は種々の科目で日々知識を得ていくが，往々にして各知識間のつながりに気づかず，定着度が低く，活用の仕方がわからない。そのため，（動態と物化生，分析，衛生など）分野間のつながりを意識させることを重視している。また，コロナ禍で培われた非対面実習の経験を活かして，実験研究において知が如何に活用されているか，写真資料で示している。

2. 薬物動態学は，数学に立脚する学問であるが，薬学系の教科書は理論が省略されすぎており，式の暗記に陥りがちである。さりとて数学系の教科書は必要以上に理論が細かく数学に苦手意識を持つ学生が独学することは難しい。そこで，基礎と実学の良いとこ取りを提供し，教科書の行間・背後に隠れている数学的な物事の捉え方，考え方を身につけるために問題演習を実施している。

3. 理解度の様々な学生に対して講義するに当たり，薬学教育モデルコアカリキュラムに規定されている項目を最低限網羅するだけでなく，適宜内容の増減，反復が必要と考える。そこで，講義毎に理解度を確認するための小テストを実施するとともに，自由記述欄を設け講義への要望を記入してもらい，次回講義時にフィードバックしている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	23/0(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	23/0(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	30/0(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	30/3(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	30/3(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	23/1(通年)	1	97	①⑨⑩
総合演習Ⅰ	30/3(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	30/0(後期)	2	71	①⑨
薬物動態学	15/7(前期)	1.5	1	①⑧⑨
薬物動態学	15/7(前期)	1.5	109	①⑧⑨
臨床薬物代謝学	15/7(後期)	1.5	81	①⑧⑨
薬剤学実習	8/8(後期)	1	95	④⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	15/1(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

「薬物動態学」において，Q13. この授業に参加して満足できましたか？のスコアを昨年から0.5pt上昇させ，テキストマイニングで肯定14件を得た。

「臨床薬物代謝学」では，資料自体は良い評価を得たものの，学生の記入空欄が小さい点複数人から意見があったため，次年度に反映させることとした。

講義毎に講義に関する要望を自由記述させて適宜講義に反映し，授業評価アンケートで肯定的意見を得た。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
6年生総合演習ⅢA補習	1	7	5/27
4年生 総合演習Ⅰ 前期 補習	5	5	6/7, 14, 21, 7/5, 12
4年生 総合演習Ⅰ 後期 補習	1	1	9/27

３．研究活動

(1) 研究テーマ

・薬物トランスポーターの構造・機能・制御機構に関する研究
・トランスポーターを標的とする食品/薬物-薬物相互作用に関する研究
・蛍光色素を用いた薬物トランスポーターのリガンド探索に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Amiloride is a suitable fluorescent substrate for the study of the drug transporter human multidrug and toxin extrusion 1 (MATE1)／2022年2月／Biochem Biophys Res Commun／10.1016/j.bbrc.2022.01.014／共著／論文

Antidepressants induce toxicity in human placental BeWo cells／2022年5月／Curr Res Toxicol／10.1016/j.crtox.2022.100073／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ヒト胎盤細胞へ及ぼすファビピラビルの影響／2023年3月／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部図書選定委員会	委員	図書推薦した。
薬学部教務委員会	委員	総合演習科目を担当した。
薬学部国試･CBT対策委員会	委員	CBT模試および本試の実施，夏期勉強会（動態分野質問対応）を担当した。
薬学部CAI運用･活用委員会	委員	種々CAIを用いた試験の準備，実施を担当した。
薬学部入試募集委員会	委員	進学ガイダンスを2件担当した。 オープンキャンパスの保護者用資料準備，PC準備，来場者対応を担当した。
薬学部カリキュラム検討委員会	委員	薬学教育モデルコアカリキュラム改定に伴うカリキュラム検討に参画した。
薬学部RI施設管理委員会	委員	RI施設の保安業務を担当した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①長崎県高等学校理科教育研究会「化学部会」及び「実験実習部会」研究集会参加/2022年9月16日/場所:長崎国際大学
②聖和女子学院高校ガイダンス参加/2022年10月7日/場所: 聖和女子学院高校
③内部進学ガイダンス参加/2023年3月14日/場所: 長崎短期大学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	出席
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	出席
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	出席
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	出席
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

教育

①薬学部放射線化学実習見学･補助

②薬学部夏期勉強会参加/8月10-12日/MGレジデンス

③令和4年度薬剤学教科担当教員会議参加　（薬学部教授会にて報告）/8月26日/オンライン

④茶道教育受講/8月18，25日，9月1，5，8日/本学自明堂

⑤登録販売者試験合格/2023年1月18日

⑥実務実習先訪問/2023年3月15日/二葉薬局本郷

⑦第11回長崎国際大学薬学部生涯教育セミナー受講/2023年3月18日/オンライン

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

着任1年目である2022年度は，学生の薬物動態学を学ぶ上で基礎となる物化生の理解度を確認し，適宜授業に反映させ，授業評価アンケートにて一定の評価を得た。また，新設の薬物動態学研究室を運営する上で，薬学部棟L401教室の実験環境，S201薬物動態学研究室学生居室を整え，卒業研究指導体制を構築した。遺伝子組み換え実験等の承認を得て2023年1月より指導する卒業研究生と共に研究を開始し，共著論文2報，学会発表1件となった。競争的資金については，学内科研費申請書類学内添削会に参加し，科研費およびロッテ財団研究助成に応募するも獲得には至らなかった。

以上の点を踏まえて，2023年度は，授業評価アンケートの理解度に関する項目の成績向上（または学年間の基礎学力差を考慮し最低でも現状維持），科研費の獲得，1stまたはcorresponding author論文2報，　薬学会発表1件を目標とする。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 相田　美和

1．教育理念

確かな知識とホスピタリティの精神に基づいて、患者やその家族、他の医療従事者等と接することのできる薬剤師として、活躍できる人材の育成を願っている。担当科目は、環境や薬毒物の害から健康を守るために必要な領域であるので、人や動植物の安全な生活を考慮して行動できる医療人を育てたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数(開講時期等)	単位数	単位授与学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	なし
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	⑥
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	⑥
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	⑥
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	なし
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	なし
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	⑥⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	⑥⑪
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	⑥
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	②
裁判化学	15/15(前期)	1.5	94	②⑨
香粧品学	3/15(後期)	1.5	78	②
衛生薬学実習	7/7(前期)	1	92	②⑩⑪
毒性学	9/15(後期)	1.5	95	②
学際連携研究	1/15(前期)	2	218	②⑩

［大学院］

科目名	コマ数(開講時期等)	単位数	単位授与学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートの結果は、昨年度より向上しており、授業改善の一定の効果が見られた。

今後、成績下位層の学生が増加することが見込まれるため、それらの学生が理解できるような丁寧な授業をしていく必要がある。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数(開講時期等)	単位数等	単位授与学生数
歯科衛生士学院	組織発生学	10/10(通年)	1	30

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	2	2	2022/04/15，2022/06/10

3．研究活動

(1) 研究テーマ

気道における匂い成分の生理作用の解明を目指している。

匂い成分は鼻などの嗅覚神経細胞に発現する嗅覚受容体に認識されるとその情報が嗅球に送られて匂いとして感知される。揮発

性である匂い成分は吸気として呼吸器と接するが、呼吸器に異所性に発現する嗅覚受容体の働きは不明な点が多い。そこで、ヒト正常気道細胞株と発現する嗅覚受容体およびそのアゴニストを用いて、気道における匂い成分の嗅覚受容体を介した生理作用を解析している。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

気道上皮細胞におけるCinnamaldehydeの生理作用／2022/03/26／第142回日本薬学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（学部）	委員	6年生オリエンテーションの準備および進行を担当した。
国試・CBT対策委員会(学部)	委員	5年生総合演習Ⅱ単位認定試験の実施、6年生国家試験ツアーを担当した。
学内実習委員会(学部)	委員	学生実習の予算内実施および次年度の学内実習費の総予算削減に対応した。
研究倫理委員会(学部)	委員	研究倫理申請等の審査に参加し、国の法規則等の改正に伴う本学内規・申請書等の変更について対応した。
薬学部動物管理委員会（学部）	委員	特になし
日本薬学会九州山口支部大会準備委員会	会計幹事	日本薬学会九州山口支部大会事務局の会計幹事として、大会の予算管理・執行にあたった。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
佐世保市情報公開審査及び個人情報保護審議会	委員	令和1年11月10日～現在に至る	佐世保市長

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

［教育活動について］裁判化学、毒性学等の学科専門科目は、共用試験や国家試験でも通用するような教育を心掛けた。授業アンケートの満足度は向上したところは今年度の成果である。

［研究活動について］学生2名が学会発表できるところまでは実施できた。今後は、これを論文にできるまで引き続き研究を続ける。

［大学運営活動について］新型コロナ感染症に対しての特別な対応をしなければならなかった昨年度までと異なり、コロナ前と同様な対応で委員会活動をする機会が多かった。今後も時代の要請に合わせて柔軟に対応していく。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 髙崎　伸也

1．教育理念

医療人として高い人間性を備えた上で、高度な専門的知識を持ち、さらに知的好奇心を育てることで変貌する社会に対応するのに十分な専門的知識を生涯学び続ける意欲を持ち、他者との円滑なコミュニケーションを行うことができ、学んだ知識を存分に発揮することができ、これらにより社会に出てから直面する様々な課題を自己で解決していくことのできる人材を育てる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	なし
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①
総合演習Ⅰ	0/30(通年)	1	93	なし
総合演習Ⅰ	0/15(通年)	1	2	なし
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①
卒業研究（５年)	30/30(通年)	2	4	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年)	30/30(通年)	4	4	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	0/15(後期)	1	1	なし
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①
臨床医学概論	12/15(前期)	1.5	1	②⑪
基礎の数学	15/15(前期)	2	20	②⑪
臨床検査学	15/15(後期)	1.5	95	②⑪
臨床医学概論	12/15(前期)	1.5	112	②⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	②⑪
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	②⑪
臨床生理学実習	7/7(後期)	1	95	①②③⑩
学際連携研究	1/15(前期)	2	218	⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
臨床病態検査学特論	1/15(後期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと（双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り）が良い評価につながっていると考えられ満足している。結果、前期後期ともに、アンケート結果も4.6-4.9とかなりの高評価で落ち着いており、現状のスタイルでよいと考えている。

また、今年度は新型コロナウイルスから回復しつつある状態にあり、講義形式をオンライン形式から対面形式のハイブリッドのような形式に変えざるを得なかったがうまく対応できた。

大きな変化ではなく完成度を高めることで、さらなる向上を目指したいと考える。自由記述の結果や、今回の結果では表れていないようだが、おそらく学生にとっては、量や内容、試験スタイル(過去問非公開)をハードルが高い面もあると受け取る学生もいると思われるが、それが学生にとって必要なことであることを伝える努力をよりしていこうと思う。毎講義の自学学習の量が少ないようだが、、試験結果から習熟度は十分と判断できるため、宿題などを課すことで学生の負担を増加させすぎることが懸念されるためしないこととする。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
九州文化学園歯科衛生士学院	生理学(1年生)	15/15(後期)	2	36
九州文化学園歯科衛生士学院	生理学国試対策演習(3年生)	2/2(後期)	2	36

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA(6年留年性)	1	5	2022年4月22日
総合演習Ⅰ(4年生)	3	93	2022年9月29日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

出芽酵母を用いた液-液相分離現象の解明および治療への応用

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

出芽酵母における熱耐性を有する天然変性タンパク質の探索／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

出芽酵母のStm1タンパク質は天然変性タンパク質であり液滴を形成できる／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
国試・CBT対策委員会(薬学科)	幹部委員	学内単位認定試験の総括、編集、実施、解析
学生委員会(薬学科)	委員	保護者会、卒業式、学長カフェなどの運営を行った。
国際交流委員会(全学)	委員	国際交流に関わる内容の決定、学際の弁論大会の運営を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

全てのオープンキャンパスに参加し広報活動を行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

・大学外の講義を受託し、社会貢献した。

・薬剤師として、新型コロナワクチンの調製を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
留学生弁論大会	弁論大会に参加し採点等行った	2022年10月	長崎国際大学国際交流委員会

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

薬学部の数学の入試問題の作成および採点を行った。

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面では、学習の意欲の向上や集中力の持続を目指し、赴任してから持続している3つのこと（双方向の講義スタイル,タイミングを見計らった息抜き、視覚的にうったえかける分かりやすい資料作り）が良い評価につながっていると考えられ満足している。結果、前期後期ともに、アンケート結果も4.6-4.9と今までで一番の高評価を得ることができた。現状のスタイルでよいと考

えている。また、専門でない科目の基礎の数学などの担当も取り組み問題なく行うことができた。他大学での講義も高評価を得ることができている。研究面では新たに立ち上げた研究分野で多くの結果を出すことができ、自身及び指導した学生3名の学会発表を行うことができた。また、大学運営では、薬学国試対策、学生委員会、入試作問、国際交流委員会など多岐に渡り貢献できた。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 出口　雄也

１．教育理念

私の教育理念は、授業を通して学生が基礎的な知識を修得することはもちろんのこと、授業内容に興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を持たせることを重視している。授業内容に興味を持ってもらう動機付けとして、まずは私個人に興味をもってもらうことを意識している。授業内外での私との接触を通して学生との信頼関係を築きつつ、共に学んでいく環境を作ることを意識しており、意見交換を通して世の中の諸問題に「気付かせる」こと、そして興味を持って「自ら考える」ことを目指している。その際、情報を得る必要があるが、様々な情報に溢れている昨今、有用な情報を選択できる能力をつけさせることも重要である。卒業後、患者さんに情報提供する際にも、溢れる情報に流されるのではなく、学んだ知識や学び続けて得た知識からできるだけ正しく判断して、その情報を提供することが求められる。そのため、成績評価では定期試験に加えてレポートを評価の対象とした科目も用意している。レポート作成を通して、薬学部のディプロマ・ポリシーの「（２）情報収集、分析力」に掲げている「有用な科学的データを選択し、自ら論理的に思考・判断できる」の能力の獲得にも貢献していると考えている。なお、レポートを課す科目においては、そのフィードバックを授業内に実施することで、他学生の意見を知り広い視野を持たせることも意識している。授業内での学生との意見交換は、学生のコミュニケーション能力の向上に加え、本学の建学の理念にもある「よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現」にもつながると信じている。上記を通して、医療薬学分野で実践的に活動できる薬剤師になれると考えている。

２．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	⑪
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	なし
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	なし
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	⑪
総合演習Ⅰ	0/45(通年)	1	2	なし
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	なし
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	⑥⑪
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	5	⑥⑪
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	なし
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	⑪
地球環境論	15/15(前期)	2	84	①③⑧⑩⑫
臨床栄養学	15/15(前期)	1.5	91	①②⑩⑫
食品機能学	10/15(前期)	1.5	92	①②③⑧⑨
衛生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	109	①②③
物理化学実習	21/21(前期)	1	92	①④⑧⑩
衛生薬学実習	15/21(前期)	1	92	①②④⑤⑦⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	2/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

学科専門科目についてはコロナ禍以降の対面授業となってからは、昨年に引き続き高い評価が得られていることからも、対面授業が望ましいと実感している。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎短期大学	公衆衛生学	15/15(後期)	2	21
歯科衛生士学院	衛生学・公衆衛生学	15/15(後期)	2	29
調理師専門学校	食生活と健康	13/15(前期)	2	12
調理師専門学校	食生活と健康	15/18(後期)	2	13

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ（4留）	1	5	2022年7月8日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①食品関連物質の分析に関する研究

②大気浮遊粉塵中の生物由来物質濃度の季節変動と喘息発作の関連に関する研究

③錠剤型食品の崩壊性に関する研究

④アスパルテームの安定性に及ぼす因子ならびに分解物に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	0	1	1	9万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Mechanisms and safety of antidepressant-like effect of nutmeg in mice／2022年6月／Biol. Pharm. Bull., 45(6)／738-742／共著／論文

Genotoxicity of 2-[2-(acetylamino)-4-[bis(2-hydroxyethyl)amino]-5-methoxyphenyl]-5-amino-7-bromo-4-chloro-2H-benzotriazole (PBTA-6) in zebrafish (Danio rerio) using the comet assay and the micronucleus test／2022年11月／Fundam. Toxicol. Sci., 9(6)／173-178／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
玄米の加工工程の違いがLPSの低減に及ぼす影響に関する研究	株式会社発芽玄米	2022年11月～2023年3月	9万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
ハラスメント対策委員会（全学）	委員	薬学部の代表として会議に出席した
教務委員会（薬学）	委員	教養セミナーBにおいて「地域包括ケアシステムにおける薬剤師の事例集」について進行と取りまとめを行った
国試・CBT対策委員会（薬学）	委員	6年生の週間試験の取りまとめ、夏期及び冬期勉強会の実施を担当した
CBT実施委員会（薬学）	委員	体験受験、本試験にあたり、PC管理者として準備、実施を担当した
就職委員会（薬学）	委員	就職説明会において、低学年向けのセミナーを担当した

生涯学習・教育委員会（薬学）	委員	メール会議に参加した

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
カリキュラム検討委員会	委員	令和6年度から適用される「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」に対し、衛生系の担当として会議に出席した

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

めざせ水の薬学博士／薬学部広報委員会主催／2022年10月29日／実験指導

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
サイエンス広場で遊ぼう！	1月29日	佐世保市少年科学館	佐世保市教育委員会

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

卒業生から家電、家具を87点無料で回収し、新入生に無料で譲渡する抽選会を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

今年度は夏期に論文の執筆、投稿を行うことができ、掲載に至った。また、当初は年度初めは困難と思われていた共同研究を開始することもできた。ただし、赴任して以降、学会発表が0件であったことは初めてであり、反省点である。

今年度も卒業生から家電・家具を無料で回収し、新入生に無料で譲渡する事業を抽選会という形で実施した。昨年と比べて規模を縮小し、リユース市でなく抽選会のみという形で実施することで、予算のない中で何とか終えることができた。この形で継続事業として進めていきたいと考えている。

昨年度の地球環境論の受講者で、リユース市にも協力してくれた国際観光学科の田口くんが、エコ検定を受験して合格した。他学科の学生ではあるが、在学中に環境に興味を持ち、資格試験の受験という行動力につながったこと、さらに合格できたことに大変うれしく思う。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 縄田　陽子

1．教育理念

講義では、①解りやすく興味を引く授業、②薬学共用試験・国家試験を想定した授業、および③卒業後も記憶に残る授業の3点を心掛ける。

（実践内容）

講義は教科書に加え複数の参考書から解りやすいものを抜粋した図や表を用いてのパワーポイントにて行う。講義での配布資料は一部書き込み形式とし、学生の講義に対する意欲を促す。また、説明では臨床で頻用される薬物を中心に学生に薬理学を理論的に理解させ、学習への意欲を促す工夫をする。さらに、国家試験を低学年次より意識できるよう、講義内容に関連する国家試験問題を配布しポイントを明確にする。また、一連の講義の中で適宜レポートを課し、短時間でも発表する機会を設けたい。このように参加型の講義にすることで学生に講義内容を印象付け、卒業後も記憶に残る授業となる事が期待できる。医療の現場での薬剤師としての発言・処方提案や患者への薬剤指導は、薬理学の知識がベースにあってこそ内容に重みが増し、良好な人間関係あるいは信頼関係を築く助けになると考えている。国家試験に合格させるだけの講義ではなく、医療の現場で活用できる講義を目指したい。

学生実習は、①講義で学んだ薬理学の知識が定着すること、②実習を通して新薬開発の一端を学ぶこと、および③実習結果をまとめ、発表する力を身に着けることに視点を置き実施する。

（実践内容）

実習書は薬理学実習を初めて経験する学生が容易に理解できること、また実習書を参考にして容易に実験を遂行できる内容で作成する。実習当日の説明では、理解が難しいと想定される箇所を中心に、図や表を用いた説明を行い学生の理解が深まる工夫をする。学生に課すレポートでは、結果の考察に加えて関連する国家試験問題を課題として与え、学生が実習内容と国家試験とのつながりを意識できるものにする。実習後のレポート作成では、実験結果を単にまとめるのではなく、実際に得られた結果と理論的な結果との相違について考察させ、問題解決能力を養う。また、実験結果の発表ではパワーポイントを使った発表を指導し、プレゼンテーション能力を養いたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	⑧⑨
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	⑧⑨
総合演習ⅢＢ	2/30(前期)	2	16	⑧⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）	9/15(前期)	1.5	5	②③⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	⑧⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	⑧⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	⑧⑨
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	4	①②⑤⑥
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	4	①②⑤⑥
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	⑧⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	⑧⑨
薬理学Ⅳ（中枢）	15/15(後期)	1.5	1	②③⑨⑩
ホスピタリティ演習Ⅱ	10/10(前期)	0.5	80	②④⑤⑥⑦⑩
薬理学Ⅲ（末梢-2）	9/15(前期)	1.5	88	②③⑧⑨
総合実習	6/19(後期)	1	106	⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	5	②④⑤⑥⑩
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	5	②④⑤⑥⑦⑩
専門基礎学習Ⅱ	10/10(通年)	0.5	95	⑧⑨
調剤Ⅰ	15/37(前期)	2	105	⑪
調剤Ⅱ	0/31(前期)	2	105	⑪

薬理学実習	25/25(後期)	1	96	④⑤⑩
薬理学Ⅳ（中枢）	15/15(後期)	1.5	95	②③⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
処方設計学特論	4/15(前期)	2	4

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

主要担当科目である薬理学Ⅳについて記載する。

本科目の授業評価アンケートに記載の学生からのコメントでは配布用講義資料および授業進行について学生目線に立った内容を提供出来てきていると感じた。一方で定期試験では、本試験の平均点が60点台と例年より引くかった。今後は、成績の底上げと、再履修者に対していかに理解を促していくかに重点を置き、講義資料の作成および授業を提供していく予定である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅱ	1	97	12/1
総合演習Ⅰ	2	96	6/16、10/19

３．研究活動

(1) 研究テーマ

脳内エンドカンナビノイドの機能解明および神経精神疾患治療薬への応用

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	2	2	420万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

カンナビノイドCB1受容体遺伝子欠損マウスにおける社会性行動の低下／2022年11月／第39回日本薬学会九州山口支部大会

Low serum oxytocin levels and autism spectrum disorder-like behaviors in mice lacking the cannabinoid CB1 receptors／2022年12月／第96回日本薬理学会年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
令和４年度研究助成金	公益財団法人山口記念科学振興	2022年6月～2023年6月	100万円
科学研究費助成事業（若手研究）	日本学術振興会	2020年4月　～2024年3月	320万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
動物実験委員会	委員	動物実験室運営・管理

国試・CBT対策委員会（薬学）	委員	総合演習Ⅲ試験編集
生涯学習委員会（薬学）	委員	生涯学習セミナーの企画・開催
教務委員会（薬学）	委員	３年生学年主任
カリキュラム検討委員会（薬学）	委員	５次カリキュラムの検討

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
2	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
日薬研究シラバスに基づく研修会ー Ⅱ）医療薬学的知識と技能　１．薬理学と最近の進歩（３）	2022年4月15日	長崎県薬剤師会館	長崎県薬剤師会
九州文化学園における理科教育の早期啓蒙と地域への貢献「あなたは大丈夫？心と体を蝕むネット依存から身を守ろう！」	2022年12月20日	九州文化学園高等学校	学長裁量経費

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

特許出願

国際出願　PCT/JP2022/ 14847（令和4年3月28日出願）
（日本ケミファ株式会社との共同研究）

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

1. 教育活動について

レポートや課題を用い学生の興味・理解を促す工夫を施した。

２．研究活動について

本年度は、外部資金獲得よおび学会発表において研究活動を前進させることができた。また、製薬企業との共同研究では、１件の国際特許出願が達成できた。一方で、成果発表としての論文投稿が叶わなかったことから、次年度は論文受理を第一目標に掲げ研究活動を進めたい。

３．大学運営活動、社会活動および国際交流について

大学運営活動では、昨年度同様に貢献できたと考えている。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 藤本　京子

1．教育理念

薬学とは、物理・化学・生物学を基礎に多分野にまたがる学問である。それゆえ、広い視野を持って総合的に物事を判断できる薬の科学者を育成することを目標とする。私が担当している生化学系の科目は、低学年開講であるが故、医療分野とのつながりが意識できていない学生が少なからず存在している。そのため、本授業では自分自身を構成している細胞と食べることの重要性を説き、細胞から組織、細胞から個体、恒常性の破綻から疾病につながることを連想できるような構成にしている。考える視点をミクロからマクロにマクロからミクロに自由自在に変換できる人材の育成を目指している。

勉学だけに限らず、他人の気持ちを汲み取ることができる人間尊重の理念も身に付けてもらいたい。そのために、授業中でわからない所がある学生には、学生同士で教え合う事、理解したことを共有する事をアクティブラーニングの時間に実践している。これらのことを通して、6年後には常に探究心をもち、学識と医療倫理を兼ね備え、人々や地域社会に貢献できる人材を育成することを教育理念として掲げる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
生化学Ⅲ	7/15(前期)	1.5	2	①⑨⑩⑪
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	60/60(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
生化学Ⅰ	15/15(後期)	1.5	1	①⑨⑩⑪
機能形態・生化学演習	2/10(後期)	0.5	1	①②⑨⑪
生化学Ⅲ	7/15(前期)	1.5	109	①⑨⑩⑪
分子細胞生化学演習	3/10(後期)	0.5	70	②④⑨
機能形態・生化学演習	2/10(後期)	0.5	81	①②⑨⑪
機能形態・生化学演習	2/10(後期)	0.5	23	①②⑨⑪
教養セミナーＡ	15/15(前期)	1	6	①⑥⑦⑧⑩⑪⑫
教養セミナーＢ	15/15(後期)	1	6	⑥⑦⑪
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠＢ	7/15(後期)	1	100	②④⑪
生化学実習	4/15(後期)	1	112	①②④⑪⑫
微生物学・免疫学実習	2/15(前期)	1	93	①④⑤⑩
生化学Ⅰ	7/15(後期)	1.5	97	①⑩⑪⑫

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
特別研究	45/45(通年)	12	1

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートは、【前期】2年生生化学Ⅲ、教養セミナーA、【後期】1年生生化学Ⅰに関して実施した。満足度に関するアン

ケート結果は、4.7（生化学Ⅲ）と4.6（生化学Ⅰ）でどちらも学内平均より高い結果を得た。100人を超える人数で授業を行っていると、授業中に重要な点を何度も言っているが、一定数の学生の耳には届いていないことが多々ある。そのため、授業後には毎回動画をアップし、次回の授業時には再度同じことを伝えるようにしていた。1年生に関しては、授業外に補習も行い理解度を図るようにしていた。

全国的に学力の低下傾向が見られるので、このような学生にいかに知的好奇心を芽生えさせるのかが今後の重要課題である。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学校	栄養生化学	15/15(通年)	1	16

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	99	2022年4月18日
総合演習Ⅰ	2	105	2022年6月9日、10月7日
生化学Ⅰ補習	4	25	2022年10月5日、12月21日、2023年1月11日、1月18日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①　乳酸菌生産物質の有用作用に関する研究

バイオジェニックス食品としてのPS-B1（乳酸菌等による発酵食品）のさまざまな効果に関する研究を行っている。腸内細菌叢は100兆から1000兆の数が存在しており、共生者に様々な影響を及ぼしている。腸内細菌叢が産生する低分子化合物は、腸管を通じ、直接的に我々の細胞内代謝へ影響していることが明らかとなっており、それらの効果を実証している。腸内細菌叢の中でも特に乳酸菌が産生する物質に着目し、健康状態への影響や肥満、がんへの効果について研究を進めている。

②　腸管腫瘍発生に関与する遺伝子群の同定

個人差と疾患の多様性に関する分子的背景を明らかにする一歩として、ヒト大腸がんモデルマウスの解析により、腫瘍の増大化に関与する因子を探索している。包括的遺伝子発現解析により得られた実行因子候補をクローニングし、それぞれの機能解析を行っている。特に、正常部位と比較して腫瘍細胞内で高発現していた遺伝子群と、有意に発現が減少していた遺伝子群に着目し、それらの機能解析を行っている。がん促進関連遺伝子なら、それらの発現を阻害することで腸管腫瘍サイズの増大化を抑制できる可能性がある。多くの場合、腫瘍サイズと悪性度は比例関係を示しているので、腫瘍サイズの増大化を抑制することは、転移浸潤を抑えることにつながり、医療に大きく貢献できると考えている。

③　腫瘍細胞における脂質の役割

腸管腫瘍において腫瘍部位と正常部位の遺伝子発現を比較すると、脂質運搬に関連する遺伝子群の著しい発現低下が見られた。また、腫瘍部位の一部には細胞内に油滴を多く蓄積している細胞があり、これらが意味することについて追及をしている。脂質と大腸がんについてての関りは、非常に深く、また高脂肪食は腸管内の腸内細菌叢の破綻を容易に招くことから、高脂肪食が大腸がんに与える影響について調べている。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

ApcMin/+マウスの腸管腫瘍におけるTff2遺伝子の役割／2022年7月／がん予防学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学図書	委員	必要図書の計上を行った
薬学教務	委員	薬剤師国家試験出題範囲と専門科目授業との照らし合わせや、入学時プレイスメントテスト、オリエンテーションの準備などを行った。
薬学CBT実施	委員	CBT試験の試験監督業務を行った。試験は、委員長の指導のもと大きなトラブルもな滞りなく行われた。
薬学入試募集	委員	オープンキャンパス準備や高校訪問、大学模擬授業などを行った。
ハラスメント相談員	委員	薬学部内でのトラブルに関して、相談窓口となり、委員会への早急な報告、引継などを行った。
薬学実習（学内）	委員	学内実習に関して、実習室内の整理整頓や実習費必要経費計上などを行った。
薬学動物室管理	委員	動物室の円滑な管理運営に努めた。また、動物実験に関する規定の見直しを行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

学長裁量経費に採択された理科教育啓蒙活動の一貫として、九州文化学園高等学校で模擬実習を行った。講義は倉岡先生と縄田先生が、スポーツコースとアカデミックコースそれぞれに分かれて行い、両コースとも実習は同じものを行った。タンパク質の組成を学び、受容体の役割、受容体から脳が刺激を感じる仕組みを味覚を例に実習を行った。理系進学とともに、薬学部への進学者が増えてくれるよう努めた。

また、高大連携として長崎の海星高校で模擬授業を行った。生物系、化学系、物理系、臨床系、実務の分野の教員がそれぞれ高校で授業を行い、「がん」をテーマに病気の成り立ちから薬の開発、薬剤師としての役割がつながるような講義を展開した。

入試募集として、聖和女学院高等学校と八幡高校で出張講義を行った。大学模擬講義として、本学2年生で実施している生化学実習の内容を学内の写真を多く見せながら説明した。進路選択の一つに薬学部や長崎国際大学が入るように、大学紹介も行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

持続可能な開発目標の一環として「あらゆる形態の貧困の解消」「飢餓の解消」「質の高い教育の完全普及と生涯にわたって学習できる機会の向上」を目指して活動している国際協力NGO団体に賛同し、5月と11月に寄付を行った。

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

ハラスメント相談員や担任、研究室責任者として学生や教員から相談を受けることが多かったので、傾聴する姿勢を学ぶために、心理カウンセリングの講座を受講した。話を聞く側の姿勢で、得られる情報量が変わってくることを学び、相手に敬意を払いながら言葉を引き出す術を学んだ。民間資格ではあるが、上級心理カウンセラーを取得したので、今後の対応に生かしていきたい。

７．受賞等

和田守正先生との連名にて、特許第7184373号　生体外での腸管腫瘍の検査方法を令和4年11月に取得することができた。

８．活動全般についての自己点検・評価

昨年度に比べコロナ対応による遠隔授業は減り、対面授業が増えた。しかし、授業はすべて録画し、Youtubeにアップロードすることでいつでも復習できるように配慮した。次年度からは、全面的にコロナ前の対応と同じになるので、動画配信はやめることになるが近年の学力低下に不安を感じる部分もあり、臨機応変に対応していきたい。薬学部として、1年生の成績不振者には補講を行っていたが、出席に関する強制力がないため全く出席しない学生も多くいた。また、補習は通常授業の後に設定されるため、帰りの電車の時間について不満を言ってくる学生もいた。次年度は、このような学生にも参加を促すように大学で学ぶことの優先順位をしっかりと伝えていかなければいけないと感じた。

委員会活動は、入試募集として感染対策をしながら海星高校、聖和女学院高校、九文高校、八幡高校などを訪れた。海星高校は高大連携事業として基礎科目から臨床へのつながりを意識してもらう取り組みを実施したが、台風のため予定していた順番通りには進めることができず残念だった。入学を検討してもらうためには、次年度以降も継続して行っていくことが重要だと考える。

研究活動に関しては、乳酸菌生産物質が腸管腫瘍に与える影響について調べた。乳酸菌生産物質は、代謝改善やコレステロール値の低下などをもたらすが、それに反してApc遺伝子に欠損があるマウスでは腸管腫瘍は増加する傾向となった。詳細は、次年度以降解析していく。次年度は、もっと研究や学生とのディスカッションに費やす時間を増やしていくよう努める。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 講師　　氏名 吉田　達貞

1．教育理念

私の教育理念は、共用試験や国家試験に合格するために必要な物理化学や統計学の知識を学生に教育するだけでなく、薬を中心に据えた生命現象の不思議さ、複雑さ、面白さを物理化学的観点や統計学的アプローチを用いて論理的に考察することができ、医療・保健・福祉の担い手の一員として次世代を先導していく薬剤師・薬学人を育成することです。よって、担当の授業では、（１）薬学を理解する上で必須となる基礎的な物理化学の概念や原理に基づき広範な生命化学の現象を理解する能力を修得すること、（２）医療や生命現象の膨大な実データをコンピュータを活用した統計論や確率論に基づき体系的かつ客観的に整理、分析し、共通原理や規則性を見抜く能力を修得することを重視します。薬剤師が担う医療業務は言うまでもなく全て科学的根拠に基づくものであり、現実の臨床や医薬品開発の現場では、これまでに経験したことが無いような問題にも取り組み、独自の答えを与える力が要求されます。したがって、学部の低学年から論理的かつ厳密な思考能力を養う訓練を重ねることは、医療現場で冷静に問題を処理・解決するために不可欠であり、卒業後の将来に亘って大きな財産になるものと信じています。そのため、授業では学生には単なる公式の丸暗記ではなく、その背景にある科学的根拠や理論を辛抱強くじっくりと理解することの大切さを学んで頂きたいと考えています。その手助けをすることが私の教育の責任です。何よりも寄り添い型の授業展開を心掛け、学生との信頼関係を築くことで、一人でも多くの学習意欲を高く維持することに努めて参ります。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
薬学統計学	15/15(前期)	1.5	1	①②⑨⑩
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①⑨⑩
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①⑨⑩
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
卒業研究（５年）	30/30(通年)	2	3	④⑤⑥⑪⑫
卒業研究（６年）	30/30(通年)	4	3	④⑤⑥⑪⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①⑨⑩
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
宇宙と薬学	15/15(前期)	1.5	4	②③⑨
物理学演習	12/12(後期)	0.5	24	②③⑨
基礎の物理学	15/15(前期)	2	22	②③⑨
物理化学実習	7/7(前期)	1	92	①④⑧⑩
薬学統計学	15/15(前期)	1.5	114	①②⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
薬物療法・リスク評価学演習	1/15(前期)	2	5

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

オムニバスを除いた担当科目に関する授業アンケートの結果、概ね好評価を得ることができました（宇宙と薬学：満足度5.0，理解度5.0、薬学統計学：4.7，4.8、基礎の物理学：4.2，4.6、物理学演習：4.2，4.7）。しかし、これらの両項目の評価と演習問題や試験内容の難易度とは、少なからずの逆 相関あるいはトレードオフの関係があるものと認識しています。もう少し難易度を高く設定した上で今年度の評価を維持・上回ることができるように努めて参ります。今年度も受講者の若干名が単位を取得することができなかったことが非常に残念でなりません。次年度も今年度の講義動画の主要部分を抜粋したものを予習教材として反転学習的にmanabaで事前公開し、学生に供して参ります。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
長崎県立大学	統計学	15/15(後期)	2	147

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
基礎の物理学【薬A～C】の補習	2	27	2022/4/18, 4/25
基礎の物理学【薬A】の補習	11	9	2022/5/23, 5/30, 6/6, 6/13, 6/20, 6/27, 7/4, 7/11, 7/18, 7/25, 8/17
物理学演習【薬A】の補習	1	3	2022/12/7
総合演習Ⅰの補習	3	112	2022年前期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

分子科学計算を用いた医薬品及び生体関連分子の活性・機能発現メカニズムの精密解析

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	4	1	1	286万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Azaphilones produced by Penicillium maximae with their cell death-inducing activity on Adriamycin-treated cancer cell／2023年1月／Genes and Environment, vol. 45(1)／10.1186/s41021-023-00261-w／共著／論文

Anti-Proliferative Effects of Iridoids from Valeriana fauriei on Cancer Stem Cells／2022年11月／International journal of molecular sciences, vol. 23(22)／10.3390/ijms232214206／共著／論文

Chemical structures and induction of cell death via heat shock protein inhibition of the prenylated phloroglucinol derivatives isolated from Hypericum erectum／2022年1月／Fitoterapia, vol. 156／10.1016/j.fitote.2021.105097／共著／論文

Syntheses of novel pyridine-based low-molecular-weight luminogens possessing aggregation-induced emission enhancement (AIEE) properties／2022年5月／Beilstein journal of organic chemistry, vol. 18／10.3762/bjoc.18.60／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

AIEE性をもつピリジン－マレイミド誘導体の蛍光特性と構造解析／2022年7月2日／第59回化学関連支部合同九州大会

MDおよびFMO計算に基づくMytiLec-1の糖鎖結合認識および二量体形成メカニズムの解析／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

ドッキングおよびMD計算を用いたMytiLec-1の二量体形成阻害剤のスクリーニング／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

分子動力学計算を用いたウシガエル卵由来レクチンcSBLの糖鎖結合認識メカニズムの解析／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費補助金・基盤研究（C） 継続	日本学術振興会	2021年4月～2024年3月	286万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
IRセンター会議	委員	卒業生アンケート、大学IRコンソーシアム主催の「新入生・上級生調査」の実施に協力し、その集計結果より、学部内における課題の抽出と対策の提案を行った。
教育基盤センター運営委員会	委員	2022年度教育基盤センター紀要にIRセンター部門として薬学部の状況報告を行った。
CAI運用・活用委員会（学科）	委員長	国家試験およびCBT対策としてCAIシステムの運用と整備に従事した。1年生向けのリメディアル科目の登録問題数を815問まで拡充した。従前どおりに週 間試験および単位認定試験問題の追加登録も進めた。各学年の学内CAI試験（全45回+付随の追試験）の準備とその円滑な実施に努めるとともに、長期休みや実務実習中の課題、留年生向けの課題等の管理を行った。また、年間を通してメールでの疑義照会の受付に対応した。
国試・CBT対策委員会（学科）	委員	4～6年生の各総合演習において、CAIを用いた単位認定試験および週間試験の準備と円滑な実施、成績集計・解析による今後の動向予測を担当した。
CBT実施委員会（学科）	委員	本学のCBT体験受験、本試験、再試験（本年度は未実施）において、管理者として試験の厳正かつ円滑な実施に従事した。
入学前・初年次教育委員会（学科）	委員	物理・数学系の担当として、入学者の教育教材の選定ならびに入学前教育の一環として課題の添削・フィードバック指導等を行った。
図書選定委員会（学科）	委員	専門研究分野の計算科学、情報科学分野に関連した図書選定に携わった。
教務委員会（学科）	委員	入学式後、新入生に対するmanabaおよび生涯メールの設定補助に従事した。
カリキュラム検討委員会（学科）	委員	薬学部5次カリキュラムの作成にあたって、物理系担当として関連分野の教員から意見を吸い上げ、委員会に上程した。
薬学部内LAN受付担当（学科）	委員	新任教員の先生方のPCおよびネットワーク設定のサポートに従事した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学教育協議会・物理化学系教科担当教員会議	委員	2023年3月26日に開催された会議にオンラインZoomで出席し、薬学モデルコアカリキュラムの改定に伴った、薬剤師に求められる資質・能力の育成に向けたカリキュラムの在り方について検討した。

(3) 課外活動の指導等

①日本薬学会第143年会（札幌／2023年3月27日）における研究成果のポスター発表を所属研究室5年生3名に対して指導

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①オープンキャンパス参加/2022年7月24日、2022年8月7日、2022年8月21日、2023年3月19日/本学

②集まれ！理科好き小中学生！夏休みおもしろ科学教室（代表・宇都拓洋准教授）の開催/2022年7月29日、2022年8月18日、2022年8月19日/本学

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席

2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	1

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
日本薬学会構造活性層幹部会	幹事	2011年度～現在に至る	日本薬学会構造活性相関部会

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

学内クリーンキャンパス運動に参加／2022年5月25日、2022年12月15日

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学　学長特別表彰

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動：　今年度より初めて開講する大学院講義もありましたが、担当の学部講義の授業アンケートの結果は概ね満足のいくものでした。研究室配属の6年生2名が無事に国家試験に合格し、第一希望先に薬剤師として就職できたことに安堵いたしました。その一方で、卒業延期となった6年生1名については、教育支援センターの先生方のご指導・ご協力のもと卒業まで継続して学修サポートをして参りたいと思います。研究室配属の5年生2名が今年度の成績向上が認められ学業奨励賞を受賞したことも次年度のやりがいに繋がりました。マルチバレントな薬剤師の排出のためにも、国家試験のための勉強だけではなく、その上に拡がる薬学研究の面白味や奥深さを卒業研究を通してこれまで以上に伝えて参りたいと思います。

研究活動：　外部資金を獲得することができているため、実験機器を新規に導入することができました。これを活用し、来年度はさらに研究を発展させて参りたいと思います。科研費以外の外部資金の申請にも関連分野の公募があれば、より積極的に挑戦して参りたいと思います。

大学運営活動：　CAI運用・活用委員会委員長を拝命し3年が経過しました。今年度も周囲の先生方の的確なご助言と献身的なサポートのおかげで大きなトラブル等なく全45回の学内CAI試験とそれらに付随する追試験を終えることができました。昨年度の反省から、委員会全体として業務内容を共有化、業務配分を適正化することで、若手委員の育成にも貢献できたものと思います。来年度は今年度よりさらに11回増の学内CAI試験が予定されておりますので、委員長をすることがあれば、業務の効率化に努めて参ります。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 大神　正次

1．教育理念

私の教育理念は、「自発的・積極的に学び、自身で考えて判断することのできる学生の育成」である。

よって、授業では授業中の発言や質問、少人数での討論、相互の教え合い学習など積極的な授業参加を重視している。学生には、答えをただ丸暗記するのではなく、「なぜそうなるのか」、「そのように考えた根拠は何なのか」、「別の場合だったらどうなるのか」など、正解を導き出すための考え方や理論的な思考法を学びながら習得して欲しい。高校までの受け身の学習姿勢を脱却し、自分自身の頭で考えて問題を解決する能力を習得して欲しいと考えている。そのために、アクティブラーニングを主体とした課題解決型の授業方法を導入し、学生自らが考えてアウトプットができる習慣を身につけさせたいと考えている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	なし
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	5	①⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(前期)	2	16	①⑨
総合演習Ⅰ	3/45(通年)	1	93	①⑨
総合演習Ⅰ	3/45(通年)	1	2	①⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	なし
総合演習Ⅰ	3/45(後期)	1	1	①⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	なし
基礎の化学	15/15(前期)	2	57	①②③⑥⑨
放射線医療学	1/15(前期)	1.5	112	①②③
化学演習	10/10(前期)	0.5	57	①②③④⑨
有機薬化学実習	21/21(後期)	1	112	①②④
分析化学・放射線化学実習	27/27(前期)	1	114	①②③④⑤⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

前期の1年生科目「基礎の化学」「化学演習」では高い満足度および理解度を得られている。主体的に考えることを促し、manabaやResponを活用して理解度を確認したり双方向性の高い授業をするよう心掛けている。今年度後期は総合演習Ⅰ（4年生）で授業アンケートを実施した。満足度や理解度の項目は全体平均と比較してやや低い値となってしまったが、自由記述欄では概ね肯定的なコメントが多く得られている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習IIIAの補習	1	91	2022年4月14日
総合演習Iの補習	2	96	2022年5月30日、10月18日
化学演習の補習	13	29	2022年4/22, 5/6, 5/11, 5/20, 5/27, 6/1, 6/10, 6/15, 7/1, 7/6, 7/15, 8/17, 8/17

３．研究活動

(1) 研究テーマ

薬学教育における学修支援の在り方についての探索的研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	0	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

なし

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
放射線障害予防委員会	委員	放射性物質を取り扱うために必要な記録およびその管理、教育訓練および健康診断の実施と記録管理など
国試・CBT対策委員会（薬）	委員	4年次留年生の前期週間試験CAI問題の設定管理と結果解析
CAI運用・活用委員会（薬）	委員	4年次留年生の前期週間試験CAI問題の設定管理と結果解析、低学年次におけるCAI利用の促進
教育支援センター運営委員会（薬）	委員	留年生の学習サポート、面談の実施、モチベーションアップ講座の開催
入学前・初年次教育委員会	委員	入学前教育課題（化学）の採点およびオンラインスクーリングでも模擬授業実施、1年生補習アンケートの集計と解析
教育支援センター：SA	管理担当	SA学生及びSS学生の募集、管理とりまとめ

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
RI施設管理	放射線取扱主任者、安全管理担当者、施設管理担当者	放射線源の安全使用に関する管理、管理区域に立ち入る者の入退域管理、放射線被ばく及び放射線汚染の管理、並びに放射線取扱施設の点検等に関する業務全般

(3) 課外活動の指導等

薬学サッカー部　顧問兼監督

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

オープンキャンパス参加

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外

2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	出席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

2022年8月29日　九州地域エネルギー施設見学会・ワークショップ「どう考える？これからの日本のエネルギー」参加、学生引率
主催：九州経済産業局

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

長崎国際大学ベストティーチャー賞（学生による授業アンケート部門）

８．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、低学年時からのアクティブラーニングを主体とした学習を積極的に取り入れている。毎回の授業で学生からの意見を収集することにより、説明が不十分であった部分や学生の理解が低かった部分を次回の授業やポートフォリオをもちいて補足したり、授業の進め方を改善するように努めている。
大学運営面においては、放射線取扱主任者および安全管理担当者・施設管理担当者として放射線管理に従事する他、国試CBT対策委員会、初年次教育などで貢献できていると考えている。特に今年度からは教育支援センター専任教員として主に留年生の学習面や生活面でのサポートに尽力した。薬学部のSA管理においては、学生間のマッチングや各種連絡事項の伝達、勤務状況の管理などをおこなった。
研究面では、教育支援センターでの業務と関連して、学修支援が必要な薬学部生に対する支援の在り方について研究を開始しした所である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 大久保　伸哉

1．教育理念

私はこれまでに、病院の薬剤師として実務実習に励む薬学部生へ指導した経験があり、その中で長崎国際大学の学生および他大学の学生のどちらにも指導したことがある。その際に私は、長崎国際大学の学生は他大学の学生と比較して、患者のみならず職員に対する気配りも上手で心の優しい学生が多い印象を受けた。これは、長崎国際大学の建学の理念の「人間尊重」の重要性を学生が理解し、「ホスピタリティの探求・実現」を実行しているからだと思う。このことは、長崎国際大学の魅力であり強みでもあると考え、私もそのような学生を育てる教育を行いたいと考えている。そのために、以下の理念と方法を掲げる。

講義においては、私の病院および薬局での勤務経験を活かし、ひとつの事項に対し病院薬剤師あるいは薬局薬剤師の視点から内容を吟味した講義を実施する。例えば、薬剤師として患者から求められる知識・アドバイスにおいて、病院と薬局で共通する点あるいは異なる点を区別しながら示す。それによって、病院薬剤師と薬局薬剤師の役割や求められる職能の違いを、学生がより具体的にイメージできるようになり、非常に有意義な講義となるであろうことが期待される。

演習では、私の担当する分野の国家試験過去問題を解かせ、解答の解説に力を注ぎ、確実に点をとれるような演習を実施する。また、私の担当分野においては、問われていることが倫理的な部分である場合もあるので、正答の選択肢の解説よりも、誤りの選択肢の適切でない点を時間をかけて解説し、学生が誤解なく理解できるような演習にする。知識の習得のみならず、人間尊重の理念に基づいた、薬剤師にふさわしい倫理観を構築できるような演習にする。

実習では、臨床の現場は作業スピードと正確さを重要視することから、素早いスピードを保ちつつ正確さを損なわないような動き方や考え方を、学生に自ら考えさせるような指導を行う。その際には、ホスピタリティの探求を意識させ、効率を優先するあまり、共に作業にあたる者の気分を害するような動き方になってしまわないよう留意させる。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①②⑧
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①②⑧
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①②⑧
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①②⑧
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①②⑧
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①②⑧
実務実習（病院・薬局）	548/548(通年)	20	95	⑦⑫
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①②⑧
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	①②⑧
病院	274/274(通年)	10	3	⑦⑫
薬局	274/274(通年)	10	3	⑦⑫
在宅医療概論	1/15(前期)	2	264	②
生物薬剤	13/27(後期)	3	106	⑤⑥⑩
処方箋解析	13/27(後期)	3	106	⑤⑥⑩
総合実習	17/17(後期)	1	106	①②
調剤学	4/15(前期)	1.5	109	①②③
調剤Ⅰ	33/33(前期)	2	105	①②④⑤⑥⑨⑩
調剤Ⅱ	32/32(前期)	2	105	①②④⑤⑥⑨⑩

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

大学教員就任3年度目としては、まずまずの評価であったのではないかと感じている。それと同時に、3年間を通して評価が悪くなかったことから、現状を維持していくことが重要であると考えている。昨年度の授業アンケートに対するアクションプランシートにて、『来年度は、今年度の評価を下回ることがないよう、作成済みの講義資料（実習で使う配布資料）のアップデートを行い、説明する際に用いるセリフを磨き、理路整然とした分かりやすく熱意のこもった実習を実施することを目標とする。』という内容のことを記載していた。個人的には、目標に定めた事項はおおむね実行できたのではないかと考えている。来年度も同様のことを意識しながら、わかりやすい講義や実習になるよう心掛けていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
4年生 総合演習Ⅰ（4留生含む）の補習	3	50	2022年度前期

３．研究活動

(1) 研究テーマ

『医療用医薬品成分に対するモノクローナル抗体を用いた応用研究』

医療用医薬品として使用される薬用成分に対するモノクローナル抗体を作製し、薬物濃度を測定するためのELISAおよび新規測定法の開発を目標に掲げ、日々研究に取り組んでいます。最終的には、臨床における血中薬物濃度測定への応用を目指しています。

『オートファジー制御機能成分を用いた抗がん活性評価と応用研究』

漢方薬の素材である生薬に着目し、約130種の生薬エキスライブラリーの中からオートファジー制御活性を有する生薬エキスを見出しました。さらに、それらに含有される活性成分のオートファジー制御作用および作用機序の解析を行い、がん細胞のオートファジーを阻害する活性成分を発見しました。今後は、がん細胞がオートファジーを介して獲得する様々な細胞防御機構に対して、見出した活性成分の機能評価を行うことで、オートファジー制御を介した新たな抗がん剤開発の礎となれるような研究を行っていきます。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	8	15	2	2	300万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Berberine Induces Apoptotic Cell Death via Activation of Caspase-3 and -8 in HL-60 Human Leukemia Cells: Nuclear Localization and Structure-Activity Relationships／2017／The American Journal of Chinese Medicine, 2017; 45(7)／1497-1511／共著／査読付き国際学術論文

Antiproliferative Activity and Apoptosis Induction by Trijuganone C Isolated From the Root of Salvia miltiorrhiza Bunge (Danshen)／2018／Phytotherapy Research, 2018 Apr; 32(4)／657-666／共著／査読付き国際学術論文

Screening of Crude Drugs Used in Japanese Kampo Formulas for Autophagy-Mediated Cell Survival of the Human Hepatocellular Carcinoma Cell Line／2019／Medicines, 2019 Jun 3; 6(2):63／63-74／共著／査読付き国際学術論文

Arctigenin suppresses cell proliferation via autophagy inhibition in hepatocellular carcinoma cells／2020／Journal of Natural Medicines, 2020 Jun ; 74(3)／525-532／共著／査読付き国際学術論文

Costunolide and dehydrocostuslactone from Saussurea lappa root inhibit autophagy in hepatocellular carcinoma cells／2020／Journal of Natural Medicines, 2021 Jan ; 75(1)／240-245／共著／査読付き国際学術論文

Steroidal Saponins Isolated from the Rhizome of Dioscorea tokoro Inhibit Cell Growth and Autophagy in Hepatocellular Carcinoma Cells／2021／Life, 2021 Jul 26;11(8):749／749-760／共著／査読付き国際学術論文

Identification of traditional Japanese Kampo medicines and crude drugs that upregulate brain?derived neurotrophic factor in human peripheral cells／2021／Acta Neurobiologiae Experimentalis, 2021;81(4)／393-404／共著／査読付き国際学術論文

Increasing Effect of Citrus natsudaidai on Brain-Derived Neurotrophic Factor.／2023／Journal of oleo science, 2023 Feb 3; 72(2)／245-255／共著／査読付き国際学術論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

木香（Saussurea lappa）の主要成分コスツノリドの抗がん効果【ポスター】／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

丹参から単離したTrijuganone Cのがん細胞増殖抑制作用とその作用機序解析【ポスター】／2017年9月10日／日本生薬学会第64回年会

牛蒡子成分Arctigeninのオートファジー制御を介したがん細胞増殖抑制の作用機序解析／2018年8月27日／第2回食薬ヘルスイノベーション研究会

牛蒡子に含まれるArctigeninのオートファジー制御を介したがん細胞増殖抑制作用／2018年9月17日／日本生薬学会第65回年会

ゴボウシ成分Arctigeninのオートファジー阻害の作用機序解析【ポスター】／2019年3月23日／日本薬学会第139年会

オートファジーを介してがん細胞増殖を制御する生薬エキスの探索【ポスター】／2019年3月23日／日本薬学会第139年会

ヒカイおよびモッコウ含有化合物のがん細胞増殖抑制およびオートファジー阻害作用／2019年9月13日／第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

オートファジーを介してがん細胞増殖を制御する生薬エキス探索【ポスター】／2019年9月13日／第3回食薬ヘルスイノベーション研究会

牛蒡子に含まれるアルクチゲニンのオートファジー阻害作用と展望／2021年3月7日／第2回長崎県薬剤師学術大会

ペルオキシダーゼ標識モノクローナル抗体を用いたELISA法によるレボフロキサシン濃度測定法の開発【ポスター】／2021年10月9日／第31回日本医療薬学会年会

医薬品副作用データベースJADERを利用したメトトレキサートの間質性肺疾患発現に影響する因子の解析【ポスター】／2021年10月9日／第31回日本医療薬学会年会

アルカリホスファターゼ標識抗ダビガトラン抗体を利用したドットブロット法によるダビガトラン濃度測定法の開発【ポスター】／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

牛蒡子の主要成分アルクチゲニンによるシスプラチン耐性ヒト咽頭がん細胞KCP-4のシスプラチン耐性減弱効果【ポスター】／2022年3月27日／日本薬学会第142年会

ビオチン標識抗レボフロキサシン抗体を用いたレボフロキサシン濃度測定法の開発【ポスター】／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

牛蒡子の主要成分アルクチゲニン長時間処理によるシスプラチン耐性ヒト咽頭がん細胞KCP-4のシスプラチン感受性増強効果【ポスター】／2023年3月26日／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
2018年度笹川化学研究助成対象研究（代表）	日本科学協会	2018年4月1日～2019年2月10日	60万円
2021年度 若手研究（代表）	科学研究費助成事業ー科研費	2021～2023年度	240万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部　国試・CBT対策委員会	委員	おもに外部主催の模試（薬学ゼミナール等）の準備、当日の運営・回答用紙の主催者への郵送および成績の解析。5年生の単位認定に関連する試験の取りまとめ、当日の運営および採点・解析。
薬学部　OSCE実施委員会	委員	実施された会議の議事録作成担当
薬学部　事前学習運営委員会	委員	実施された会議の議事録作成担当
薬学部　実務実習運営委員会	委員	実施された会議の議事録作成担当
薬学部　就職委員会	委員	会議等への参加
薬学部　生涯学習・教育委員会	委員	会議等への参加
同窓会薬学部門支援委員会	委員	薬学部1期生に対する事務連絡等を行う幹事（兼任）

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

①1学年対象進路ガイダンス：「薬剤師」の仕事に関する詳細説明/令和4年11月7日/ 西海学園高等学校

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
多剤服用の影響について	令和5年2月11日	長崎国際大学	令和4年度第2回栄養学術研修会【長崎県栄養士会】

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

①夏休みおもしろ科学教室【1日目】／令和4年7月29日／長崎国際大学薬学部

②夏休みおもしろ科学教室【2日目】／令和4年8月18日／長崎国際大学薬学部

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

・特許【出願中】

発明の名称：「血中レボフロキサシン濃度測定方法」

出願番号：特願2021113543

出願日：令和3年7月8日

・国際雑誌査読３件

７．受賞等

①令和1年9月　第3回食薬ヘルスイノベーション研究会　口頭発表賞
②令和3年5月　長崎国際大学ベストティーチャー賞ベストプラクティス部門（研究活動等）

８．活動全般についての自己点検・評価

教育に関しては、今年度は昨年度作成した講義資料をより分かりやすくなるよう改良した。また、調剤Ⅰ等の実習においては、昨年度の経験を活かしながら重要な変化を加え、より分かりやすい調剤の方法や効率的な動き方・考え方が習得できるような指導（授業）を行った。授業評価等もおおむね良好であった。基本的に毎年、少しずつ改良できるように努めていく。

研究に関しては、筆頭著者としては論文を掲載できなかったが、研究室の学生とともに実験を着実に遂行し、データがそろいつつある。次年度こそは、必ず1報は掲載したい。さらには、この1年間で私が担当した学生の研究活動において、計2名の学生がそれぞれ学会で発表した。学会発表に備えて、データ解析を含めた発表資料作成における助言や研究内容の理解を深めるためのディスカッションを適宜行い、無事に発表を行うことができた。

最後に1年間の総括として、大学教員3年目になり、日常の各業務にかかる時間を昨年度よりは短縮することができた。その分研究に時間を多く回すことができた。来年度も現在のモチベーションを維持しながら業務遂行に努め、教育活動と研究活動の両立に努めたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 倉岡　卓也

1．教育理念

生涯学習し、人のことを考えて行動できる薬剤師の育成を基本理念としています。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①⑨
衛生化学Ⅱ	7/15(前期)	1.5	4	①⑩
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	1/15(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	1/23(通年)	1	97	①⑨⑩
総合演習Ⅰ	0/15(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	①⑨
感染防御学	1/15(前期)	1.5	78	⑧⑨
衛生化学Ⅱ	7/15(前期)	1.5	88	①⑩
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＡ	15/15(前期)	1	101	②④⑪
生化学実習	3/7(後期)	1	112	①②④⑪⑫
微生物学・免疫学実習	6/9(前期)	1	93	①④⑤⑩
微生物・免疫学演習	2/15(前期)	1	106	⑧⑨

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業アンケートを実施した科目では概ね問題のないアンケート結果となった。生化学実習においては、学生の帰宅時間を早めるように昨年度の反省点を改善したつもりだったが、あまり効果がなかったため、来年度は別の工夫を考えている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市立看護専門学校	微生物学	30/30(前期)	2	74

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習Ⅰ	2	95	2022年7月15日、11月24日
総合演習ⅢA	1	96	2022年4月19日

3．研究活動

(1) 研究テーマ

(1) 抗生物質を利用した新しい研究用試薬の開発：微生物が産生する二次代謝物は様々な生理的機能を持つことが知られています。放線菌の産生する抗菌活性を有する抗生物質群のうち、ある糖鎖に特異的に結合し複合体を形成、沈殿させる物質を見出しました。このあたかもレクチンの様な性質を利用して新しい研究試薬への応用を試みています。現在はカンジダ細胞壁マンナンと冬虫夏草の研究を通して、その有用性を検討しています。

(2) 冬虫夏草の人工培養で産生される生理活性物質の探索：昆虫生体培養法を用いて冬虫夏草の安定供給に成功している企業と提携し、この抗腫瘍活性本体（低分子化合物）の特定及び構造決定を目標に冬虫夏草培養液の分離・精製を進めるとともに、正常細胞への影響を動物実験等から評価することで、新規医薬品リード化合物の発掘と同時に他の生物活性の探索に邁進しています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	2	1	1	325万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

高病原性Candida auris酵母の細胞壁マンナンの0結合型糖鎖について／2023年3月27日／第143年会　日本薬学会

人工培養した国産冬虫夏草のアンギオテンシンⅠ変換酵素阻害活性について／2023年3月26日／第143年会　日本薬学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
人工培養した国産冬虫夏草の大規模生理活性スクリーニング	日本学術振興会	2020年5月～2023年5月	325万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

4．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会	委員	オリエンテーション等の準備
国試・CBT対策委員会	委員	出席管理、アンケート準備及び集計
CAI運用・活用委員会	委員	CAIの試験設定、試験の管理
同窓会薬学部門支援委員会	委員	同窓会薬学部門の活動報告
カリキュラム検討委員会	委員	5次カリキュラムについて検討した。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席

2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

担当する授業や実習のアンケートでは概ね良好な結果が得られた。しかし、内容はまだまだ薄く、来年度はさらに質の高い授業を目指す。研究では、年度末にこれまでの成果を学会で発表することができたが、論文を出すことができなかったため、来年度は論文を出せるように引き続き努力していきたい。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 中島　健輔

1．教育理念

大学人として、自身で考え、学ぶ習慣を身に着けて欲しいと考えている。
日々の学習習慣がない学生も多数、見受けられるため、そのような学生には
国家試験合格のためには、継続的に学習をすることが大切であり、
勉強をしない日を作らず、少しでも机に向かい、勉強時間を増やしていくように指導している。
効率も重要だが、量をこなしたという自信をつけることが重要と考え、指導を行っている。
さらに、受け身ではなく、自ら、率先して授業、実習などに参加し、様々な疑問点を抽出し、
解決までのプロセスを見出せるような教育を心掛けている。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢA	1/0(前期)	1.5	91	②
総合演習ⅢA	1/0(前期)	1.5	5	②
総合演習ⅢB	1/0(前期)	2	16	②
総合演習Ⅰ	1/1(通年)	1	93	②
総合演習Ⅰ	1/1(通年)	1	2	②
総合演習Ⅱ	1/1(通年)	1	97	②
実務実習（病院・薬局）	1/1(通年)	20	95	②
総合演習Ⅰ	0/1(後期)	1	1	②
総合演習ⅢB	0/1(後期)	2	71	②
ホスピタリティ演習Ⅱ	1/0(前期)	0.5	80	②
病院	1/1(通年)	10	3	②
薬局	1/1(通年)	10	3	②
生物薬剤	0/18(後期)	3	106	②
処方箋解析	0/18(後期)	3	106	②
総合実習	0/12(後期)	1	106	②
調剤学	4/0(前期)	1.5	109	②
専門基礎学習Ⅱ	1/0(通年)	0.5	95	②
調剤Ⅰ	12/0(前期)	2	105	②
調剤Ⅱ	12/0(前期)	2	105	②

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

今回の授業アンケートの結果は良好であった。今後も継続していきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

３．研究活動

(1) 研究テーマ

末梢組織を作用点とする抗うつ薬の創製

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	2	4	3	3	488万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Increasing Effect of Citrus natsudaidai on Brain-Derived Neurotrophic Factor／2023／Journal of Oleo Science／245-255／共著／論文

Red foxtail millet upregulates brain-derived neurotrophic factor levels in vitro and in vivo／in press／Biomed Res／in press／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

琉球諸島カンキツのBDNF産生促進効果／2022年11月／日本薬学会九州支部

シークヮーサー果皮のBDNF産生促進作用／2023年3月／日本薬学会143年会

中枢性疾患の予防・改善を目指した脳由来神経栄養因子産生促進食材の探索／2022年12月／第20回日本機能性食品医用学会

末梢組織由来細胞における柑橘類の脳由来神経栄養因子産生促進効果／2022年6月／第76回日本栄養食糧学会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
基盤C	科研費	2022.4～2025.3	416万円
おきぎんふるさと振興基金	沖縄銀行	2022.7～2023.6	50万円
委託研究	株式会社サナス	2023.2～2024.1	22万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員	委員	3年学年主任
OSCE実施委員会	委員	特になし
動物室管理担当者	委員	特になし
事前学習運営委員	委員	特になし
実務実習運営委員	委員	特になし
就職委員会	委員	特になし
共同機器管理委員	委員	特になし

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育についてはしっかり講義を行い、授業アンケートについても良好であった。

研究についてもある程度の成果を得ることが出来た。

今後も同様の方策で進めていく予定である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 中村　沙織

1．教育理念

本学科の学生はほとんどが薬剤師国家試験合格を目標としている。私の教育理念は、国家試験に必要な専門知識を伝えるのはもちろんのこと、学ぶことのおもしろさを少しでも伝え、生涯にわたり学び続ける力を育てたいというものである。
よって、講義では、学生がより興味を持てるようにわかりやすい資料と説明を心掛ける。ポートフォリオを活用し、学生からの質問に対する返答や追加の解説等を行うことで、受け身ではなく積極的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。さらに、学生実習や卒業研究等を通して、実験に対する姿勢や論理的な思考・判断の仕方を伝える。卒業時には、自ら考える力と、仕事に対する誇りとやりがいをもった薬剤師になってくれることを期待している。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	①④⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	2/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	①⑨⑩
総合演習Ⅰ	0/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	0/30(後期)	2	71	①⑨
機器分析学	8/15(後期)	1.5	1	①②③④
ホスピタリティ演習Ⅰ	4/4(後期)	0.5	112	②⑦
日本薬局方概論	6/15(後期)	1.5	105	①②③④
分析化学演習	6/12(前期)	0.5	117	①②③④⑨
機器分析学	8/15(後期)	1.5	109	①②③④
専門基礎学習Ⅰ	7/7(通年)	0.5	109	②④⑨⑩
分析化学・放射線化学実習	6/9(前期)	1	114	①②③④⑤⑩
生薬学実習	6/6(後期)	1	113	①②③④⑨
基礎の数学	15/15(前期)	2	22	②③⑨

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

（機器分析学）満足度は4.1→4.3→4.2→4.3→4.1→4.1→4.4→4.5→4.6と推移している。今までで一番高い評価だったので、対面講義に戻り評価を維持できて安心している。講義内容を振り返り、足りなかった点を補いつつさらに向上させていきたい。

（基礎の数学）満足度は4.1→4.4→3.7→4.1→4.6→4.7→4.3と推移している。講義中の様子を見ながら時間配分を調整したり、解説を追加したりした結果、学生の理解を多少は深めることができたと感じる。今後さらに個々の学生にも気を配っていきたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
総合演習ⅢA	1	96	2022年4月28日
総合演習Ⅰ	1	96	2022年5月17日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

①ASAP-MS分析法による簡易高選択的分析法の開発
②脳腫瘍放射線療法前後の生体成分分析
③動脈硬化の起因物質に関する臨床分析化学的研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	1	0	0	2	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）
よくわかる薬学機器分析［第3版］／共著・編著／2022年4月／廣川書店／25頁～40頁、229頁～251頁

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）
なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）
アミノ酸受容体の活性化機序の解析 -重粒子線照射による腸管および脳障害-／2022年10月／第 59 回 放射線影響懇話会
サンゴ由来蛍光タンパク質とサンゴアレルギー発症の関係解明／2023年2月／第５回日本アレルギー九州沖縄地方会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	2年生学年主任 履修の手引きの編集、新入生担当割り振り、オリエンテーション・新入生物品販売等
薬学部学生委員会	委員	特待生継続審査、保護者会・卒業式の準備等
薬学部国試・CBT対策委員会	委員	摸試・販売・学内試験準備等
同窓会薬学部問支援委員会	委員	地域の期待に応える実践活動等

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
薬学部広報受付	受付担当	大学HP掲載のための学部受付

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
1	2

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
第4回佐世保西高等学校　2年理系課題研究	11月17日	本学	長崎国際大学地域連携室／長崎県立佐世保西高等学校

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
長崎県都市計画審議会	委員	平成27年3月～現在に至る	長崎県土木部都市政策課
長崎県公共事業評価監視委員会	委員	令和3年6月～現在に至る	長崎県土木部建設企画課

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

・教育面では、前後期60コマおよび学生実習を担当した。一部遠隔対応も行ったため、一方向にならないよう心掛け、ポートフォリオやresponを活用した講義を行った。授業アンケートでは昨年度と同等の評価
を得られ、対面授業の重要性を実感した。次年度も対面の利点を活かし、足りなかった点を補いつつさらに向上させていきた

い。
・研究面では、5、6年生の卒業研究の指導を行った。今年度の成果を論文の投稿につなげていきたいと考えている。
・学部運営面では、昨年度に引き続き2年生の学年主任を担当した。薬学部国試CBT対策委員会では週
間試験の準備・解析や、外部講師資料の準備、実力試験準備担当の割り振り等を、薬学部教務委員会では主に履修の手引きの編集を担当している。薬学部学生委員会では特待生継続審査等を、また、薬学部広報受付および同窓会薬学部間支援委員会でも活動を行った。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 波多江　日成子

1．教育理念

・九州文化学園の建学の精神を基盤に、豊かな人間性を備え、倫理的視点と科学的根拠に基づく思考力、判断力、責任ある行動がとれる薬剤師を育成する。
・医療従事者としての自覚をもち、自律性、主体性、創造性に富み、自己啓発できる態度を育成する。
・患者を支えるチーム医療の一員として協働する役割と責任を果たすための基礎的能力を育成する。
・他の人と協力して問題解決に取り組む能力を育成する。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	1/23(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	0/23(前期)	1.5	5	なし
総合演習ⅢＢ	0/30(前期)	2	16	なし
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	1/45(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	0/23(通年)	1	97	なし
総合演習Ⅰ	1/45(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	1/30(後期)	2	71	①⑨
基礎の化学	15/15(前期)	2	30	①⑨
化学演習	11/11(前期)	0.5	30	①⑧⑨
物理化学実習	21/21(前期)	1	92	①④⑧⑩
臨床生理学実習	21/21(後期)	1	95	①②③⑦⑩

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

基礎の化学、化学演習ではクラスに合わせた授業を行い、課題提出で復習する習慣をつけさせた。更にCAIでも課題を出し、CAIを使った勉強方法を浸透させた。また授業外での補講では、わからないところは1対1で質問できるような環境を作った。

臨床生理学実習では、学生の質問に対し丁寧に対応しており、アンケートの結果も良好であった。さらに、実習書においては分かりにくい表現にならないように学生の意見を聞き、改善等を行っている。さらに、実習後のレポート課題で内容を深く勉強させている。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
化学補習	11	29	4/22, 5/6, 11, 20, 27, 6/1, 10, 15, 7/1, 6, 15
有機化学後期補習	11	37	10/4, 11, 18, 25, 11/1, 15, 22, 29, 12/13, 20, 1/10
総合演習I補習	2	5	4/12, 6/21

３．研究活動

(1) 研究テーマ

「赤血球膜タンパク質バンド３の３次元構造解析」

本研究は、赤血球が適切に酸素を組織へ運搬・供給するのに重要な役割を演じている膜タンパク質バンド3（anion exchanger1; AE1）の高分解能三次元結晶構造解析を行い、その陰イオン透過分子機序の解明を目指すものである。バンド3は大きく外向き型と内向き型の２つの形態をとり、近年我々は外向き型バンド3でモノクローナル抗体との共結晶（3.4Å）及びバンド3単体（4.5Å）の構造解析を行うことができた。そこで次のステップとして、内向き型バンド3の結晶構造を共結晶型・単体型で解析し、外向き型・内向き型両面の高次構造から、赤血球膜における陰イオン透過の詳細なメカニズムを提唱することを目的とする。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	6	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

術前・術後のプロテインS比活性測定による静脈血栓症発症のリスク解析／2023年3月27日／日本薬学会第143年会

ヒト赤血球膜タンパク質Band 3における Anion交換ドメインのLCP法を用いた結晶化と構造解析／2023年3月28日／日本薬学会第143年会

プロテインC蛋白質変異体の作製と活性に関する検討／2023年3月28日／日本薬学会第143年会

ペプチド基質を用いた血中ダビガトラの抗凝固能評価法／2023年3月28日／日本薬学会第143年会

血液凝固制御因子プロテインCの新しい活性測定法の開発／2023年3月28日／日本薬学会第143年会

ヒト赤血球膜タンパク質Band3における Anion交換ドメインのLCP法を用いた結晶化と構造解析／2022年11月19日／第39回日本薬学会九州山口支部大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
教務委員会（学科）	委員	オリエンテーション、シラバス資料づくり
国試CBT対策委員会（学科）	委員	試験準備、外部講師資料印刷・配布・zoomセッティング、試験監督割り当て
CAI運用・活用委員会（学科）	委員	CAI利用試験の問題確認、修正、学生の春・夏休み期間の課題の設定

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動においては、担当している実習、演習で分かりやすく丁寧な説明を心がけている。さらに、補習等を行い、聞きやすい環境づくりと、1対1でのきめ細やかな指導を行っている。また、実習中気づいた点や実習後のアンケートにより、見直すべき項

目や実習書の記載の仕方などを次年度に反映している。研究活動においては、研究室配属学生の卒業研究指導と共に行っており、バンド３タンパク質と基質であるPLPとの共結晶の条件を検討中である。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 福森　良

1．教育理念

薬剤師教育という観点で考えた時に、深い薬学的な知識と確かな技術はもちろん必要であるが、それとともに患者さんに接し患者さんの事を考える上で、豊かな社交性や道徳性を持った薬剤師の育成が重要であると考えています。これまでの経験や知識を伝えることで、薬物治療に責任を持つ薬剤師の養成や、柔軟性と人間性に富む国際的な薬学人育成を念頭に、薬学教育と薬剤師育成教育に従事したい。また、研究者教育として、これまで私が携わってきた研究に関する知識や技術を学生達に伝えることのみならず、自分自身が日々新たな知識や技術を身につけることに精進し、最先端の知識や技術を持ち、得た知識や技術を生かし考え応用することのできる人材の育成を行うことを目標に教育を行ないたい。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

［学部］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	23/1(前期)	1.5	91	①⑨
総合演習ⅢＡ	23/1(前期)	1.5	5	①⑨
総合演習ⅢＢ	30/2(前期)	2	16	①⑨
薬理学Ⅲ（末梢-2）	15/6(前期)	1.5	5	①②⑨
総合演習Ⅰ	45/1(通年)	1	93	①④⑥⑨
総合演習Ⅰ	45/1(通年)	1	2	①④⑥⑨
総合演習Ⅱ	23/0(通年)	1	97	①⑨
総合演習Ⅰ	45/1(後期)	1	1	①④⑥⑨
総合演習ⅢＢ	30/1(後期)	2	71	①⑨
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅡＡ	15/15(前期)	1	2	②④⑪
薬理学Ⅲ（末梢-2）	15/6(前期)	1.5	88	①②⑨
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ⅠＢ	15/15(後期)	1	100	②④⑪
機能形態学実習	7/7(前期)	1	114	①②⑥⑦⑩
薬理学実習	8/8(後期)	1	96	①②③④⑥⑩⑪

［大学院］

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

教育面においては、「薬理学Ⅲ」「コンピューター演習ⅠB」の講義を担当した。今年から基本的には対面の形式での講義となったが、授業アンケートによる満足度の平均は薬理学Ⅲ「4.2」、コンピューター演習ⅠB「4.8」の評価であり、一定の満足度を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
佐世保市医師会看護専門学	看護薬理	15/15(通年)	2	16

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
高校進路ガイダンス-長崎県立対馬高等学校	1	5	2022年5月25日

３．研究活動

(1) 研究テーマ

グルタミン酸は酸性アミノ酸の一種であり、タンパク質合成やエネルギー産生といった普遍的な細胞機能に関わるのみならず、中枢神経系においては代表的な神経伝達物質として働いています。この脳内グルタミン酸シグナルの破綻は、一過性脳虚血後の遅発性神経細胞死や統合失調症の病態生理など様々な神経精神疾患へ関与するものと考えられています。これらの病態の多くは難治性であり、根本的な治療法や治療薬が見つかっていない現状です。このように、分子生物学・行動薬理学的なアプローチを用いて、グルタミン酸神経系に着目した根本的な治療法や治療薬がない難治性の神経精神疾患（認知症や統合失調症など）の機序解明や治療薬開発に関する研究プロジェクトを進めています。

また、脳内“大麻様物質(エンドカンナビノイド)”の役割を解明する研究およびその機能不全と精神疾患の関連について、カンナビノイドCB1受容体欠損マウスを駆使しながら追究しています。さらに情動・意欲・認知機能におけるエンドカンナビノイドの働きに着目して、認知障害や情動変容のメカニズムを解き明かす新たな糸口が得られることも期待しています。さらに、精神疾患における新規治療薬の可能性を探索しています。このように、精神疾患発症のメカニズムについて、脳内カンナビノイドの側面から明らかにする研究プロジェクトを進めています。

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	6	1	1	300万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

拘束ストレスによる不安様行動と脳内カンナビノイドの量的変化／2022年8月／生体機能と創薬シンポジウム2022

メタンフェタミン反復投与後の退薬時に発現する行動異常とエンドカンナビノイドの脳内変化／2022年10月／第75回日本薬理学会西南部会

内因性カンナビノイド分解酵素阻害薬による拘束ストレス後の不安様行動に対する抗不安作用／2022年11月／BPCNPNPPP4学会合同年会2022

拘束ストレス負荷による不安様行動に対するエンドカンナビノイド分解酵素阻害薬の効果／2022年12月／第39回日本薬学会九州山口支部大会

Anxiolytic effects of inhibitors of endocannabinoid degrading enzyme on anxiety-like behavior in restraint-stressed mice.／2022年12月／第96回日本薬理学会年会・第43回日本臨床薬理学会学術総会

拘束ストレス誘発不安様行動の発現における 脳内カンナビノイドの量的低下／2023年3月／日本薬学会第143年会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
若年者を対象としたより効果的な薬物乱用予防啓発活動の実施等に関する研究	山本経之（共同研究者）・厚生労働省	2019年4月-2022年3月	300万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部教務委員会	委員	薬学部4年生学年主任および卒業研究要旨集の編集を行った。
薬学部入試募集委員会	委員	高校での進路ガイダンス及び、オープンキャンパス薬学部プログラムの運営を行った。
薬学部機器管理委員会	委員	薬学部共同機器・動物室の管理運用を行った。
薬学部就職委員会	委員	薬学部就職説明会の企画・運営を行った。 その他に、内定・進路調査を行った。

薬学部CAI運用活用委員会	委員	４年生のCBT対策実力テスト・総合演習Ｉ試験の運用を行った。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

薬学部テニスサークル顧問として、管理・監督を行った。

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

薬学部入試募集委員として県内の高校へ、出張講義として薬剤師・薬学部ガイダンスを行った。

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	－	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	－	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	－	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	－	研究倫理研修	出席
2022/6/6	－	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	－	利益相反マネジメント研修	欠席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	－	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	－	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

7．受賞等

なし

8．活動全般についての自己点検・評価

教育面においては、「薬理学Ⅲ」「コンピューター演習ＩB」の講義を担当した。今年から基本的には対面の形式での講義となったが、授業アンケートによる満足度の平均は薬理学Ⅲ「4.2」、コンピューター演習ＩB「4.8」の評価であり、一定の満足度を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。・教育面においては、「薬理学Ⅲ」の講義を担当した。リモート講義と対面のハイブリッド形式での講義となったが、授業アンケートによる満足度の平均は「4.2」の評価であり、一定の満足度を得られたと思う。また、薬理学実習では実験後に学生によるプレゼンテーションとディスカッションと行うことでアクティブラーニングを意識し、学生の考える力を養うことを目標にして教育を行った。

・大学運営面においては、薬学部委員として、就職ガイダンスや薬学部就職説明会を運営することで学生の就職状況の向上に努めた。また、薬学部入試募集委員としては高等学校において進路ガイダンスを行うことで入試募集に努めた。

・研究面においては、「第75回日本薬理学会西南部会」「第39回日本薬学会九州山口支部大会」で口頭発表を行った。また、その他4件の学会でポスター発表を行った。現在、２報の論文投稿に向けて準備を進めており、今年早い時期での投稿を目指して作成している。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助教　　氏名 松下　博昭

1．教育理念

私の教育理念は、自ら主体的に学び、考え、行動できる専門家の育成である。よって授業ではアクティブラーニングを用いた専門力の向上を重視している。学生には、授業に自主的に参加し、学んでほしいと考えており、そのために主体的に学ぶ授業を取り入れるように努める。授業では学生の主体性を引き出すための課題を出し、それをもとにグループディスカッションなどを経て専門力とコミュニケーション力の育成を目指す。また講義中心の授業の中にも演習を取り込み、その解決を通して情報収集力や課題解決力を高め、主体的に行動できる専門家の育成に努める。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
総合演習ⅢＡ	3/15(前期)	1.5	91	①④⑨⑩⑪⑫
総合演習ⅢＡ	3/15(前期)	1.5	5	①④⑨⑩⑪⑫
基礎の化学	15/15(前期)	2	47	①②④⑥⑧⑨⑩
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＢ	5/15(後期)	1	100	②④⑪
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＡ	5/15(前期)	1	101	②④⑪
機能形態学実習	15/15(前期)	1	114	①②⑥⑦⑩
薬剤学実習	15/15(後期)	1	95	④⑩⑪
臨床生理学実習	15/15(後期)	1	95	①②③⑦⑩
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＡ	15/15(前期)	1	50	③
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎演習ＩＢ	15/15(後期)	1	47	③

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業評価は前回の評価と同様に高い評価であった。授業評価アンケートの結果を見ることにより、自分では気がつかなかった授業の良いところや悪いことろが明らかになった。さらに、授業内容を改善しアンケート評価を向上させたい。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

アミロイドーシスの病態解析と治療研究

健康長寿を目指した加齢性疾患の病態解析と治療研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等発表数	外部資金等応募件数	外部資金等採択件数	外部資金等採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	4	2	1	1	20万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

Inhibitory Effect of the HASPIN Inhibitor CHR-6494 on BxPC-3-Luc, A Luciferase-Expressing Pancreatic Cancer Cell Line／2022年4月／Cell Journal／24(4) 212-214／共著／論文

Urinary Transthyretin as a Biomarker in ATTRv Val50Met Amyloidosis／2022年6月／Pathophysiology／29(3) 333-343／共著／論文

Suppression of amyloid fibril formation by UV irradiation／2022年12月／Journal of Radiation Research and Applied Sciences／15(4)／共著／論文

Deletion of UCP1 in Tg2576 Mice Increases Body Temperature and Exacerbates Alzheimer’s Disease-Related Pathologies／2023年2月／International Journal of Molecular Sciences／24 2741／共著／論文

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

紫外線によるアミロイド線維形成抑制／2022年10月16日／第9回日本アミロイド―シス学会学術集会

アルギニンによるトランスサイレチン四量体安定化作用／2022年10月16日／第9回日本アミロイド―シス学会学術集会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
科学研究費	文部科学省	2022年4月-2024年4月	20万円

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
薬学部就職委員会	委員	特記事項なし。
薬学部学生委員会	委員	特記事項なし。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外

2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	欠席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

教育活動では、全学共通科目と薬学部の講義・演習・実習を担当した。授業評価アンケートでは、結果を元に授業方法を改善し、高い満足度を維持できた。ゼミ・研究室配属の学生指導では、学習の指導、卒業研究の指導、就職活動支援を実施した。担当学生の成績は、学習指導により向上あるいは維持ができた。卒業研究では研究室のセミナーを通して研究のまとめに入っている。

研究活動では、英語原著論文を発表することができた。また日本アミロイドーシス学会にて研究成果を発表した。研究活動は順調に進んでいる。外部資金の獲得では、科研費基盤研究B分担を継続して獲得した。

社会貢献では、学外の研究機関として熊本大学脳神経内科学および民間企業との共同研究を引き続き実施した。

長崎国際大学　自己点検・評価

教員個人による諸活動について　令和 4（2022）年度

学科　薬　　職名 助手　　氏名 上田　亮太

1．教育理念

学生の主体的な学習を支援する。
教員として学生に対してわかりやすく教えることは大切であるが、学生自らが疑問を解消する力を身につけることも重要であると考える。そのため、疑問の発見と答えを導くサポートとなる質問を重視する教育を心がける。

2．教育活動

(1) 授業（科目名／コマ数（開講時期等）／単位数／単位授与学生数）

[学部]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数	アクティブ・ラーニングの種類
なし	なし	なし	なし	なし

[大学院]

科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし

(2) 授業の自己点検・評価（授業アンケート／授業改善と教育効果）

授業なし。

(3) 他大学等での教育活動（大学等名／科目名／コマ数／単位数／単位授与学生数）

大学等名	科目名	コマ数 (開講時期等)	単位数等	単位授与 学生数
なし	なし	なし	なし	なし

(4) その他の教育活動（正規の授業以外に学内で実施した補習など）

活動名（補習等）	コマ数	学生数	実施日
なし	なし	なし	なし

3．研究活動

(1) 研究テーマ

チロシナーゼタンパク質の分解に関する研究

(2) 研究実績

著書数		論文等数		学会等 発表数	外部資金等 応募件数	外部資金等 採択件数	外部資金等 採択総額
単著	共著	単著	共著				
0	0	0	0	1	0	0	0万円

・著書（書名／単著・共著・編著の別／発行年月／発行所／単著：総頁数・共著：○頁～○頁）

なし

・論文等（題名／発表年月／掲載誌等：○頁～○頁／単著・共著／論文・総説等の区分）

なし

・学会発表等（題名／発表年月／学会名等）

Molecular mechanisms of tyrosinase ubiquitination by membrane-bound ubiquitin ligase RNF152／2022年11月12日／第31回日本色素細胞学会学術大会

(3) 委託研究・外部資金採択等（名称／委託者・採択機関／期間／研究費・採択金額）

名称	委託者・採択機関	期間	研究費・採択金額
なし	なし	なし	なし

(4) 国内外留学等（留学先／研究テーマ／期間等）

留学先	研究テーマ	期間等
なし	なし	なし

４．大学運営活動

(1) 委員会活動（委員会名／職名／特記すべき活動項目等）

委員会名	職名	特記すべき活動項目等
同窓会薬学部門	委員	卒業式における花束の購入。国家試験受験時の支援。

(2) ワーキング・グループ活動その他（ワーキング・グループ名／職名／活動内容等）

ワーキング・グループ名	職名	活動内容等
なし	なし	なし

(3) 課外活動の指導等

なし

(4) 広報活動等（募集・就職活動を含む）

なし

(5) FD・SD

実施日	FD回	SD回	タイトル	出欠
2022/4/1	152	-	新着任教員対象FD	対象外
2022/4/2	153	-	第1回新着人教員授業研修会	対象外
2022/4/13	154	-	ＩＣＴ活用による教育内容向上に関する研修会	対象外
2022/4/27	155	1	修学上の配慮が必要な学生に関するFD･SD	出席
2022/4/27	156	2	ハラスメント防止に関するFD･SD研修	出席
2022/5/9	157	-	研究倫理研修	出席
2022/6/6	-	3	初任者SD研修	対象外
2022/7/11	158	4	コンプライアンス研修	出席
2022/7/27	159	5	大学の財務状況に関して	出席
2022/9/1	160	-	利益相反マネジメント研修	出席
2022/9/27	161	6	QSP共同FD/SD	出席
2022/12/1	162	7	学生支援FD/SD	出席
2022/12/14	163	-	第3回授業研修会	対象外
2023/2/16	164	-	2022年度西九州大学・短期大学部合同FD研修会	欠席

５．社会活動（SDGｓ活動を含む）

講演／講座数	受託委員等件数
0	0

(1) 講演／講座その他（題名／開催日・場所／依頼者等）

題名	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(2) 公共団体の委員等（委員会名／職名／活動期間／依頼者等）

委員会名	職名	活動期間	依頼者等
なし	なし	なし	なし

(3) 社会貢献・ボランティア活動等（SDGｓに関する取り組みを含む）

なし

６．国際交流

(1) 学術・学生交流プログラム等（名称／活動内容／期間／主催者等）

名称	活動内容	期間	主催者等
なし	なし	なし	なし

(2) 国際的な学術会議／シンポジウムその他（名称／活動内容〔組織・講演・役割〕／開催日・場所／主催者等）

名称	活動内容 〔組織・講演・役割〕	開催日	場所	依頼者等
なし	なし	なし	なし	なし

(3) その他特記すべき活動

なし

７．受賞等

なし

８．活動全般についての自己点検・評価

研究については、学会発表に一度参加した。他の研究者から多くの知見が得られたほか、自身に必要な知識やスキルも学べたため、今後も積極的に参加していきたい。

科研費への応募を行ったが、今回は採択されなかった。そのため、社会に求められてかつ実現可能な研究テーマについて改めて考えていくようにする。

学生への実験指導をする際には教育理念に基づいた指導を行った。質問を受けた際、学生が感じている疑問点の明確化を優先し、本人の努力で解決できる場合にはそのようにサポートを行った。